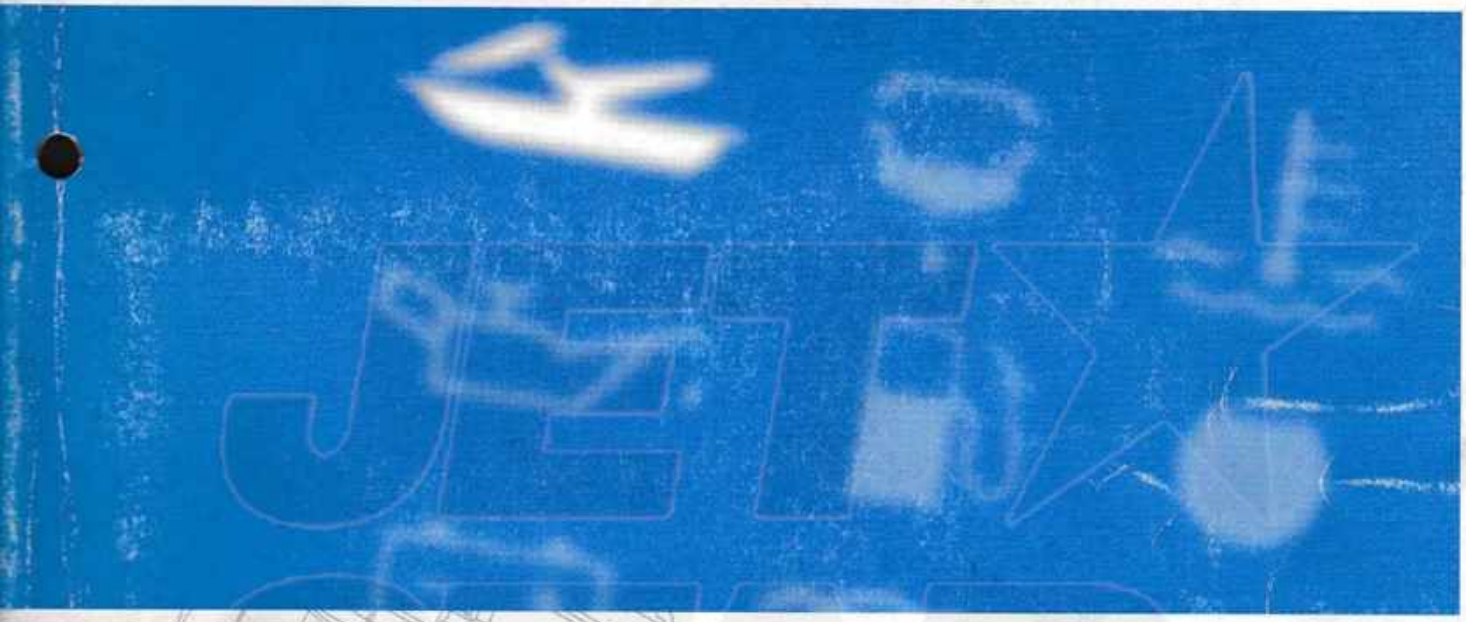
YAMAHA

Marine Jet

MJ-GP800R



サービスマニュアル

055193

WWW.JET-STAR.JP

はじめに

このサービスマニュアルはヤマハマリンジェット取扱店を対象に点検整備および修理に必要な情報を記載してあります。
ここではマリンジェットの基本的な整備知識および技能を有する人を対象に、必要とされる情報を簡潔に分かりやすく編集しています。
点検整備および修理の際は「マニュアルの使い方」を読みマニュアルを正しく理解し、最良のサービスをお客様に提供できるように技量の増進を図られることをお願いいたします。

サービスマニュアルではモデルの概要および技術的な解説は行われておりません。また、掲載されている情報は改良のため変更されることがあります。
従って、下記に示す資料にて情報の補完を行ってください。

- モデル概要および技術的な解説→サービスガイド等を参照
- 改良による情報→サービスニュース等を参照

2000 年 12 月

ヤマハ発動機株式会社
サービス情報室

JET STAR

本マニュアルの使い方

マニュアル書式

本マニュアルは、作業手順に応じて構成されています。情報は、作業者が分かりやすく、理解しやすいように編集され、全ての分解・組立・補修作業を理解しやすいように説明し、見易く構成されております。
一例として、部品の不具合状態の次に矢印を示し、必要な作業項目を示しています。

- ベアリング
  ピッチング／傷→交換

作業者が該当ページを見つけやすいように、本マニュアルは、各章ごとに重要なタイトルを、各章目次ごとに記載しています。

イラスト

本サービスマニュアル内のイラストは、実物と一部異なる場合があります。

参照ページ

参照ページは、最低限の記載に溜め、直接最適な章の項を示しています。

JET STAR

要点情報

本サービスマニュアルは、正しい取扱いおよび点検整備に関する必要な事項を、下記のシンボルマークで表示しています。

⚠	安全に係る注意情報を意味しています。
⚠警 告	取扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示してあります。
⚠注 意	取扱いを誤った場合、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示してあります。
要　点	正しい操作の仕方や点検整備上のポイントを示してあります。

JET★STAR

本マニュアルの構成と表記

① 取外・取付と分解・組立手順に関する中心情報は、展開図に表示されています。

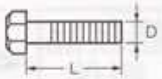
② 展開図に示された番号は、作業の手順に従って記載されています。

③ 展開図に示された記号は、その手順に重要な作業があることを示します。それらの記号の意味は、次ページに説明されています。

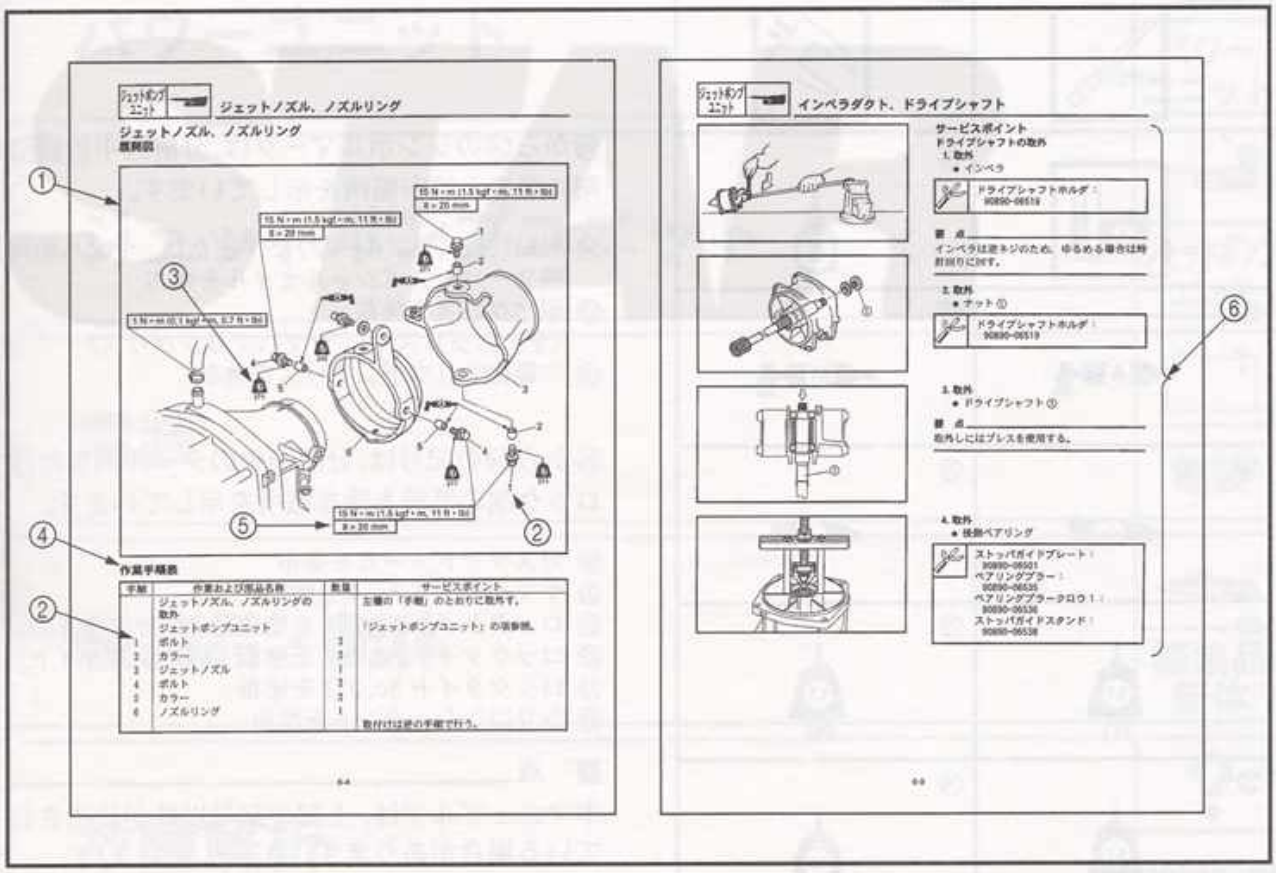
④ 展開図中の作業説明は、作業手順表に記載されています。この表は、作業手順番号、部品名称、数量、寸法、各項目のサービスポイントで構成されています。

⑤ 補足情報として、締付トルク、ボルトやスクリュの寸法も記載されています。

例：
ボルトやスクリュの寸法 10×25 mm：ボルトやスクリュの直径（D）×長さ（L）



⑥ 展開図や作業手順に加えて、さらに詳細説明が必要とされる部分を、個々のイラストを使用して適時説明を行っています。



シンボルマーク

①から⑨のシンボルマークは、各章の内容を示す見出しになっています。

① 総説
② 仕様
③ 点検整備
④ 燃料系統
⑤ パワーユニット
⑥ ジェットポンプユニット
⑦ 電装
⑧ 艤装品・艇体
⑨ 故障解析

⑩から⑮のシンボルマークは、規定データを示しています。

⑩ 特殊工具
⑪ 規定潤滑剤
⑫ 規定エンジン回転数
⑬ 規定締付けトルク
⑭ 規定測定値
⑮ 電装規定値
〔抵抗（Ω）、電圧（V）、電流（A）〕

⑯から⑱のシンボルマークは、分解図中の潤滑剤の等級と塗布箇所を示しています。

⑯ YAMALUBE（ヤマルーブ）2-W または、ヤマハ船外機スーパースペシャルオイルを塗布
⑰ 耐水グリスを塗布
（ヤマハグリス A，ヤマハマリングリス）
⑱ 二硫化モリブデングリスを塗布

⑲から㉔の記号は、分解図中のシール剤またはロック剤の等級と塗布箇所を示しています。

⑲ ガスケットメーカを塗布
⑳ ヤマハボンド No. 4 を塗布
㉑ ロックタイト No. 271 を塗布（赤ロックタイト）
㉒ ロックタイト No. 242 を塗布（青ロックタイト）
㉓ ロックタイト No. 572 を塗布
㉔ シリコンシーラントを塗布

要　点

本マニュアルでは、上記の記号以外が使用されている場合があります。

WWW.JET-STAR.JP

目次

総説 1

仕様 2

点検整備 3

燃料系統 4

パワーユニット 5

ジェットポンプユニット 6

電装 7

艤装品・艇体 8

故障解析 9

WWW.JET-STAR.JP

JET STAR

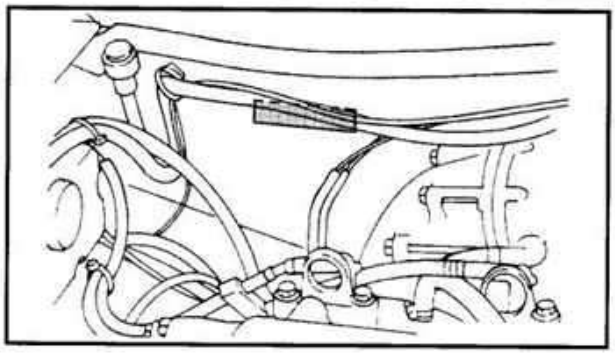
第1章
総説

識別番号 1-1
製造番号 1-1
エンジン製造番号 1-1
ジェットポンプ製造番号 1-1

⚠ **安全に作業するために** 1-2
火災防止 1-2
換気 1-2
作業者保護 1-2
部品、油脂およびシール剤 1-2
確実な整備作業の要点 1-3
分解組立 1-4

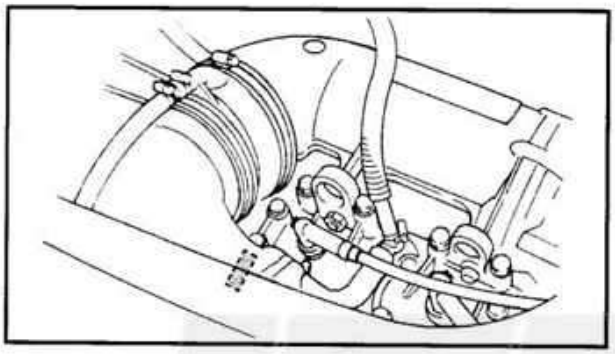
特殊工具 1-5
計測機器 1-5
脱着用工具 1-6

JET STAR



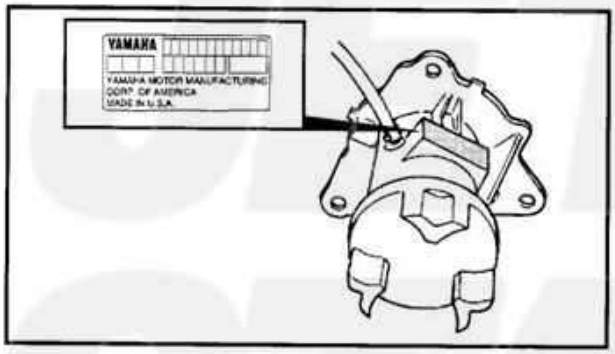
識別番号
製造番号
製造番号は、エンジンコンパートメント内壁面に張付けてあるラベルに押印されています。

製造開始番号
FOW: 800101 ～



エンジン製造番号
エンジン製造番号は、エンジンユニットに張付けてあるラベルに押印されています。

製造開始番号
68A: 000101 ～



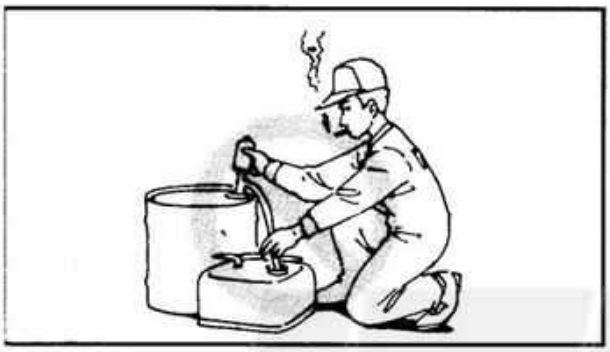
ジェットポンプ製造番号
ジェットポンプ製造番号は、中間ハウジングに張付けてあるプレートに押印されています。

製造開始番号
68A: 800101 ～

WWW.JET-STAR.JP

⚠ 安全に作業するために

作業中の事故あるいは、ケガを未然に防ぎ、安全な作業を行い、高い整備品質を確保するために以下の注意事項を守ってください。

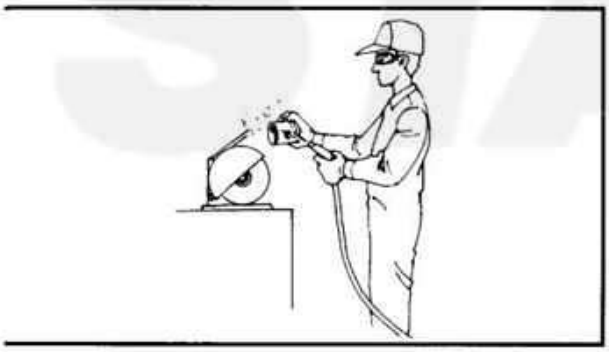


火災防止

ガソリンは、非常に高い引火性があります。取扱いの際は、火気を遠ざけることはもちろん、炎や高温物からの隔離も必要です。

換気

気化ガソリンは、有毒で空気より重く、換気が充分でない場合、作業者が吸入すると、人体に悪影響を及ぼします。また、エンジンの排気ガスも同じく有毒で、屋内のテスト水槽等でエンジンを運転する際には、充分な換気設備を必要とします。



作業者保護

作業中は、保護眼鏡あるいはゴーグルを装着し、グラインダ作業やエアブロー等での飛散物から目を保護してください。また、作業用手袋や安全靴を必要に応じて使用し、手および足の安全を確保してください。

部品、油脂およびシール剤

使用される部品、油脂およびシール剤は、ヤマハ純正部品あるいは推奨品を使用してください。

WWW.JET-STAR.JP

⚠ 安全に作業するために

油脂の使用に際しては、下記の注意事項に従い、皮膚を保護するように努めてください。

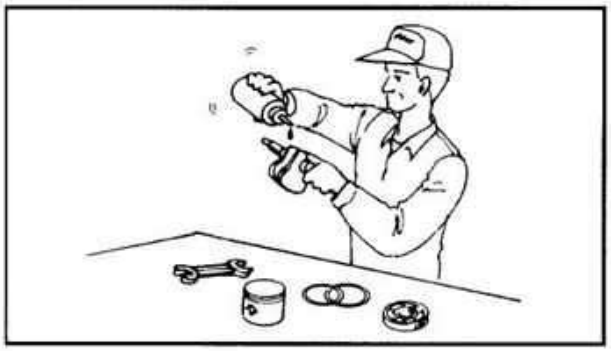
1. きれいな作業環境の維持に努める。
2. 油脂類で汚れた作業服は直ちに交換し、汚れた作業服は洗濯しておく。
3. 油脂類の皮膚への付着を防ぐため、汚れたウエスをポケットに入れるようなことはしない。
4. 油脂類あるいは汚れたウエスに触れた後は、できるだけ早く温水と石鹸で洗い落とす。
5. 皮膚の保護には、作業前にあらかじめ保護クリームを塗っておくことが望まれる。
6. 繊維クズの出ない新しいウエスを準備する。

確実な整備作業の要点

1. **正しい工具の使用**
   指定された特殊工具は、部品を変形または破損させることなく確実に脱着するために使用します。決して間に合わせの手段や方法で作業しないでください。
2. **締付トルク**
   締付方法およびトルク指示に従って作業してください。一般的には、大きいネジから小さいネジへ、内から外への順で締め付けます。
3. **再使用できない部品**
   組立時にはガスケット、パッキン、O リング、オイルシール、割ピン、サークリップ等は、再使用禁止の部品です。必ず新品を組付けてください。

WWW.JET-STAR.JP

⚠ 安全に作業するために



分解組立

1. 分解時にそれぞれの部品を洗浄して、エアーにてゴミを飛ばしておきます。
2. 組立作業前に回転および摺動部へオイルをさしておきます。

3. 組立作業終了時には、回転あるいは摺動部が滑らかに作動することを確認します。

4. ベアリングは、メーカの刻印が見える向きに組付け、そして推奨オイルで潤滑しておきます。また、ベアリングをケースに組込む時はアウターレースに力を加え、軸に組込む時はインナーレースに力を加えて平行に圧入します。

⚠注 意

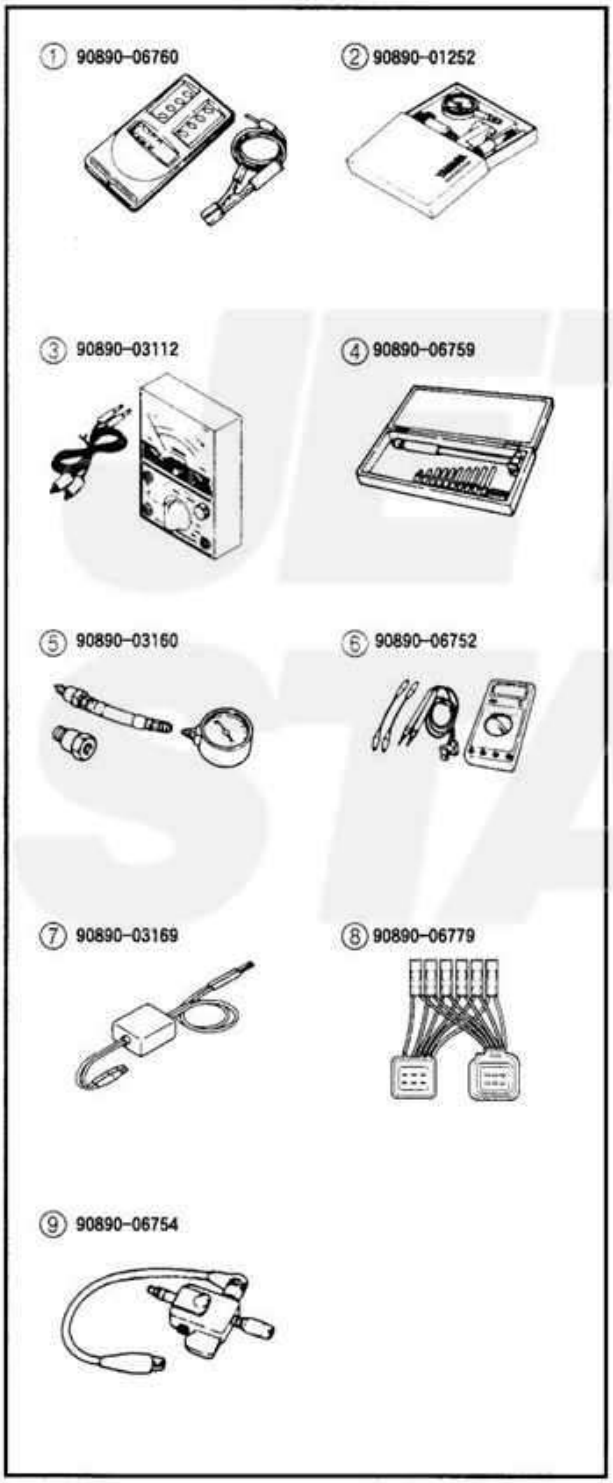
エアーでベアリングを回転させながら、乾燥しないこと。ベアリングの摺動部が損傷する。

5. オイルシール組付け時には、リップ部および外周部に耐水グリスを塗布します。

WWW.JET-STAR.JP

特殊工具

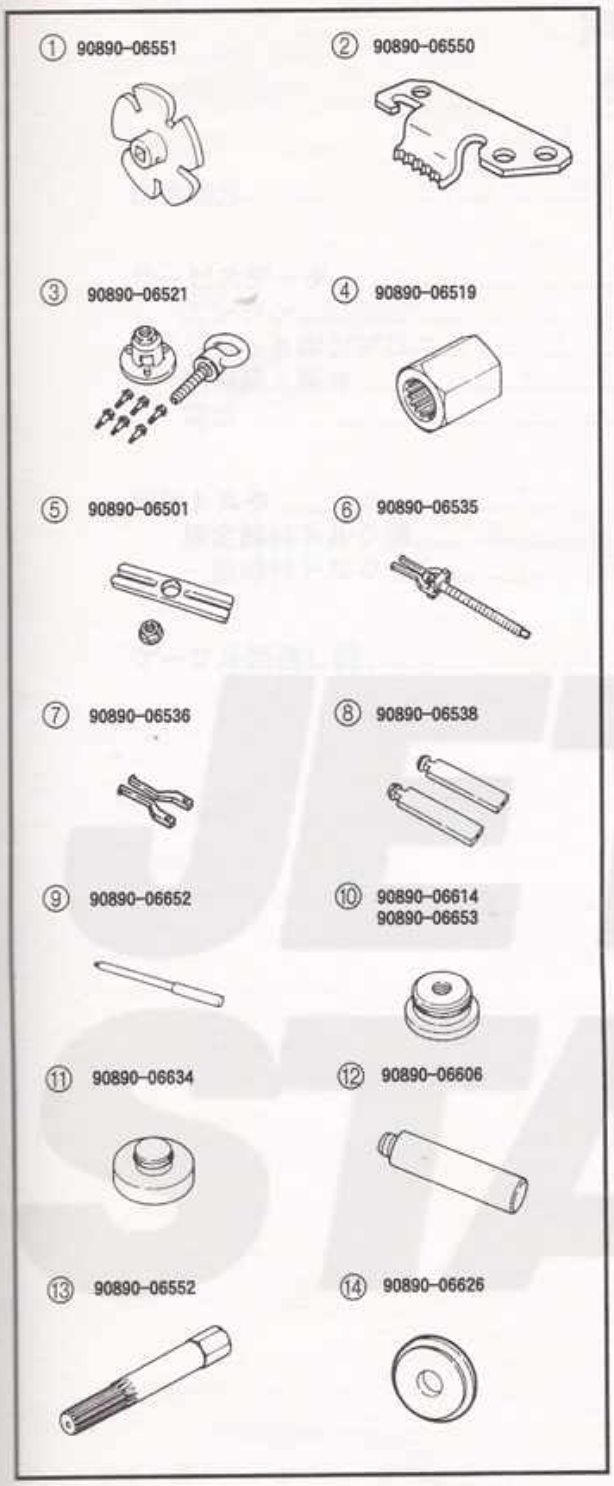
ヤマハが推奨する特殊工具の使用は、作業を円滑にし、適正な組付けや調整を可能にします。間に合わせのものや不適切な工具の使用は、部品に損傷を与える原因になります。



計測機器

① エンジンタコメータ
90890-06760
② ダイヤルゲージセット
90890-01252
③ ポケットテスタ
90890-03112
④ シリンダゲージセット
90890-06759
⑤ コンプレッションゲージ
90890-03160
⑥ デジタル回路テスタ
90890-06752
⑦ ピークボルトアダプタ
90890-03169
⑧ テストハーネス
90890-06779
⑨ スパークギャップテスタ
90890-06754

WWW.JET-STAR.JP



脱着用工具

① カプラレンチ
90890-06551

② フライホイルホルダ
90890-06550

③ フライホイルプラー
90890-06521

④ ドライブシャフトホルダ（インペラ）
90890-06519

⑤ ストッパガイドプレート（ジェットポンプベアリング）
90890-06501

⑥ ベアリングプラー（ジェットポンプベアリング）
90890-06535

⑦ ベアリングプラークロウ1（ジェットポンプベアリング）
90890-06536

⑧ ストッパガイドスタンド（ジェットポンプベアリング）
90890-06538

⑨ ドライバロッドL3（ジェットポンプベアリング）
90890-06652

⑩ ニードルベアリングアタッチメント（ジェットポンプベアリングとオイルシール）
90890-06614, 90890-06653

⑪ ボールベアリングアタッチメント（ジェットポンプオイルシール）
90890-06634

⑫ ドライバロッド（中間ハウジングとジェットポンプ）
90890-06606

⑬ シャフトホルダ（中間ハウジング）
90890-06552

⑭ ベアリングアウタレースアタッチメント（中間ハウジング）
90890-06626

WWW.JET-STAR.JP

第 2 章
仕様

仕様諸元 2-1

サービスデータ 2-3
エンジン 2-3
ジェットポンプユニット 2-4
艤装品・艇体 2-4
電装 2-5

締付トルク 2-7
規定締付トルク値 2-7
一般締付トルク 2-10

ケーブル類通し図 2-11

JET STAR

仕様諸元

項目	単位	モデル名 MJ-GP800R
型式		
艇体		FOW
エンジン		68A
主要寸法		
全長（LOA）	m	2.93
全幅（BOA）	m	1.15
全深さ（HOA）	m	1.02
乾燥重量	kg	268
定員	名	2
性能		
最大出力	kW（PS）@ r/min	80.9（110）@ 7,000
最大燃料消費量	L/h	49
航続時間	h	1.2
エンジン		
型式		2サイクル
気筒数		2
総排気量	cm^3	784
ボア×ストローク	mm	80.0×78.0
圧縮比		6.6:1
吸気方式		リードバルブ
キャブレタ型式 （メーカ名）×個数		BN44（MIKUNI）×2
キャブレタ始動方式		チョーク式
掃気方式		ルーブチャージ
潤滑方式		可変分離給油
冷却方式		水冷式
始動方式		電動スタータ
点火方式		デジタルCDI
点火時期	度	BTDC15～20
スパークプラグ型式 （メーカ名）		BR8ES（NGK）
バッテリ容量	V/Ah	12/19
ライティングコイル出力	max. A @ r/min	8 @ 6,000
推進装置		ジェットポンプ
ドライブユニット		
ジェットポンプ型式		軸流一段
インペラ回転方向 （後側から見て）		反時計回り
伝達方式		エンジン直結
操舵角（ノズル）	度	23＋23
トリム角（ノズル）	度	-5，0，5，10，15
トリムシステム		手動5段階

WWW.JET-STAR.JP

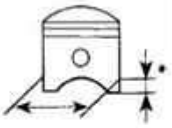
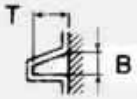
仕様諸元

項目	単位	モデル名
		MJ-GP800R
燃料およびオイル		
燃料		無鉛レギュラーガソリン
オイル		YAMALUBE（ヤマルーブ）2-Wまたは、 ヤマハ船外機スーパースペシャルオイル
混合比（WOT）		30:1
燃料タンク容量	L	60
予備燃料容量	L	10
オイルタンク容量	L	5.5

JET STAR

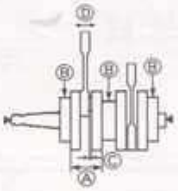
WWW.JET-STAR.JP

サービスデータ
エンジン

項目	単位	モデル名 MJ-GP800R
シリンダヘッド		
歪み限度	mm	0.1
圧縮圧力*1	kPa (kg/cm²)	560 (5.6)
シリンダ		
ボア内径	mm	80.000 ～ 80.018
円筒度	mm	0.08
真円度	mm	0.05
摩耗限度	mm	元のボア寸法＋0.04
ピストン		
外径 	mm	赤 79.899 ～ 79.902 橙 79.903 ～ 79.906 緑 79.907 ～ 79.910 紫 79.911 ～ 79.914
測定位置*	mm	22
ピストンクリアランス	mm	0.100 ～ 0.105
摩耗限度	mm	シリンダボア径－0.105
ピストンピン穴内径	mm	22.004 ～ 22.025
ピストンリング 		
トップ		
形式		キーストン
寸法（B）	mm	1.2
寸法（T）	mm	2.85
合い口隙間	mm	0.30 ～ 0.45
サイドクリアランス	mm	0.03 ～ 0.05
セカンド		
形式		キーストン
寸法（B）	mm	1.2
寸法（T）	mm	2.85
合い口隙間	mm	0.30 ～ 0.45
サイドクリアランス	mm	0.03 ～ 0.05
ピストンピン		
外径	mm	21.995 ～ 22.000
摩耗限度	mm	21.990

*1：760mmHg、20℃時

WWW.JET-STAR.JP

項目	単位	モデル名 MJ-GP800R
クランクシャフト		
クランク幅 Ⓐ	mm	72.95 ～ 73.00
振れ限度 Ⓑ	mm	0.05
大端部隙間 Ⓒ	mm	0.25 ～ 0.75
小端部振れ限度 Ⓓ	mm	2.0
		
キャブレタ		
形式		フロートレス
刻印		#1:68A-01, #2:68A-02
メインノズル	mm	3.0
メインジェット		150
パイロットジェット		90
低速パイロットスクリュ		#1:1-5/8 回転戻し、 #2:1-3/4 回転戻し
スロットルバルブ		120
バルブシート	mm	1.2
高速パイロットスクリュ		1/2 回転戻し
トローリングスピード	r/min	1,300 ± 50
リードバルブ		
厚さ	mm	0.52
バルブストッパ高さ	mm	10.8 ～ 11.4
そり限度	mm	0.2

ジェットポンプユニット

項目	単位	モデル名 MJ-GP800R
ジェットポンプ		
インペラ素材		ステンレス
インペラ翼数		3
インペラピッチ角	度	13.2
インペラ隙間	mm	0.35 ～ 0.45
インペラ隙間限度	mm	0.6
ドライブシャフト振れ限度	mm	0.3
ノズル径	mm	86.8

艤装品・艇体

項目	単位	モデル名 MJ-GP800R
ケーブル遊び：		
YPVS ケーブルのたわみ	mm	0.5 ～ 1.5
スロットルレバーの遊び	mm	4 ～ 7

WWW.JET-STAR.JP

電装

項目	単位	モデル名 MJ-GP800R
バッテリ		
容量	V/Ah (kC)	12/19 (68.4)
CDI ユニット		
出力ピーク電圧下限値		
@クランキング1	V	85
@クランキング2	V	110
@ 2,000r/min	V	205
@ 3,500r/min	V	200
ステータ		
チャージコイル (茶－青)		
出力ピーク電圧下限値		
@クランキング1	V	90
@クランキング2	V	120
@ 2,000r/min	V	220
@ 3,500r/min	V	210
ピックアップコイル (白／赤－白／黒)		
出力ピーク電圧下限値		
@クランキング1	V	5
@クランキング2	V	3
@ 2,000r/min	V	7
@ 3,500r/min	V	11
ライティングコイル(緑－緑)		
出力ピーク電圧下限値		
@クランキング1	V	8.5
@クランキング2	V	8.5
@ 2,000r/min	V	13
@ 3,500r/min	V	13
チャージコイル抵抗値 (茶－青)	Ω	299 ～ 365
ピックアップコイル抵抗値 (白／赤－白／黒)	Ω	446 ～ 545
ライティングコイル抵抗値 (緑－緑)	Ω	0.86 ～ 1.06
最低充電電流	A @ r/min	9 @ 6,000
イグニッションコイル		
最小スパークギャップ	mm	10
一次コイル抵抗値 (橙－黒)	Ω	0.078 ～ 0.106
二次コイル抵抗値 (各スパークプラグキャップ間)	kΩ	14.3 ～ 30.5

クランキング1： 無負荷
クランキング2： 負荷

·WWW.JET-STAR.JP

サービスデータ

項目	単位	モデル名 MJ-GP800R
レクチファイヤ／レギュレタ（赤－黒）		
出力ピーク電圧下限値		
@クランキング	V	7.5
@ 2,000r/min	V	12.5
@ 3,500r/min	V	12.5
サーモスイッチ		
ON 温度	℃	80
OFF 温度	℃	70
スタータモータ		
ブラシ長さ	mm	12.5
使用限度	mm	6.5
コンミュテータアンダカット	mm	0.7
使用限度	mm	0.2
コンミュテータ外径	mm	28.0
使用限度	mm	27.0
ヒューズ		
規定容量	V/A	12/10

WWW.JET-STAR.JP

締付トルク
規定締付トルク値

締付箇所		部品名	ネジサイズ	個数	締付トルク N・m	締付トルク kgf・m	備考
エンジンユニット							
エンジンユニットとエンジンマウント		ボルト	M8	4	17	1.7	
エキゾーストチャンバアッセンブリとマフラステー1とマフラステー3	1回目	ボルト	M10	2	2	0.2	
	4回目				51	5.1	
	2回目	ボルト	M10	4	2	0.2	
	6回目				39	3.9	
	3回目	ナット	M10	2	2	0.2	
	5回目				51	5.1	
	7回目	ボルト	M10	1	2	0.2	
	9回目				49	4.9	
	8回目	ボルト	M10	1	2	0.2	
	10回目				49	4.9	
エキゾーストチャンバとマフラ	1回目	ナット	M8	2	15	1.5	
	2回目				39	3.9	
	1回目	ボルト	M8	3	15	1.5	
	2回目				33	3.3	
	1回目	ナット	M10	1	15	1.5	
	2回目				51	5.1	
エキゾーストチャンバジョイントとエキゾーストマニホールド	1回目	ボルト	M8	5	17	1.7	
	2回目				34	3.4	
エキゾーストチャンバジョイントとマフラステー	1回目	ボルト	M10	1	2	0.2	
	3回目				49	4.9	
	2回目	ボルト	M8	2	2	0.2	
	4回目				37	3.7	
エキゾーストマニホールドとシリンダ	1回目	ボルト	M10	8	23	2.3	
	2回目				51	5.1	
リードバルブとリードバルブシート		スクリュ	M3	16	0.8	0.08	
YPVS ケーブルブラケットとＹＰＶＳカバーとシリンダ		ボルト	M6	2	10	1.0	
YPVS カバーとシリンダ		ボルト	M6	6	10	1.0	
YPVS バルブアッセンブリとシリンダ		ボルト	M5	2	4	0.4	
YPVS バルブレバーとシャフト		ボルト	M4	2	3	0.3	
スパークプラグとシリンダヘッド		スパークプラグ	M14	2	25	2.5	
シリンダヘッドとシリンダ	1回目	ボルト	M8	10	15	1.5	
	2回目				37	3.7	
シリンダとクランクケース	1回目	ボルト	M10	8	22	2.2	
	2回目				39	3.9	
スタータモータ配線とスタータモータ		ナット	M6	1	5	0.5	
フライホイルマグネットとクランクシャフトアッセンブリ		ボルト	M10	1	74	7.4	

WWW.JET-STAR.JP

仕様 締付トルク

締付箇所		部品名	ネジサイズ	個数	締付トルク N・m	締付トルク kgf・m	備考
ドライブカプリングとクランクシャフトアッセンブリ		ドライブカプリング	M27	1	36	3.6	572
ジェネレータカバーとクランクケース	1回目	ボルト	M8	8	15	1.5	271
	2回目				27	2.7	
ピックアップコイルとジェネレータカバー		ボルト	M5	2	5	0.5	242
ケーブルホルダとジェネレータカバー		ボルト	M6	2	14	1.4	242
ステータコイルとジェネレータカバー		ボルト	M6	3	14	1.4	242
ロワークランクケースとアッパクランクケース	1回目	ボルト	M8	13	15	1.5	572
	2回目				27	2.7	
			M6	7	11	1.1	
マウントブラケットとクランクケース	1回目	ボルト	M8	6	15	1.5	271
	2回目				27	2.7	
ジェットポンプユニット							
ステアリングケーブルジョイントとノズルデフレクタ		ナット	M6	1	7	0.7	242
ライドプレートとハル		ボルト	M8	4	17	1.7	572
インテークダクトとハル		ボルト	M8	4	17	1.7	572
ジェットインテークとハル		ボルト	M6	4	7	0.7	572
スピードセンサとライドプレート		スクリュ	M5	4	4	0.4	242
ノズルリングとノズル		ボルト	M8	2	15	1.5	271
ノズルデフレクタとノズルリング		ボルト	M8	2	15	1.5	271
ウォータインレットカバーとウォータインレットストレーナとインペラダクト		ボルト	M6	4	7	0.7	572
ドライブシャフトナットとドライブシャフト		ナット	M16	1	74	7.4	
インペラ（逆ネジ）とドライブシャフト		インペラ	M22	1	18	1.8	572
トランサムプレートとハル		ナット	M10	4	26	2.6	
ビルジフィルタホルダとバルクヘッド		スクリュ	M5	1	4	0.4	
中間ハウジングとバルクヘッド		ボルト	M8	3	17	1.7	572
ドリブンカプリングとシャフト		ドリブンカプリング	M27	1	36	3.6	572
グリスニップルと中間ハウジング		ニップル	－	1	5	0.5	572
艤装品・艇体							
ハンドルバーカバーとハンドルバーカバーステー		スクリュ	M6	4	1.1	0.11	
ハンドルバーカバーステーとステアリングコラム		スクリュ	M6	4	2.9	0.29	
アッパハンドルバーホルダ／ロワーハンドルバーホルダとステアリングコラム		ボルト	M8	4	16	1.6	
QSTS コンバータとハル		ナット	M6	2	5	0.5	
QSTS ケーブル1，2ロックナット		ナット	M8	2	16	1.6	
スロットルレバーアッセンブリとハンドルバー		スクリュ	M5	2	3	0.3	
ハンドルバースイッチアセンブリとハンドルバー		スクリュ	M5	2	3	0.3	

WWW.JET-STAR.JP

仕様 締付トルク

締付箇所	部品名	ネジサイズ	個数	締付トルク		備考
				N・m	kgf・m	
QSTS グリップアッセンブリとハンドルバー	スクリュ	M6	1	3	0.3	
グリップエンドとハンドルバー	ボルト	M5	2	1	0.1	
チョークレバーアッセンブリとハンドルバー	スクリュ	M5	2	3	0.3	
QSTS ケーブルハウジングとカバー	スクリュ	M4	1	1	0.1	
プレート／ステアリングアッセンブリとデッキ	ナット	M8	2	16	1.6	
ステアリングコラムアッセンブリとデッキ	ナット	M8	2	16	1.6	
ステアリングアームとステアリングコラム	ナット	M8	1	16	1.6	
ステアリングケーブルボールジョイントとステアリングアーム	ナット	M6	1	5	0.5	
ハンドルバーストッパとステアリングコラムハウジング	ナット	M10	1	26	2.6	
QSTS ケーブルロックナット（ノズルリング側）	ナット	M5	1	3	0.3	
QSTS ケーブルとハル	ナット	－	1	6	0.6	
QSTS ケーブルエンドとピンと QSTS コンバータ	ナット	M6	1	4	0.4	
ステアリングケーブルロックナット（ノズルデフレクタ側）	ナット	M6	1	6	0.6	
ステアリングケーブルとハル	ナット	－	1	6	0.6	
ステアリングケーブルホルダとブラケット	ボルト	M6	1	6	0.6	
スピードセンサ配線とハル	ナット	－	1	6	0.6	
ヒンジアッセンブリとフロントハッチ	ボルト	M6	2	12	1.2	
ウインドシールドとフロントハッチ	スクリュ	M5	8	1	0.1	
ハッチロックとフロントハッチ	ボルト	M6	2	5	0.5	
ヒンジアッセンブリとデッキ	ナット	M8	2	16	1.6	
ステアリングコンソールカバーアッセンブリとデッキ	ナット	M6	2	5	0.5	
	ボルト	M6	4	3	0.3	
	スクリュ	M5	2	2	0.2	
	ナット	M8	2	16	1.6	
マルチファンクションメータとホルダ	ナット	M5	2	2	0.2	
ステアリングコンソールカバーとサイドカバー	スクリュ	M6	4	3	0.3	
ステアリングコンソールカバーとグラブコンパートメント	スクリュ	M5	4	1	0.1	
ステアリングケーブルブラケットとデッキ	ボルト	M6	1	6	0.6	
ブザーブラケットとデッキとステアリングケーブルブラケット	ボルト	M6	2	6	0.6	
ハッチロックアッセンブリとデッキ	ナット	M6	2	6	0.6	
シートロックアッセンブリとシート	ボルト	M6	2	6	0.6	⑤S
ブラケット／デッキとノッチ	ナット	M10	1	26	2.6	
ブラケット／デッキとハンドグリップ	ボルト	M8	2	5	0.5	
ハンドグリップとデッキ	ナット	M8	2	5	0.5	
シートブラケットとデッキ	ナット	M8	2	15	1.5	

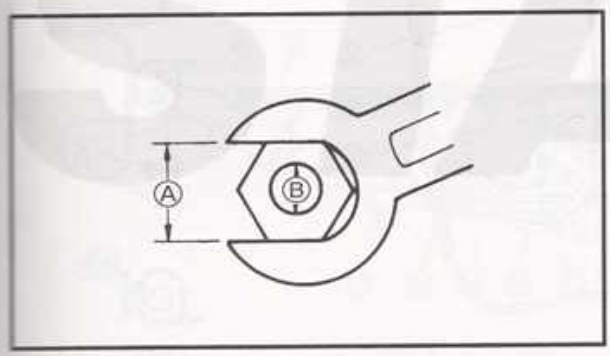
WWW.JET-STAR.JP

仕様 締付トルク

締付箇所	部品名	ネジサイズ	個数	締付トルク		備考
				N・m	kgf・m	
バッテリボックス／ステイとホルダ	ナット	M6	2	9	0.9	
バッテリボックスとブラケット／デッキ	ナット	M8	2	13	1.3	
バッテリボックスと電装ボックス	ボルト	M8	3	15	1.5	
延長ボルトとバッテリマイナス端子	ボルト	M6	1	6	0.6	
エキゾーストアウトレットとハル	ボルト	M6	3	6	0.6	
スポンソンとハル	ボルト	M8	6	18	1.8	
スパウトとハル	ナット	M24	1	5	0.5	
ロープホールとハル	ナット	M24	2	5	0.5	
バウアイとハル	ボルト	M6	2	13	1.3	
フラップとハル	ボルト	M6	8	6	0.6	
ドレンプラグ／パッキンとハル	ナット	M5	4	2	0.2	
エンジンマウントとハル	ボルト	M8	8	17	1.7	⊖
エンジンダンパとハル	ボルト	M6	2	6	0.6	

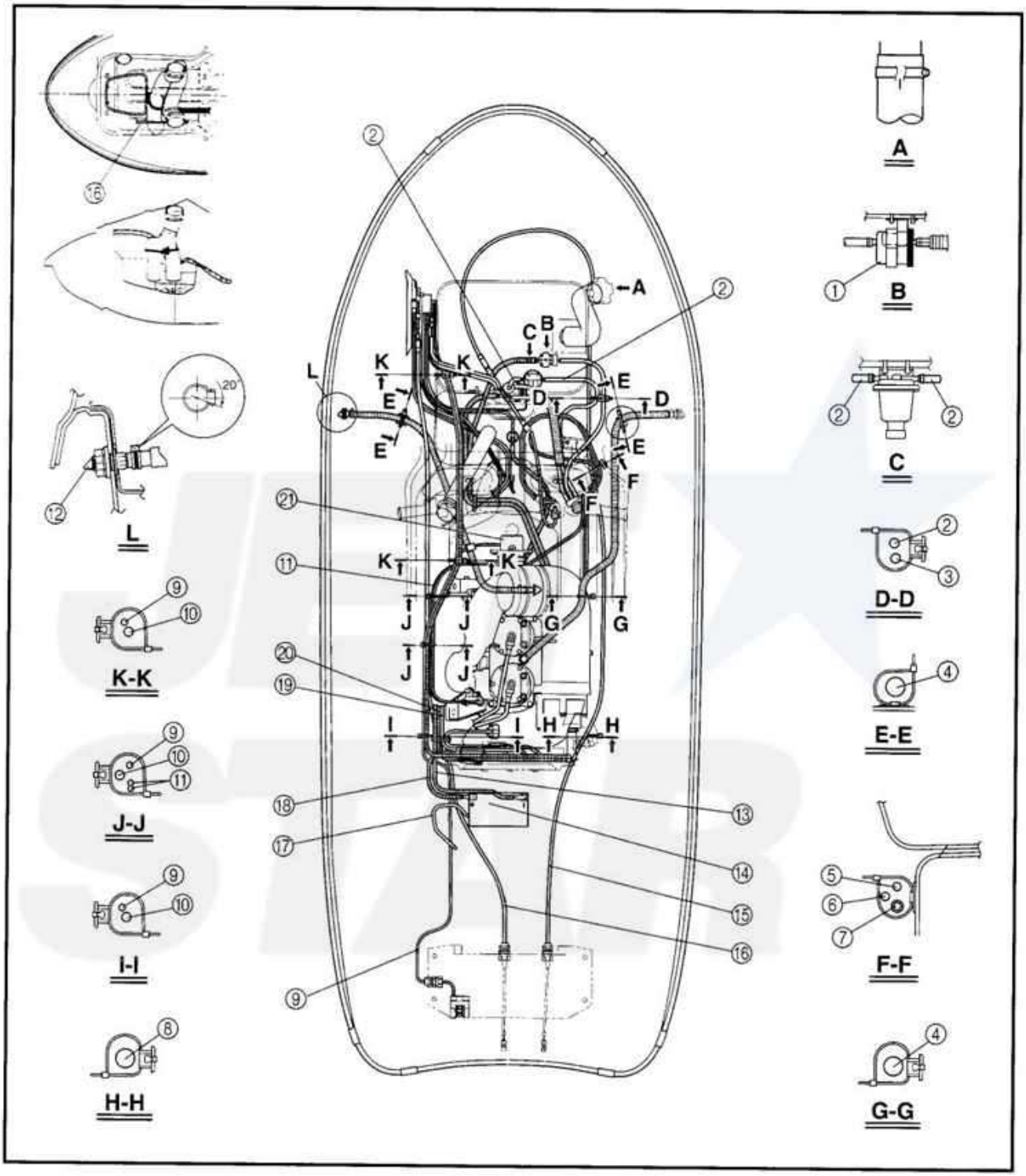
一般締付トルク

ナットⒶ	ボルトⒷ	一般締付トルク	
		N・m	kgf・m
8mm	M5	5.0	0.5
10mm	M6	8.0	0.8
12mm	M8	18	1.8
14mm	M10	36	3.6
17mm	M12	43	4.3



WWW.JET-STAR.JP

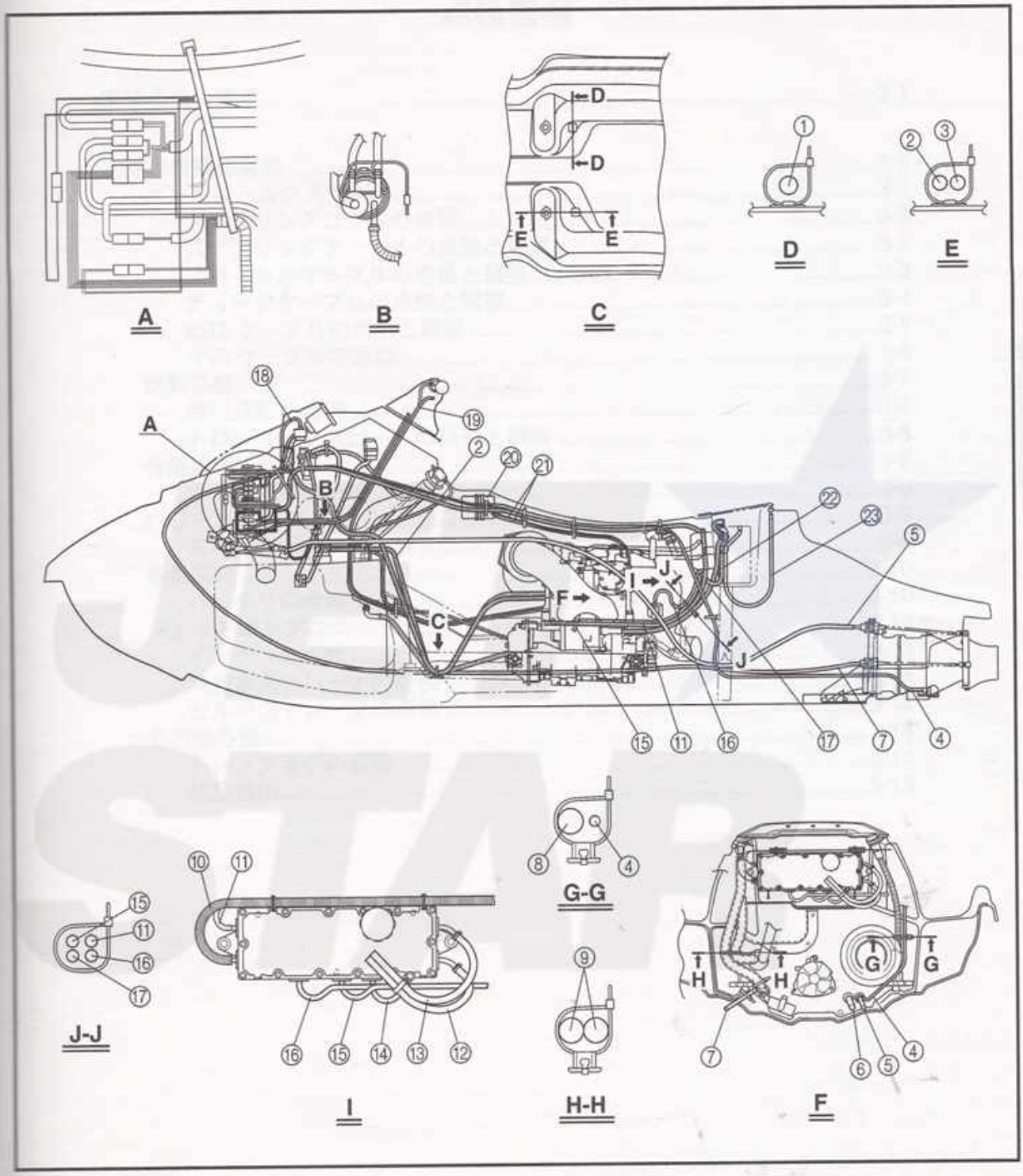
ケーブル類通し図



① 燃料フィルタ
② 燃料タンクブリーザホース
③ 燃料ホース
④ 冷却水ホース
⑤ チョークケーブル
⑥ スロットルケーブル
⑦ オイルリターンホース
⑧ ビルジホース
⑨ スピードセンサリード線
⑩ 電装ボックスリード線
⑪ YPVS ケーブル
⑫ パイロットウォータアウトレット
⑬ バッテリ ⊖ ケーブル
⑭ バッテリ
⑮ ステアリングケーブル
⑯ QSTS ケーブル
⑰ バッテリブリーザホース
⑱ バッテリ ⊕ ケーブル
⑲ スタータモータリード線
⑳ ジェネレータリード線
㉑ YPVS サーボモータ

WWW.JET-STAR.JP

ケーブル類通し図



① オイルデリバリホース
② 燃料リターンホース
③ 燃料ホース
④ スピードセンサリード線
⑤ QSTS ケーブル
⑥ 冷却水ホース
⑦ ステアリングケーブル
⑧ 水洗用ホース
⑨ ビルジホース
⑩ マルチファンクションメータへ
⑪ ステータアッセンブリへ
⑫ シリンダ #1 へ
⑬ シリンダ #2 へ
⑭ バッテリ ⊕ 端子へ
⑮ スタータモータ ⊕ 端子へ
⑯ サーモスイッチへ
⑰ バッテリ ⊖ ケーブル
⑱ ブザーリード線
⑲ チョークケーブル
⑳ YPVS サーボモータ
㉑ YPVS ケーブル
㉒ バッテリ ⊕ ケーブル
㉓ ベッテリブリーザホース

WWW.JET-STAR.JP

JET
STAR

第 3 章
点検整備

定期点検一覧表 3-1

定期点検整備要領 3-2
コントロールシステム 3-2
ステアリングコラムの点検 3-2
ステアリングケーブルの点検と調整 3-2
スロットルケーブルの点検と調整 3-3
チョークケーブルの点検と調整 3-4
QSTS ケーブルの点検と調整 3-5
YPVS ケーブルの調整 3-6
燃料系統 3-7
燃料経路の点検 3-7
トローリングスピードの点検と調整 3-8
分離給油システム 3-9
オイル経路の点検 3-9
パワーユニット 3-9
スパークプラグの点検 3-9
電気系統 3-10
バッテリの点検 3-10
ジェットポンプユニット 3-13
インペラの点検 3-13
冷却水ストレーナの点検 3-14
ビルジストレーナの点検 3-14
その他各部 3-14
ドレンプラグの点検 3-14
給脂箇所 3-15

3

WWW.JET-STAR.JP

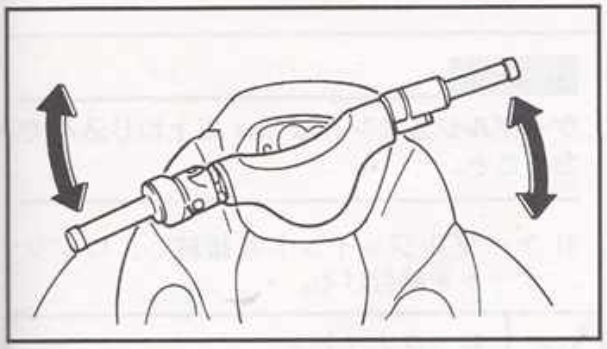
定期点検一覧表

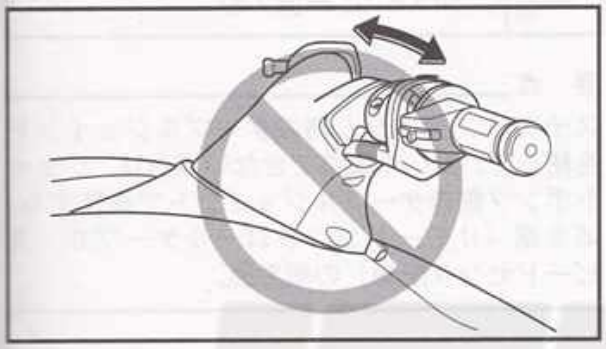
下表は、マリンジェットの一般的な使用における定期的な点検を実施する時期を示しています。
お客様のマリンジェットの使用状況によっては間隔（時期）を変える必要があります。

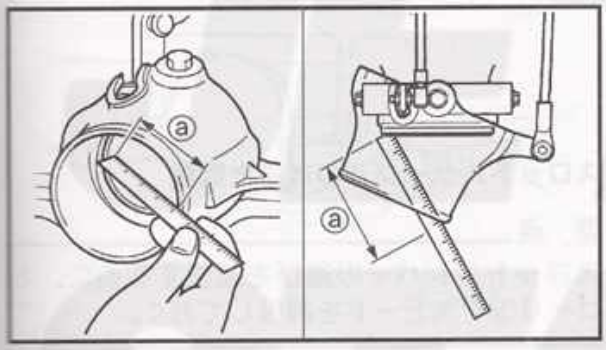
項目	内容	初回		毎回		参照ページ
		10時間目（ならし運転後）	50時間目（3ヵ月目）	100時間目（6ヵ月毎）	200時間目（1年毎）	
コントロールシステム						
ステアリングケーブル	点検／調整			○		3-2
ステアリングコラム	点検	○		○		3-2
スロットルケーブル	点検／調整			○		3-3
キャブレタスロットルシャフト	点検／調整			○		－
チョークケーブル	点検／調整			○		3-4
QSTSケーブル	点検／調整			○		3-5
YPVSケーブル	点検／調整				○	3-6
燃料系統						
燃料タンク	清掃				○	4-9
燃料フィルタ	清掃／交換	○			○	3-7
燃料経路	点検			○		3-7
トローリングスピード	点検／調整			○		3-8
キャブレタセッティング	点検／調整			○		4-18
分離給油システム						
分離給油システム	点検／清掃	○			○	3-9
オイルポンプケーブル	点検／調整			○		4-31
パワーユニット						
スパークプラグ	点検／清掃／調整	○	○	○		3-9
冷却水通路	点検／清掃	○ *1				－
ラバーカプリング	点検				○	－
電気系統						
バッテリ	点検	○ *2				3-10
ジェットポンプユニット						
インペラ	点検		○	○		3-13
冷却水ストレーナ	清掃		○	○		3-14
ビルジストレーナ	清掃		○	○		3-14
その他各部						
ボルト、ナット類	増締め	○		○		－
ドレンプラグ	点検／交換				○	3-14
給脂箇所	給脂			○		3-15
中間ハウジング	給脂	○ *3		○ *4		3-17

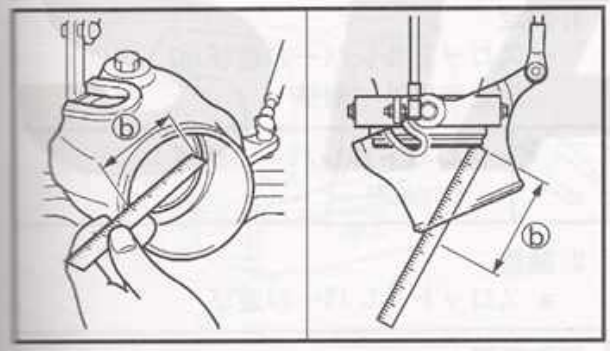
*1: 毎使用後
*2: 毎使用前に液量点検
*3: グリス注入量 33.0 ～ 35.0cm³
*4: グリス注入量 6.0 ～ 8.0cm³

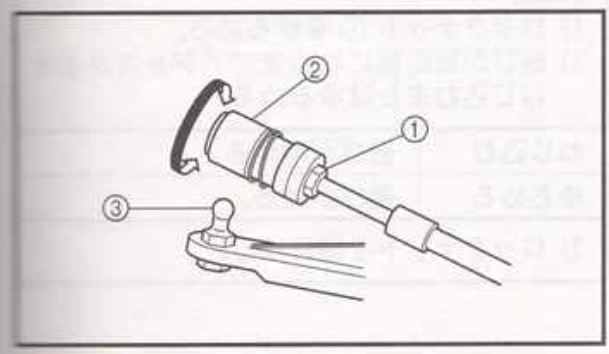
WWW.JET-STAR.JP











定期点検整備要領
コントロールシステム
ステアリングコラムの点検

1. 点検

- ステアリングコラム
  過度の遊び、がた→ステアリングコラムの交換
  第8章「ステアリングコラム」の項参照。

点検手順：
1) ハンドルバーを上下および前後に動かす。
2) ハンドルバーに過度の遊びがないか点検する。

ステアリングケーブルの点検と調整

1. 点検

- ノズルとジェットノズルの距離ⓐ、ⓑ
  限度以上→調整

点検手順：
1) コントロールグリップをニュートラルの位置にする。
2) ハンドルバーを左右にそれぞれいっぱいに向ける。
3) 距離ⓐおよびⓑを測定する。
4) 距離の差が規定限度を超える場合は、ケーブルジョイントを調整する。

距離ⓐとⓑの差：
最大 5mm

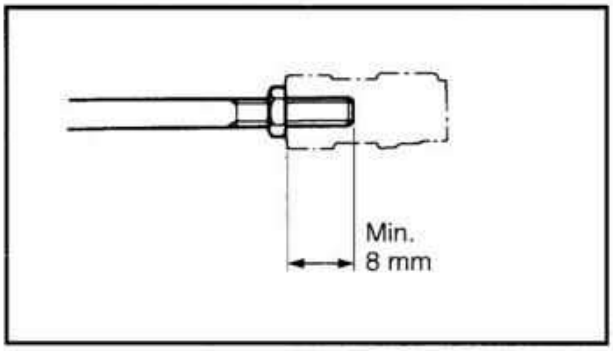
2. 調整

- ステアリングケーブルジョイント
  (ステアリングコラム側)

調整手順：
1) ロックナット①をゆるめる。
2) ステアリングケーブルジョイント②をボールジョイント③から外す。
3) ケーブルジョイントをねじ込む、またはゆるめて距離ⓐおよびⓑを調整する。

ねじ込む	距離ⓐが増す。
ゆるめる	距離ⓑが増す。

WWW.JET-STAR.JP



⚠ 警 告

ケーブルジョイントは 8mm 以上ねじ込んでおくこと。

4) ケーブルジョイントを接続し、ロックナットを締付ける。

	ロックナット： 6N・m (0.6kgf・m)

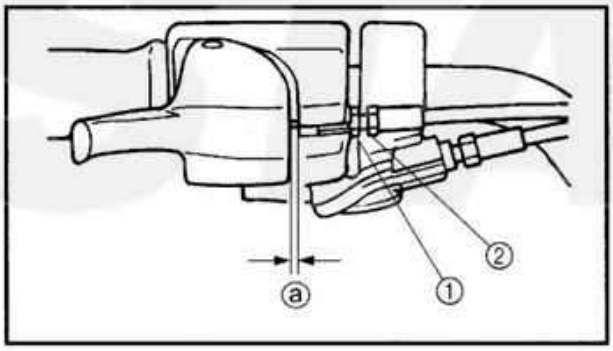
要 点

ステアリングコラム側のケーブルジョイントを使って、正しく調整できない場合は、ジェットポンプ側のケーブルジョイントで調整する。第８章「リモートコントロールケーブル、スピードセンサ配線」の項参照。

スロットルケーブルの点検と調整

要 点

スロットルレバーの遊びを調整する前に、トローリングスピードを調整しておく。



1. 測定

- スロットルレバーの遊び ⓐ
  規定値以外→調整

	スロットルレバーの遊び： 4 ～ 7mm

2. 調整

- スロットルレバーの遊び

調整手順：

1) ロックナット ① をゆるめる。
2) 遊びが規定値になるまでアジャスタ②をねじ込むまたはゆるめる。

ねじ込む	遊びが増える。
ゆるめる	遊びが減る。

3) ロックナットを締付ける。

WWW.JET-STAR.JP

⚠警 告

遊び調整の後、ハンドルバーを左右に向けてトローリングスピードが上がらないことを確認する。

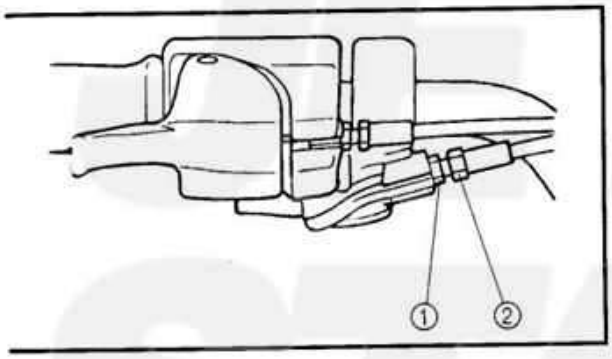
チョークケーブルの点検と調整

1. 点検

- チョークレバーの作動
  正常に作動しない→調整

点検手順：

1) チョークレバーをいっぱいに引いた後、手を離すとレバーが少し後に引き戻されるかどうか点検する。
2) チョークレバーをいっぱいまで戻した時、インナーケーブルが多少たわむかどうか点検する。



2. 調整

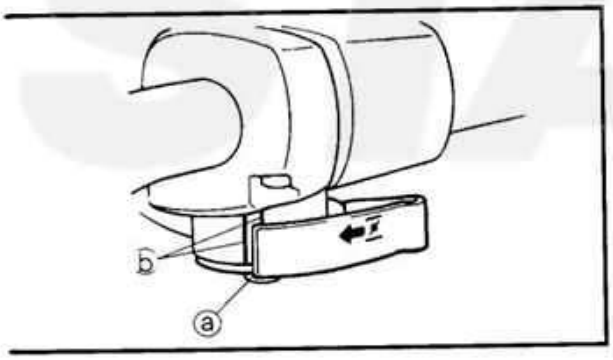
- チョークレバーの作動

調整手順：

1) ロックナット ① をゆるめる。
2) アジャスタ②をブラケットにいっぱいまでねじ込む。
3) チョークレバー端部 ⓐ がラインマーク ⓑ の間に入るよう位置を合わせる。
4) インナーケーブルがピンと張るまで、アジャスタ ② をゆるめる。

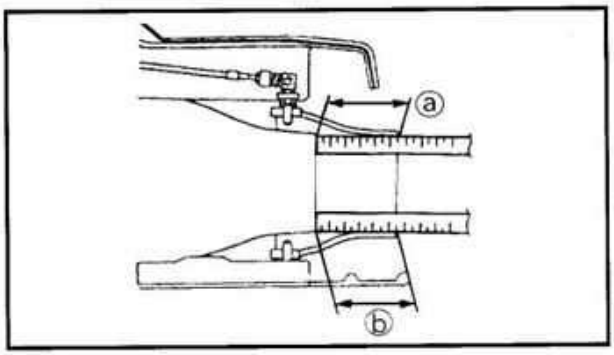
要 点

アジャスタ ② を使ってインナーケーブルの張りを調整することが難しい場合には、チョークレバーアジャスタ（取付スクリュ）を調整してから行うと調整しやすい。そのときにチョークレバー端部ⓐがラインマーク ⓑ の間にあることを確認する。



5) ロックナット ① を締付ける。

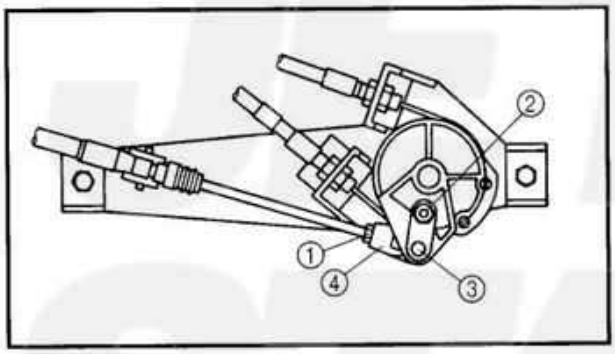
WWW.JET-STAR.JP

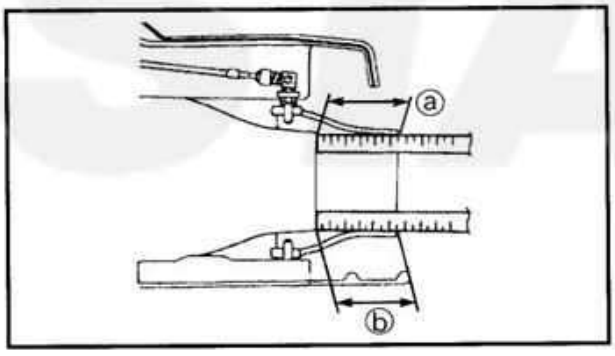


QSTS ケーブルの点検と調整

1. 測定
   - ジェットノズルのセット長さ ⓐ、ⓑ 異なる場合→調整

測定手順：
1) コントロールグリップをニュートラルの位置にする。
2) ジェットノズルを中央の位置にする。
3) ジェットノズルのセット長さ ⓐ と ⓑ を測定する。
4) ⓐ と ⓑ の長さが異なっていたら、ケーブルジョイントを調整する。





2. 調整
   - QSTS ケーブル

調整手順：
1) コントロールグリップをニュートラルの位置にする。
2) ロックナット ① をゆるめる。
3) ナット ② とピボットピン ③ を取外す。
4) ジェットノズルを中央の位置にする。
5) ケーブルジョイント ④ を回して調整する。

ねじ込む	長さ ⓑ が増える。
ゆるめる	長さ ⓐ が増える。

⚠ 警 告

ケーブルジョイントは 8mm 以上ねじ込んでおくこと。

6) ケーブルジョイント ④ とピボットピン ③ を接続し、ナット ② をねじ込む。

ナット：
4N・m (0.4kgf・m)

7) ロックナット ① を締付ける。

ロックナット：
4N・m (0.4kgf・m)

WWW.JET-STAR.JP

要　点

QSTS コンバータ側のケーブルジョイントを使って、正しく調整できない場合には、ジェットポンプ側のケーブルジョイントで調整する。第８章「リモートコントロールケーブル、スピードセンサ配線」の項参照。

YPVS ケーブルの調整

1. 点検

- YPVS バルブの位置
  不適切な位置→ YPVS ケーブルを調整

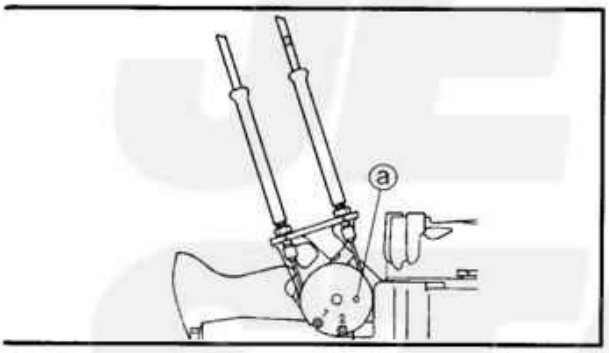
点検手順：

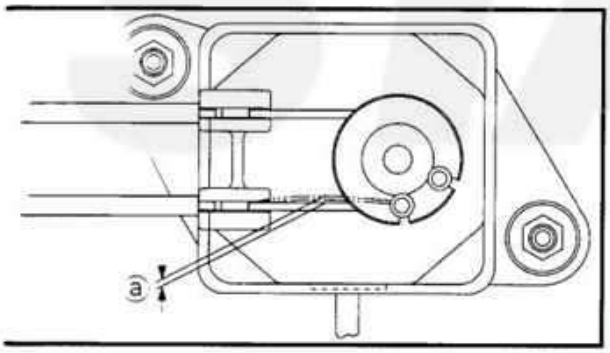
1) 一旦エンジンを始動し、停止する。

要　点

エンジン停止状態が３秒間続くと、YPVS バルブアッセンブリが１度全閉／全開する。

2) YPVS バルブが全閉の時、プーリ上の穴ⓐがシリンダの穴と合っているかどうか点検する。



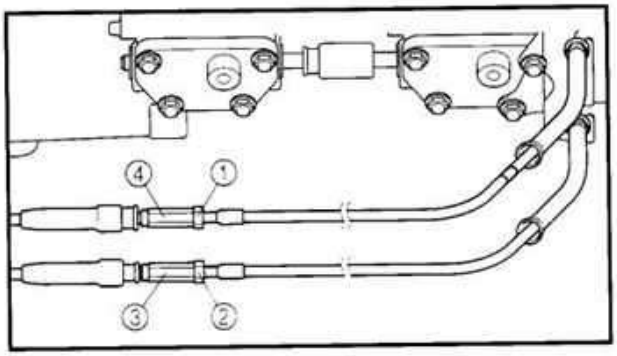


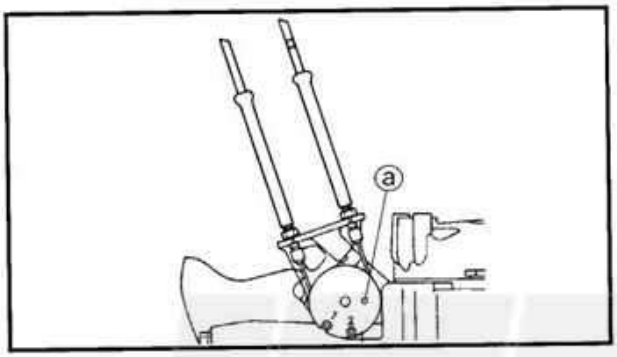
2. 測定

- YPVS ケーブルのたわみⓐ
  規定値以外→調整

	YPVS ケーブルのたわみ 0.5 ～ 1.5mm

WWW.JET-STAR.JP





3. 調整

- YPVS ケーブル 1、 2

調整手順：

1) ロックナット ①、② をゆるめる。
2) アジャスタ ③ と ④ を、ケーブルにたわみができるまでねじ込む。
3) プーリの穴ⓐをシリンダの穴と一致させる。
4) 直径 4 mm のピンをプーリに通し、シリンダの穴に挿入する。
5) 規定のたわみが得られるまで、アジャスタ ③ と ④ をねじ込む、またはゆるめる。

ねじ込む	たわみが増える。
ゆるめる	たわみが減る。

6) ロックナット ①、② を手で締付ける。
7) ピンを取外す。
8) エンジンを始動した後停止する。
9) プーリの穴がシリンダの穴に合っているかどうか、再度点検する。
10) 穴が正しく合っていればロックナットを締付ける。
11) 穴が正しく合っていなければ、上記手順をくり返す。

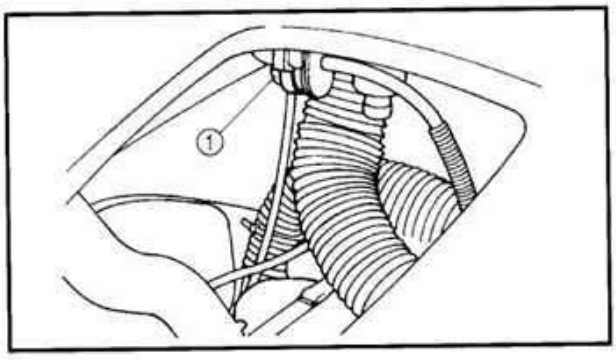
燃料系統

⚠ 警 告

- 燃料系統の整備を行う前に、エンジンを停止し、燃料コックを「OFF」にすること。
- 燃料系統の部品を取外す時は、部品にウエスを当て、エンジンルーム内に燃料がこぼれないように注意すること。

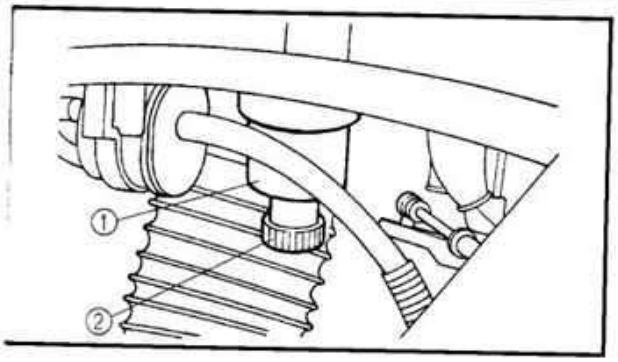
燃料経路の点検

1. 点検



- 燃料フィルタ ①
  詰り→交換
  亀裂／損傷 →交換
  水あか詰り→交換し、燃料タンクを点検。
- 燃料ホース
- 燃料タンク
- 燃料ホースの通し部品
- 燃料フィラキャップ
  亀裂／損傷→交換

WWW.JET-STAR.JP



2. 点検
- 水分離器 ①
  水の混入→排出

要　点

水を排出するためにはドレンプラグ②を外す。

トローリングスピードの点検と調整

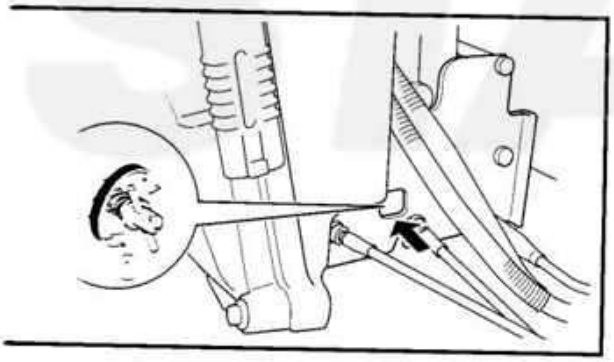
1. 点検
- トローリングスピード
  規定値以外→調整

	トローリングスピード： 1,300 ± 50r/min

点検手順（測定は水上で行う）：
1) エンジンを始動させ数分間暖機運転する。
2) エンジンタコメータのクリップをハイテンションコードに取付ける。

	エンジンタコメータ： 90890-06760

3) エンジンのトローリングスピードを測定する。



2. 調整
- トローリングスピード

調整手順：
1) エンジンを始動させ数分間暖機運転する。
2) エンジンタコメータのクリップをハイテンションコードに取付ける。

	エンジンタコメータ： 90890-06760

3) 規定のトローリングスピードが得られるまで、スロットルストップスクリュ① をねじ込む、またはゆるめる。

WWW.JET-STAR.JP

分離給油システム

オイル経路の点検

1. 点検
   - オイルフィルタ
     目詰り→清掃
     こすれ／破れ→交換
   - ラバーシール
     亀裂／摩耗→交換
   - オイルホース
   - オイルタンク
   - オイルフィラキャップ
     亀裂／損傷→交換
   - チェックバルブ
     故障→交換

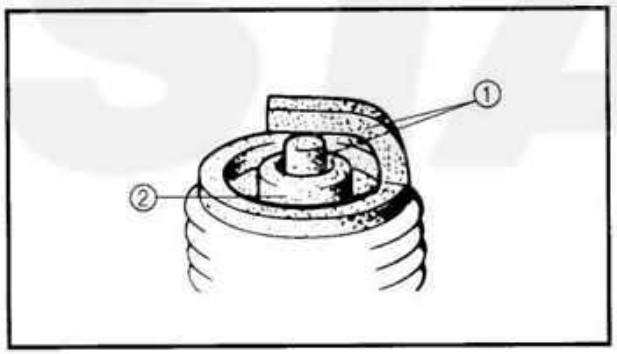
▲注 意

オイルタンクが完全に空にならないように注意してください。タンクが空になった場合は、オイルポンプのエア抜きが必要になります。これを怠るとエンジンが焼き付く恐れがあります。エア抜きが必要な場合は、第4章「オイルポンプ」の項参照。

パワーユニット

スパークプラグの点検

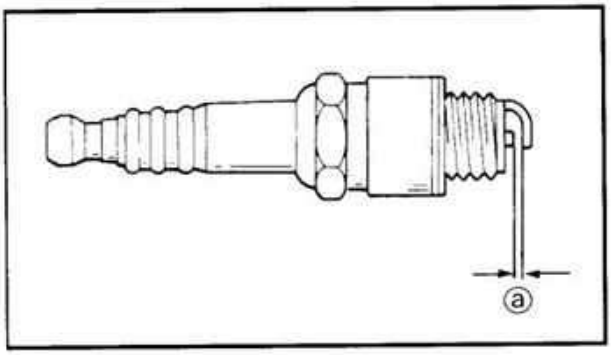
1. 点検
   - 電極 ①
     損傷／摩耗→交換
   - 絶縁ガイシの色 ②
     異常な色→エンジンの調子を確認



色	状況
キツネ色	正常
白色（異常）	● 混合気が薄い ● エアーの漏れ ● セッティング不良
黒色（異常）	● 混合気が濃い ● 電気系統の故障 ● オイル量の過多 ● スパークプラグの欠陥

2. 清掃
   - スパークプラグ
     スパークプラグクリーナまたはワイヤブラシを用いてスパークプラグを清掃する。

WWW.JET-STAR.JP

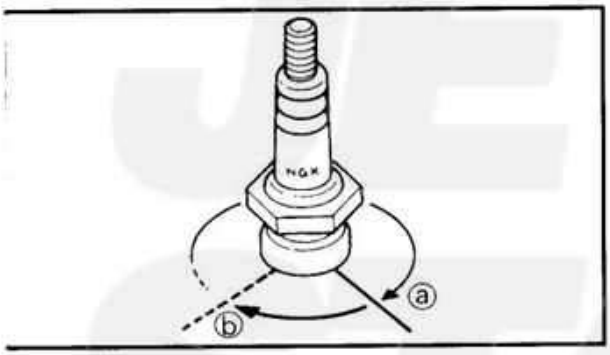


3. 測定
- スパークプラグすき間ⓐ
  規定値以外→すき間調整

	スパークプラグすき間： 0.7 ～ 0.8mm

4. 締付け
- スパークプラグ

	スパークプラグ： 25N・m（2.5kgf・m）



要　点

- スパークプラグを取付ける前に、ガスケットとスパークプラグの表面を清掃する。また、スパークプラグのネジ部の焼付きを防止するため、耐熱剤（耐熱グリス）を薄く塗布しておくと良い。
- 新品のスパークプラグを締付けるときに、トルクレンチがない場合の、トルク値の目安は、手で締付けた位置ⓐから更に 1/4 回転～1/2 回転位置ⓑまで締込む。

電気系統

バッテリの点検

⚠警 告

バッテリ電解液は毒性と高い腐食性を持つ硫酸が含まれていて危険です。
常に以下のことに注意して事故を防止してください。
- 電解液は、ひどい火傷や失明の恐れがあるので、身体に付着しないようにしてください。
- バッテリの近くで作業をしたり、バッテリを取扱う場合は、保護眼鏡を着用してください。

応急処置（身体外部に付着した場合）
- 皮膚に付いた時－清水でよく洗ってください。
- 目に入った時－15分間水でよく洗い、すぐに眼科医の診察を受けてください。

WWW.JET-STAR.JP

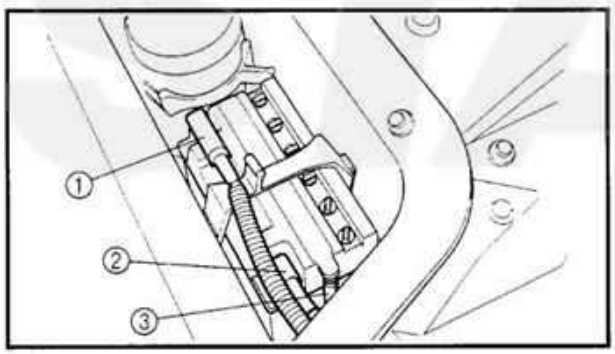
応急処置（飲み込んでしまった場合）
- 多量の水、または水酸化マグネシウム液（通称マグネシウムミルク）、生卵やサラダオイルを飲み、すぐに医師の診察を受けてください。

バッテリは、爆発性の水素ガスを発生するので、常に以下のことに注意して、事故を防止してください。
- バッテリの充電は、換気のよい所で行ってください。
- バッテリは火気、スパーク（火花）、炎から遠ざけてください。（例えばタバコの火や溶接器具など）
- バッテリを取扱ったり、充電中は禁煙としてください。

バッテリや電解液は、子供の手の届かない所に置いてください。

⚠注 意

- バッテリを傾けて置かないこと。
- バッテリ電解液を補充する前、または充電前には、必ずバッテリケースからバッテリを取外すこと。
- バッテリのブリーザホースが正しく接続されていて、閉塞や破損がないことを確認すること。

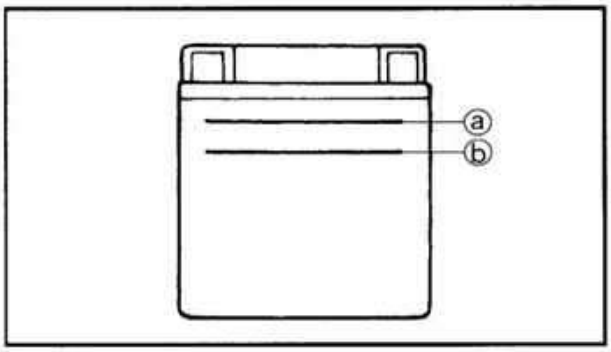


1. 取外
- バンド
- バッテリ ⊖ ケーブル ①
- バッテリ ⊕ ケーブル ②
- バッテリ
- バッテリブリーザホース ③

⚠警 告

- バッテリを取外す場合は、⊖ ケーブルから取外すこと。
- インペラの点検などで艇を傾けて作業する場合には、バッテリを取外すこと。

WWW.JET-STAR.JP



2. 点検

- バッテリ電解液量
  バッテリ電解液量が少ない→蒸留水を補充する。
  電解液量がアッパレベルマーク（上限線）ⓐとロワーレベルマーク（下限線）ⓑの間になるようにする。

充填手順：
1) 各フィラーキャップを取外す。
2) 蒸留水を加える。
3) 電解液量がアッパレベルマーク（上限線）に達した時点でバッテリを 20 分間放置し、電解液面が下がっていたら、アッパレベルマーク（上限線）まで更に蒸留水を加える。

⚠注 意

必ず蒸留水を使用すること。蒸留水以外の水には鉱物類が含まれているためバッテリを損傷する。

3. 点検

- バッテリ電解液の比重
  規定値以外→充電

比重（20 ℃）：
1.28
充電電流：
1.9A × 10 時間

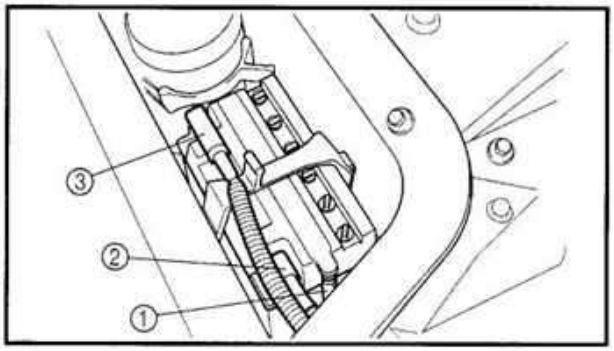
4. 取付

- フィラキャップ

⚠注 意

バッテリを取付ける前に、バッテリケースおよびバッテリに付着している電解液をよく洗い落とし、バッテリが乾いていることを確認する。

WWW.JET-STAR.JP

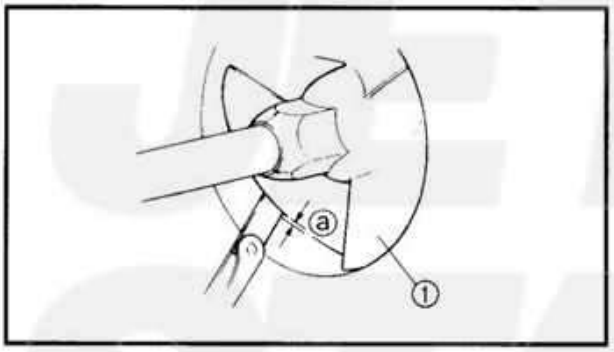


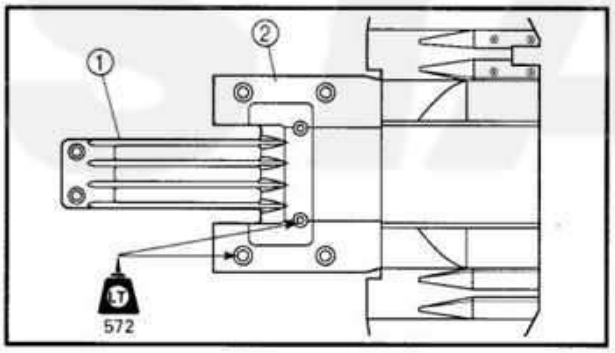
5. 取付

- バッテリブリーザホース ①
- バッテリ
- バッテリ ⊖ ケーブル ②
- バッテリ ⊕ ケーブル ③
- バンド

⚠ 注 意

- バッテリ端子にまず ⊕ ケーブルを先に接続する。
- バッテリケーブルが正しく接続されているか確認する。逆に接続されていると、電装系統に重大な損傷を与える。
- バッテリのブリーザホースが正しく接続され、途中に塞がれていないことを確認する。
- 端子の腐食を最小限に抑えるため、端子に耐水グリスを塗布する。





ジェットポンプユニット

インペラの点検

1. 点検

- インペラ ①
  損傷／摩耗 →交換
  切傷／かき傷→やすりをかける／磨く

2. 測定

- インペラとハウジングの隙間 ⓐ
  限度以上→交換

インペラとハウジングの隙間限度：
0.6mm

測定手順：

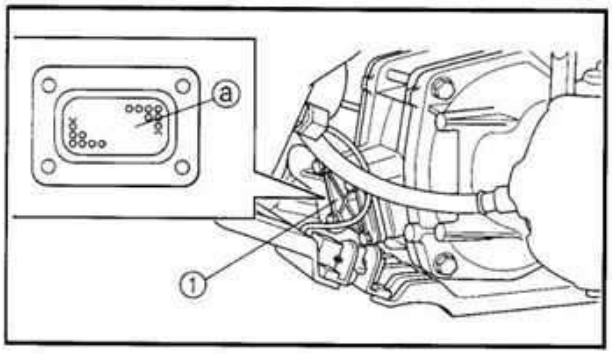
1) バッテリケーブルを取外す。
2) 給水口格子 ① とインテークダクト ② を外す。
3) 図のように、インペラの各翼の部分で隙間を測定する（全部で3回測定する。）
4) 給水口格子とインテークダクトを取付ける。

ボルト：
M6: 7N・m (0.7kgf・m)
M6: 17N・m (1.7kgf・m)

5) バッテリケーブルを取付ける。

WWW.JET-STAR.JP

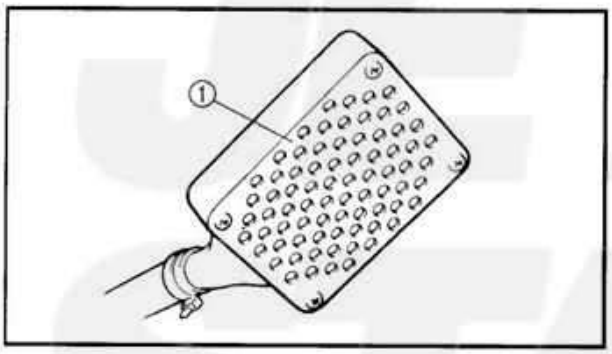
ジェットポンプユニット／その他各部



冷却水ストレーナの点検

1. 点検
   - 冷却水ストレーナ
     目詰り→清掃
     亀裂／損傷→交換

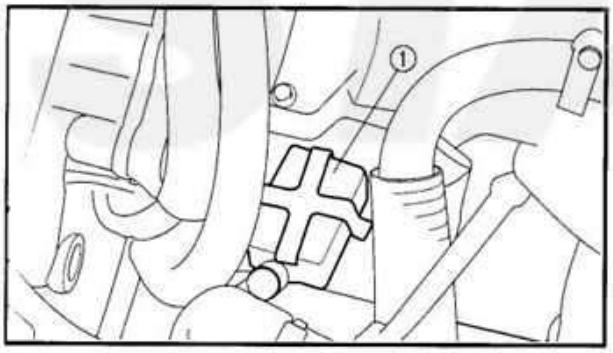
点検手順：
1) ウォータインレットカバー ① を取外す。
2) 冷却水ストレーナメッシュ ⓐ を点検する。
3) ウォータインレットカバーを取付ける。

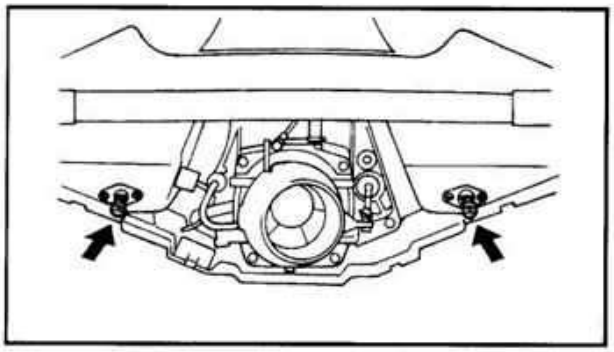


ビルジストレーナの点検

1. 点検
   - ビルジストレーナ
     詰り→清掃
     亀裂／損傷→交換

点検手順：
1) ビルジストレーナ①をビルジストレーナホルダから取外す。
2) ビルジストレーナを点検する。



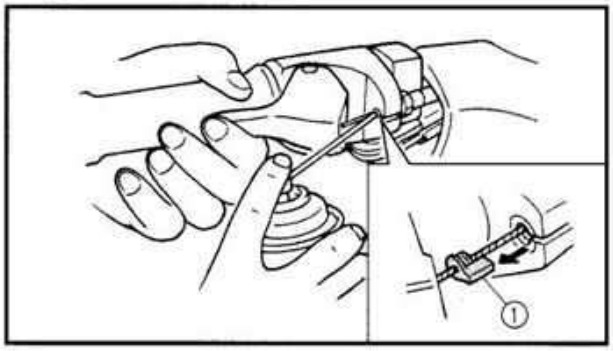


その他各部

ドレンプラグの点検

1. 点検
   - ドレンプラグ
     亀裂／損傷→交換
   - O リング
     亀裂／摩耗→交換
   - ネジ部
     汚れ／砂→清掃

WWW.JET-STAR.JP



給脂箇所

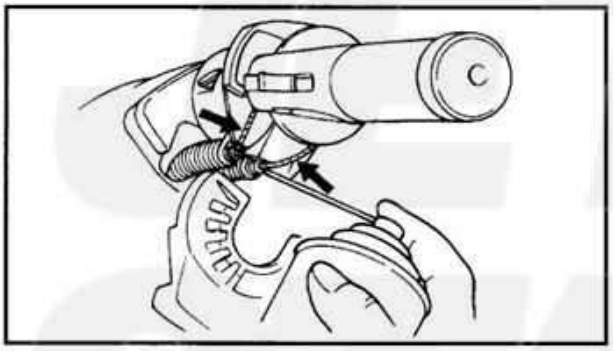
1. 給脂

● スロットルケーブル（ハンドルバー側）

推奨潤滑油：
防錆油

要　点

スロットルケーブルに給脂する前に、スロットルレバーを強く握り、ラバーシール ① を取外す。



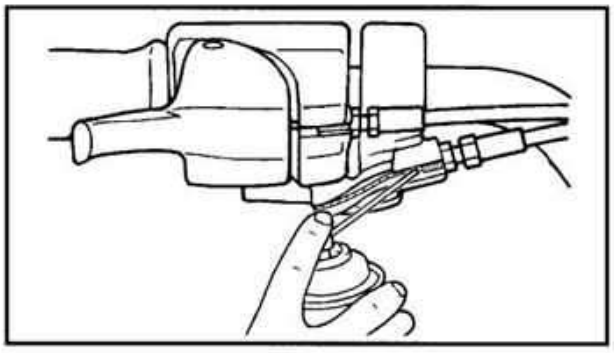
2. 給脂

● QSTS コントロールケーブル
（ハンドルバー側）

推奨グリス：
ヤマハグリス A，ヤマハマリングリス
（耐水グリス）

要　点

QSTS コントロールケーブルに給脂する前に、QSTS ケーブルハウジングカバーを取外す。アウタケーブルには防錆油をスプレーし、インナケーブルにはグリスを塗布する。



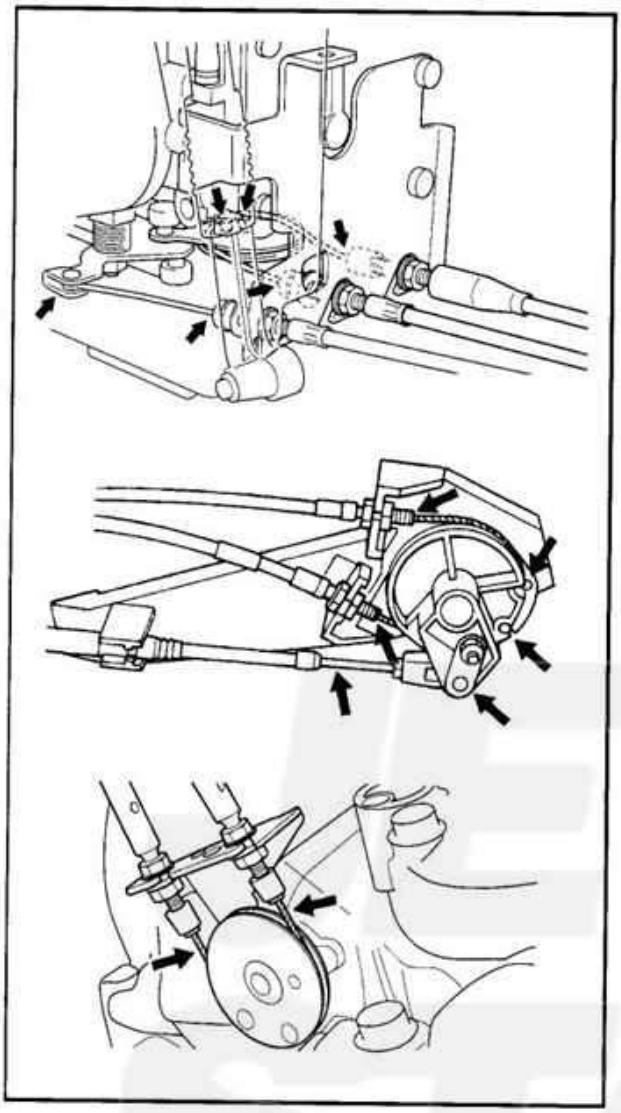
3. 給脂

● チョークケーブル（ハンドルバー側）

推奨潤滑油：
防錆油

WWW.JET-STAR.JP

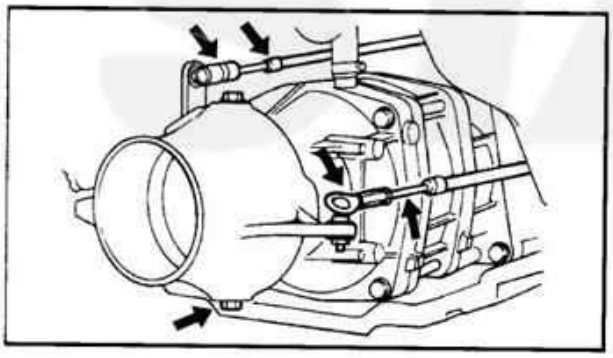
その他各部



4. 給脂

- スロットルケーブル（キャブレタ側）
- オイルポンプケーブル
- QSTS ケーブル（プーリ側）
- YPVS ケーブル

推奨グリス：
ヤマハグリス A，ヤマハマリングリス
（耐水グリス）

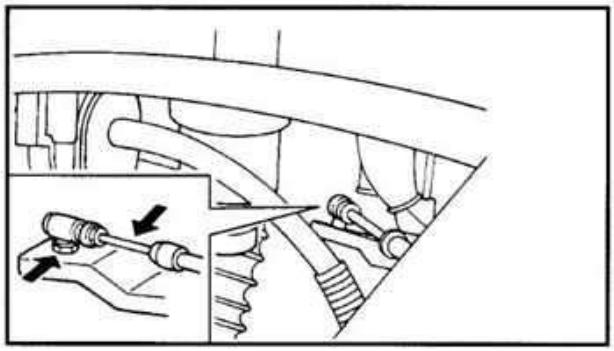


5. 給脂

- ノズルピボットシャフト
- ステアリングケーブル（ノズル側）
- QSTS ケーブル（ノズル側）

推奨グリス：
ヤマハグリス A，ヤマハマリングリス
（耐水グリス）

WWW.JET-STAR.JP



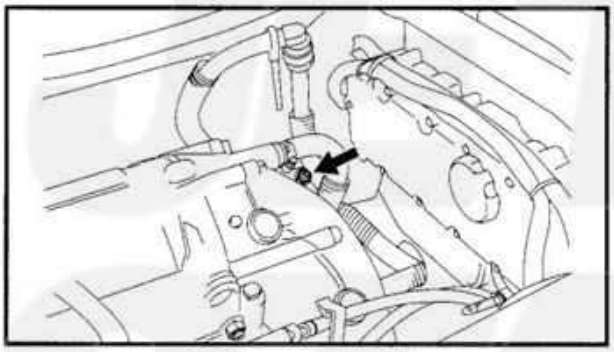
6. 給脂

- ステアリングケーブル
- ステアリングケーブルジョイント

要　点

各ジョイントを外し、グリスを少量塗布する。

推奨グリス：
ヤマハグリス A，ヤマハマリングリス
（耐水グリス）



7. 充填

- 中間ハウジング

推奨グリス：
ヤマハグリス A，ヤマハマリングリス
（耐水グリス）

要　点

グリスニップルから中間ハウジングに推奨グリスを充填する。

WWW.JET-STAR.JP

JET STAR

第 4 章
燃料系統

燃料コック、燃料フィルタ 4-1
展開図 4-1
作業手順表 4-1
サービスポイント 4-2
燃料フィルタの点検 4-2
燃料コックの点検 4-2

オイルタンク 4-3
展開図 4-3
作業手順表 4-3
展開図 4-4
サービスポイント 4-5
オイル経路の点検 4-5
オイルレベルセンサの点検 4-5
オイルタンクの点検 4-5

燃料タンク 4-6
展開図 4-6
作業手順表 4-6
展開図 4-7
サービスポイント 4-9
チェックバルブの点検 4-9
燃料レベルセンサの点検 4-9
燃料タンクの点検 4-9
パイプジョイントの点検 4-9

インテークサイレンサ 4-10
展開図 4-10
作業手順表 4-10

キャブレタユニット 4-11
展開図 4-11
作業手順表 4-11
展開図 4-12
サービスポイント 4-18
スロットルバルブ同調の点検と調整 4-18
チョークケーブル、スロットルケーブルの取付 4-19
オイルポンプケーブルの取付 4-19
キャブレタアッセンブリ 4-19

WWW.JET-STAR.JP

キャブレタ 4-20
展開図 4-20
作業手順表 4-20
展開図 4-21
サービスポイント 4-23
ダイヤフラムの点検 4-23
加速ポンプボディの点検 4-23
アームの点検 4-23
レギュレタボディの点検 4-24
ニードルバルブの点検 4-24
ジェット類とキャブレタボディの点検 4-24
高速・低速パイロットスクリュの点検 4-24
高速・低速パイロットスクリュの調整 4-25
キャブレタアッセンブリ 4-25

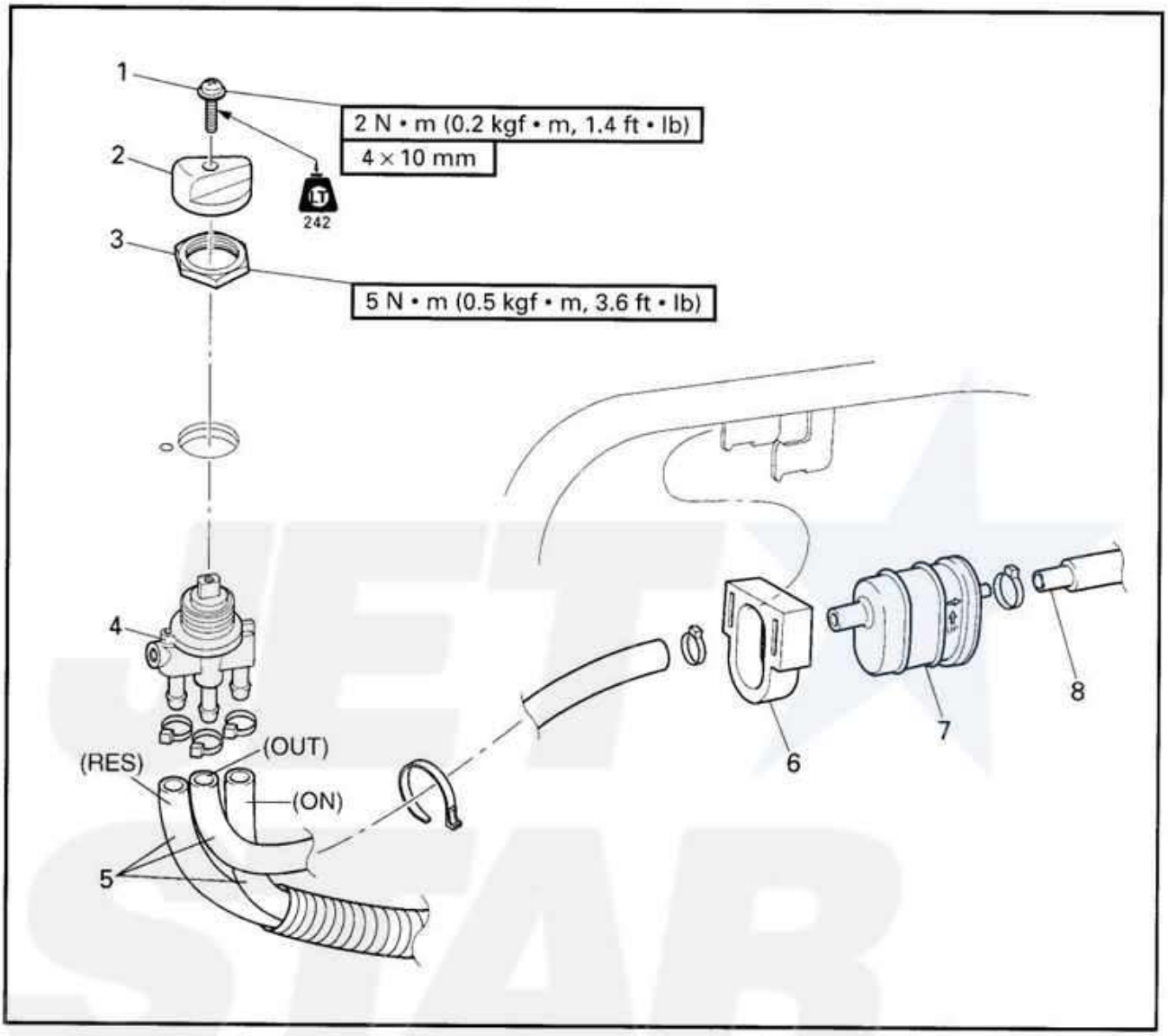
燃料ポンプ 4-26
展開図 4-26
作業手順表 4-26
展開図 4-27
サービスポイント 4-28
燃料ポンプの点検 4-28
燃料フィルタの点検 4-28

オイルポンプ 4-29
展開図 4-29
作業手順表 4-29
サービスポイント 4-31
オイルポンプの点検 4-31
オイルホースの点検 4-31
チェックバルブの点検 4-31
オイルポンプケーブルの調整 4-31
オイルインジェクションポンプのエア抜き 4-32

WWW.JET-STAR.JP

燃料コック、燃料フィルタ

展開図



作業手順表

手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	燃料コック、燃料フィルタの取外		左欄の「手順」のとおりに取外す。
1	スクリュ	1	
2	ノブ	1	
3	ナット	1	
4	燃料コックアッセンブリ	1	
5	燃料ホース	3	
6	ホルダ	1	
7	燃料フィルタ	1	
8	燃料ホース	1	
			取付けは逆の手順で行う。

WWW.JET-STAR.JP

燃料コック、燃料フィルタ

サービスポイント

燃料フィルタの点検

第３章「燃料系統」の項参照。

燃料コックの点検

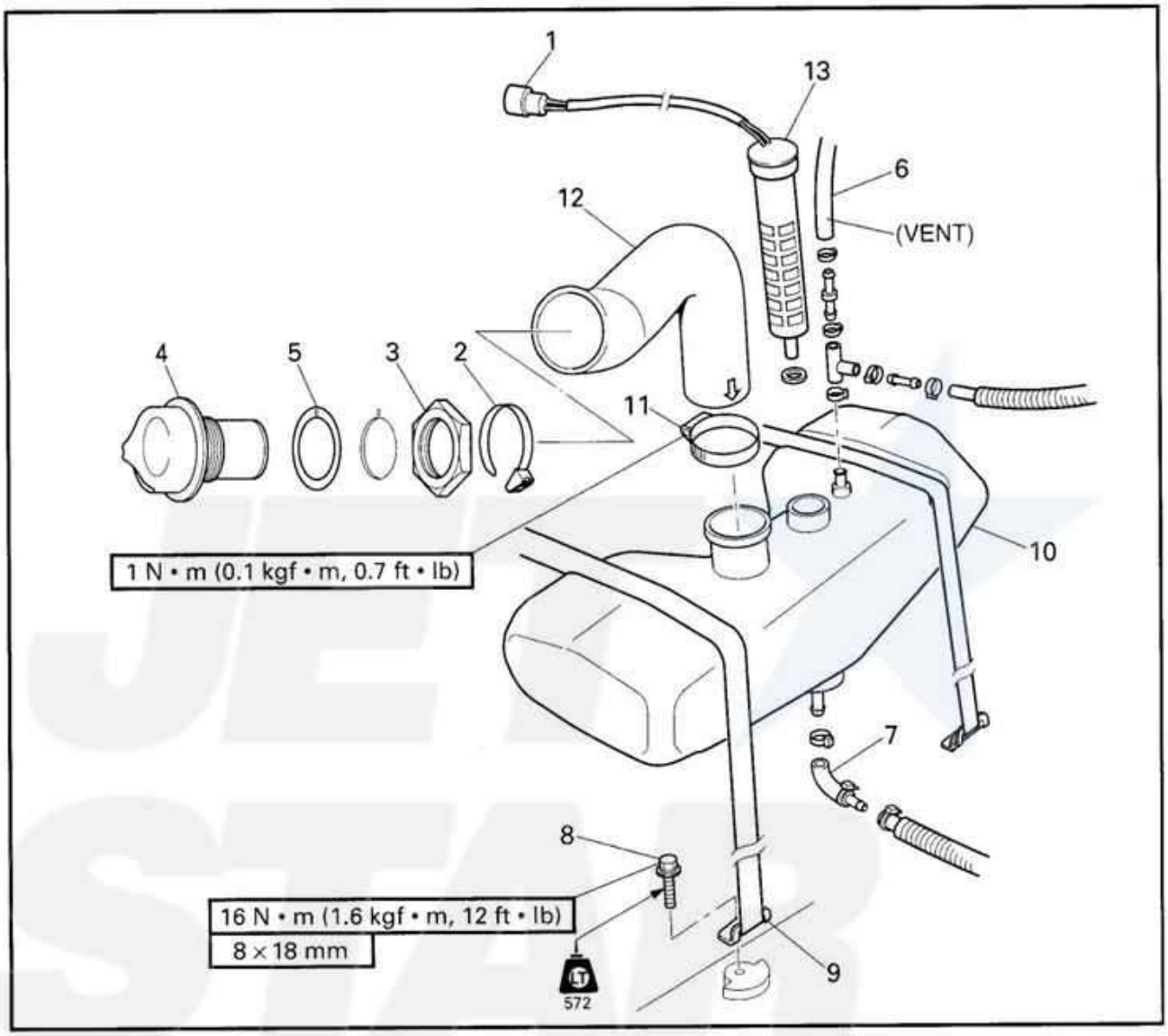
1. 点検
   - 燃料コック
     詰り→清掃
     スムーズに動かない→交換

JET STAR

WWW.JET-STAR.JP

オイルタンク

展開図



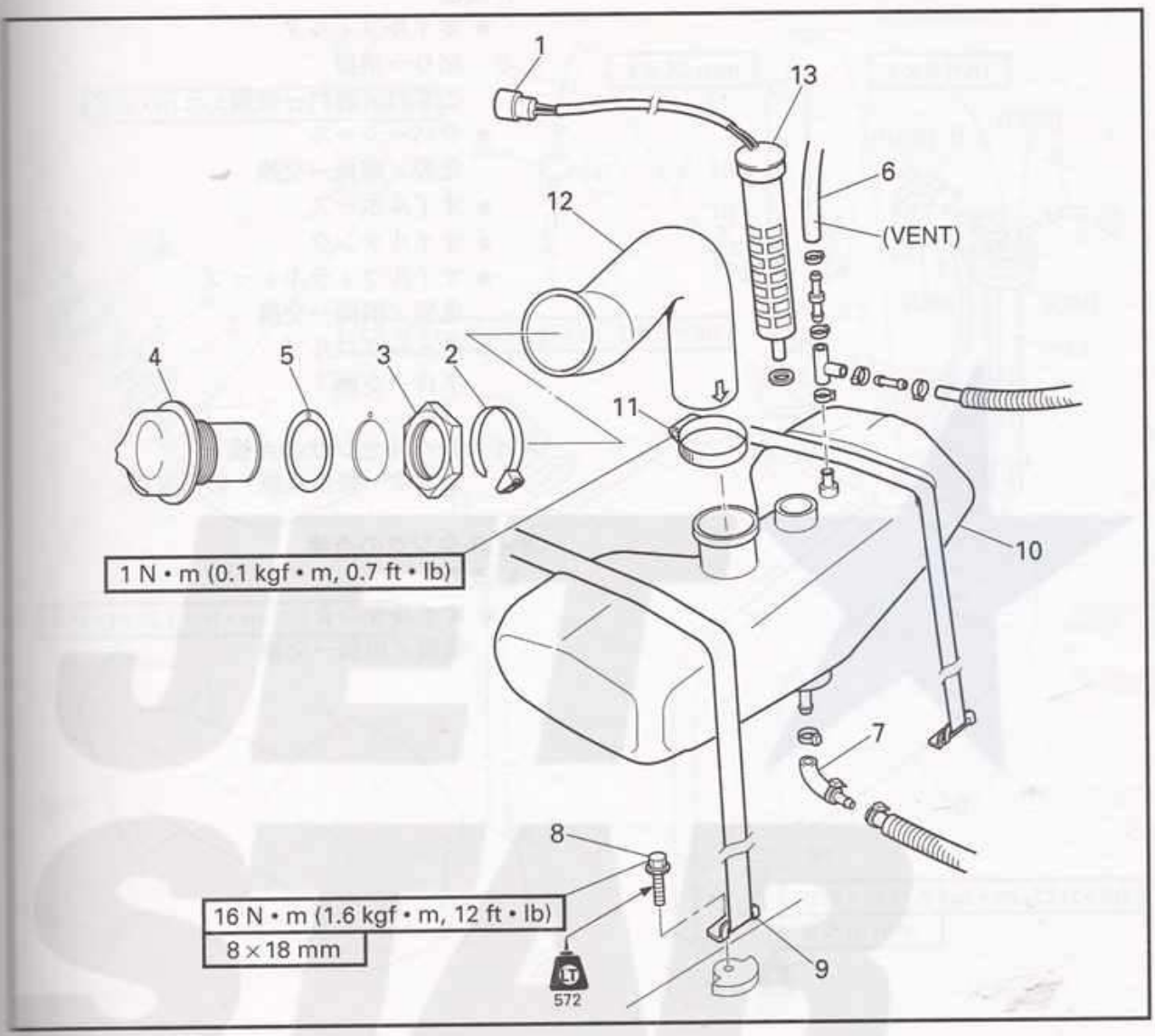
作業手順表

手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	オイルタンクの取外		左欄の「手順」のとおりに取外す。
	エンジンユニット		第5章「エンジンユニット」の項参照。
	ステアリングコンソールカバーアッセンブリ		第8章「ステアリングコンソールカバー」の項参照。
1	オイルレベルセンサカプラ	1	
2	バンド	1	**再使用不可** オイルフィラネックからオイルフィラホースを外す。
3	ナット	1	
4	オイルフィラネック	1	
5	ラバーシール	1	

WWW.JET-STAR.JP

オイルタンク

展開図



手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
6	ブリーザホース	1	
7	オイルホース	1	
8	ボルト	2	
9	タンクベルト	2	
10	オイルタンクアッセンブリ	1	
11	ホースクランプ	1	
12	オイルフィラホース	1	
13	オイルレベルセンサ	1	
			取付けは逆の手順で行う。

WWW.JET-STAR.JP

サービスポイント

オイル経路の点検

1. 点検
   - オイルフィルタ
     詰り→清掃
     こすれ／破れ→交換
   - ラバーシール
     亀裂／摩耗→交換
   - オイルホース
   - オイルタンク
   - オイルフィラキャップ
     亀裂／損傷→交換
   - チェックバルブ
     不良→交換

オイルレベルセンサの点検

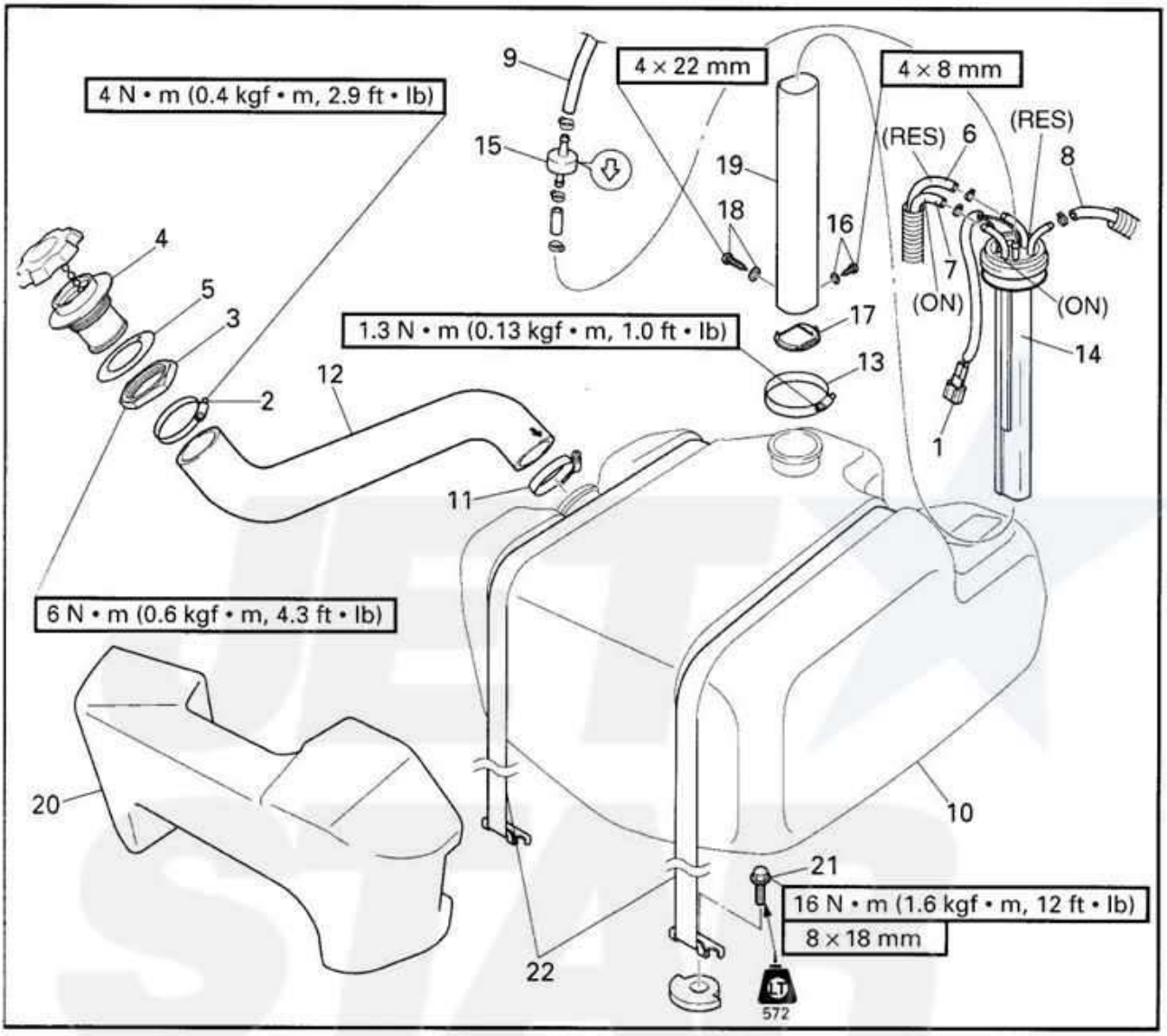
第７章「警告系統」の項参照。

オイルタンクの点検

1. 点検
   - オイルタンク
     亀裂／損傷→交換

WWW.JET-STAR.JP

燃料タンク
展開図

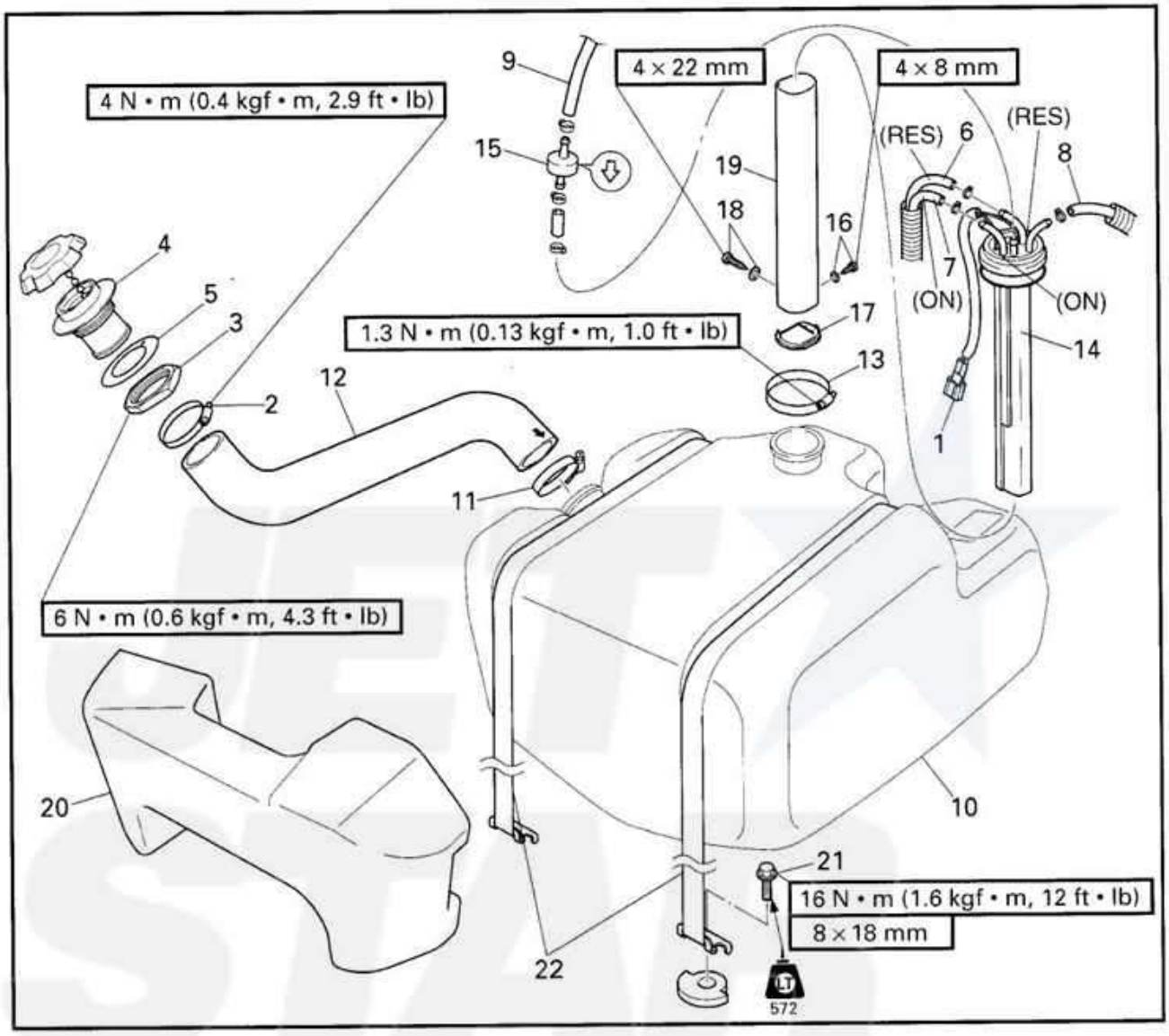


作業手順表

手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	燃料タンクの取外		左欄の「手順」のとおりに取外す。
	オイルタンク		「オイルタンク」の項参照。
1	燃料レベルセンサカプラ	1	
2	ホースクランプ	1	オイルフィラネックからオイルフィラホースを外す。
3	ナット	1	
4	燃料フィラネック	1	
5	ラバーシール	1	
6	燃料リザーブホース	1	

WWW.JET-STAR.JP

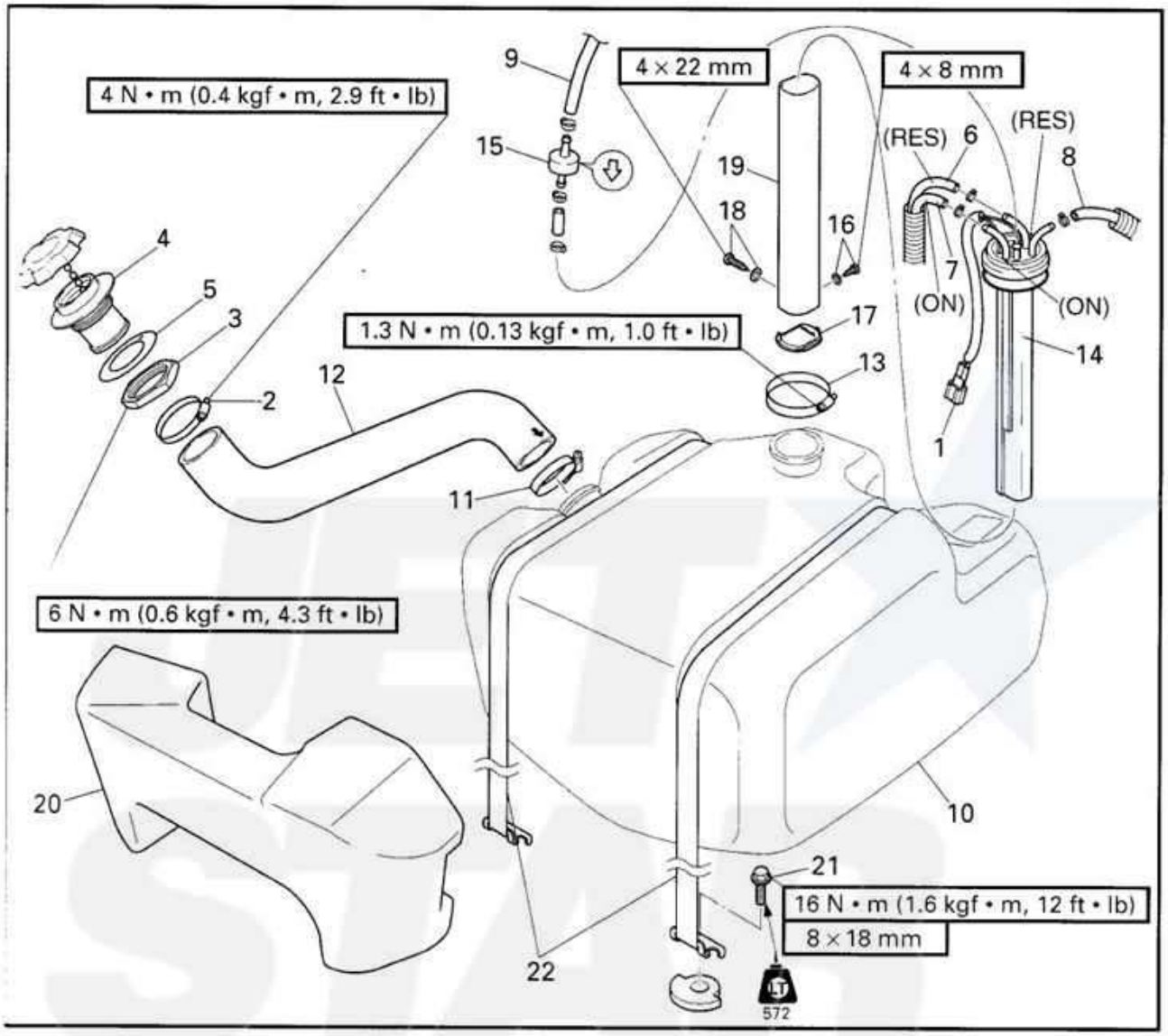
展開図



手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
7	燃料ホース	1	
8	燃料リターンホース	1	
9	燃料タンクブリーザホース	1	
10	燃料タンクアッセンブリ	1	
11	ホースクランプ	1	
12	燃料フィラホース	1	
13	ホースクランプ	1	
14	燃料レベルセンサアッセンブリ	1	

WWW.JET-STAR.JP

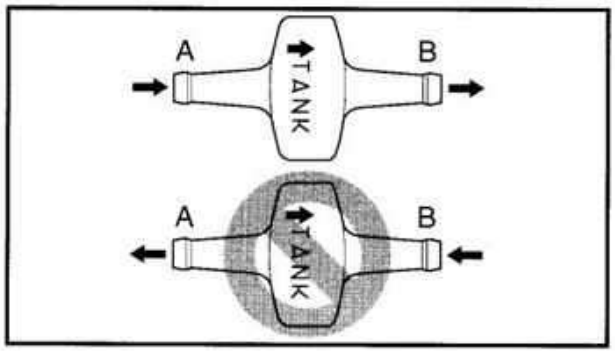
展開図



手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
15	チェックバルブ	1	
16	スクリュ／ワッシャ	1/1	
17	フィルタ	1	
18	スクリュ／ワッシャ	1/1	
19	スリーブ	1	
20	フロート	1	
21	ボルト	2	
22	タンクベルト	2	
			取付けは逆の手順で行う。

WWW.JET-STAR.JP

燃料タンク



サービスポイント

チェックバルブの点検

1. 点検
   - チェックバルブ
     不良→交換

点検手順：

1) チェックバルブの端部“A”にホースを接続し、そこから吹いてみる。
   端部“B”から空気が出てこなければならない。
2) チェックバルブの端部“B”にホースを接続し、そこから吹いてみる。
   端部“A”から空気が出てきてはならない。

燃料レベルセンサの点検

第7章「警告系統」の項参照。

燃料タンクの点検

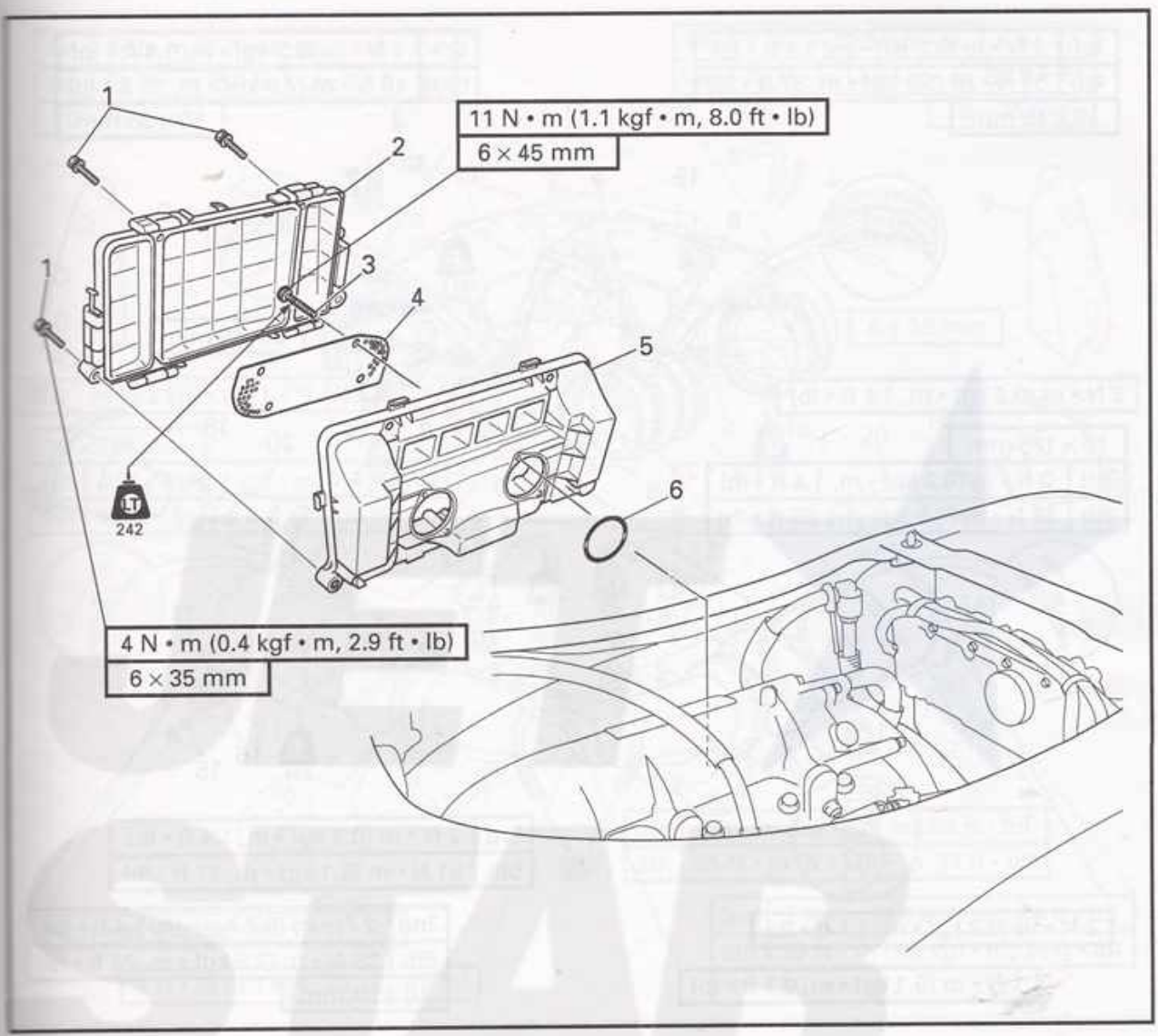
1. 点検
   - 燃料タンク
     亀裂／損傷→交換

パイプジョイントの点検

1. 点検
   - 燃料管
     詰り→清掃
     曲り／損傷→交換

WWW.JET-STAR.JP

インテークサイレンサ
展開図

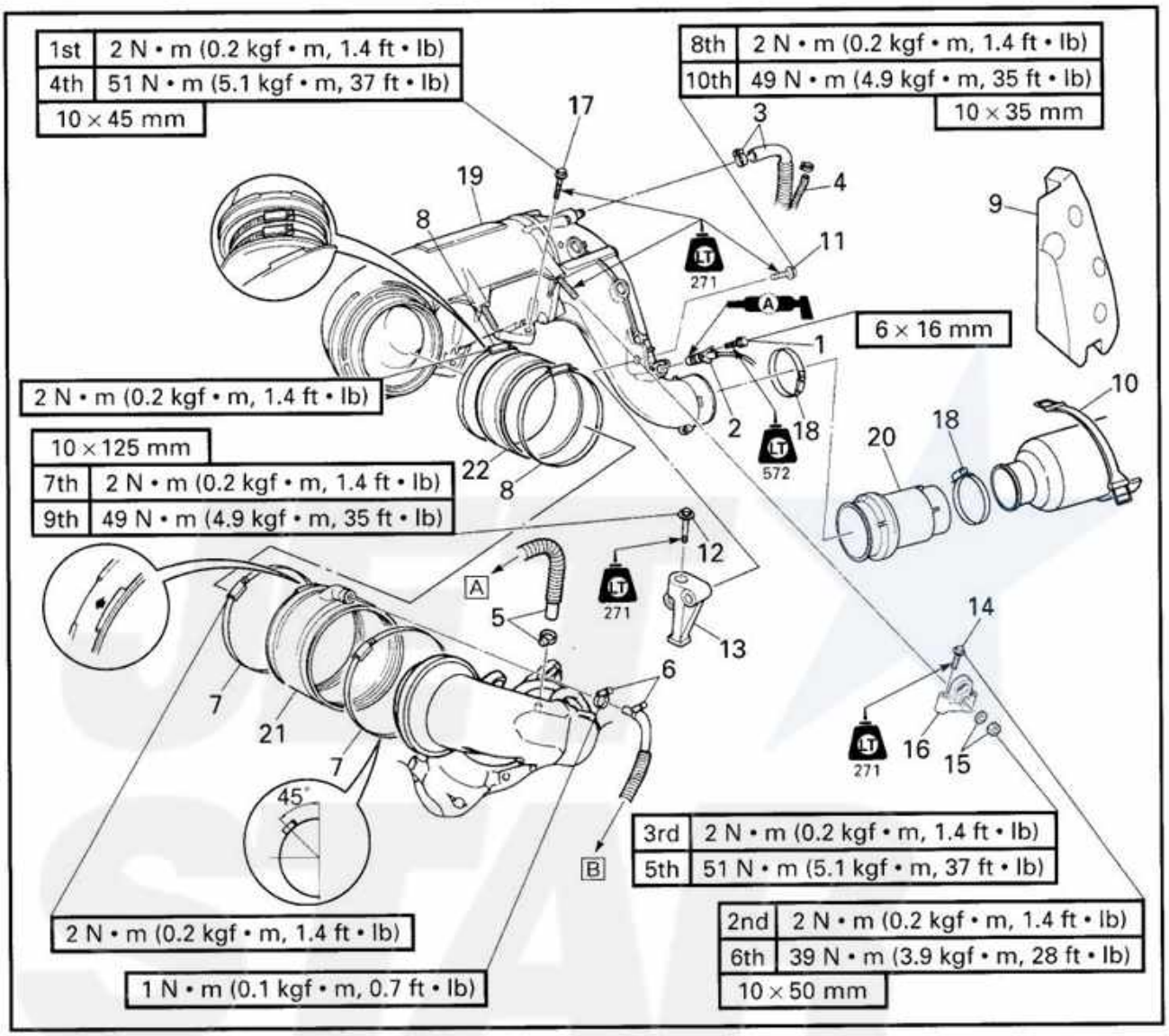


作業手順表

手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	インテークサイレンサの取外		左欄の「手順」のとおりに取外す。
1	ボルト	3	
2	インテークサイレンサカバー	1	
3	ボルト	4	
4	スパークアレスタ	1	
5	インテークサイレンサ	1	
6	O リング	2	
			取付けは逆の手順で行う。

WWW.JET-STAR.JP

キャブレタユニット
展開図



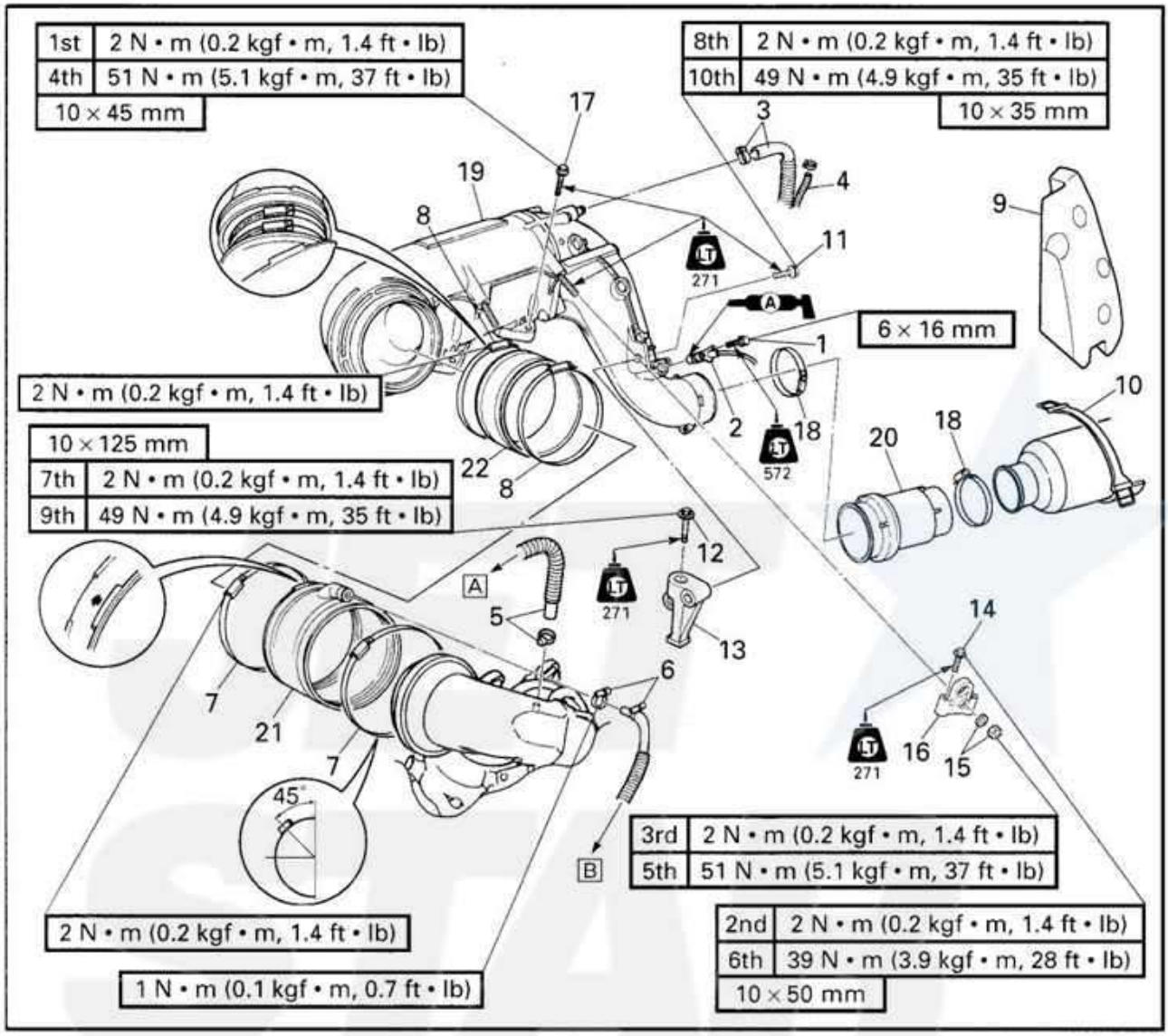
作業手順表

手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	キャブレタの取外		左欄の「手順」のとおりに取外す。
	バッテリボックス		第8章「バッテリボックス」の項参照。
	インテークサイレンサ		「インテークサイレンサ」の項参照。
1	ボルト	2	要 点
2	サーモスイッチ	1	キャブレタを取外す時、すでにエンジンユニットを降ろしてある場合は、エキゾーストチャンバアッセンブリを取外す必要はない。
3	クランプ／ウォータホース	1/1	
4	中間ハウジンググリスホース	1	
5	クランプ／ウォータホース	1/1	A 右舷側のパイロットウォータアウトレットに続く
6	クランプ／ウォータホース	1/1	B 左舷側のパイロットウォータアウトレットに続く

WWW.JET-STAR.JP

キャブレタユニット

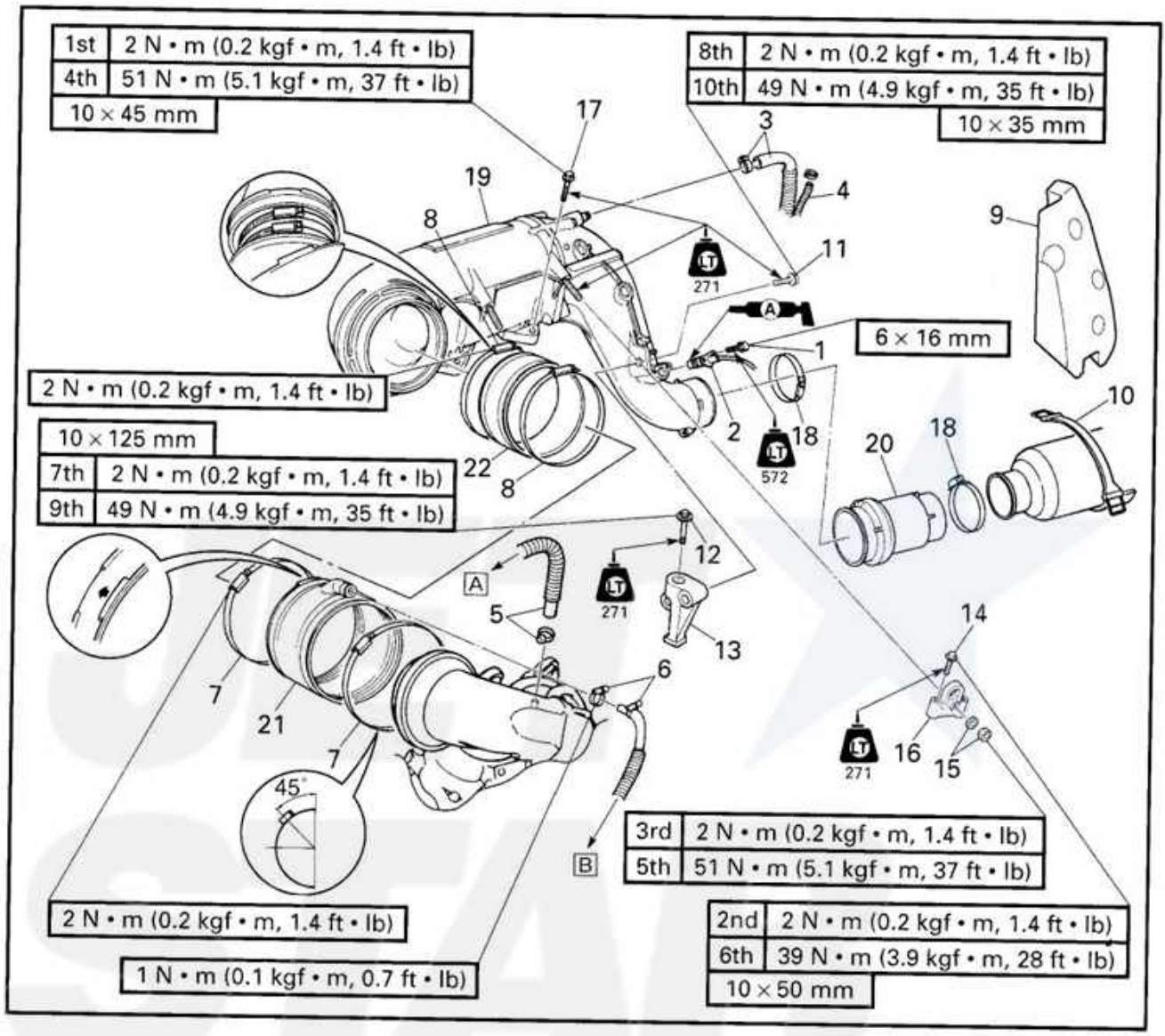
展開図



手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
7	ホースクランプ	2	アウタエキゾーストジョイントをスライドさせる。
8	ホースクランプ	2	
9	フロート	1	
10	ウォータロックバンド	1	
11	ボルト	1	
12	ボルト	1	
13	マフラステー3	1	
14	ボルト	4	
15	ナット／ワッシャ	2/2	

WWW.JET-STAR.JP

展開図

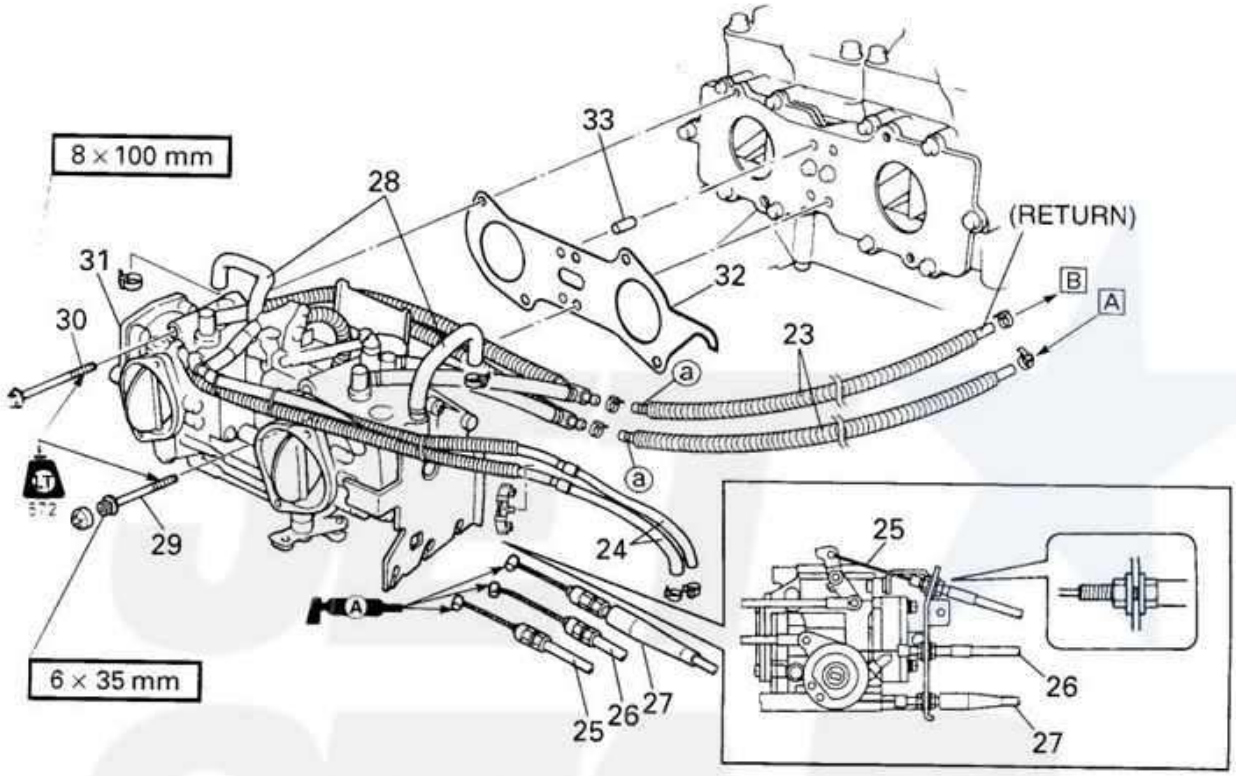


手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
16	マフラステー 1	2	要 点 マフラステー 1 を取外す前に、必ずスパークプラグを取外しておく。
17	ボルト	2	
18	ホースクランプ	2	
19	エキゾーストチャンバアッセンブリ	1	
20	エキゾーストジョイント	1	ウォータロックを船尾側へスライドさせる
21	アウタエキゾーストジョイント	1	
22	インナエキゾーストジョイント	1	

WWW.JET-STAR.JP

キャブレタユニット

展開図

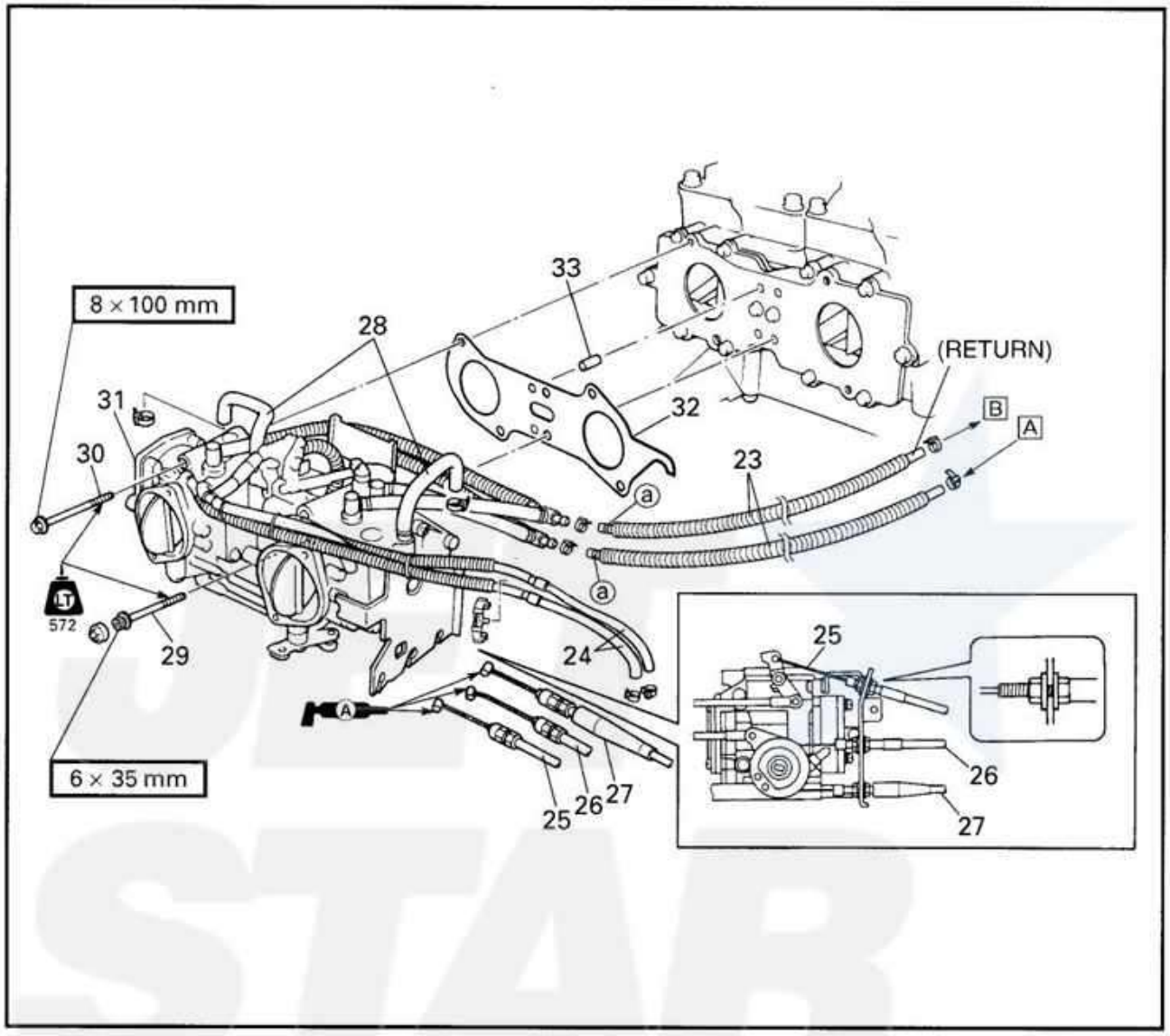


手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
23	燃料ホース	2	A サクション側 B リターン側 **要　点** 燃料ホース端部 ⓐ に白色マークがある。
24	オイルデリバリホース	2	
25	チョークケーブル	1	
26	スロットルケーブル	1	
27	オイルポンプケーブル	1	

WWW.JET-STAR.JP

キャブレタユニット

展開図

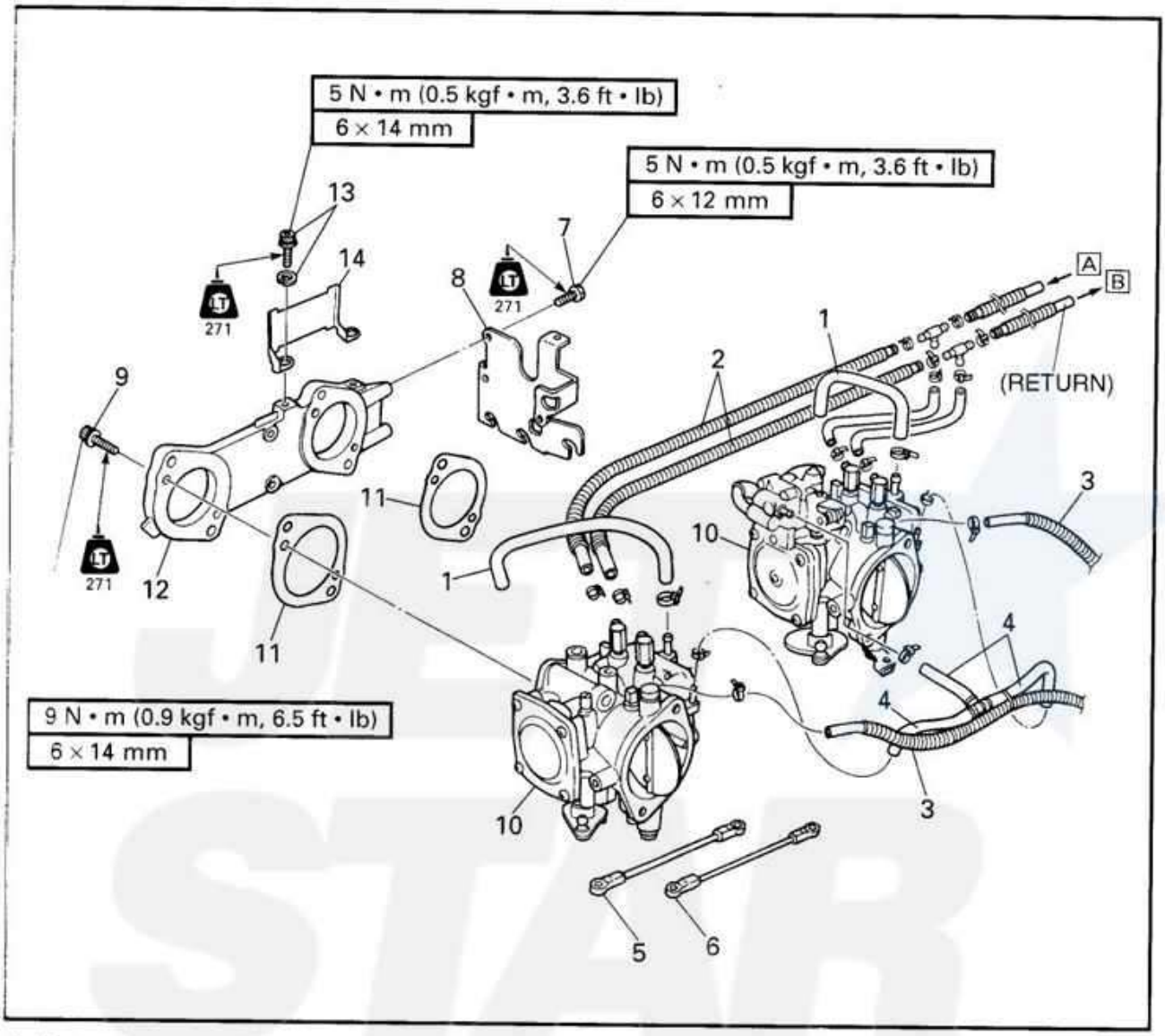


手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
28	燃料ポンプバキュームホース	2	
29	ボルト	2	
30	ボルト	4	
31	キャブレタユニット	1	
32	ガスケット	1	再使用不可
33	ダウエルピン	2	
			取付けは逆の手順で行う。

WWW.JET-STAR.JP

キャブレタユニット

展開図



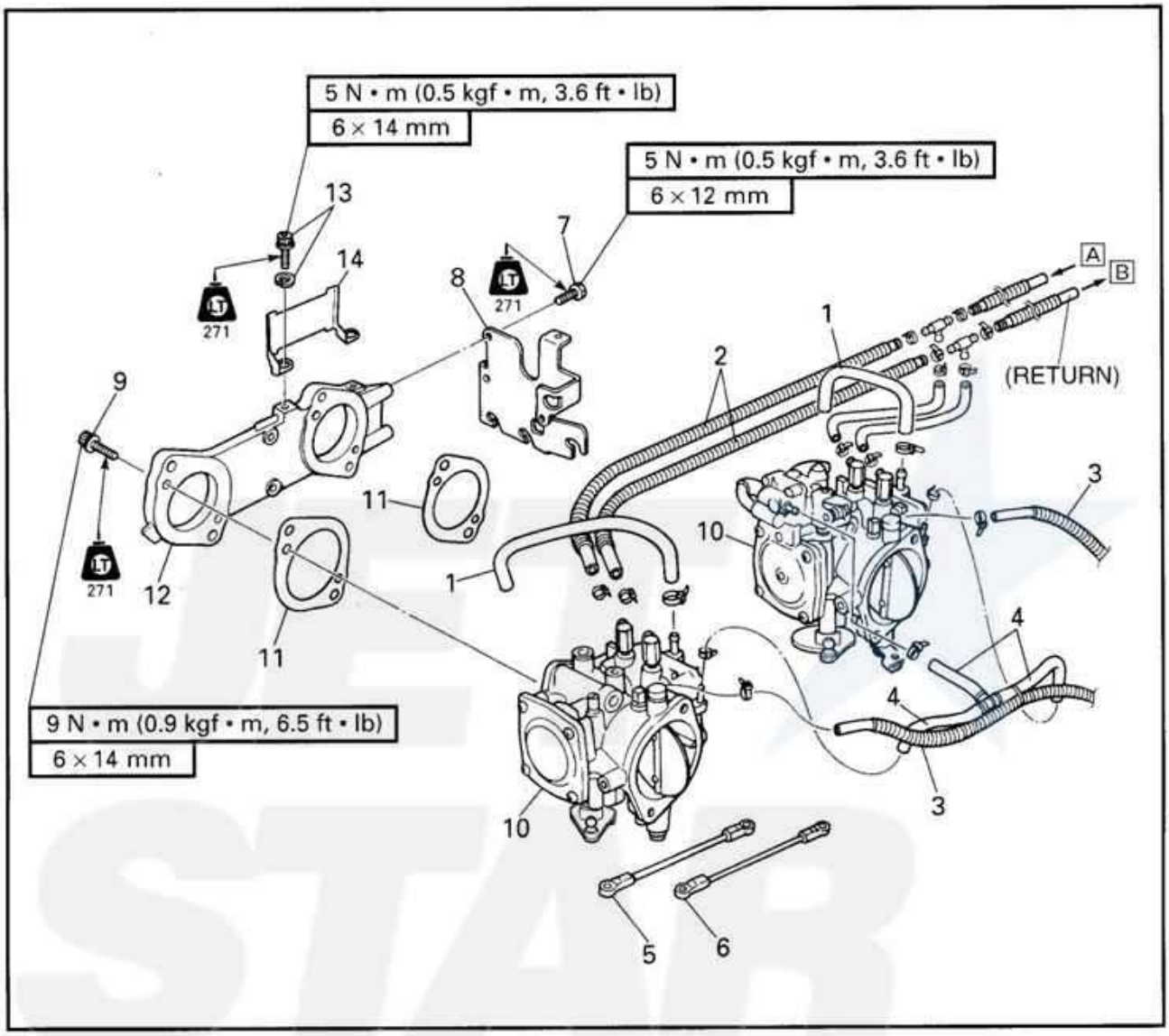
作業手順表

手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	キャブレタユニットの分離		左欄の「手順」のとおりに取外す。
1	燃料ポンプバキュームホース	2	
2	燃料ホース	4	A サクション側 B リターン側
3	オイルデリバリホース	2	
4	加速ポンプ用燃料ホース	3	
5	スロットルリンク	1	
6	チョークリンク	1	

WWW.JET-STAR.JP

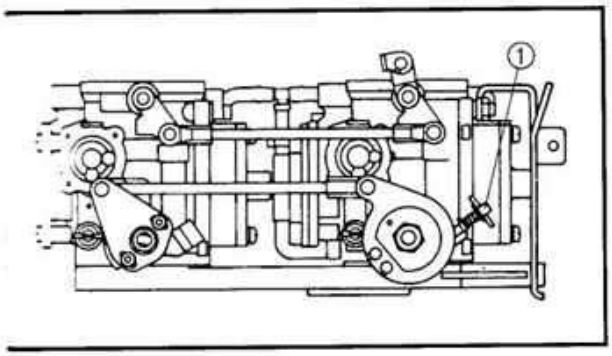
キャブレタユニット

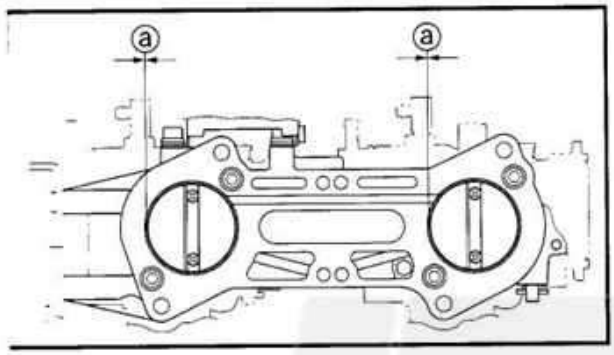
展開図

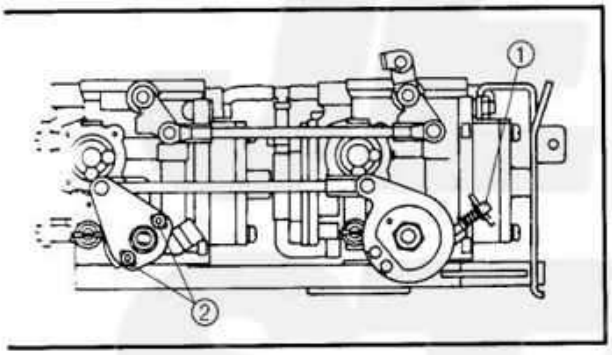


手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
7	ボルト	3	
8	ケーブルブラケット	1	
9	ボルト	4	
10	キャブレタ	2	
11	ガスケット	2	再使用不可
12	キャブレタジョイント	1	
13	ボルト／ワッシャ	2/2	
14	燃料ホースガイド	1	
			取付けは逆の手順で行う。

WWW.JET-STAR.JP







サービスポイント

スロットルバルブ同調の点検と調整

1. 点検

- スロットルバルブの同調
  開度が異なる→調整

点検手順：

1) スロットルストップスクリュ①をゆるめて、スクリュ端部がスロットルレバーと接触していない状態にする。
2) スロットルバルブが全て全閉ⓐになっているか調べる。

2. 調整

- スロットルバルブの同調

調整手順：

1) スロットルストップスクリュ①をゆるめて、スクリュ端部がスロットルレバーと接触していない状態にする。
2) スクリュ ② をゆるめる。

要　点

スロットルバルブが全閉位置にあることを確認する。

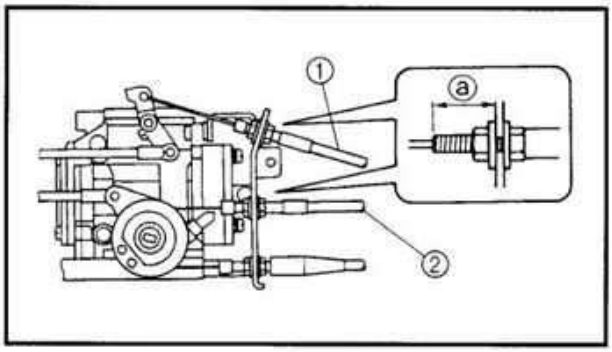
3) スクリュ ② を締付ける。

	スクリュ： 2N・m (0.2kgf・m)

4) スロットルストップスクリュを元の位置までねじ込む。

WWW.JET-STAR.JP

キャブレタユニット



チョークケーブル、スロットルケーブルの取付

1. 取付
   - チョークケーブル ①
   - スロットルケーブル ②

チョークケーブルガイド取付位置
ⓐ:
13 ～ 15mm
スロットルケーブルガイド取付位置
ⓐ:
18 ～ 20mm

2. 調整
   - スロットルレバーの遊び
   - チョークレバーの作動
     第3章「コントロールシステム」の項参照。

オイルポンプケーブルの取付

1. 調整
   - オイルポンプケーブル
     「オイルポンプ」の項参照。

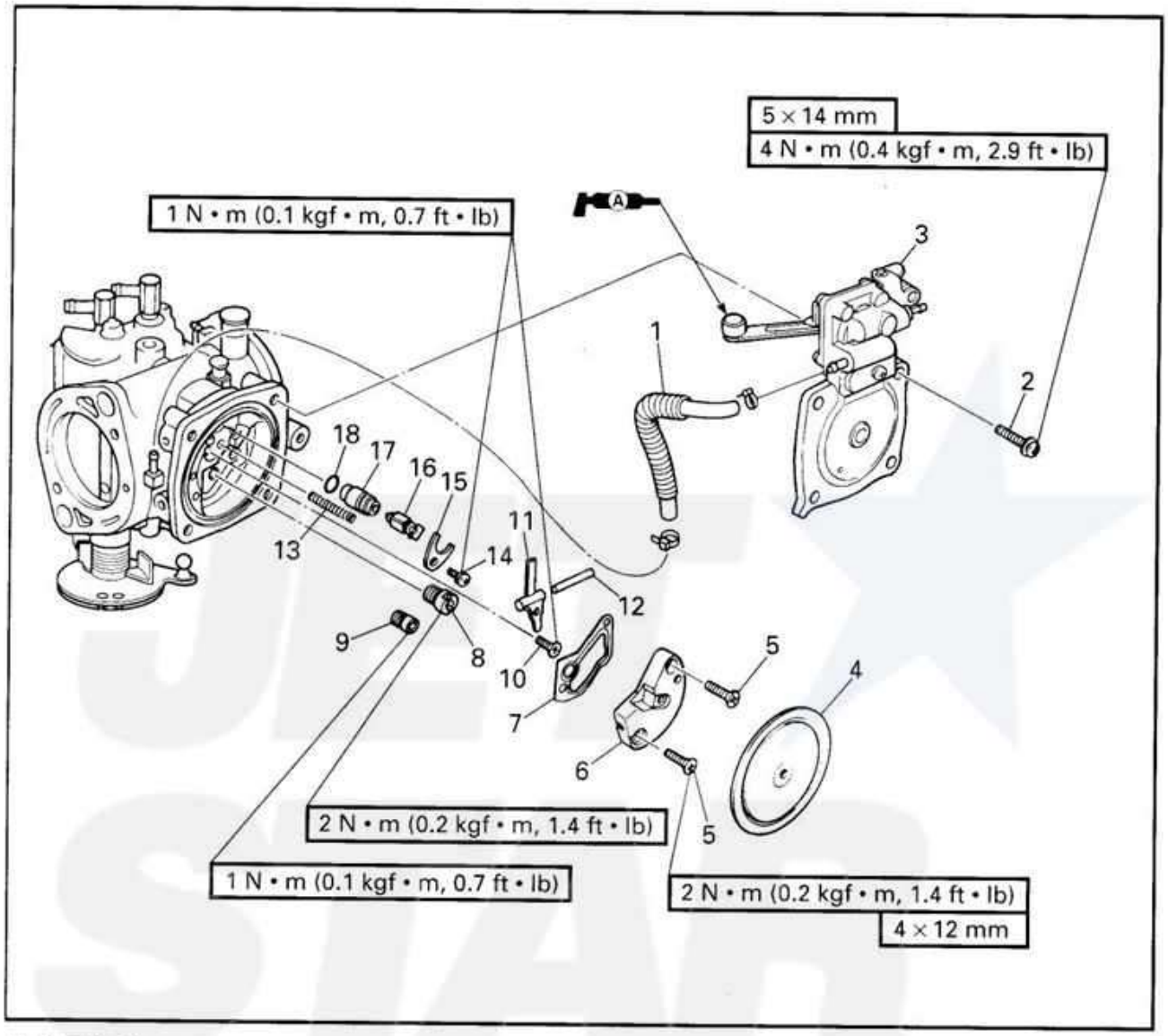
キャブレタアッセンブリ

1. 調整
   - トローリングスピード
     第3章「燃料系統」の項参照。

WWW.JET-STAR.JP

キャブレタ

展開図

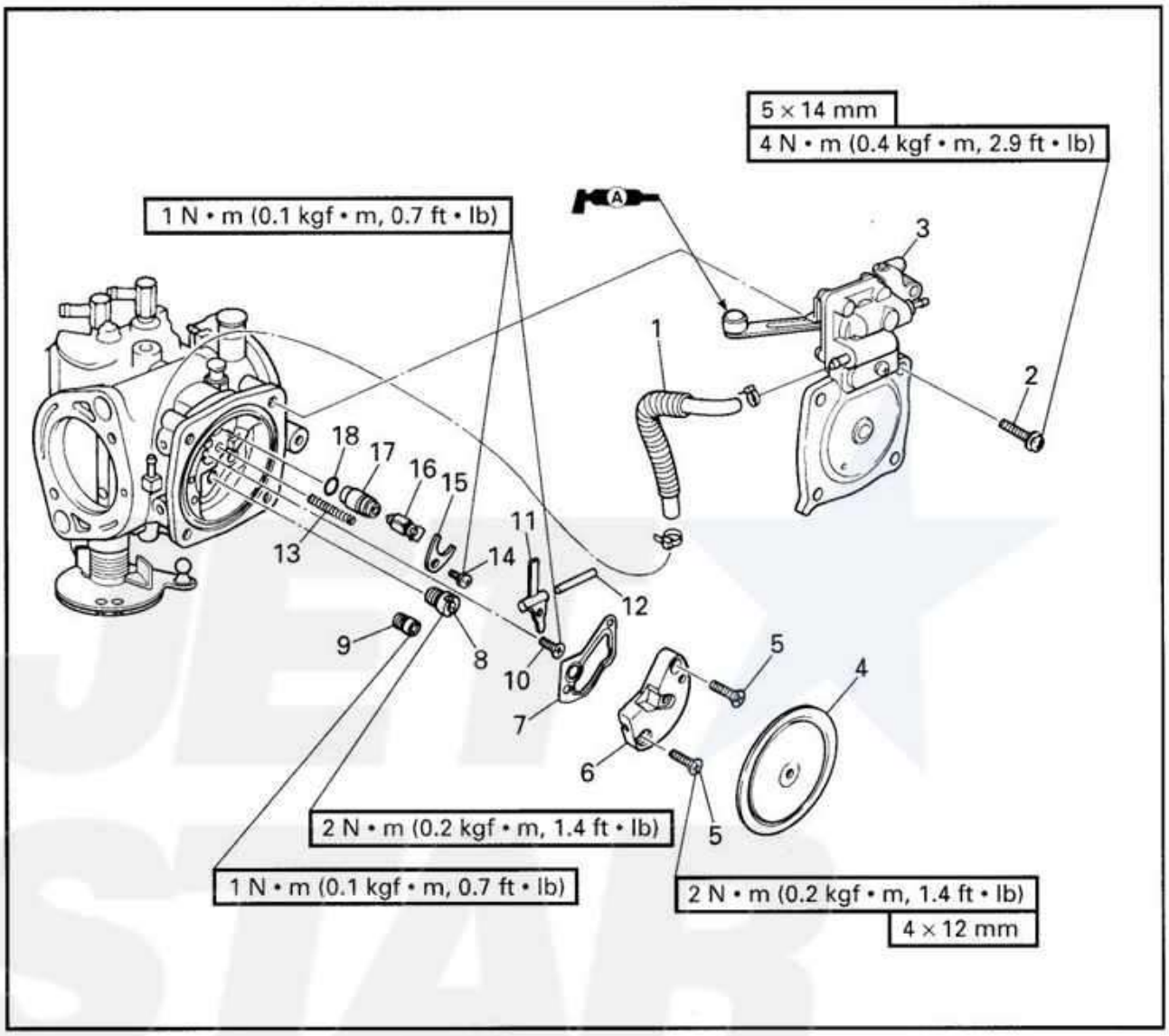


作業手順表

手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	キャブレタの分解		左欄の「手順」のとおりに分解する。
1	加速ポンプ用燃料ホース	1	キャブレタ #1
2	スクリュ	4	
3	加速ポンプ／キャブレタカバー	1/1	キャブレタ #1 ／キャブレタ #2
4	ダイヤフラム	1	
5	スクリュ	2	
6	レギュレタボディ	1	
7	ガスケット	1	
8	メインジェット	1	
9	パイロットジェット	1	
10	スクリュ	1	

WWW.JET-STAR.JP

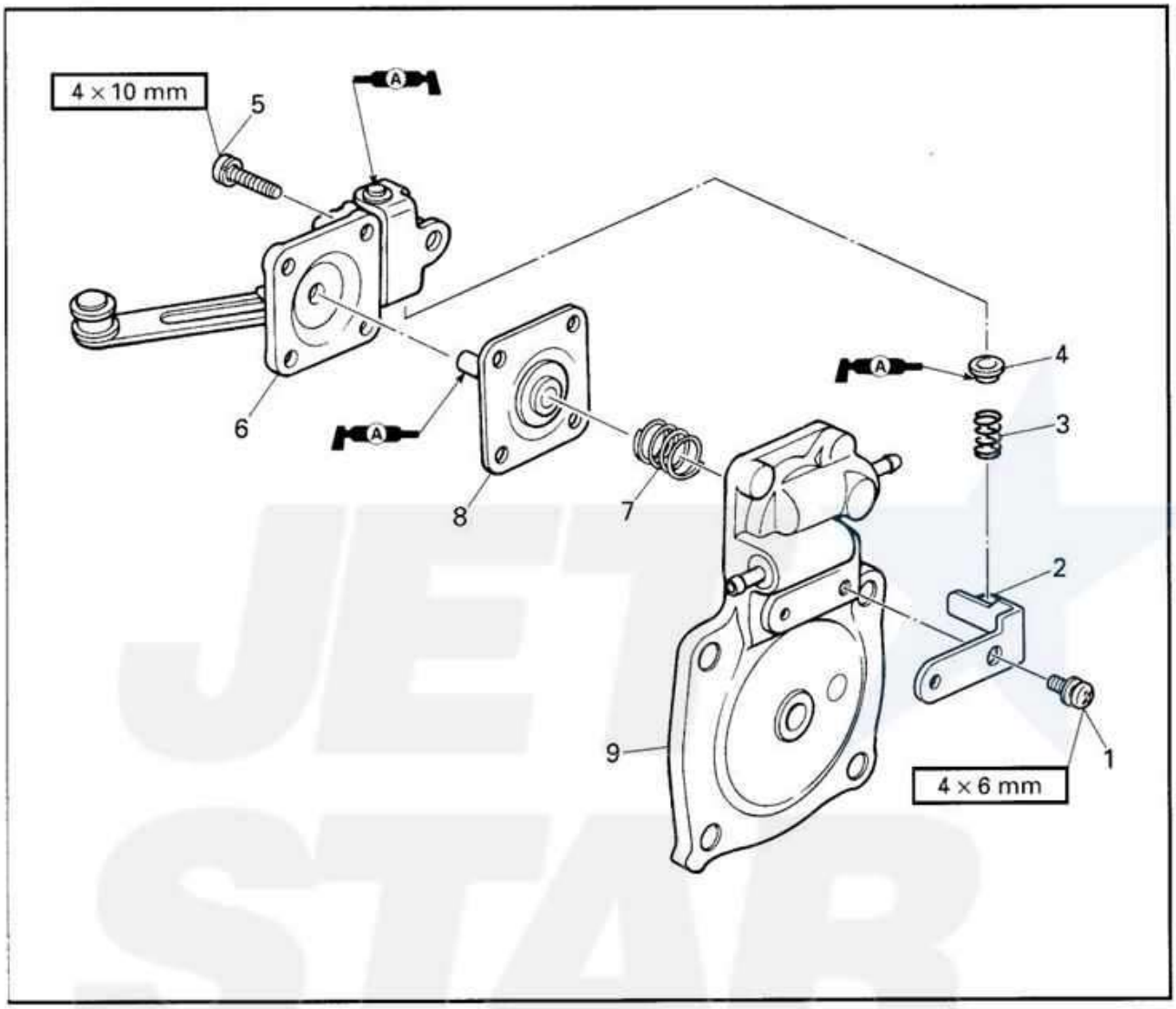
展開図



手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
11	アーム	1	
12	アームピン	1	
13	スプリング	1	
14	スクリュ	1	
15	ニードルバルブシートホルダ	1	
16	ニードルバルブ	1	
17	ニードルバルブシート	1	
18	O リング	1	
19	高速パイロットスクリュ	1	
20	低速パイロットスクリュ	1	
			組立は逆の手順で行う。

WWW.JET-STAR.JP

展開図



作業手順表

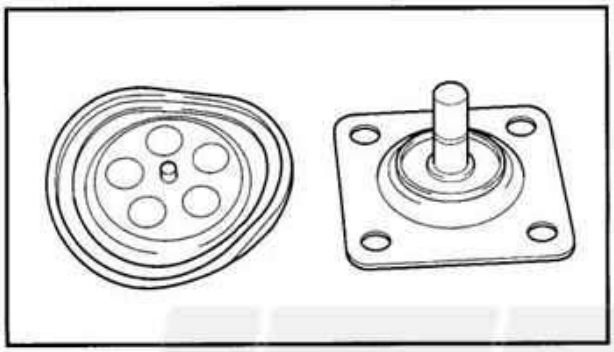
手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	加速ポンプの分解		左欄の「手順」のとおりに分解する。
1	スクリュ	1	
2	ステー	1	
3	スプリング	1	
4	スプリングシート	1	
5	スクリュ	4	
6	加速ポンプカバー	1	
7	スプリング	1	
8	ダイヤフラム	1	
9	加速ポンプボディ	1	
			組立は逆の手順で行う。

WWW.JET-STAR.JP

サービスポイント

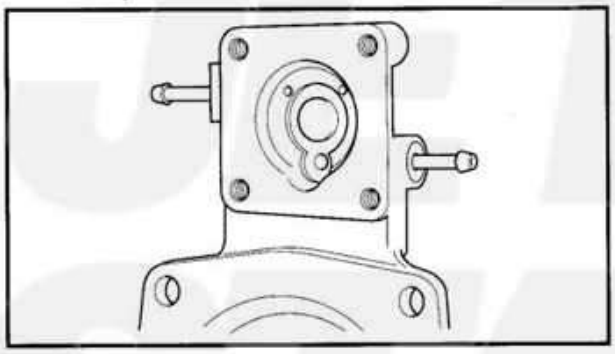
⚠注 意

ジェット類通路の清掃には、針金などを使用しないこと。ジェット類の通路が拡大し、性能に重大な影響を及ぼす。



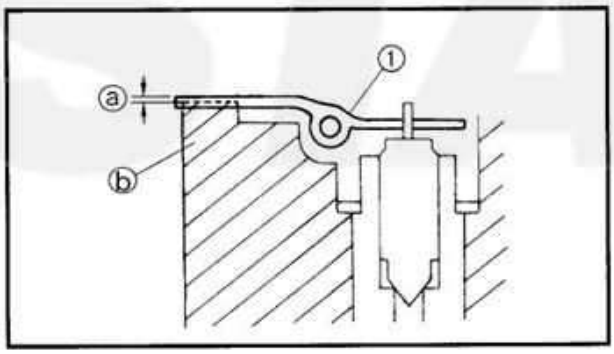
ダイヤフラムの点検

1. 点検
   - ダイヤフラム
     損傷→交換



加速ポンプボディの点検

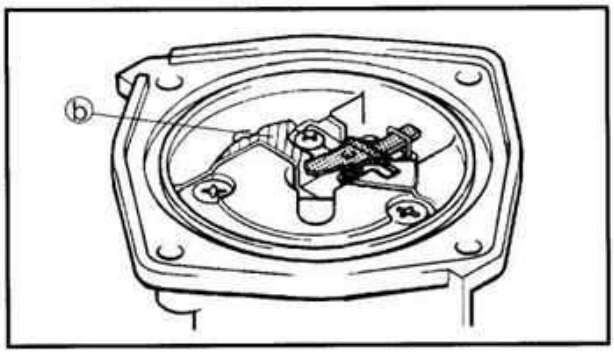
1. 点検
   - チェックバルブ
     亀裂／損傷→加速ポンプボディの交換
   - 燃料通路
     詰り→清掃または交換



アームの点検

1. 点検
   - アーム①
     曲り／損傷→修理または交換
2. 測定
   - アーム高さⓐ

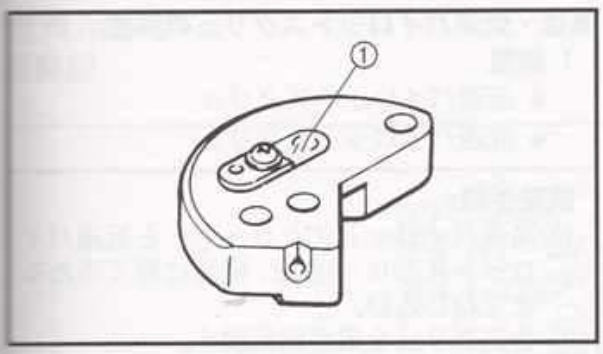
	アーム高さ： 0 ～ 0.2mm



要 点

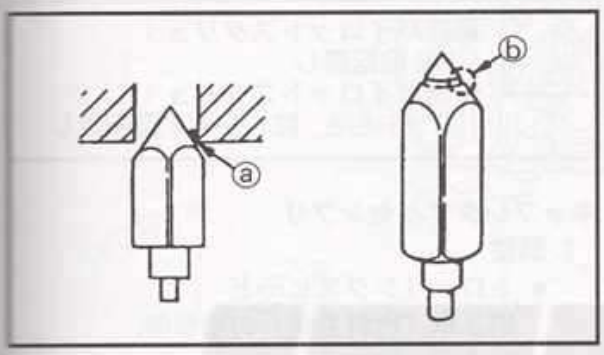
- キャブレタボディの合面 ⓑ からアームの上平面までの距離を測定する。
- アームはニードルバルブを押さえることなく接触している状態にしなければならない。

WWW.JET-STAR.JP



レギュレタボディの点検

1. 点検
   - レギュレタボディ
     詰り→清掃
     損傷→交換
   - バルブ（クリアフィルム）①
     損傷→交換



ニードルバルブの点検

1. 点検
   - ニードルバルブ
   - ニードルバルブシート
     詰り ⓐ →清掃
     摩耗 ⓑ →交換

要　点

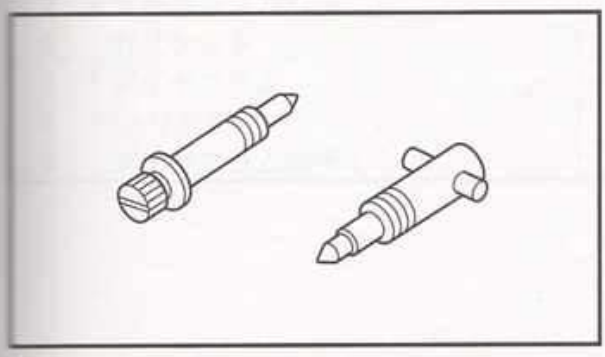
ニードルバルブとニードルバルブシートは、常にセットで交換する。

ジェット類とキャブレタボディの点検

1. 点検
   - メインジェット
   - パイロットジェット
   - キャブレタボディ
     詰り／汚れ→清掃
     損傷／摩耗→交換

⚠注　意

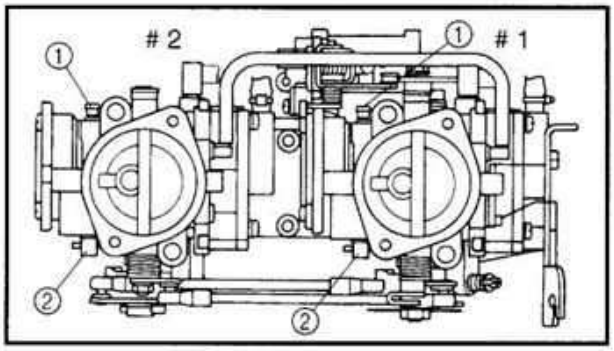
ジェット類通路の清掃には、針金などを使用しないこと。ジェット類の通路が拡大し、性能に重大な影響を及ぼす。



高速・低速パイロットスクリュの点検

1. 点検
   - 高速パイロットスクリュ
   - 低速パイロットスクリュ
     曲り／損傷／摩耗→交換

WWW.JET-STAR.JP



高速・低速パイロットスクリュの調整

1. 調整
   - 高速パイロットスクリュ
   - 低速パイロットスクリュ

調整手順：

1) 高速パイロットスクリュ ① と低速パイロットスクリュ ② を、座面に軽く当たるまでねじ込む。
2) 各スクリュを規定回転戻す。

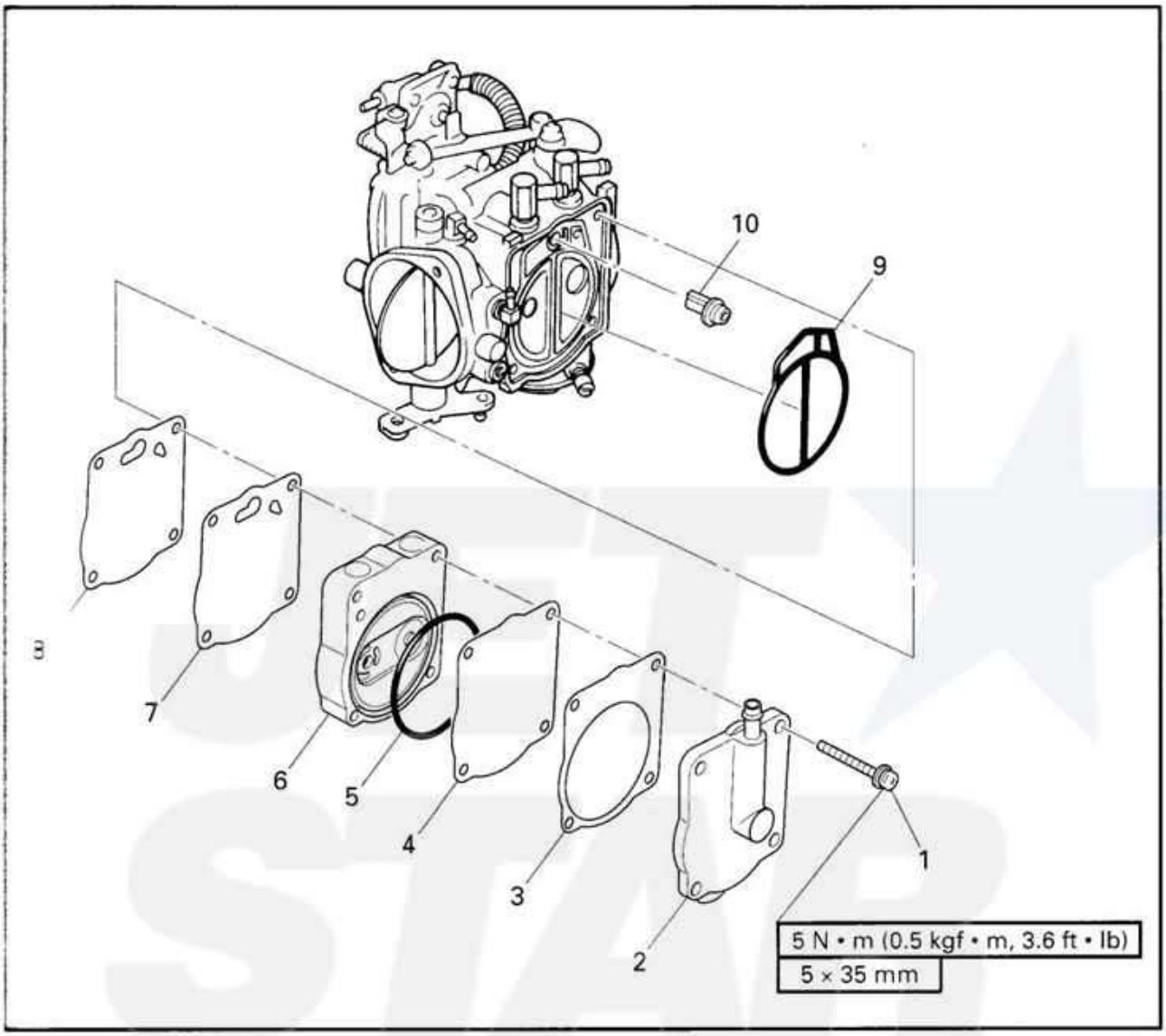
高速パイロットスクリュ：
1/2 回転戻し
低速パイロットスクリュ：
#1：1-5/8，#2：1-3/4 回転戻し

キャブレタアッセンブリ

1. 調整
   - トローリングスピード
     第3章「燃料系統」の項参照。

WWW.JET-STAR.JP

燃料ポンプ
展開図

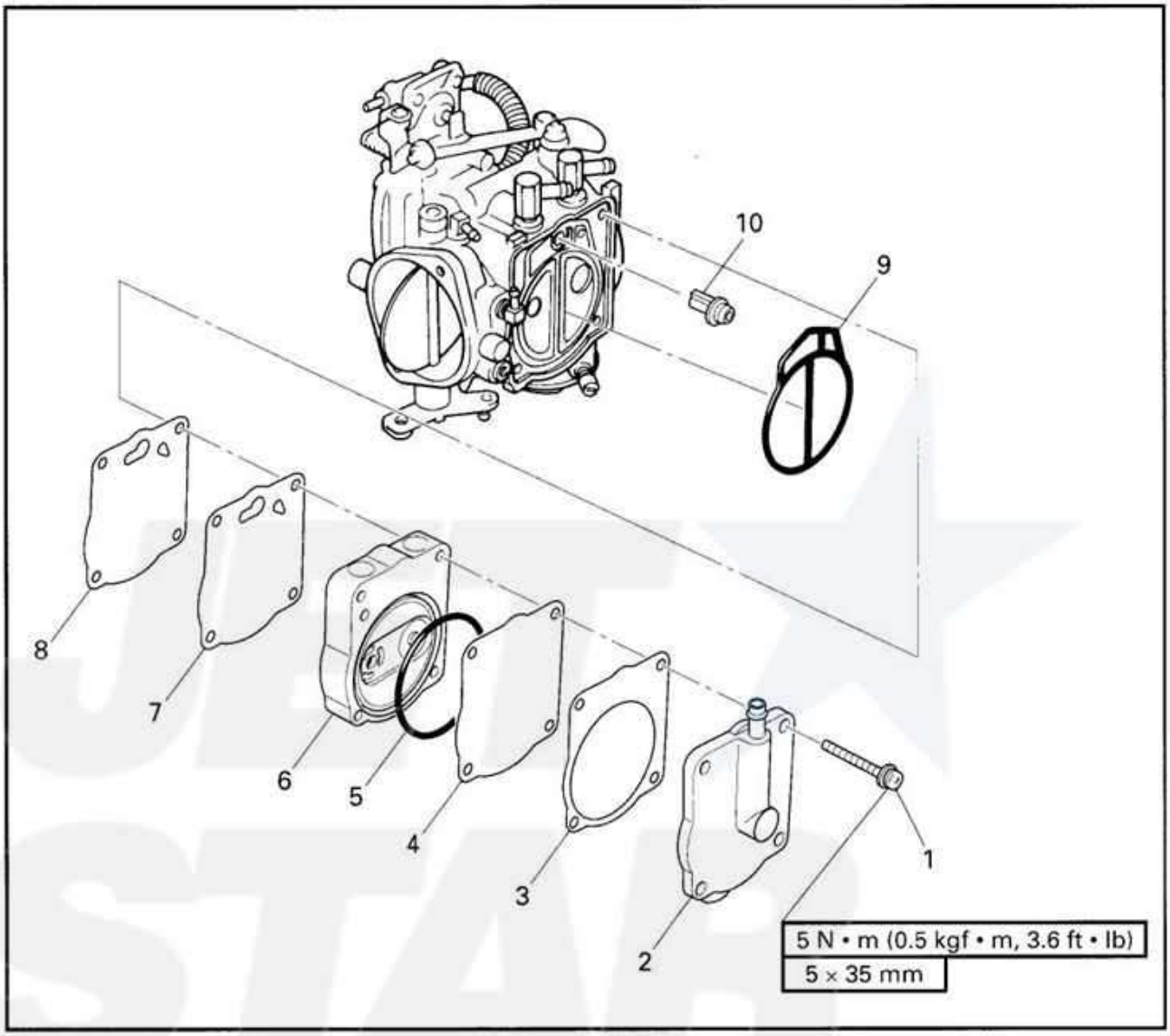


作業手順表

手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	燃料ポンプの分解		左欄の「手順」のとおりに分解する。
	キャブレタ		「キャブレタユニット」の項参照。
1	スクリュ	4	
2	燃料ポンプカバー	1	
3	ガスケット	1	再使用不可
4	ダイヤフラム	1	
5	O リング	1	
6	ダイヤフラムボディ	1	

WWW.JET-STAR.JP

展開図



手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
7	ラバーダイヤフラム	1	
8	ダイヤフラム	1	
9	パッキン	1	
10	燃料フィルタ	1	
			組立は逆の手順で行う。

WWW.JET-STAR.JP

燃料ポンプ

サービスポイント

燃料ポンプの点検

1. 点検
   - ダイヤフラム
   - ラバーダイヤフラム
   - ダイヤフラムボディ

   損傷→交換

燃料フィルタの点検

1. 点検
   - 燃料フィルタ

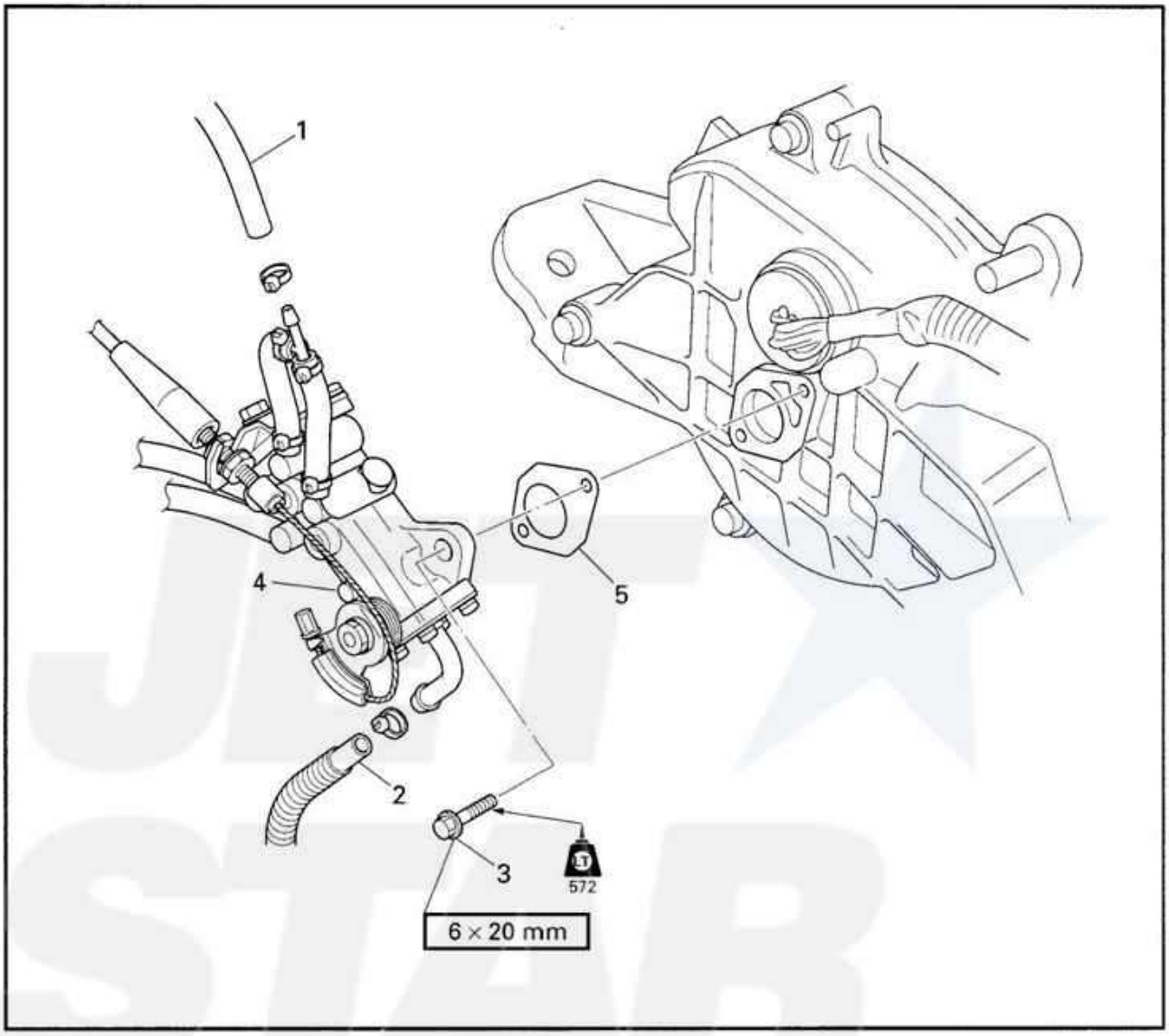
   詰り／汚れ→清掃
   損傷→交換

JET STAR

WWW.JET-STAR.JP

オイルポンプ

展開図



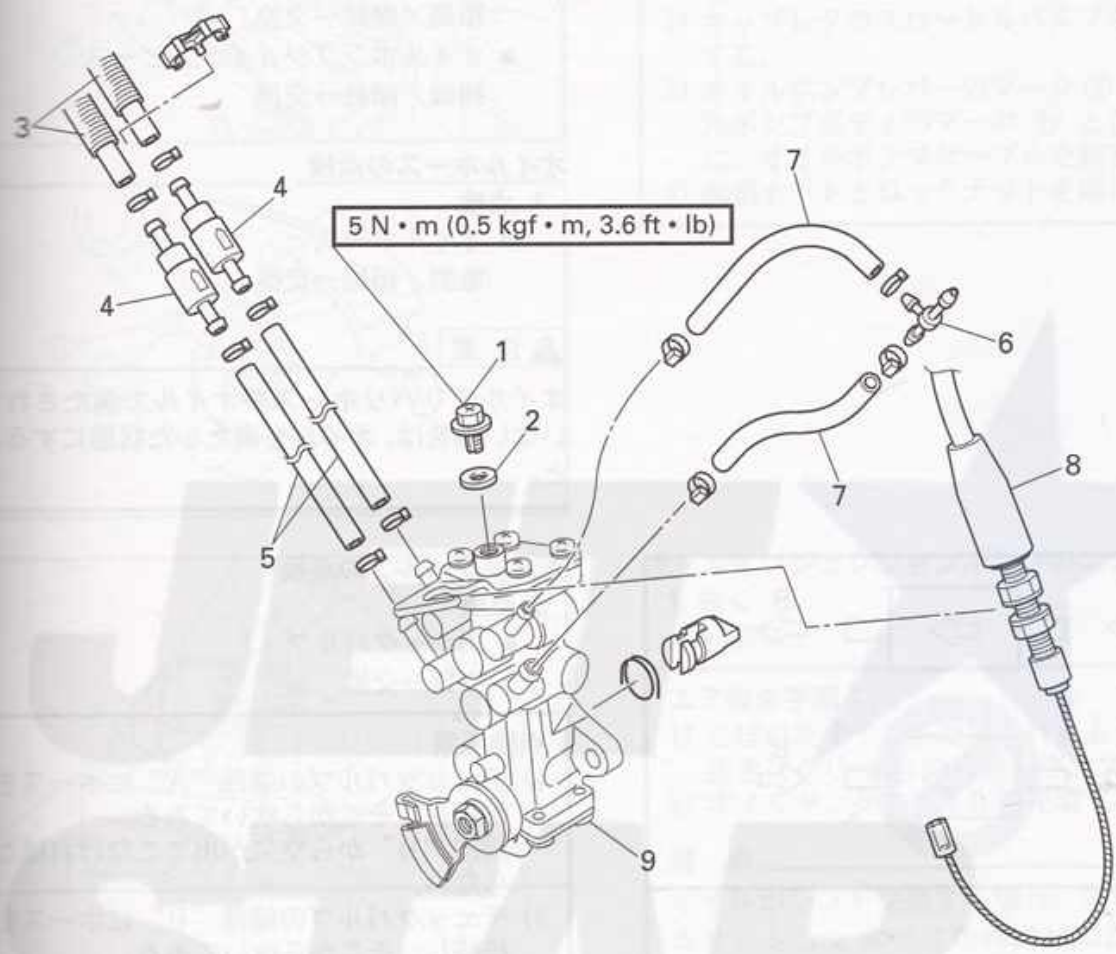
作業手順表

手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	オイルポンプの取外		左欄の「手順」のとおりに取外す。
	エキゾーストチャンバアッセンブリ		「キャブレタユニット」の項参照。
	オイルポンプケーブルとオイルデリバリホース		「キャブレタユニット」の項参照。
1	オイルリターンホース	1	**要 点**
2	オイルホース	1	オイルポンプを取外す時、エンジンユニットをすでに降ろしてある場合は、エキゾーストチャンバアッセンブリを取外す必要はない。
3	ボルト	2	
4	オイルポンプアッセンブリ	1	
5	ガスケット	1	**再使用不可**
			取付けは逆の手順で行う。

WWW.JET-STAR.JP

オイルポンプ

展開図



作業手順表

手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	オイルポンプホースとケーブルの取外		左欄の「手順」のとおりに取外す。
1	エア抜きスクリュ	1	
2	ガスケット	1	
3	オイルデリバリホース1	2	
4	チェックバルブ	2	
5	オイルデリバリホース2	2	
6	ホースジョイント	1	
7	オイルリターンホース	2	
8	オイルポンプケーブル	1	
9	オイルポンプ	1	
			取付けは逆の手順で行う。

WWW.JET-STAR.JP

サービスポイント

オイルポンプの点検

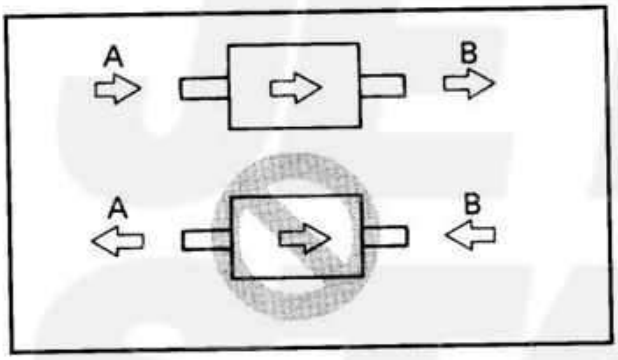
1. 点検
   - オイルポンプ
     詰り→清掃
     損傷／摩耗→交換
   - オイルポンプジョイントピース
     損傷／摩耗→交換

オイルホースの点検

1. 点検
   - オイルホース
     亀裂／損傷→交換

⚠注 意

オイルデリバリホースがオイルで満たされていない場合は、オイルを満たした状態にすること。

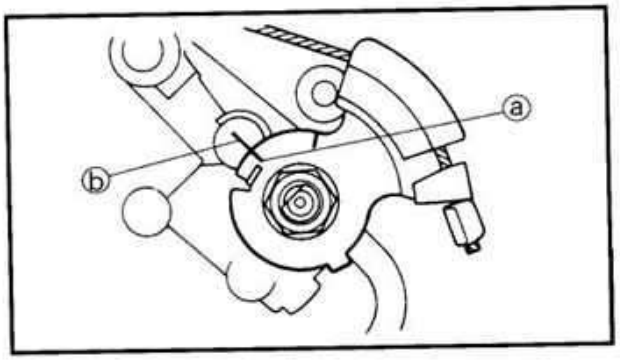


チェックバルブの点検

1. 点検
   - チェックバルブ
     不良→交換

点検手順：

1) チェックバルブの端部“A”にホースを接続し、そこから吹いてみる。
   端部“B”から空気が出てこなければならない。
2) チェックバルブの端部“B”にホースを接続し、そこから吹いてみる。
   端部“A”から空気が出てきてはならない。



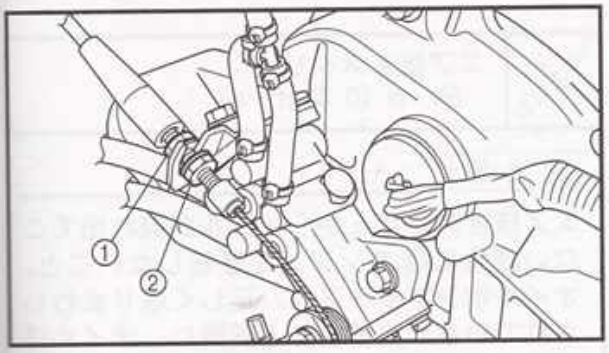
オイルポンプケーブルの調整

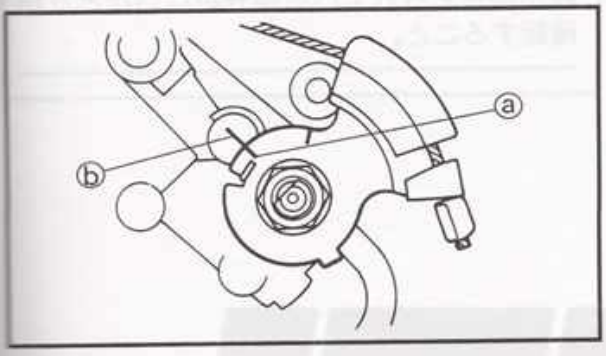
1. 点検
   - オイルポンプレバーの位置
     不適切な位置→調整

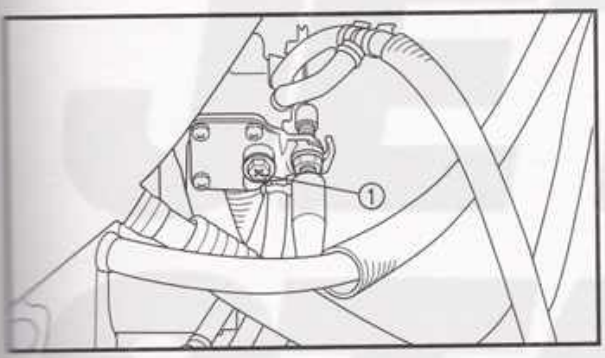
点検手順：

1) キャブレタのスロットルバルブを全閉にする。
2) オイルポンプレバーのマークⓐがオイルポンプボディのマークⓑと合っているか調べる。

WWW.JET-STAR.JP







2. 調整

- オイルポンプケーブル

調整手順：

1) ロックナット ① とアジャストナット ② をゆるめる。
2) キャブレタのスロットルバルブを全閉にする。
3) オイルポンプレバーのマーク ⓐ が、オイルポンプボディのマーク ⓑ と合うように、オイルポンプケーブルを調整する。
4) 調整ナットとロックナットを締付ける。

オイルインジェクションポンプのエア抜き

1. 抜く

- 空気

エア抜き手順：

1) こぼれたオイルを受けられるよう、エア抜きスクリュ ① の周囲にウエスを置く。
2) オイルタンクにオイルを充填する。

要　点

オイルポンプを交換する場合、またはオイルサクションホースを再組付した場合には、オイルサクションホースを、オイルポンプから取外してエア抜きを行う。
エア抜き後、ロックバンドを用いてホースを再接続する。

推奨エンジンオイル：
YAMALUBE（ヤマルーブ）2-W または、ヤマハ船外機スーパースペシャルオイル

3) エア抜きスクリュ ① を 2 回転分ゆるめ、オイルと気泡の両方が流れ出ることを確認する。
4) タンクから気泡が全く流れ出ない状態になった時点でエア抜きスクリュを締込む。
5) こぼれたオイルを完全に拭き取る。

WWW.JET-STAR.JP

	エア抜きスクリュ： 5N・m (0.5kgf・m)

⚠注 意

エア抜きスクリュからオイルが流れ出てこない場合にはエンジンを運転しないこと。オイルポンプホースが、正しく取りまわしされているか点検すると同時に、オイル経路が押さえられている部分がないかどうか確認すること。

WWW.JET-STAR.JP

JET
STAR

第5章
パワーユニット

エンジンユニット 5-1
展開図 5-1
作業手順表 5-1
サービスポイント 5-5
シムの取外 5-5
エンジンマウントの点検 5-5
カプリングクリアランスの点検 5-5

エキゾーストチャンバアッセンブリ 5-6
展開図 5-6
作業手順表 5-6

エキゾーストチャンバジョイント 5-10
展開図 5-10
作業手順表 5-10

エキゾーストマニホールド 5-12
展開図 5-12
作業手順表 5-12

リードバルブ 5-13
展開図 5-13
作業手順表 5-13
サービスポイント 5-14
リードバルブの点検 5-14

YPVS 5-15
展開図 5-15
作業手順表 5-15
サービスポイント 5-17
YPVS バルブの点検 5-17
YPVS バルブの取付 5-17

シリンダヘッド 5-18
展開図 5-18
作業手順表 5-18
サービスポイント 5-19
シリンダヘッドの点検 5-19

シリンダ 5-20
展開図 5-20
作業手順表 5-20
サービスポイント 5-21
シリンダの点検 5-21

ピストン 5-22
展開図 5-22
作業手順表 5-22
サービスポイント 5-24
ピストンピンクリップの取外と取付 5-24
ピストンの点検 5-24
シリンダとピストンの組合せ 5-25
ピストンリングの点検 5-25
ピストンピンとベアリングの点検 5-26

スタータモータ 5-28
展開図 5-28
作業手順表 5-28

フライホイルマグネト 5-29
展開図 5-29
作業手順表 5-29
サービスポイント 5-34
ドライブカプリングの取外と取付 5-34
フライホイルマグネトの取外と取付 5-34
ドライブカプリングの点検 5-35
フライホイルマグネトの点検 5-35
スタータクラッチアッセンブリの点検 5-35

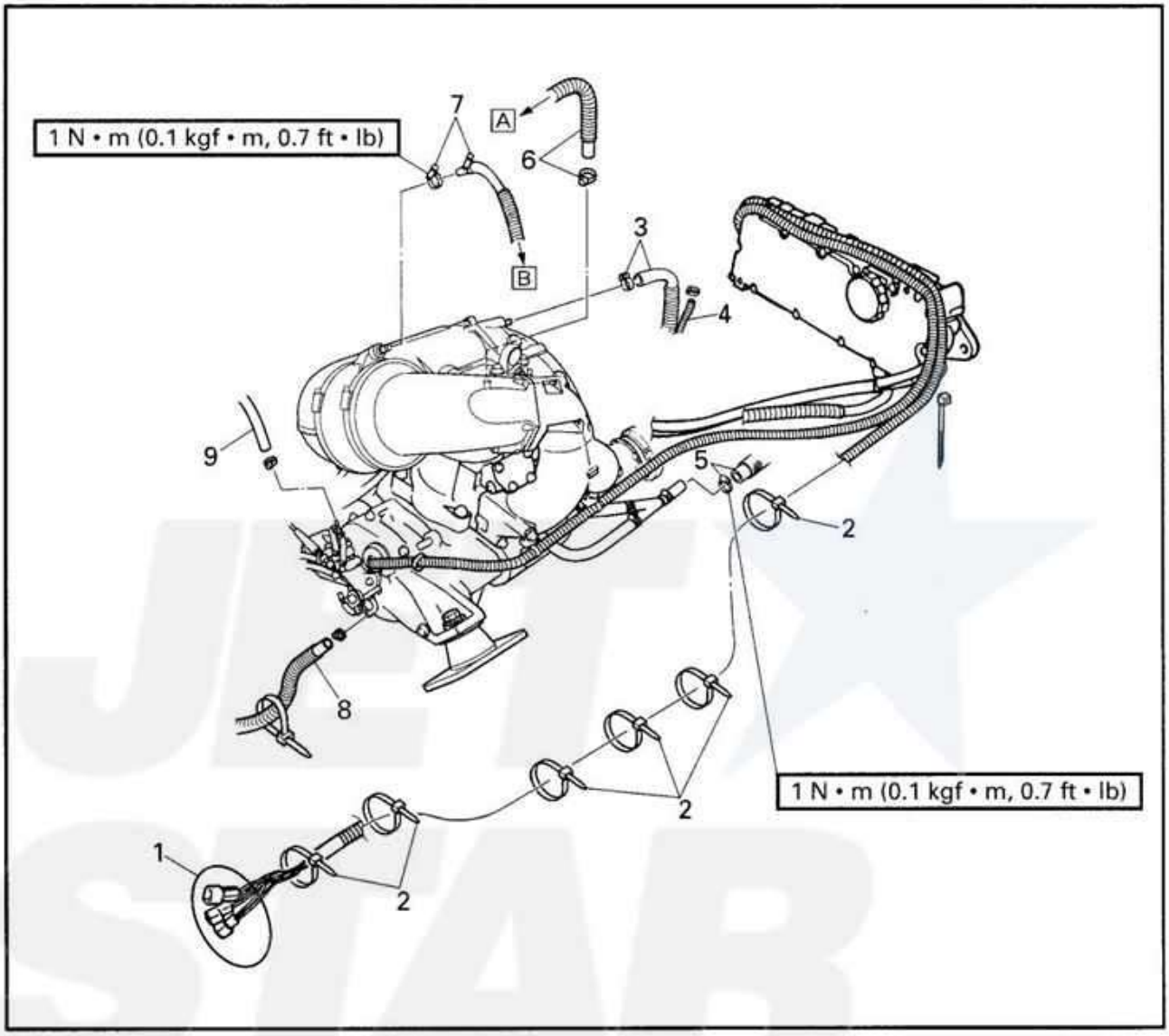
クランクケース 5-36
展開図 5-36
作業手順表 5-36
サービスポイント 5-38
クランクケースの点検 5-38
クランクケースの取付 5-38

クランクシャフト 5-39
展開図 5-39
作業手順表 5-39
サービスポイント 5-40
クランクシャフトの点検 5-40

WWW.JET-STAR.JP

エンジンユニット

展開図



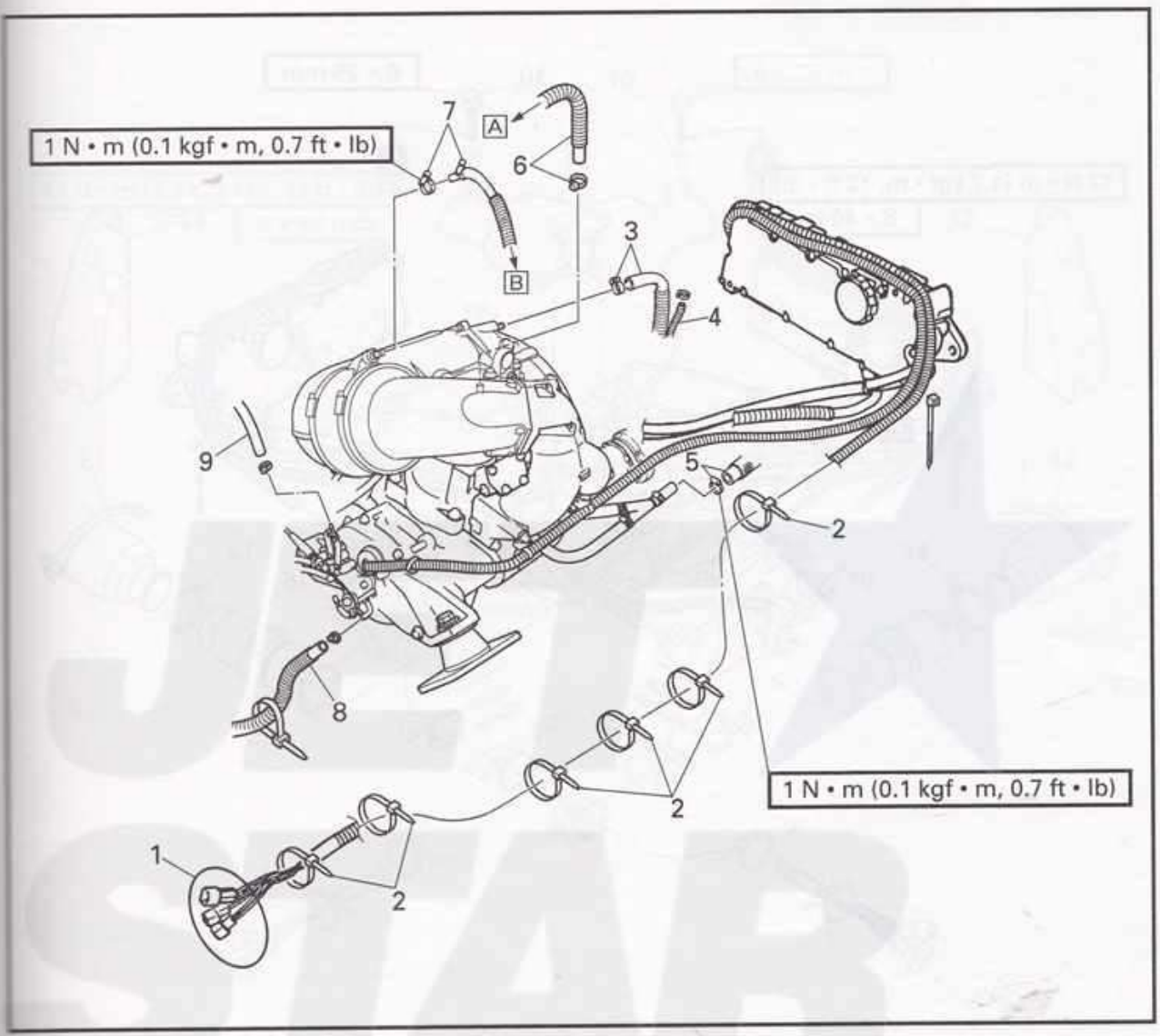
作業手順表

手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	エンジンユニットの取外		左欄の「手順」のとおりに取外す。
	バッテリボックス		第８章「バッテリボックス」の項参照。
	YPVS ケーブルと YPVS サーボモータ		第７章「YPVS サーボモータ」の項参照。
	インテークサイレンサ		第４章「インテークサイレンサ」の項参照。
	チョークケーブル、スロットルケーブル、および燃料ホース		第４章「キャブレタユニット」の項参照。
1	カプラ	3	
2	バンド	6	
3	クランプ／ウォータホース	1	

WWW.JET-STAR.JP

エンジンユニット

展開図

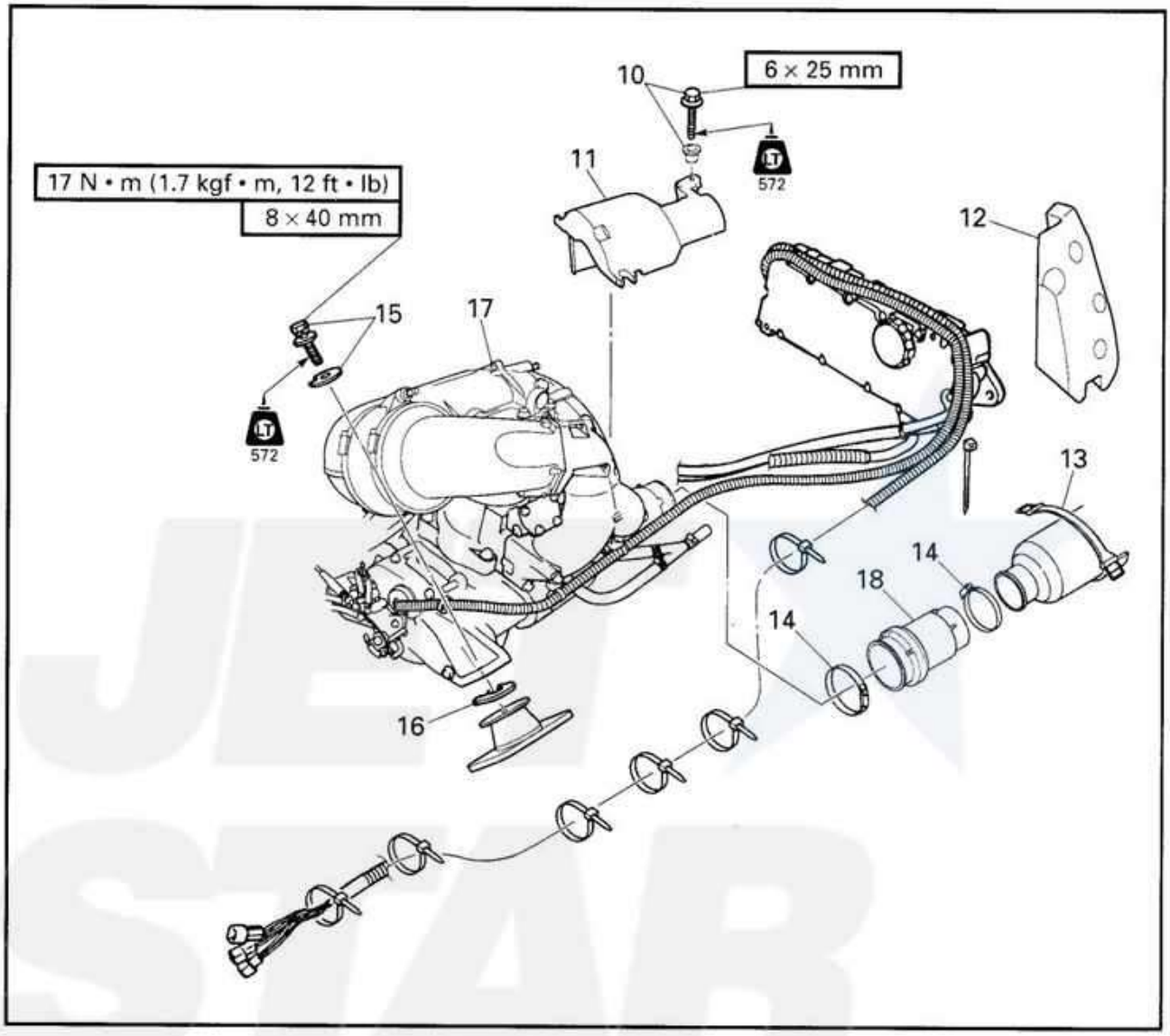


手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
4	中間ハウジンググリスホース	1	
5	クランプ／ウォータホース	1/1	
6	クランプ／ウォータホース	1/1	A 右舷側のパイロットウォータアウトレットに続く
7	クランプ／ウォータホース	1/1	B 左舷側のパイロットウォータアウトレットに続く
8	オイルホース	1	
9	オイルリターンホース	1	

WWW.JET-STAR.JP

エンジンユニット

展開図

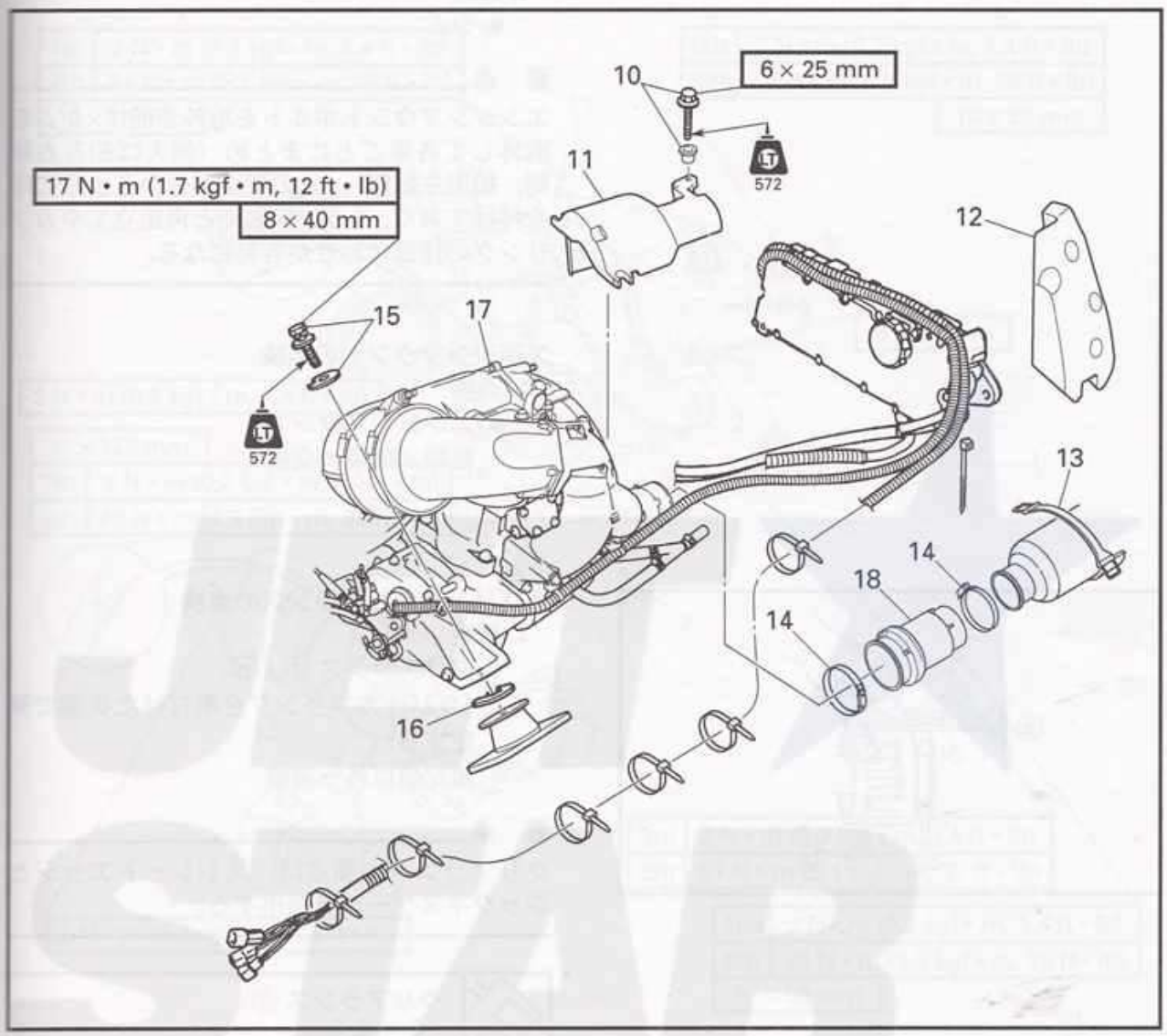


手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
10	ボルト／カラー	1/1	**要　点** ●エンジンユニットを降ろす前、チョークバルブが全閉位置になるようチョークリンクをプラスチックバンド等で固定する。 ●エンジンユニットを持ち上げる時、クレーンを船首側のマフラステー1に引っ掛ける。 ●エンジンユニットを持ち上げるとき、デッキに接触しないようにする。
11	カプリングカバー	1	
12	フロート	1	
13	ウォータロックバンド	1	
14	ホースクランプ	2	
15	ボルト／ワッシャ	4/4	

WWW.JET-STAR.JP

エンジンユニット

展開図



手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
16	シム	*	
17	エンジンユニット	1	
18	エキゾーストジョイント	1	ウォータロックを船尾側へスライドさせる。 取付けは逆の手順で行う。

*: 必要数

WWW.JET-STAR.JP

サービスポイント

シムの取外

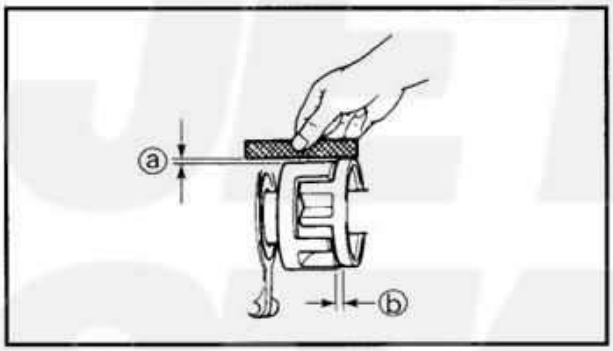
1. 取外
   - シム

要　点

エンジンマウントボルトを取外す前に、シムを取外して各束ごとにまとめ（例えば船首右舷側、船尾左舷側）、元の場所が分かるように印を付けておく。こうしておくと再組立てやカプリングの位置合わせが容易になる。

エンジンマウントの点検

1. 点検
   - エンジンマウント
     亀裂／損傷→交換



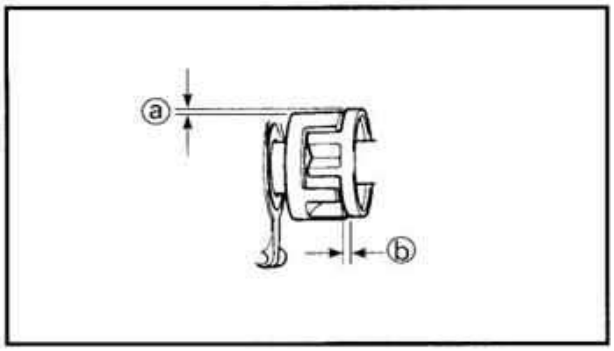
カプリングクリアランスの点検

1. 測定
   - クリアランスⓐ、ⓑ
     （ラバーカプリングを取付けた状態で測定する）
     規定値以外→調整

要　点

クリアランスの測定は、ストレートエッジとシックネスゲージを使用する。

クリアランスⓐ:
0～0.5mm
クリアランスⓑ:
2～4mm



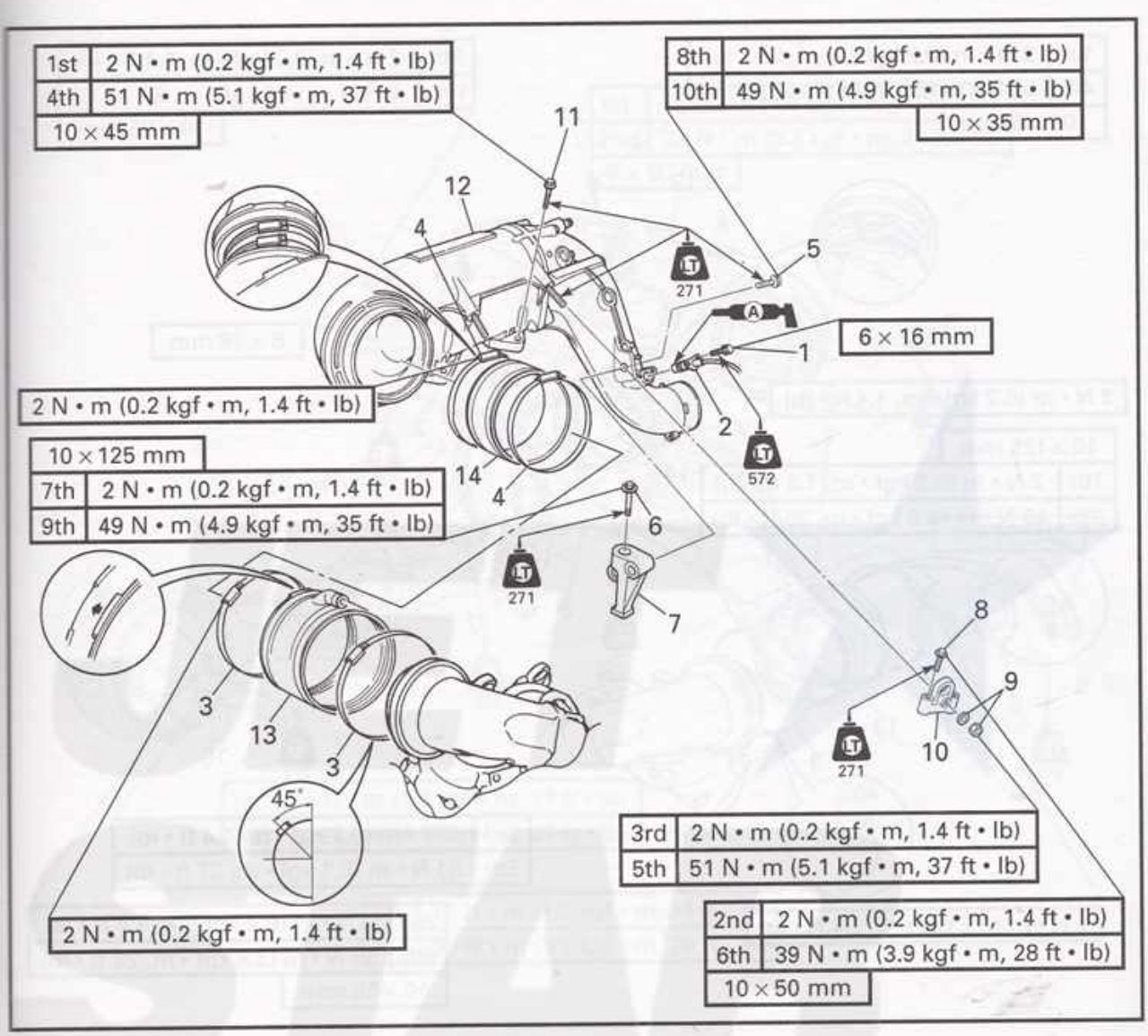
2. 調整
   - クリアランスⓐ、ⓑ

調整手順：

1) シムを追加または削除して、クリアランスⓐを調整する。
2) エンジンユニットを移動させて、クリアランスⓑを調整する。

WWW.JET-STAR.JP

エキゾーストチャンバアッセンブリ
展開図



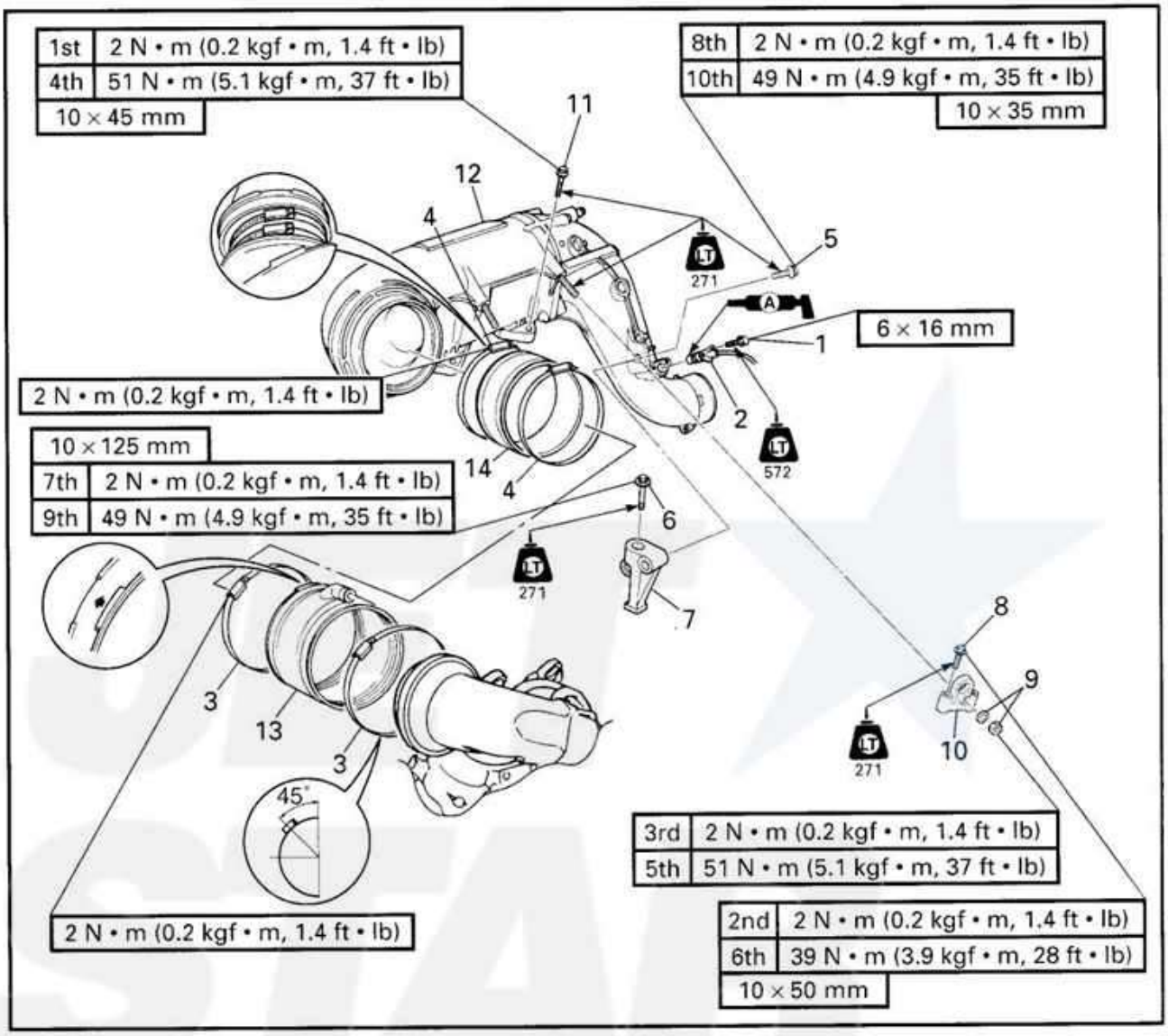
作業手順表

手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	エキゾーストチャンバアッセンブリの取外		左欄の「手順」のとおりに取外す。
	エンジンユニット		「エンジンユニット」の項参照。
1	ボルト	2	
2	サーモスイッチ	1	
3	ホースクランプ	2	アウタエキゾーストジョイントをスライドさせる。
4	ホースクランプ	2	
5	ボルト	1	
6	ボルト	1	
7	マフラステー3	1	
8	ボルト	4	

WWW.JET-STAR.JP

エキゾーストチャンバアッセンブリ

展開図

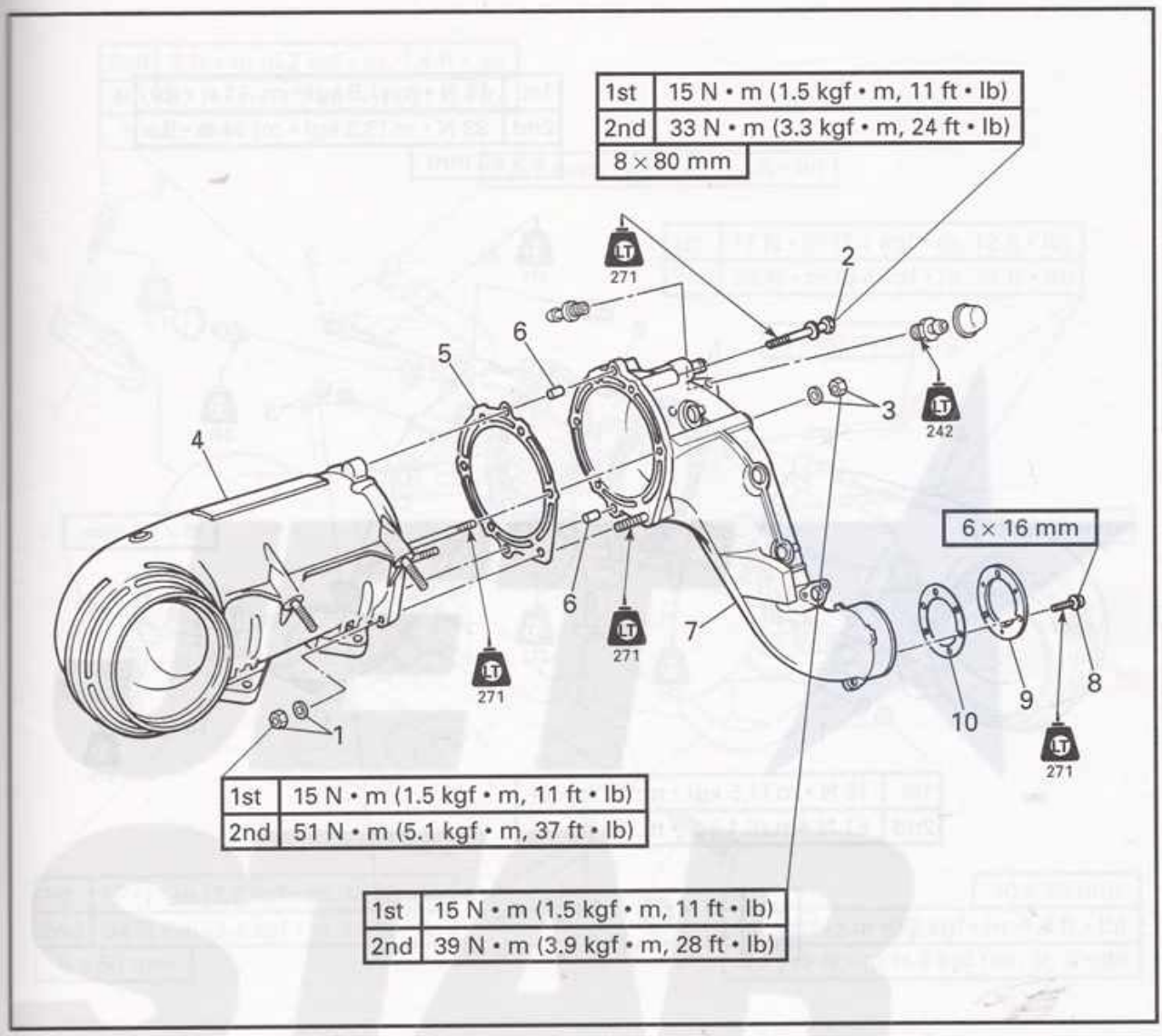


手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
9	ナット／ワッシャ	2/2	
10	マフラステー1	2	要　点 マフラステー1を取外す前に、必ずスパークプラグを取外しておく。
11	ボルト	2	
12	エキゾーストチャンバアッセンブリ	1	
13	アウタエキゾーストジョイント	1	
14	インナエキゾーストジョイント	1	
			取付けは逆の手順で行う。

WWW.JET-STAR.JP

エキゾーストチャンバアッセンブリ

展開図



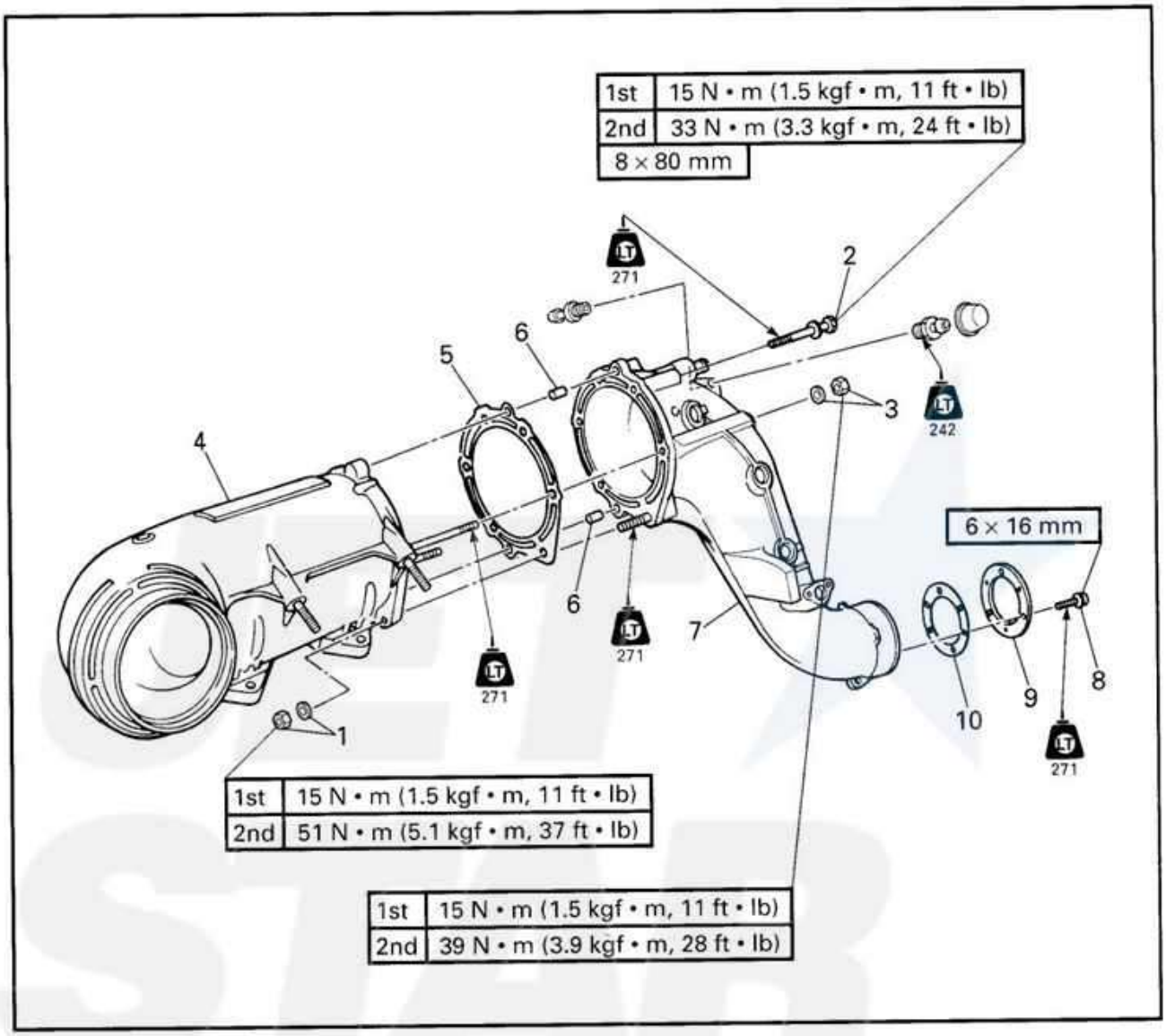
作業手順表

手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	エキゾーストチャンバの分解		左欄の「手順」のとおりに分解する。
1	ナット／ワッシャ	1/1	
2	ボルト	3	
3	ナット／ワッシャ	2/2	
4	エキゾーストチャンバ	1	
5	ガスケット	1	再使用不可
6	ピン	2	

WWW.JET-STAR.JP

エキゾーストチャンバアッセンブリ

展開図

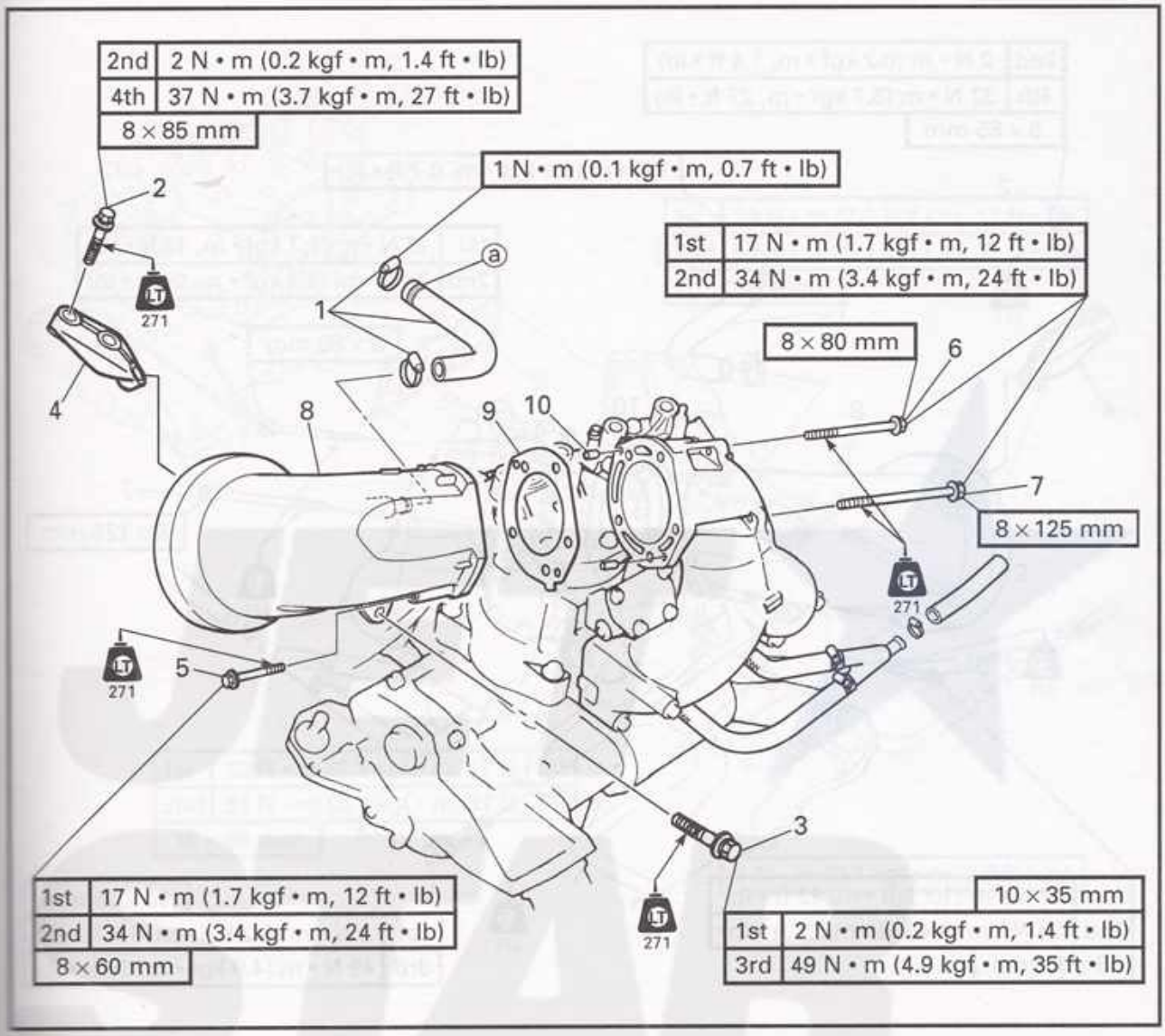


手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
7	マフラ	1	
8	スクリュ	3	
9	プレート	1	
10	ガスケット	1	**再使用不可**
			組立は逆の手順で行う。

WWW.JET-STAR.JP

エキゾーストチャンバジョイント

展開図



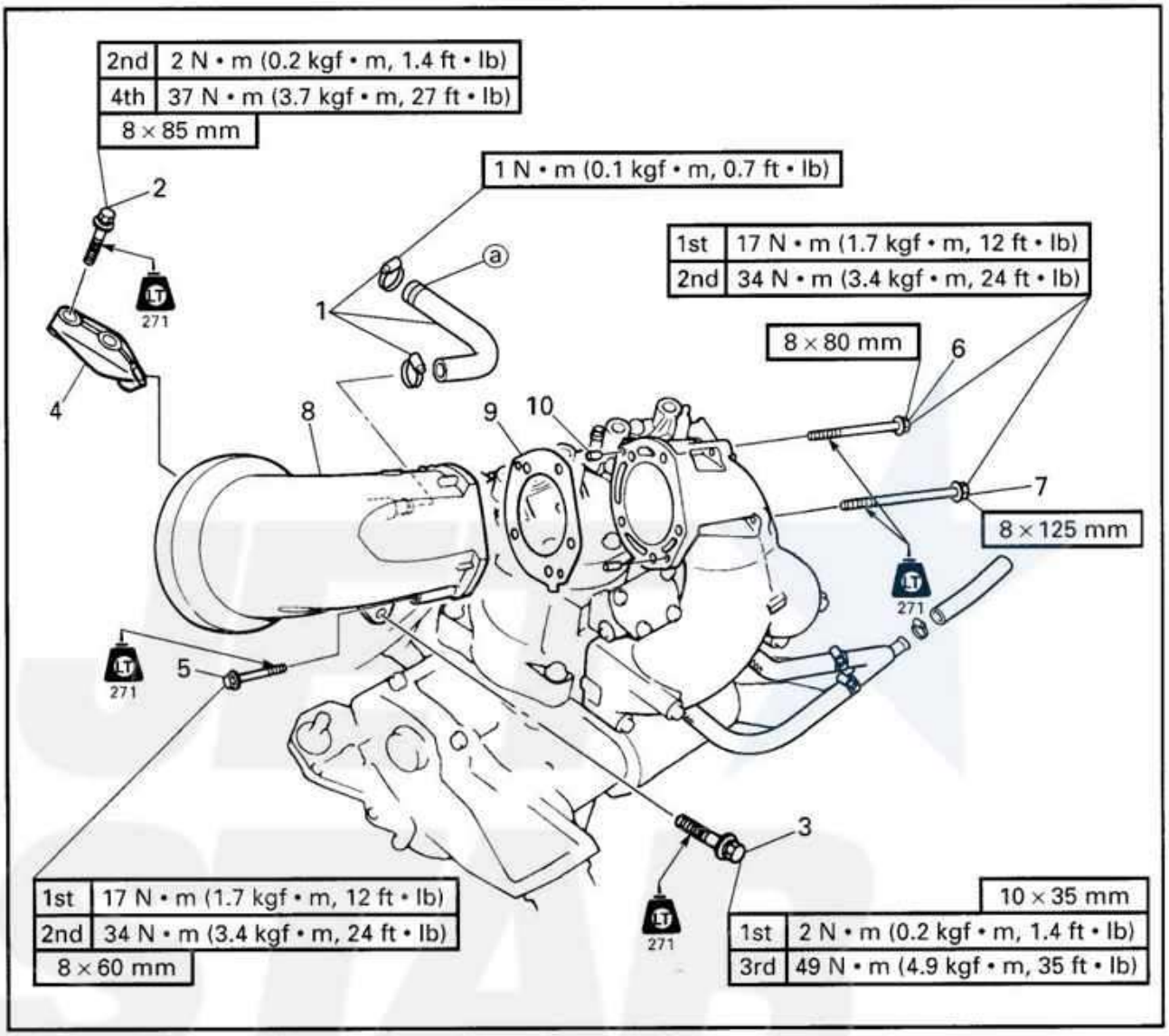
作業手順表

手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	エキゾーストチャンバジョイントの取外		左欄の「手順」のとおりに取外す。
	エキゾーストチャンバアッセンブリ		「エキゾーストチャンバアッセンブリ」の項参照。
1	クランプ／ウォータホース	2/1	白色マーク ⓐ
2	ボルト	2	
3	ボルト	1	
4	マフラステー	1	
5	ボルト	1	

WWW.JET-STAR.JP

エキゾーストチャンバジョイント

展開図

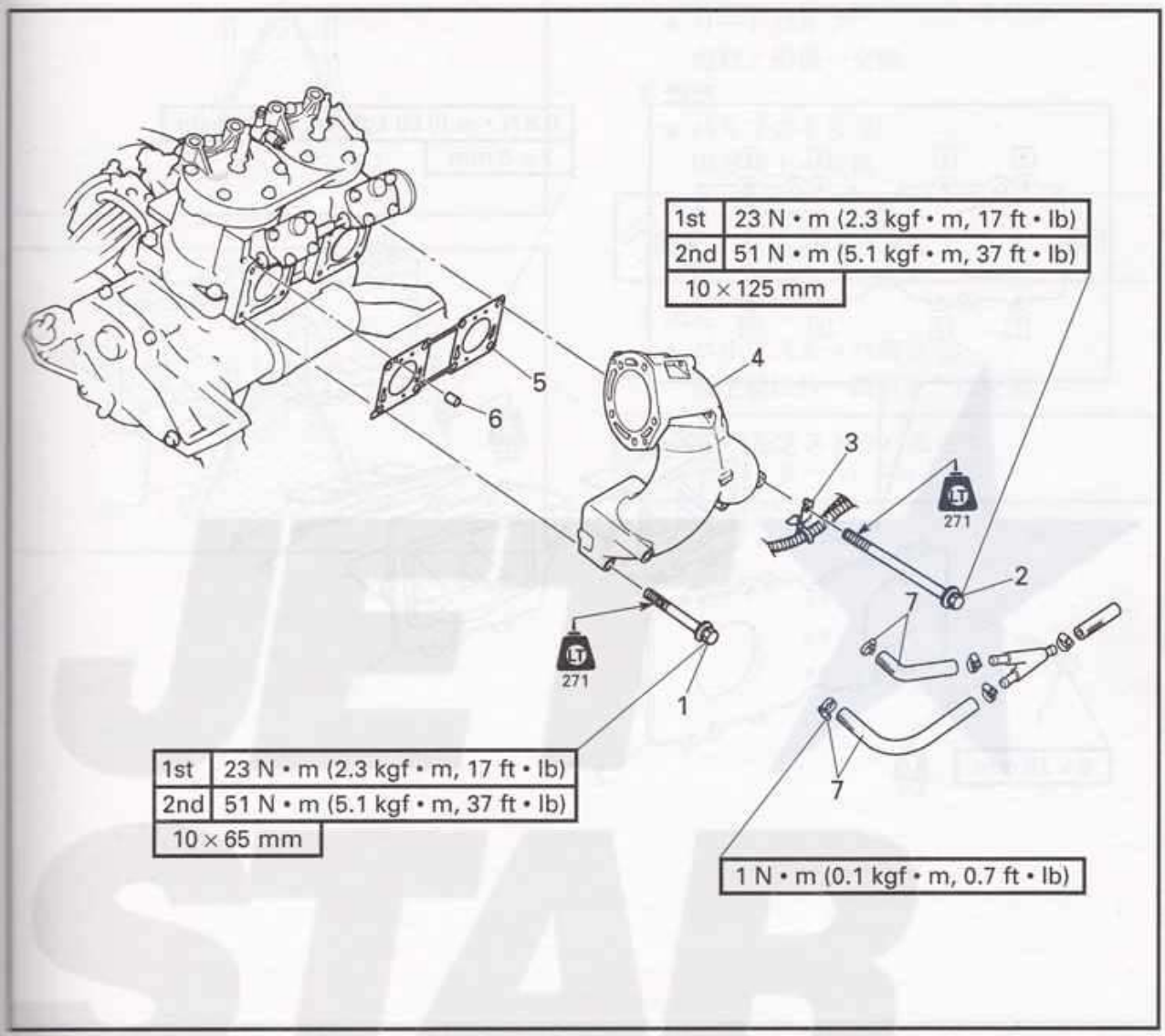


手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
6	ボルト	2	
7	ボルト	2	
8	エキゾーストチャンバジョイント	1	
9	ガスケット	1	再使用不可
10	ピン	2	
			取付けは逆の手順で行う。

WWW.JET-STAR.JP

エキゾーストマニホールド

展開図



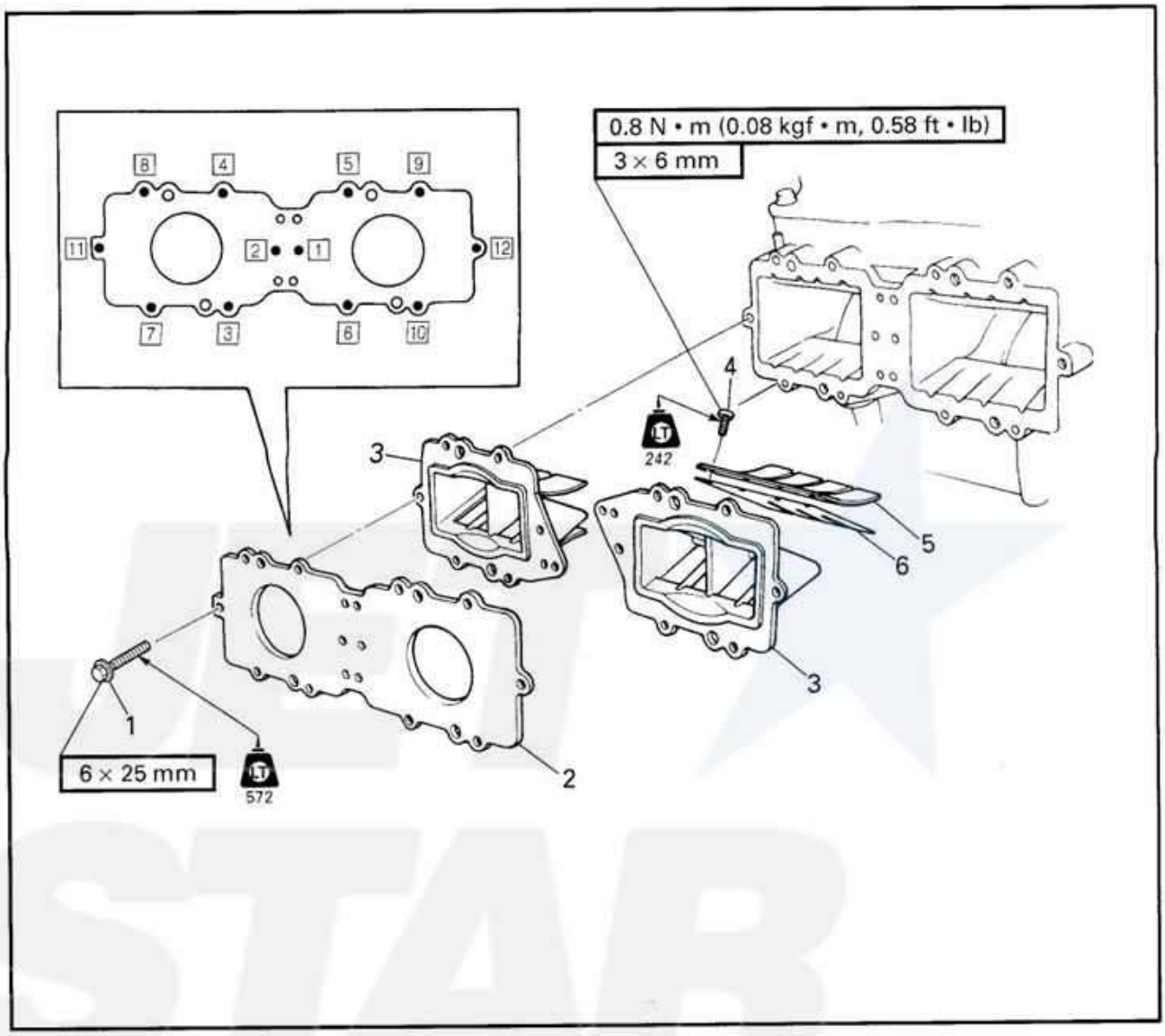
作業手順表

手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	エキゾーストマニホールドの取外 エキゾーストチャンバジョイント		左欄の「手順」のとおりに取外す。 「エキゾーストチャンバジョイント」の項参照。
1	ボルト	4	
2	ボルト	4	
3	ワイヤハーネスブラケット	2	
4	エキゾーストマニホールド	1	
5	ガスケット	1	再使用不可
6	ピン	2	
7	クランプ／ウォータホース	2/2	
			取付けは逆の手順で行う。

WWW.JET-STAR.JP

リードバルブ

展開図

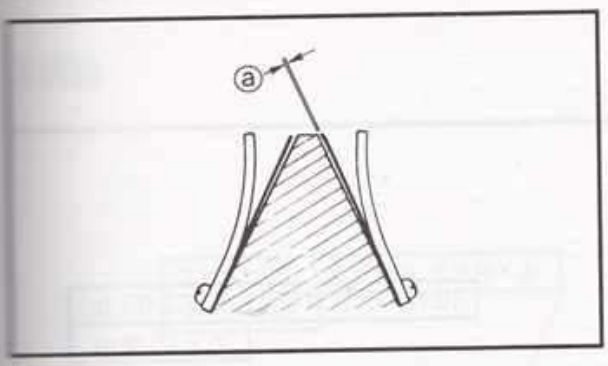


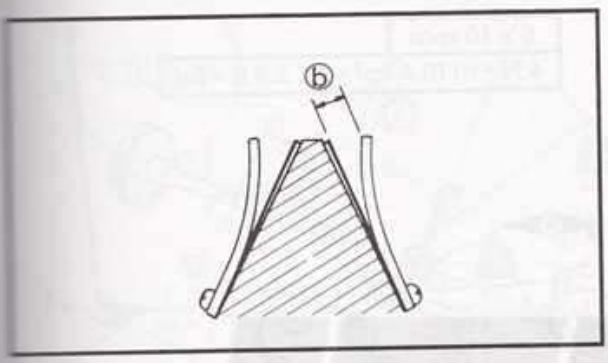
作業手順表

手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	リードバルブの取外 キャブレタユニット		左欄の「手順」のとおりに取外す。 第4章「キャブレタユニット」の項参照。
1	ボルト	12	**要　点** 図に示す通りの正しい順序でボルトを締付ける。
2	リードバルブプレート	1	
3	リードバルブアッセンブリ	2	
4	スクリュ	16	
5	バルブストッパ	4	
6	リードバルブ	4	
			取付けは逆の手順で行う。

WWW.JET-STAR.JP

リードバルブ





サービスポイント

リードバルブの点検

1. 点検
   - リードバルブ
     亀裂／損傷→交換
2. 測定
   - バルブのそり ⓐ
     限度以上→交換

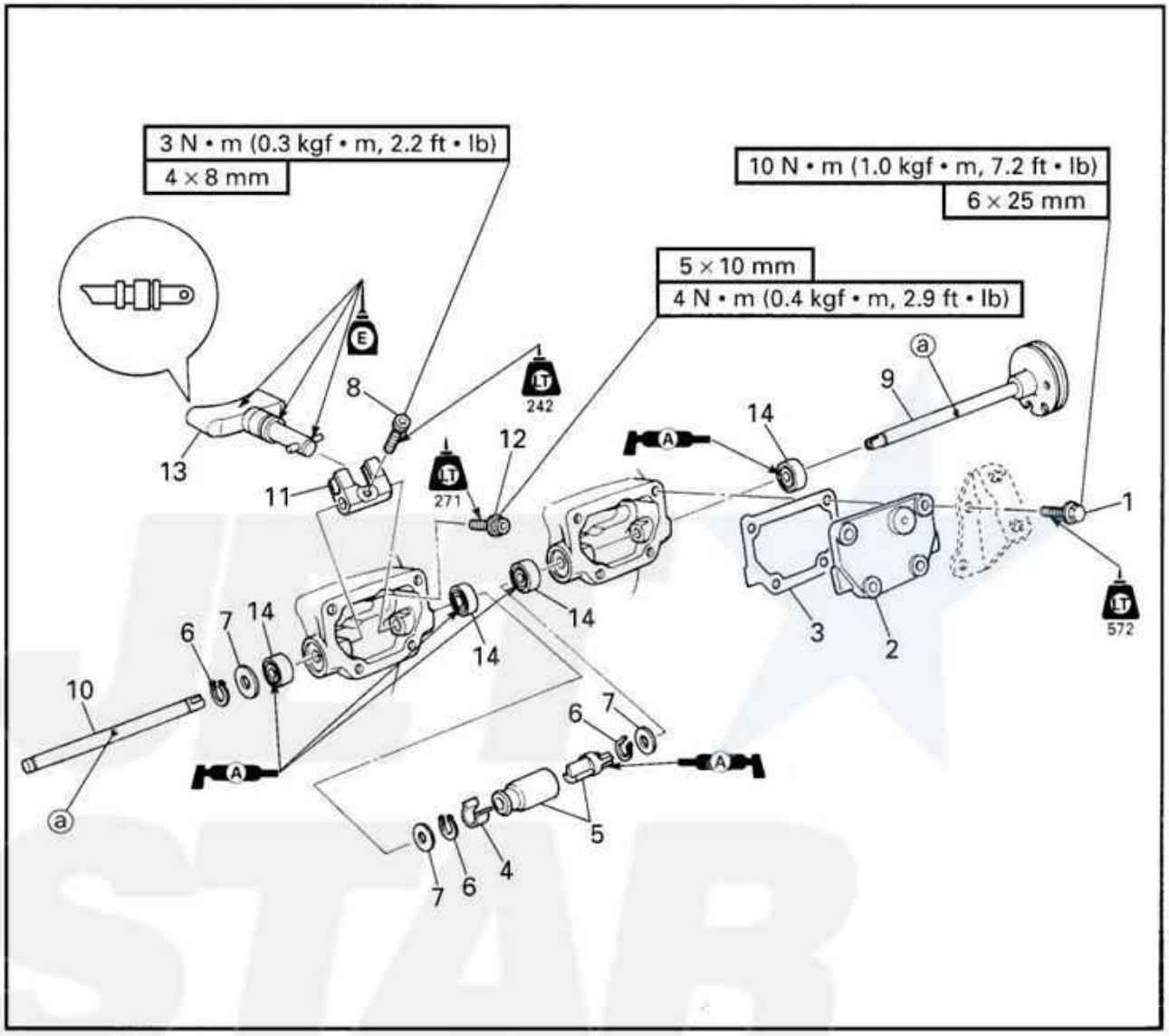
	バルブそり限度： 0.2mm

3. 測定
   - バルブストッパ高さ ⓑ
     規定値以外→調整または交換

	バルブストッパ高さ： 10.8～11.4mm

WWW.JET-STAR.JP

YPVS
展開図

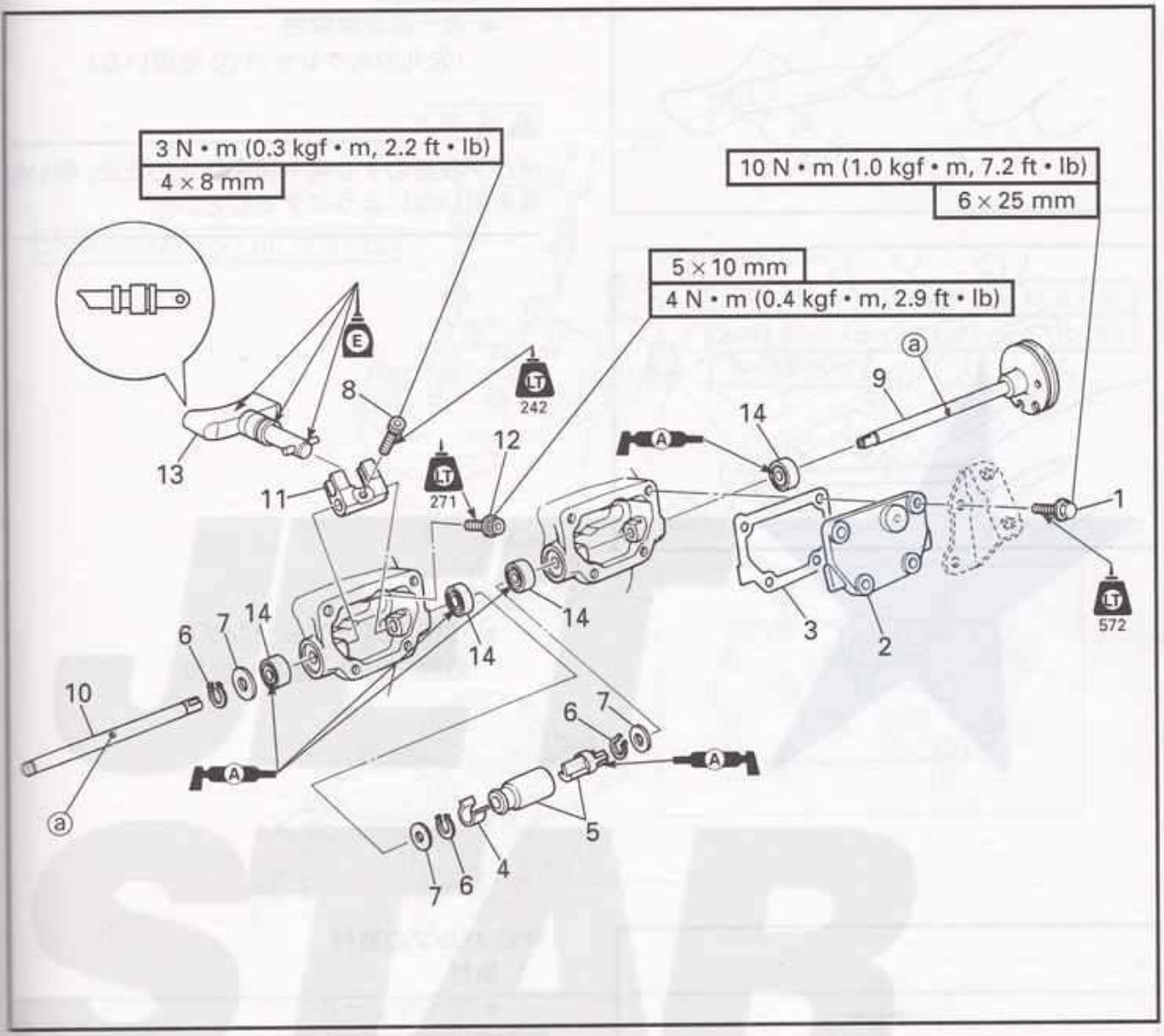


作業手順表

手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	YPVS の取外		左欄の「手順」のとおりに取外す。
	エキゾーストマニホールド		「エキゾーストマニホールド」の項参照。
1	ボルト	8	
2	YPVS バルブカバー	2	
3	ガスケット	2	再使用不可
4	スペーサ	1	
5	リンクジョイント／カバー	1/1	
6	サークリップ	3	再使用不可
7	ワッシャ	3	

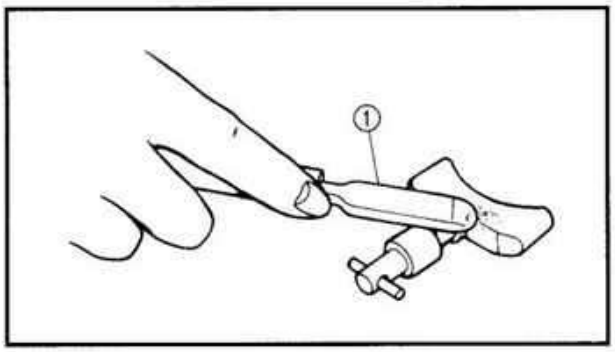
WWW.JET-STAR.JP

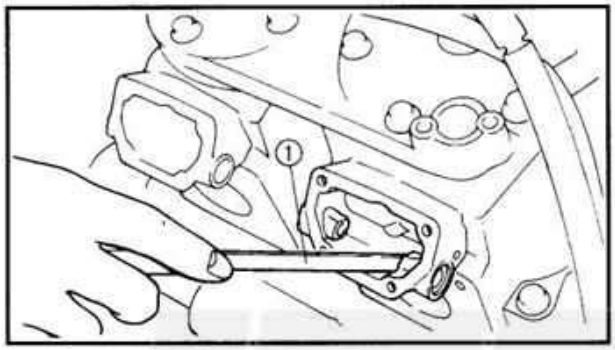
展開図



手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
8	ボルト	2	**要　点**
9	シャフト2	1	取付け時、YPVS シャフトの穴 ⓐ にボルトを合わせる。
10	シャフト1	1	
11	YPVS バルブレバー	2	
12	ボルト	2	
13	YPVS バルブアッセンブリ	2	
14	オイルシール	4	**要　点** YPVSシャフトを取外した場合は、オイルシールを新品と交換する。
			取付けは逆の手順で行う。

WWW.JET-STAR.JP





サービスポイント

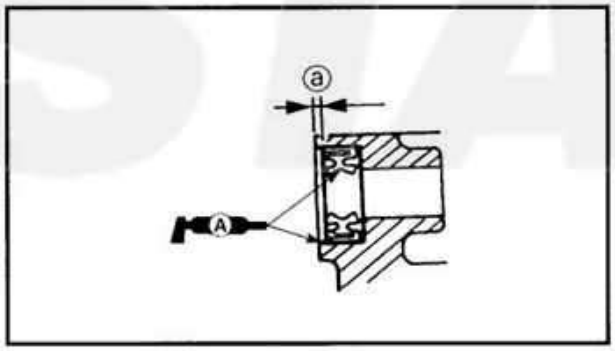
YPVS バルブの点検

1. 除去清掃
   - カーボン堆積物
     （先丸のスクレッパ ① を用いる）

⚠注 意

バルブ表面のすり傷や損傷防止のため、鋭い器具を用いないようにすること。

2. 点検
   - YPVS バルブアッセンブリ
     亀裂／破損／摩耗→交換



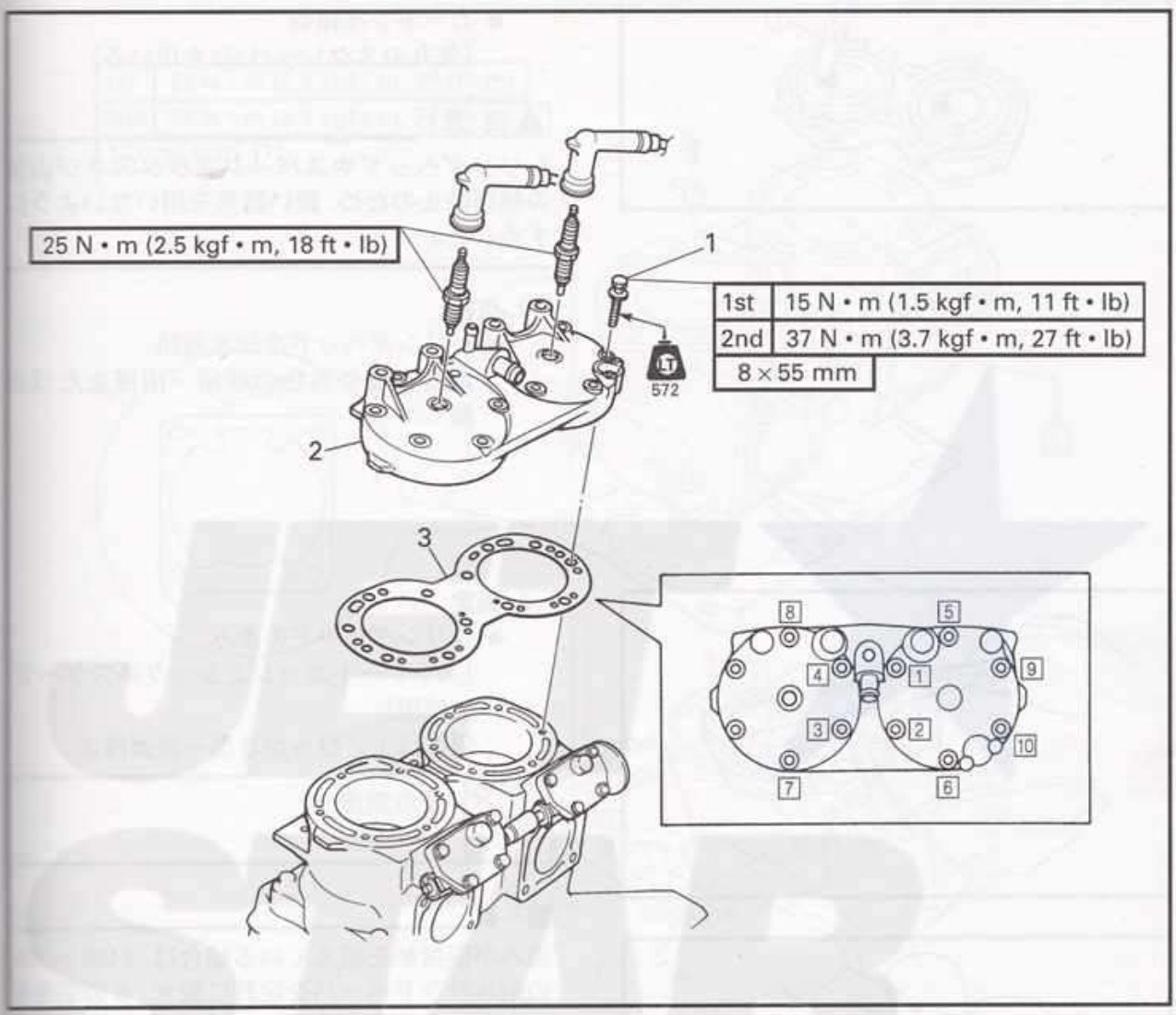
YPVS バルブの取付

1. 取付
   - オイルシール

	距離 ⓐ: 1.0 ～ 1.5mm

WWW.JET-STAR.JP

シリンダヘッド
展開図

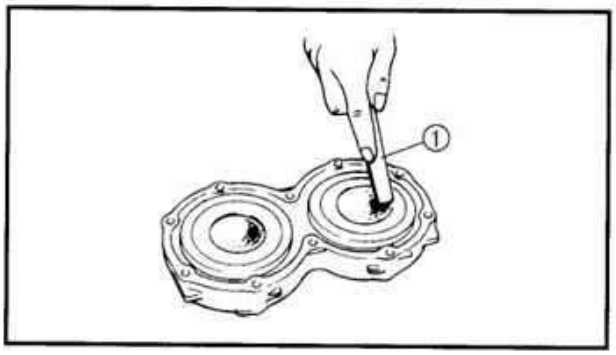


作業手順表

手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	シリンダヘッドの取外		左欄の「手順」のとおりに取外す。
	エキゾーストマニホールド		「エキゾーストマニホールド」の項参照。
1	ボルト	10	**要　点** ボルトは図に示す通りの正しい順序で2回に分けて締付ける。
2	シリンダヘッド	1	
3	ガスケット	1	**再使用不可** 取付けは逆の手順で行う。

WWW.JET-STAR.JP

シリンダヘッド



サービスポイント

シリンダヘッドの点検

1. 除去清掃

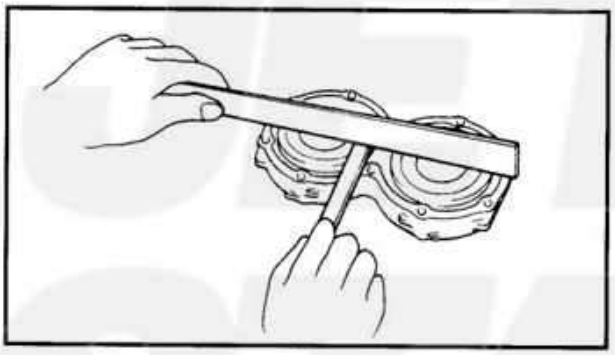
- カーボン堆積物
  （先丸のスクレッパ ① を用いる）

▲注 意

シリンダヘッドやスパークプラグ穴ネジ山部の損傷防止のため、鋭い器具を用いないようにすること。

2. 点検

- シリンダヘッド冷却水通路
  腐食／塩や異物の堆積→清掃または交換



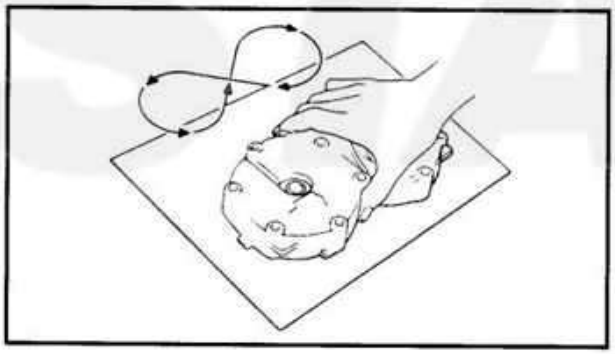
3. 測定

- シリンダヘッドの歪み
  （ストレートエッジとシックネスゲージを使用）
  限度以上／ひっかき傷→表面修正

	歪み限度： 0.1mm

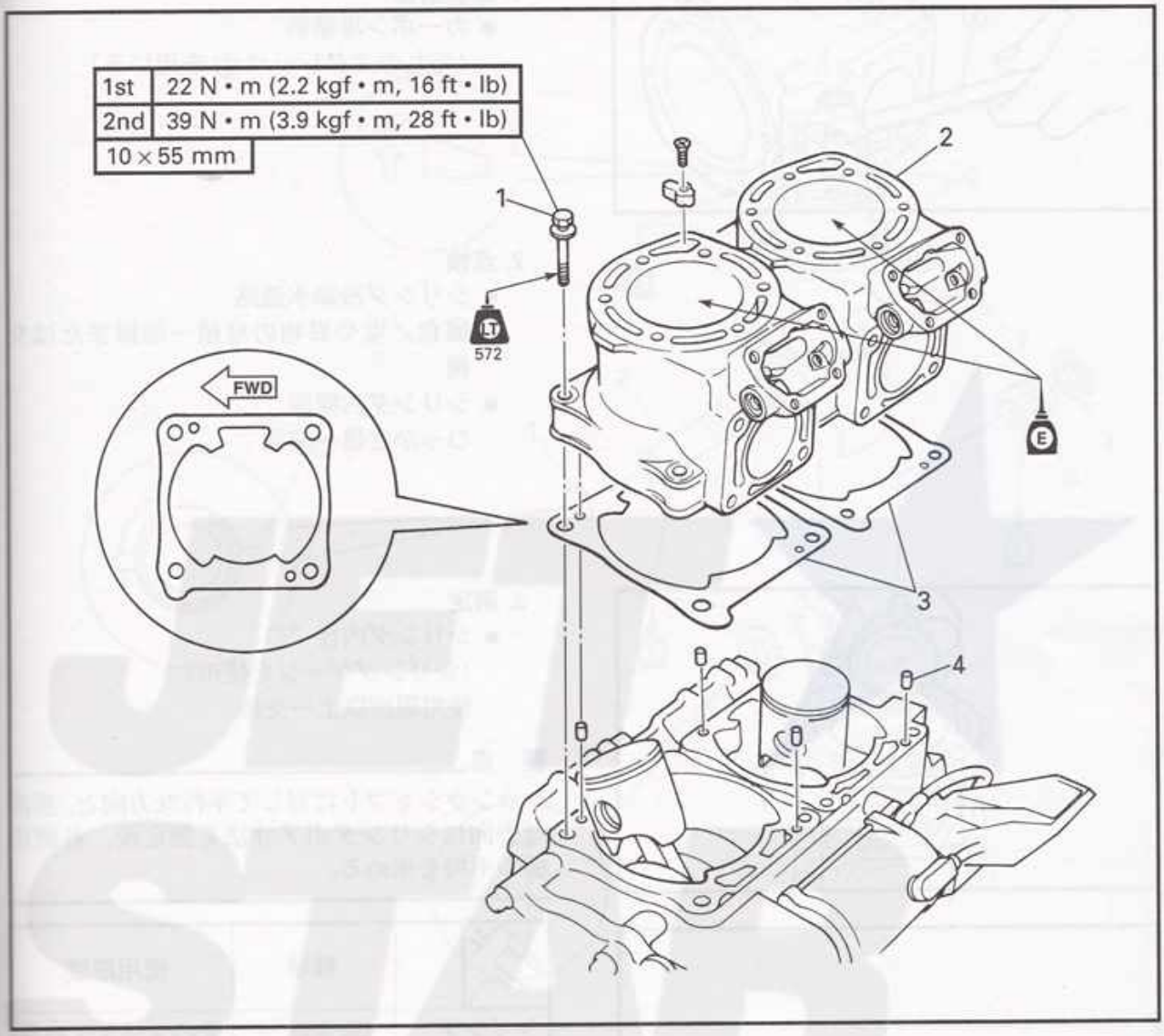
要 点

歪みが限度値を超えている場合は、#400 ～ 600 の耐水サンドペーパを定盤に敷き、8 の字を描くようにしてシリンダヘッドの表面修正を行う。



WWW.JET-STAR.JP

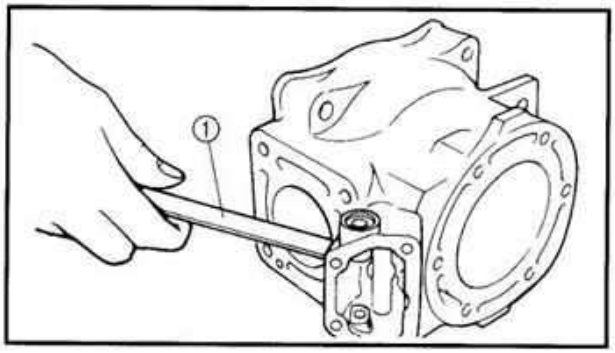
シリンダ
展開図



作業手順表

手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	シリンダの取外		左欄の「手順」のとおりに取外す。
	YPVS		「YPVS」の項参照。
	シリンダヘッド		「シリンダヘッド」の項参照。
1	ボルト	8	要　点 ボルトは対角線上に２回に分けて締付ける。
2	シリンダ	2	要　点 元の位置に取付ける。
3	シリンダガスケット	2	再使用不可
4	ピン	4	
			取付けは逆の手順で行う。

WWW.JET-STAR.JP



サービスポイント

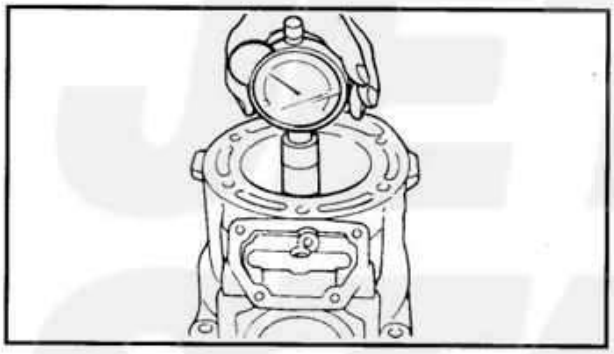
シリンダの点検

1. 除去清掃

- カーボン堆積物
  （先丸のスクレッパ① を用いる）

2. 点検

- シリンダ冷却水通路
  腐食／塩や異物の堆積→清掃または交換
- シリンダ内壁面
  ひっかき傷→交換

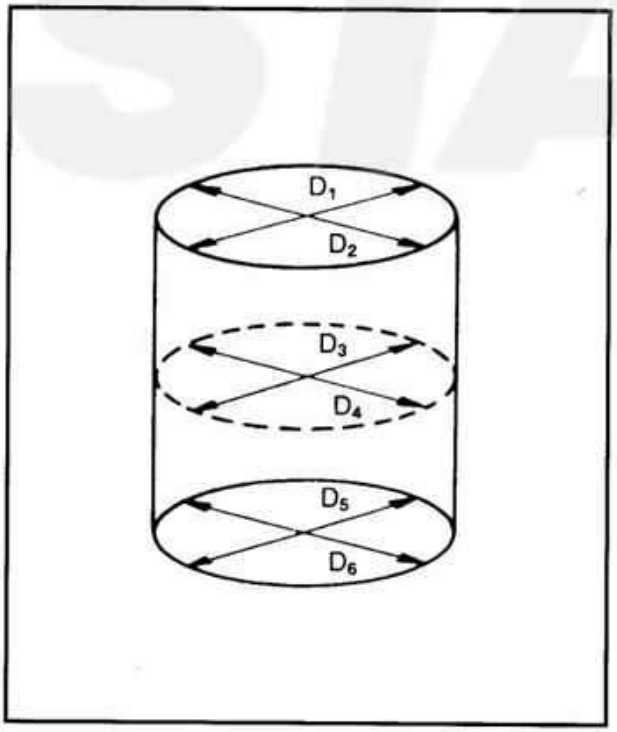


3. 測定

- シリンダ内径 “D”
  （シリンダゲージを使用）
  使用限度以上→交換

要　点

クランクシャフトに対して平行な方向と、垂直な方向にシリンダボア寸法を測定後、各測定値の平均を求める。

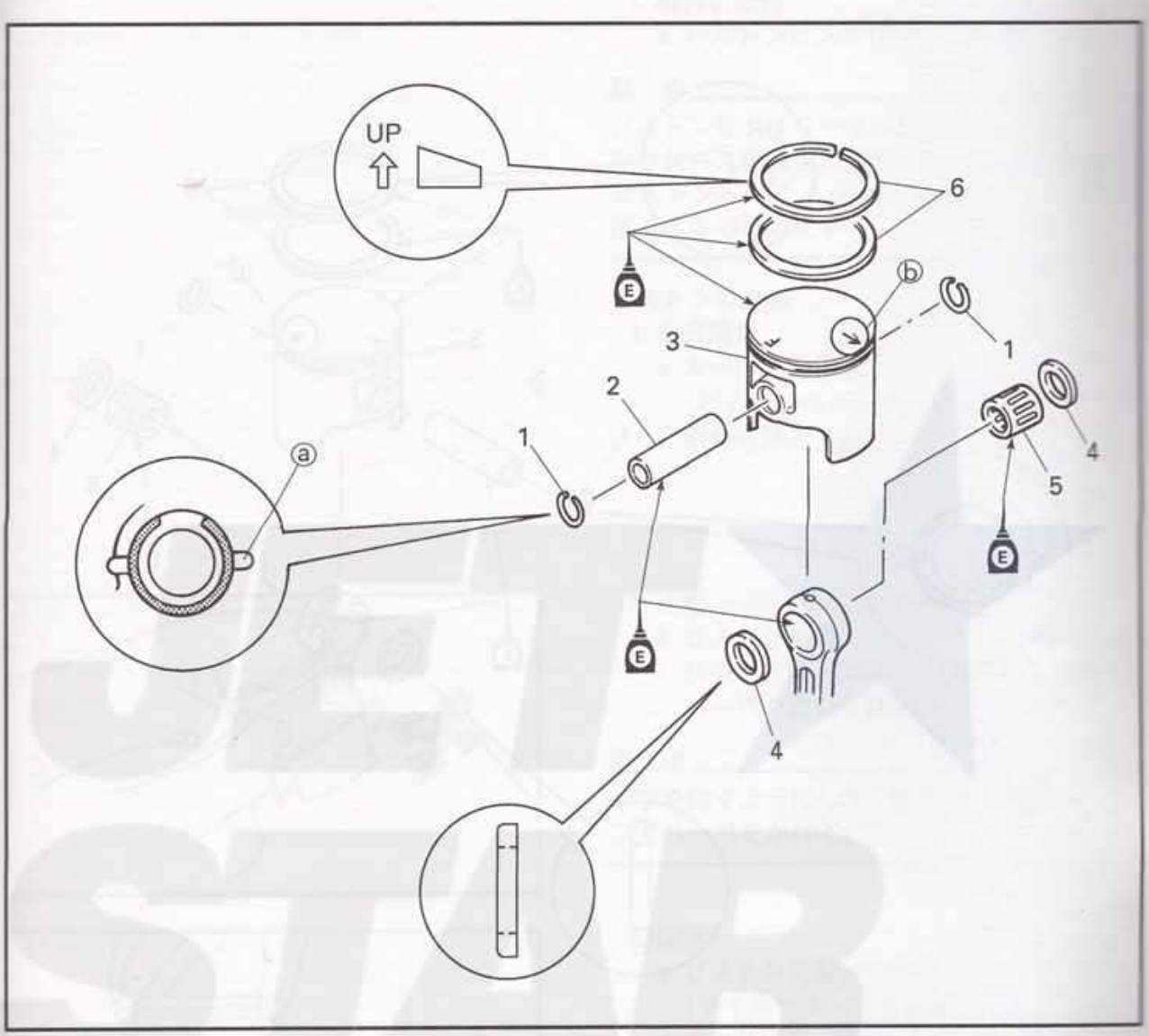


	標準	使用限度
シリンダ内径 “D”	80.000 ～ 80.018mm	元のシリンダ内径 ＋ 0.04mm
円筒度 “T”	−	0.08mm
真円度 “R”	−	0.05mm

D ＝D_1 ～ D_6 の最大値
T ＝(D_1 かD_2の最大値) − (D_5かD_6の最大値)
R ＝(D_1、D_3、D_5 の最大値) − (D_2、D_4、D_6 の最小値)

WWW.JET-STAR.JP

ピストン
展開図

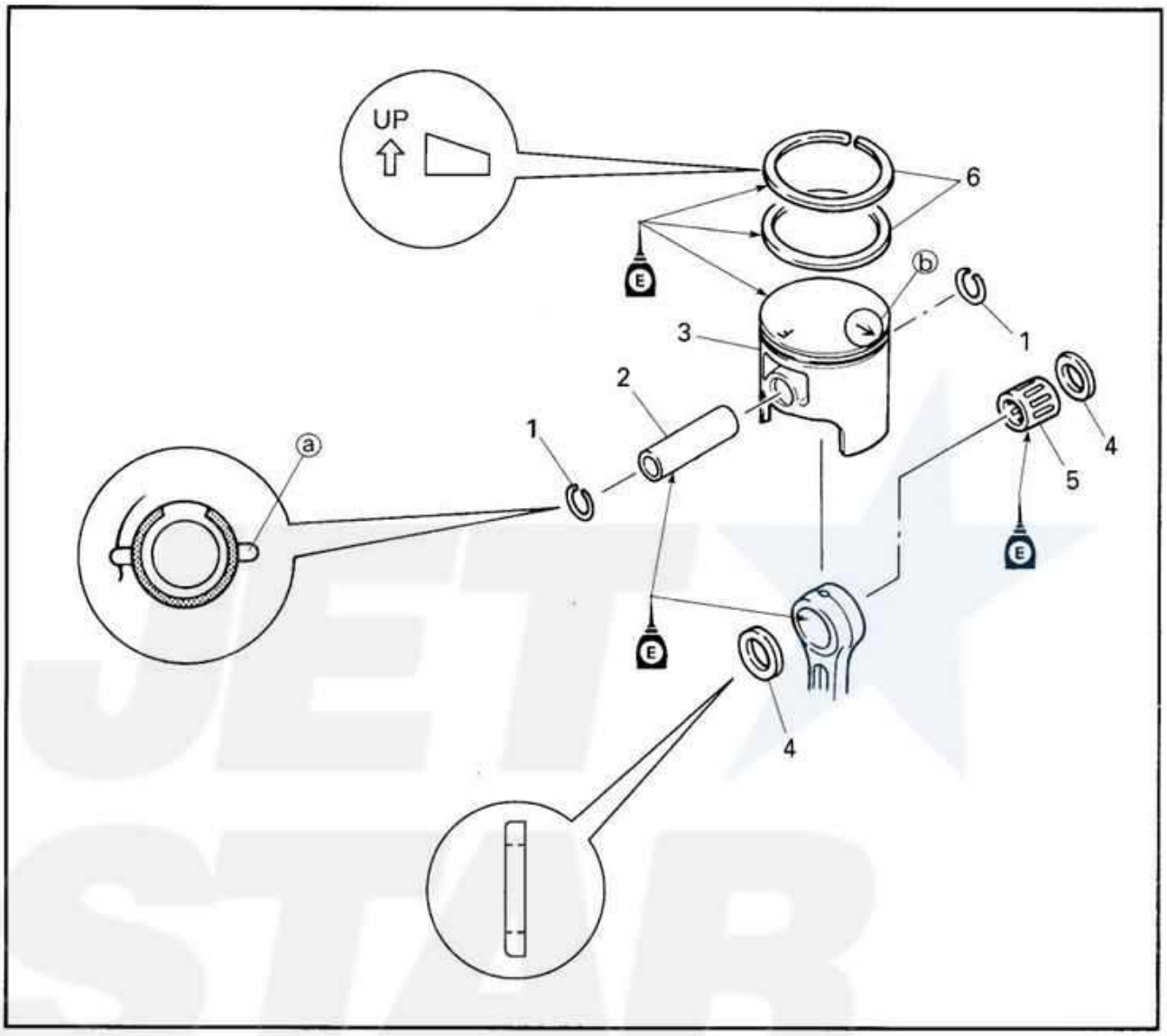


作業手順表

手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	ピストンの取外 シリンダ		左欄の「手順」のとおりに取外す。 「シリンダ」の項参照。
1	ピストンピンクリップ	2	⚠注 意 クリップの端部がピストンピン溝ⓐと重ならないようにすること。
2	ピストンピン	1	
3	ピストン	1	要 点 矢印ⓑが排気側に向くようにする。
4	ワッシャ	2	

WWW.JET-STAR.JP

展開図



手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
5	ベアリング	1	
6	ピストンリング	2	⚠注 意 それぞれの合口隙間は、位置決めピンに一致させること。
			取付けは逆の手順で行う。

WWW.JET-STAR.JP

サービスポイント

ピストンピンクリップの取外と取付

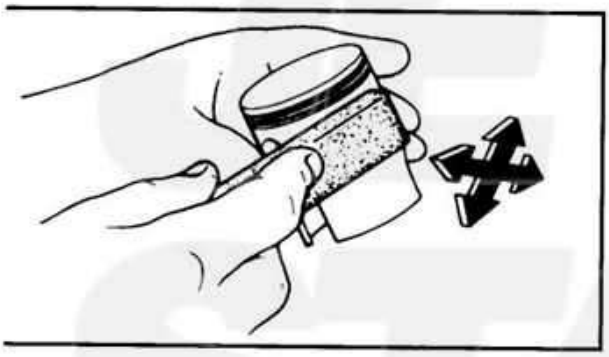
1. 取外と取付
   - ピストンピンクリップ

要　点

ピストンピンクリップの脱着を行う前に、クランクケース開口部にきれいなウエスをかぶせ、ピストンピンクリップがクランクケース内に落下するのを防止する。

ピストンの点検

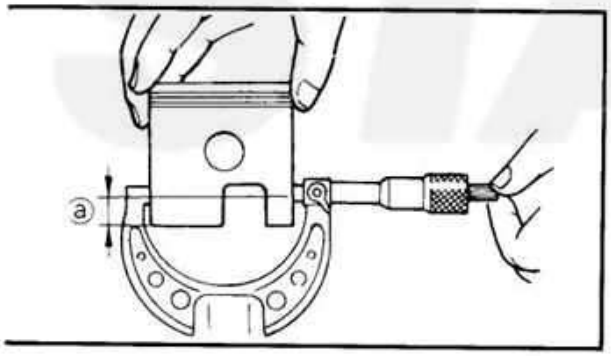
1. 除去清掃
   - カーボン堆積物
     （ピストンヘッドおよびピストンリング溝から除去する）



2. 点検
   - ピストン側壁
     ひっかき傷→ #600 ～ 800 の耐水サンドペーパで磨いて修正、または交換

要　点

十字を描くようにして、ピストン側壁に軽くサンドペーパをかける。



3. 測定
   - ピストンスカート外径
     （マイクロメータを使用）
     規定値以外→交換

	ピストン外径	測定位置ⓐ:
	79.899 ～ 79.914mm	22mm

WWW.JET-STAR.JP

4. 計算

- ピストンクリアランス
  規定値以外→ピストン、ピストンリング、およびシリンダをセットで交換

ピストンクリアランス	=	シリンダ内径測定値	−	ピストン外径測定値

ピストンクリアランス：
0.100 ～ 0.105mm

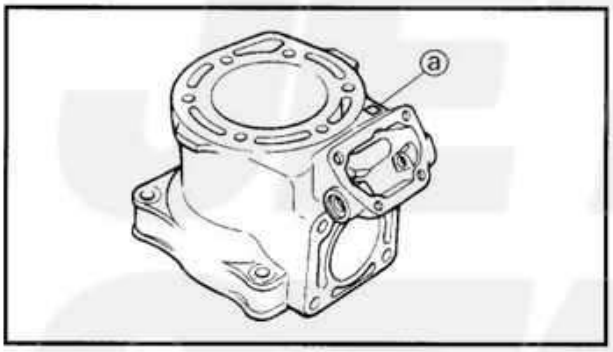
シリンダとピストンの組合せ

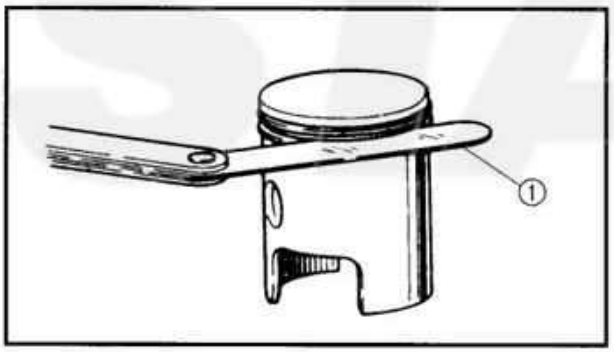
下記の表に従って、シリンダサイズに合った適切なピストンを選ぶこと。

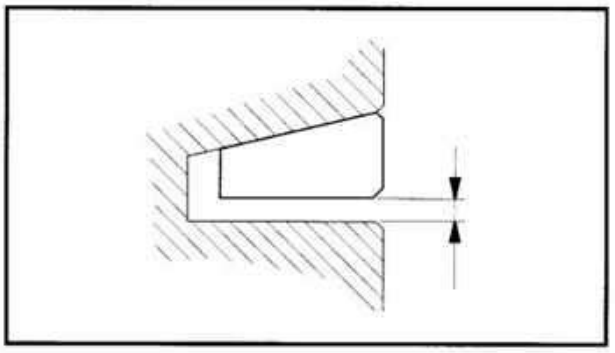
シリンダサイズの表示ⓐ	ピストン色マーク
0 ～ 5	赤
6 ～ 10	橙
11 ～ 15	緑
16 ～ 18	紫

要　点

新品のシリンダ内径＝ 80.000 ＋ ⓐ/1.000
例：ⓐ ＝ 12 → 80.012mm







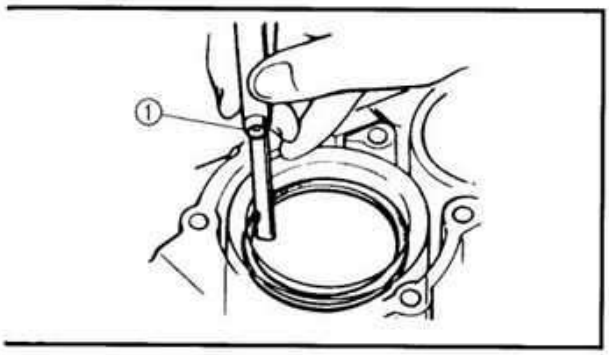
ピストンリングの点検

1. 測定

- サイドクリアランス
  （シックネスゲージ① を使用）
  規定値以外→ピストン、ピストンリングをセットで交換

サイドクリアランス：
0.03 ～ 0.05mm

WWW.JET-STAR.JP



2. 測定

- 合い口すき間
  （シックネスゲージ ① を使用）
  規定値以外→ピストンリングをセットで交換

	合い口すき間： 0.30 ～ 0.45mm

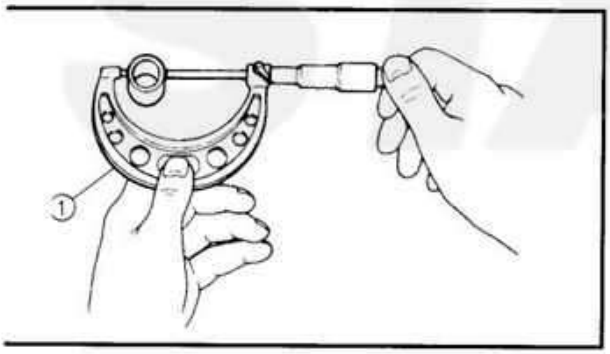
要　点

ピストンリングをシリンダ内に挿入し、ピストンヘッドを使って押し下げる。

ピストンピンとベアリングの点検

1. 点検

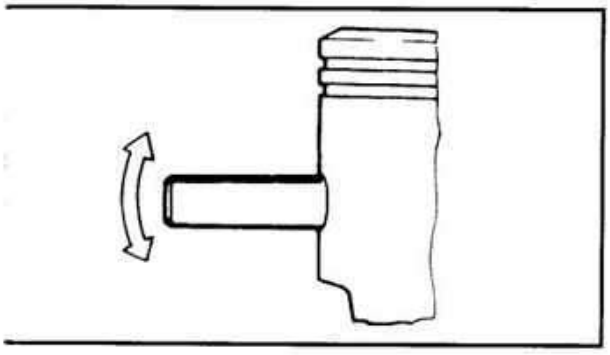
- ピストンピン
- ベアリング
  熱による変色の兆候→交換



2. 測定

- ピストンピン外径
  （マイクロメータ ① を使用）
  限度以下→交換

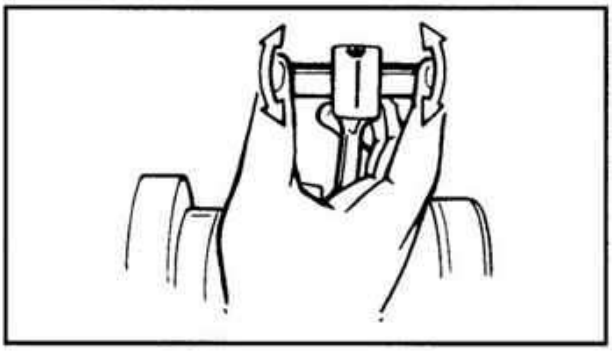
	ピストンピン外径： 標準： 21.995 ～ 22.000mm 限度値： 21.990mm



3. 点検

- ピストンピンとピストンとの遊び
  （図のようにピストンピンをピストンにはめて調べる）
  遊びがある→ピストンピン、ピストン、あるいはその両方を交換

WWW.JET-STAR.JP



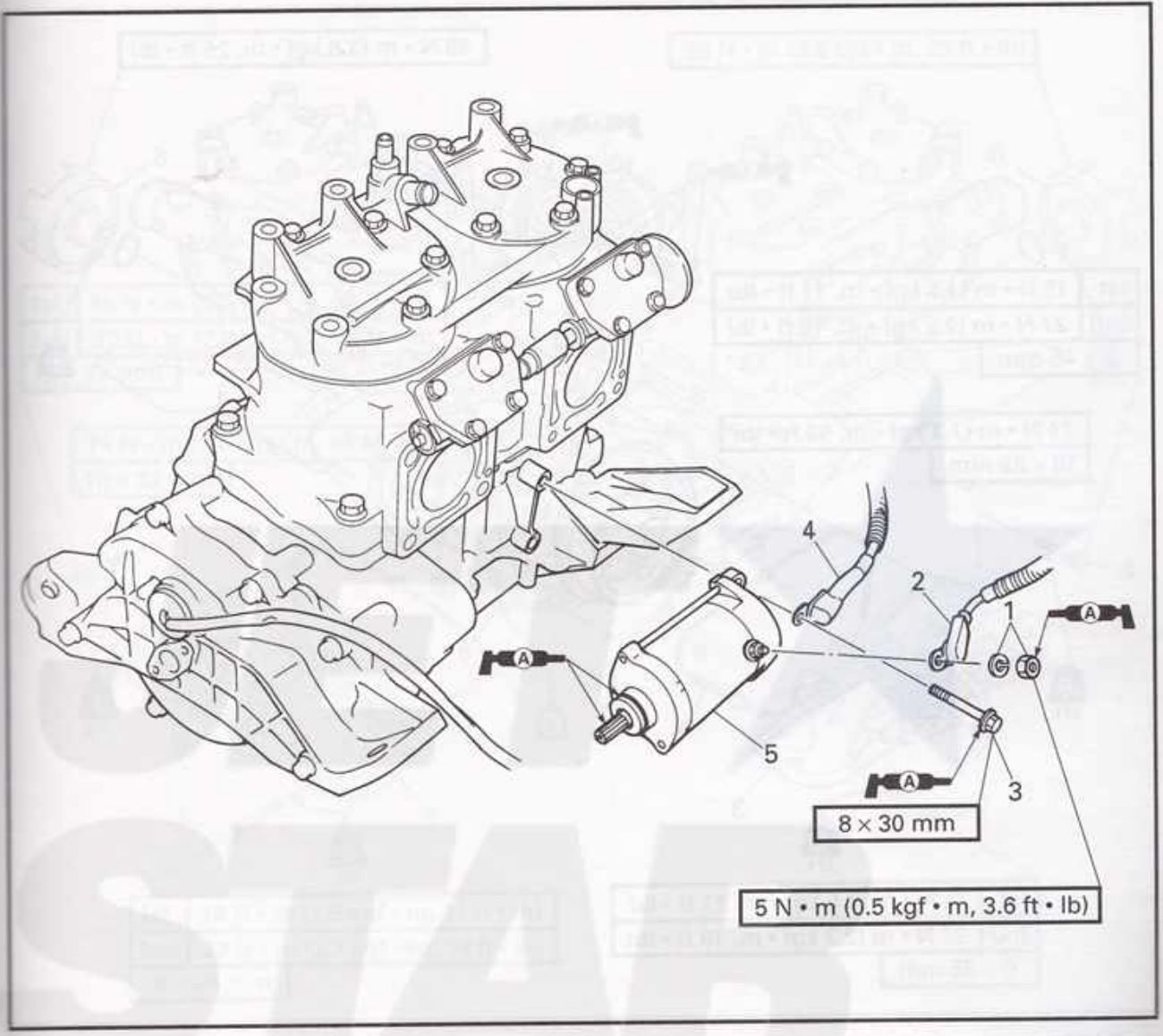
4. 点検

- ピストンピン、小端ベアリングとコネクティングロッドとの遊び
  (図のようにピストンピンと小端ベアリングをコネクティングロッドの小端部にはめて調べる)
  遊びがある／小端部の摩耗→ピストンピン、コネクティングロッド、小端ベアリング、またはすべてを交換

JET STAR

WWW.JET-STAR.JP

スタータモータ
長開図



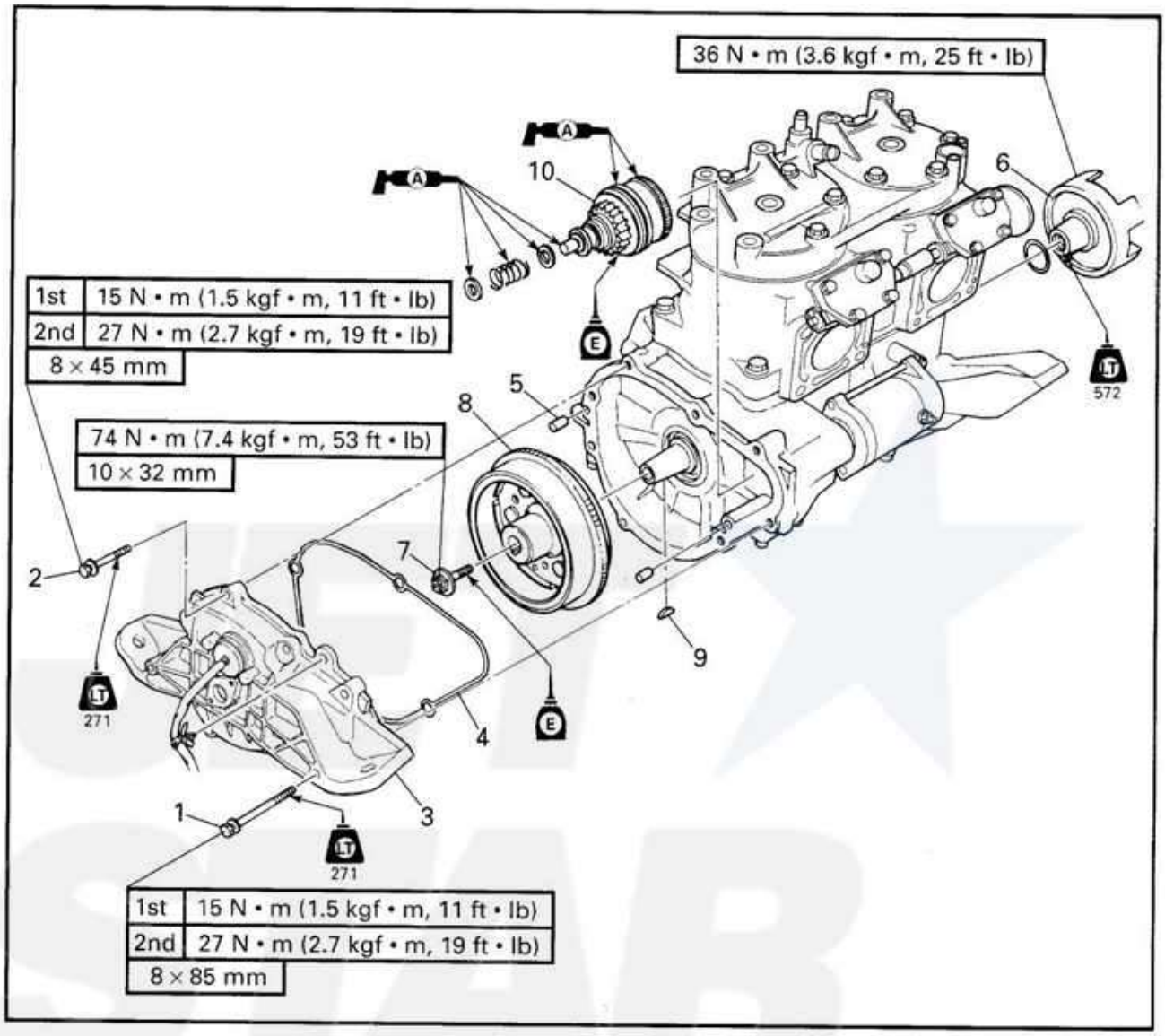
作業手順表

手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	スタータモータの取外		左欄の「手順」のとおりに取外す。
	エンジンユニット		「エンジンユニット」の項参照。
1	ナット／ワッシャ	1/1	
2	スタータモータリード線	1	
3	ボルト	2	
4	バッテリ ⊖ ケーブル	1	
5	スタータモータ	1	
			取付けは逆の手順で行う。

WWW.JET-STAR.JP

フライホイルマグネト

展開図



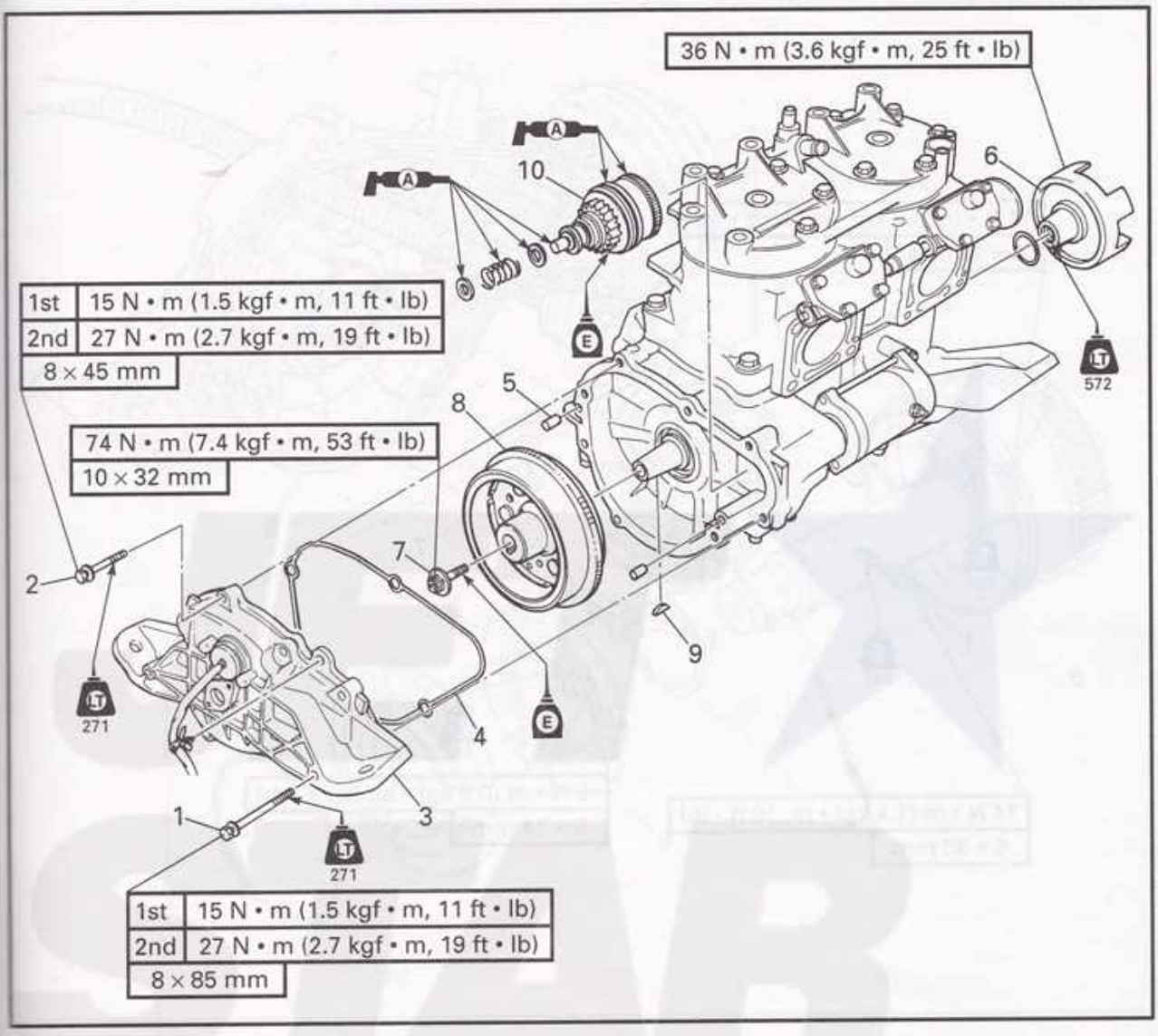
作業手順表

手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	フライホイルマグネトの取外		左欄の「手順」のとおりに取外す。
	エンジンユニット		「エンジンユニット」の項参照。
	オイルポンプ		第4章「オイルポンプ」の項参照。
1	ボルト	2	
2	ボルト	6	
3	ジェネレータカバー	1	
4	パッキン	1	
5	ピン	2	

WWW.JET-STAR.JP

フライホイルマグネット

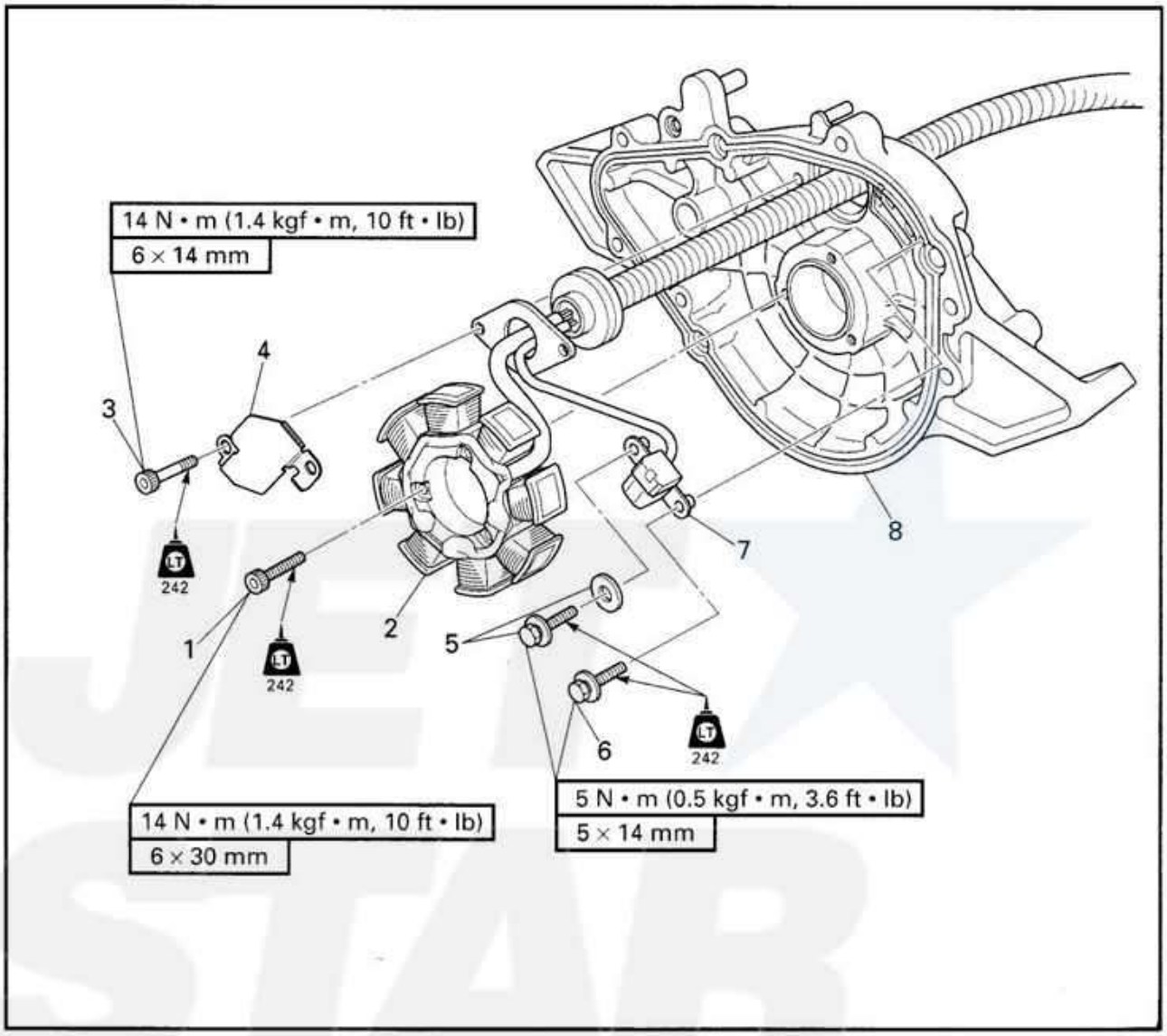
展開図



手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
6	ドライブカプリング	1	
7	ボルト	1	
8	フライホイルマグネト	1	
9	半月キー	1	
10	スタータクラッチアッセンブリ	1	
			取付けは逆の手順で行う。

WWW.JET-STAR.JP

展開図



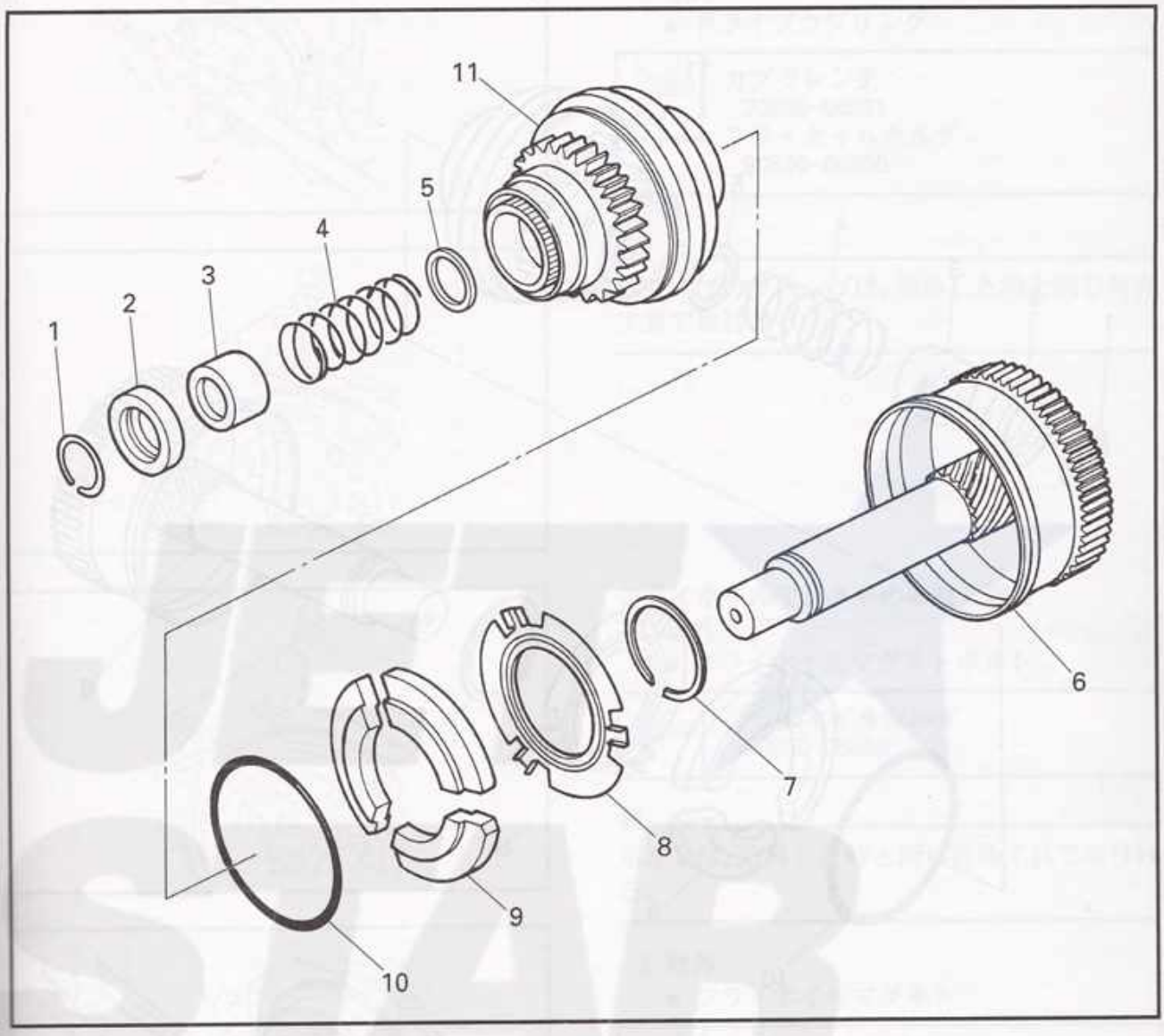
作業手順表

手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	ジェネレータカバーの分解		左欄の「手順」のとおりに分解する。
1	ボルト	3	
2	ステータコイル	1	
3	ボルト	2	
4	ケーブルホルダ	1	**要　点**
5	ボルト／ワッシャ	1/1	ここのワッシャでピックアップコイルの配線を保持する。ボルト組付時、突起部とワッシャの間に配線を挟み込まないようにする。
6	ボルト	1	
7	ピックアップコイル	1	
8	ジェネレータカバー	1	
			組立は逆の手順で行う。

WWW.JET-STAR.JP

フライホイルマグネト

展開図



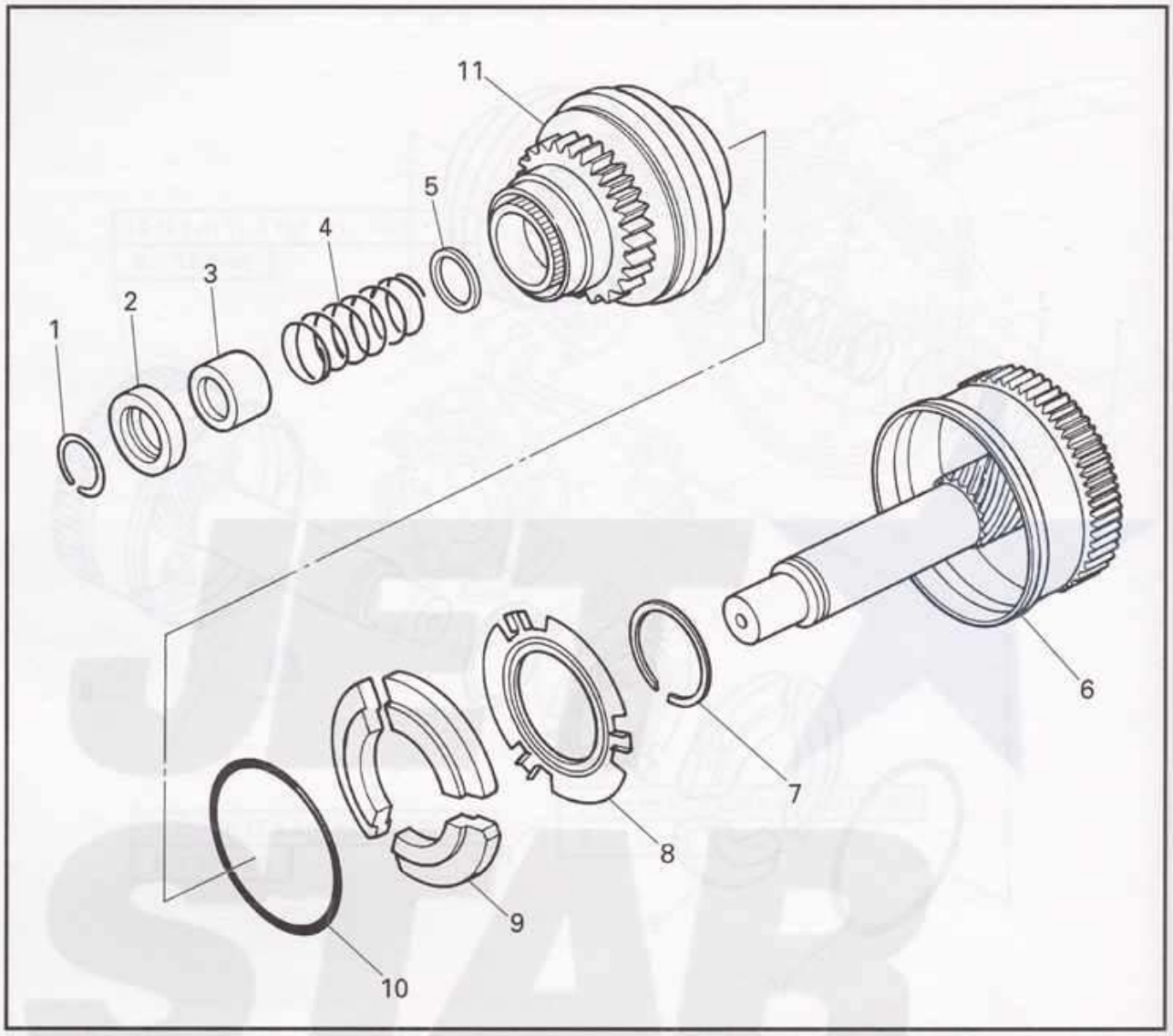
作業手順表

手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	スタータクラッチの分解		左欄の「手順」のとおりに分解する。
1	クリップ	1	再使用不可
2	クリップストッパ	1	
3	スプリングシート	1	
4	スプリング	1	
5	ワッシャ	1	
6	アイドルギヤ	1	
7	サークリップ	1	

WWW.JET-STAR.JP

フライホイルマグネト

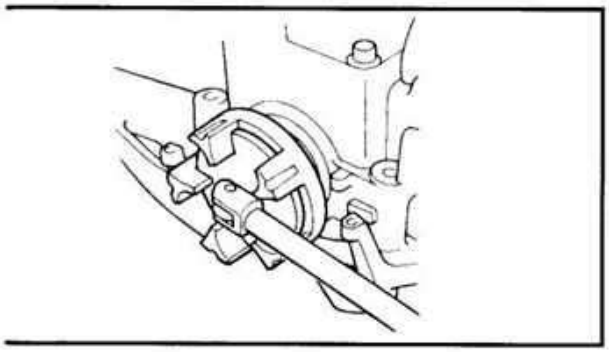
展開図



手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
8	プレート	1	
9	ウエイト（おもり）	3	
10	スプリングリング	1	**要　点** 組立時はウエイト、プレートおよびサークリップを取付け後に、スプリングリングを取付ける。
11	ピニオンギヤ	1	
			組立は逆の手順で行う。

WWW.JET-STAR.JP

フライホイルマグネット



サービスポイント

ドライブカプリングの取外と取付

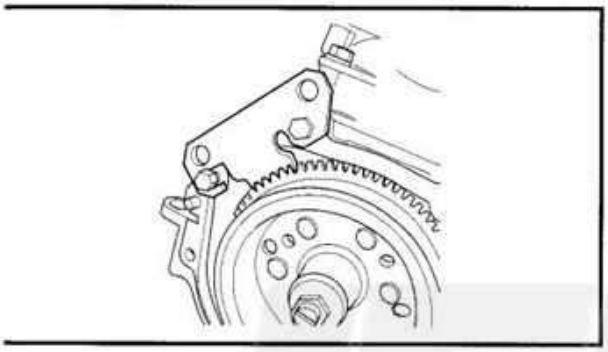
1. 取外

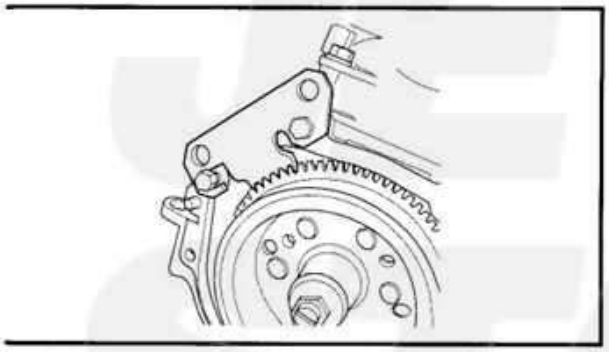
- ドライブカプリング

	カプラレンチ： 90890-06551 フライホイルホルダ： 90890-06550

要　点

ドライブカプリングは、取外した時と同じ特殊工具で取付ける。





フライホイルマグネットの取外と取付

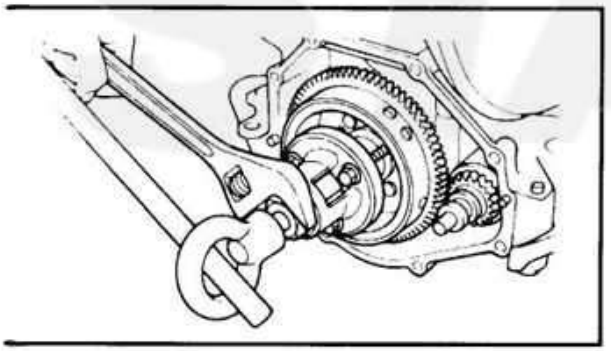
1. 取外

- フライホイルマグネットボルト

	フライホイルホルダ： 90890-06550

要　点

ボルトは、取外した時と同じ特殊工具で取付ける。



2. 取外

- フライホイルマグネット

	フライホイルプラー： 90890-06521 セットボルト： M8 × 60mm

⚠注　意

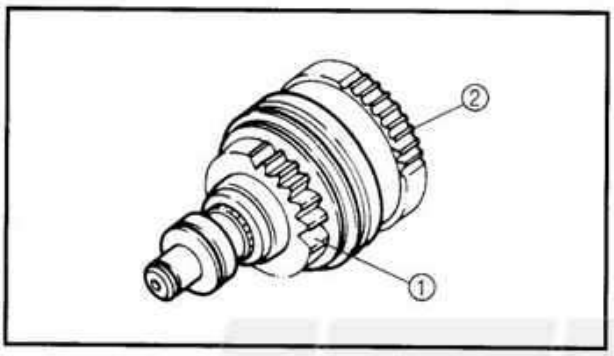
エンジンや工具の損傷防止のため、フライホイルプラーの板面がジェネレータロータと平行になるようにフライホイルプラーのセットボルトを均等且つ完全にねじ込むこと。

WWW.JET-STAR.JP

フライホイルマグネット

ドライブカプリングの点検
1. 点検
   - ドライブカプリング
     損傷／摩耗→交換

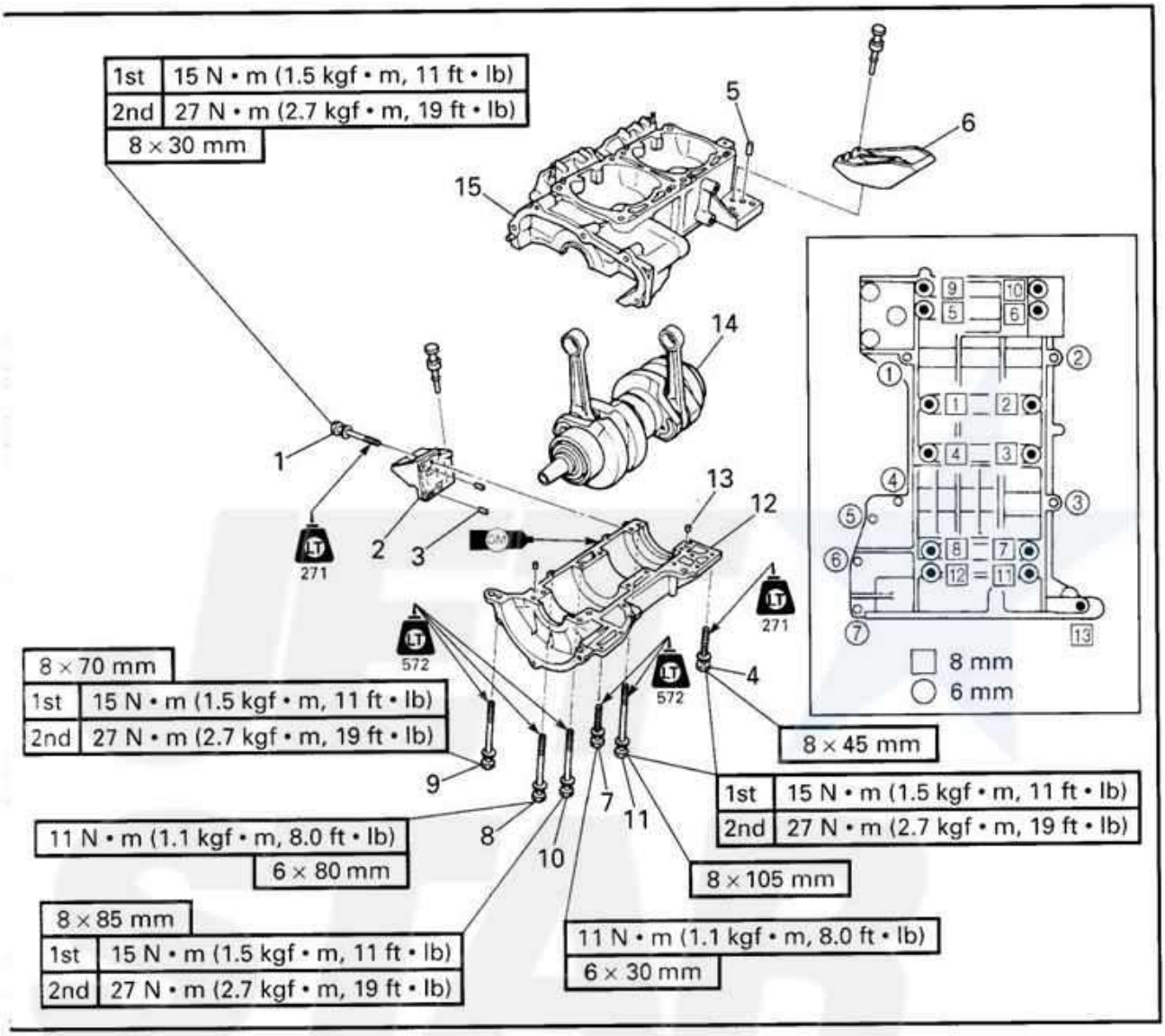
フライホイルマグネットの点検
1. 点検
   - リングギヤ
     損傷／摩耗→交換



スタータクラッチアッセンブリの点検
1. 点検
   - ピニオンギヤ ①
   - アイドルギヤ ②
     損傷／摩耗→交換
2. 点検
   - ギヤの動き
     スムーズに動かない→不具合部品を交換

WWW.JET-STAR.JP

クランクケース
展開図

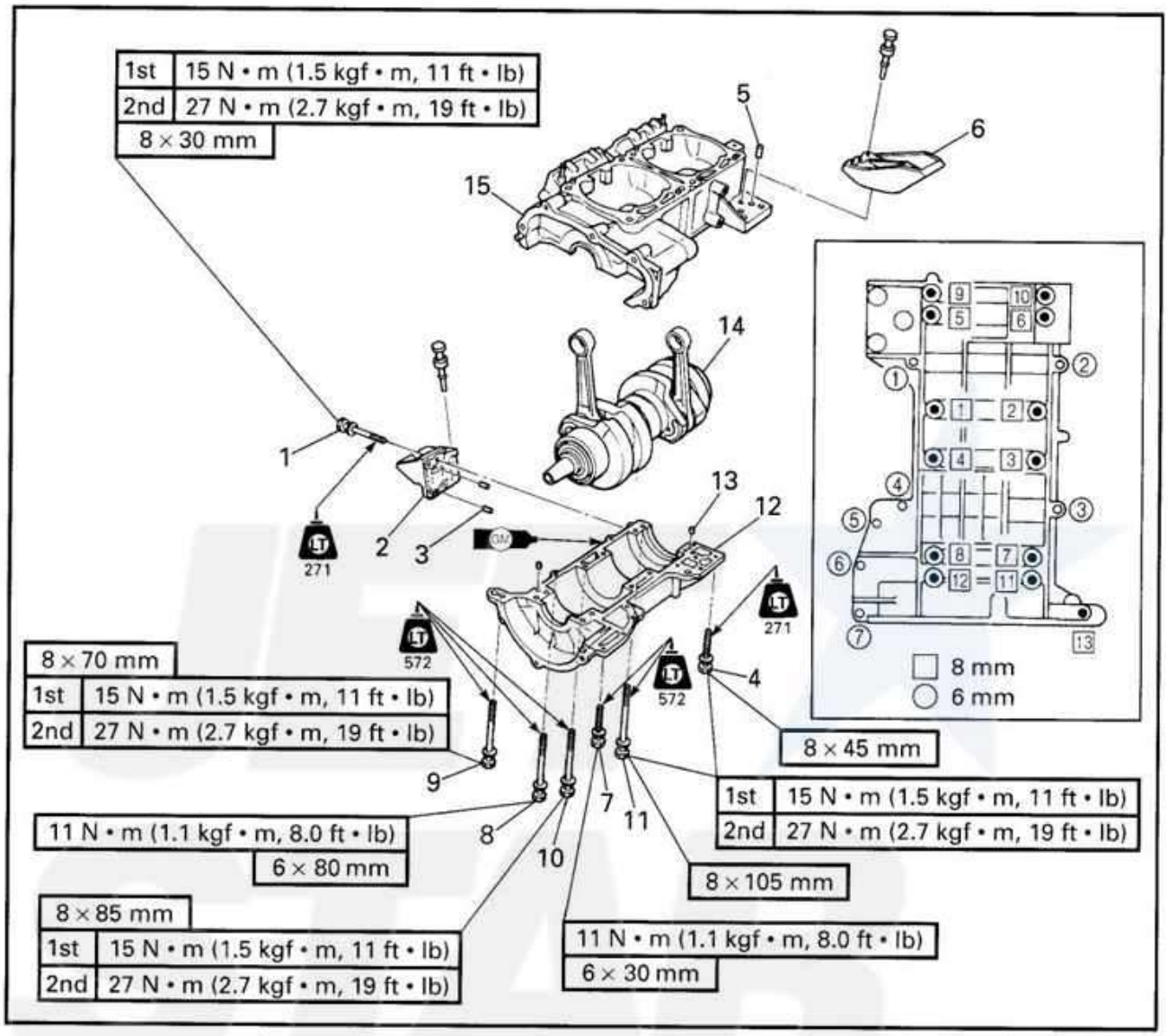


作業手順表

手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	クランクケースの分解		左欄の「手順」のとおりに分解する。
	ピストン		「ピストン」の項参照。
	スタータモータ		「スタータモータ」の項参照。
	ジェネレータカバー		「フライホイルマグネト」の項参照。
1	ボルト	3	
2	マウントブラケット 1	1	
3	ピン	2	
4	ボルト	3	
5	ピン	2	
6	マウントブラケット 2	1	
7	ボルト	4	

WWW.JET-STAR.JP

展開図



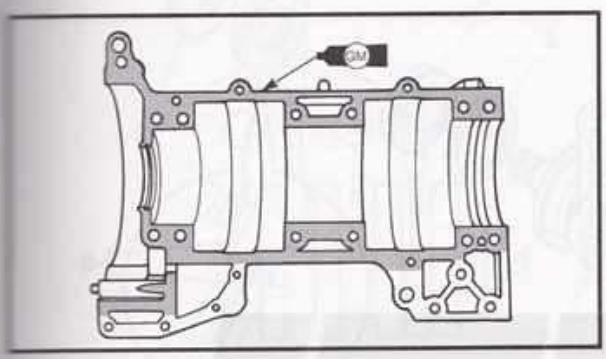
手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
8	ボルト	3	
9	ボルト	1	要　点
10	ボルト	10	ボルトは図に示す通りの正しい順序で締付ける。
11	ボルト	2	
12	ロワークランクケース	1	
13	ピン	2	
14	クランクシャフトアッセンブリ	1	
15	アッパクランクケース	1	
			組立は逆の手順で行う。

WWW.JET-STAR.JP

サービスポイント

クランクケースの点検

1. 点検
   - クランクケースの合面
     ひっかき傷→クランクケースを交換
   - クランクケース
     亀裂／損傷→交換



クランクケースの取付

1. 塗布
   - ガスケットメーカ
     （クランクケースの合面に塗布）

要　点

ガスケットメーカを塗布する前に、クランクケースの合面を清掃する。

2. 点検
   - クランクシャフト
     スムーズに動かない→再点検

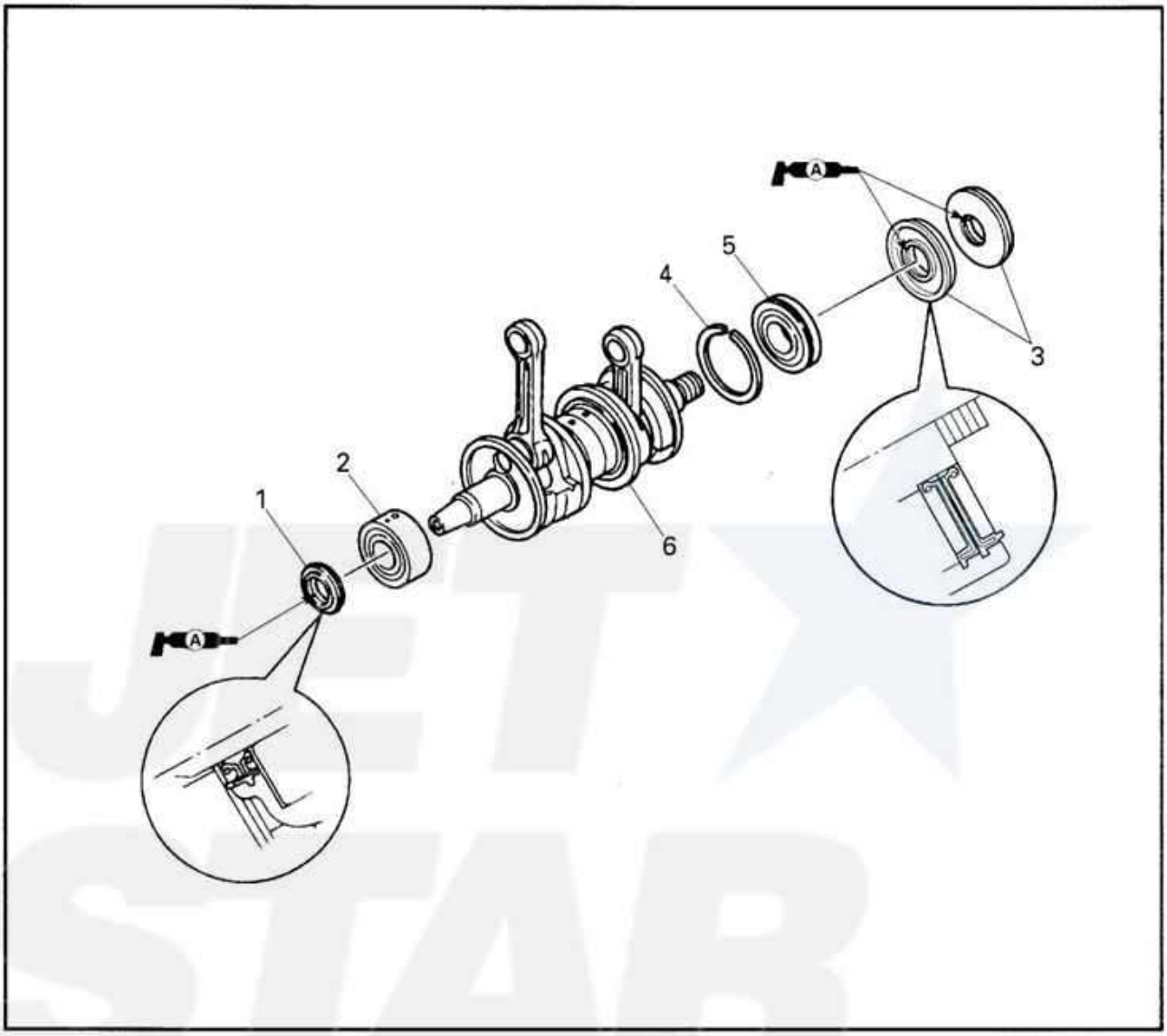
要　点

取付け後、クランクシャフトがスムースに動くか確認する。

WWW.JET-STAR.JP

クランクシャフト

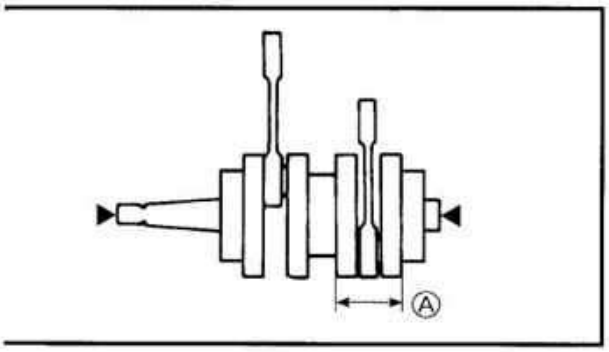
展開図



作業手順表

手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	クランクシャフトの取外		左欄の「手順」のとおりに取外す。
	クランクケース		「クランクケース」の項参照。
1	オイルシール	1	
2	ベアリング	1	
3	オイルシール	2	
4	ベアリングクリップ	1	
5	ベアリング	1	
6	クランクシャフト	1	⚠注 意 ベアリングの位置決めピンをクランクケースボディの溝に入れること。
			取付けは逆の手順で行う。

WWW.JET-STAR.JP



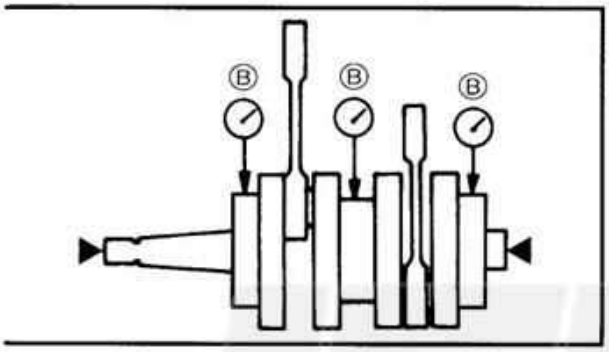
サービスポイント

クランクシャフトの点検

1. 測定

- クランク幅 Ⓐ
  規定値以外→交換

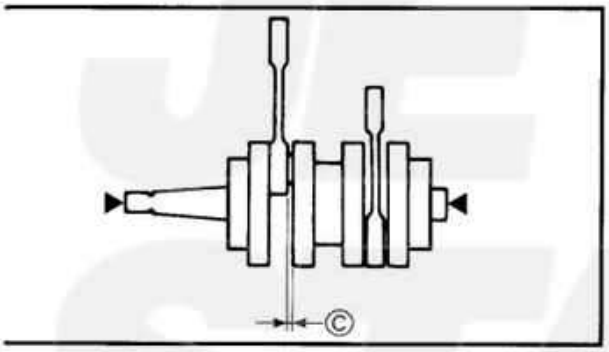
クランク幅：	72.95 ～ 73.00mm



2. 測定

- 振れ Ⓑ
  （ダイアルゲージを使用）
  限度以上→交換

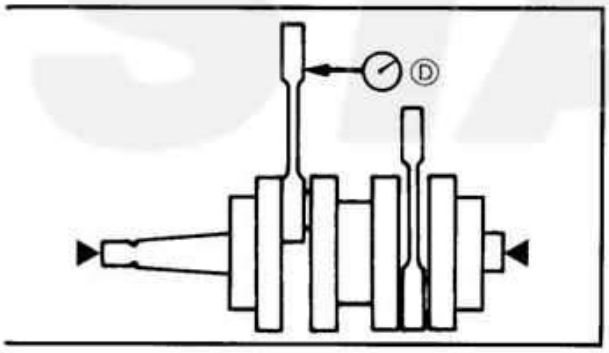
最大振れ限度：	0.05mm



3. 測定

- 大端サイドクリアランス Ⓒ
  （シックネスゲージを使用）
  規定値以外→交換

大端サイドクリアランス：	0.25 ～ 0.75mm

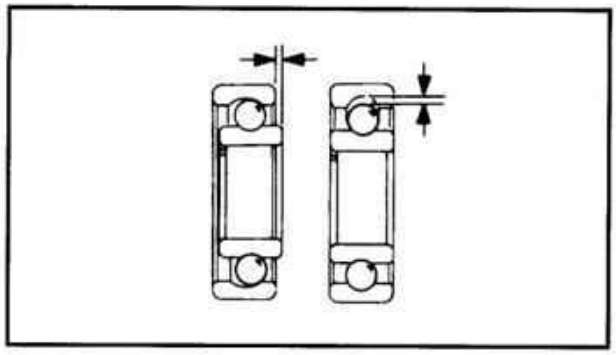


4. 測定

- 小端の遊び Ⓓ
  （ダイアルゲージを使用）
  限度以上→交換

小端の遊び限度：	2.0mm

WWW.JET-STAR.JP



5. 点検
- ベアリング
  損傷／ピッチング→交換

要　点
- 点検の前にベアリング類を完全に清掃する。
- 防錆のため、点検後直ちにベアリングに潤滑油を塗っておく。

6. 点検
- オイルシール
  損傷／摩耗→交換

JET STAR

WWW.JET-STAR.JP

第6章
ジェットポンプユニット

ジェットポンプユニット 6-1
展開図 6-1
作業手順表 6-1

ジェットノズル、ノズルリング 6-4
展開図 6-4
作業手順表 6-4

インペラダクト、インペラハウジング、インテークダクト 6-5
展開図 6-5
作業手順表 6-5

インペラダクト、ドライブシャフト 6-7
展開図 6-7
作業手順表 6-7
サービスポイント 6-9
ドライブシャフトの取外 6-9
インペラの点検 6-10
ドライブシャフトの点検 6-10
ドライブシャフトの取付 6-10

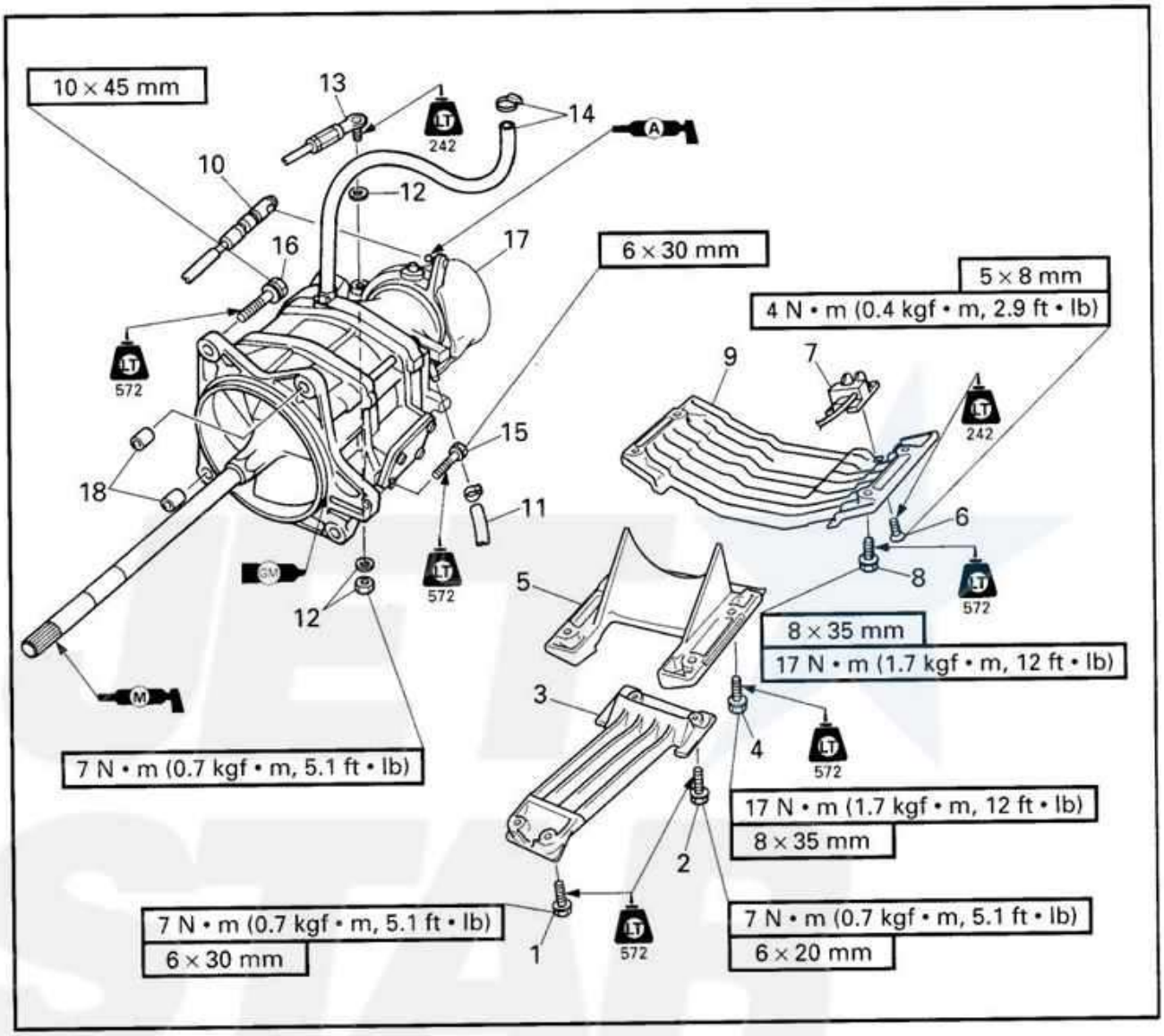
トランサムプレート、ホース 6-13
展開図 6-13
作業手順表 6-13
サービスポイント 6-15
ビルジストレーナの点検 6-15
ビルジホースの点検 6-15

中間ハウジング 6-16
展開図 6-16
作業手順表 6-16
サービスポイント 6-19
ドリブンカプリングの取外と取付 6-19
中間軸の取外 6-19
ベアリングの取外 6-19
ベアリング、中間軸、グリスホースの点検 6-20
ドリブンカプリングの点検 6-20
ベアリングの取付 6-20
オイルシールの取付 6-20
中間ハウジングの取付 6-21

WWW.JET-STAR.JP

ジェットポンプユニット

ジェットポンプユニット
展開図



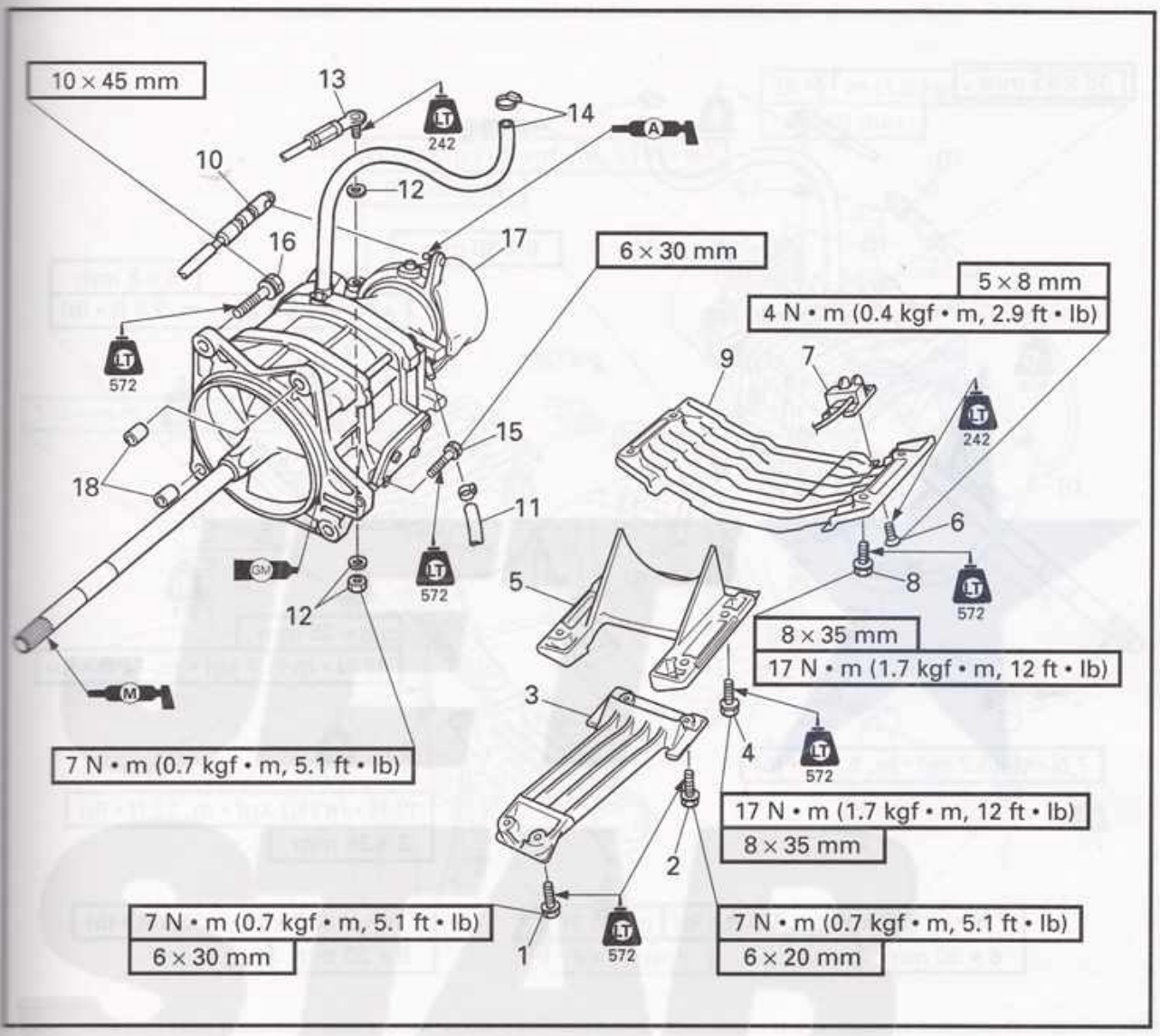
作業手順表

手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	ジェットポンプユニットの取外		左欄の「手順」のとおりに取外す。
1	ボルト	2	
2	ボルト	2	
3	ジェットインテーク	1	
4	ボルト	4	
5	インテークダクト	1	
6	スクリュ	4	
7	スピードセンサ	1	**要 点** スピードセンサリード線は、ジェットポンプユニットとビルジホースの間に通す。

WWW.JET-STAR.JP

ジェットポンプユニット

展開図

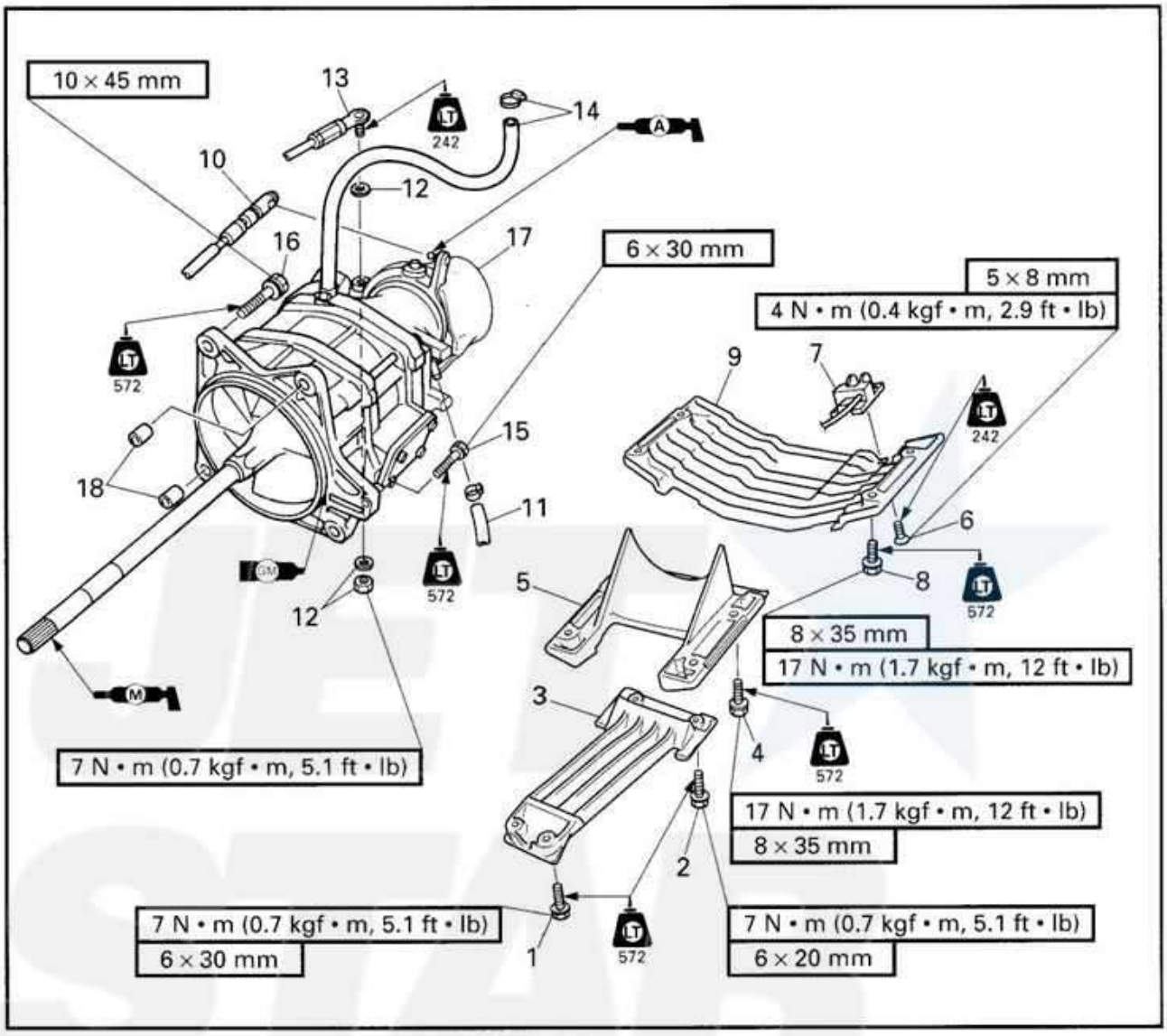


手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
8	ボルト	4	
9	ライドプレート	1	
10	QSTS ケーブルジョイント	1	
11	ビルジホース	1	
12	ナット／ワッシャ	1/2	
13	ステアリングケーブルジョイント	1	
14	クランプ／ホース	1/1	
15	ボルト	1	
16	ボルト	4	

WWW.JET-STAR.JP

ジェットポンプユニット

展開図

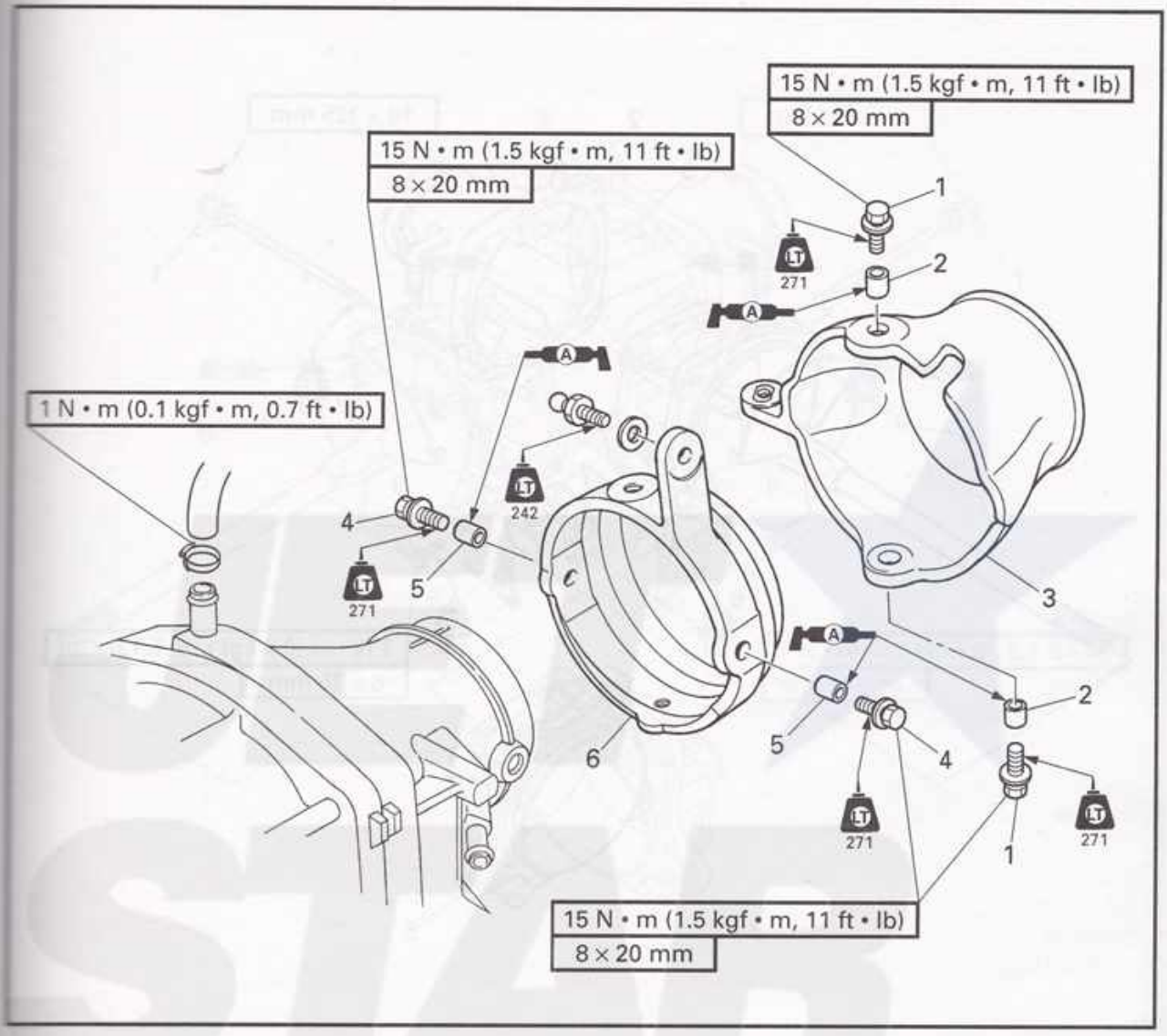


手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
17	ジェットポンプユニットアッセンブリ	1	要　点 ● ジェットポンプユニットをまっすぐ後方に引出す。 ● ジェットポンプユニットを取付けるときは、ドライブシャフトのスプライン（オス）を中間軸のスプライン（メス）にかみ合わせる。
18	ダウエルピン	2	
			取付けは逆の手順で行う。

WWW.JET-STAR.JP

ジェットノズル、ノズルリング

ジェットノズル、ノズルリング
展開図



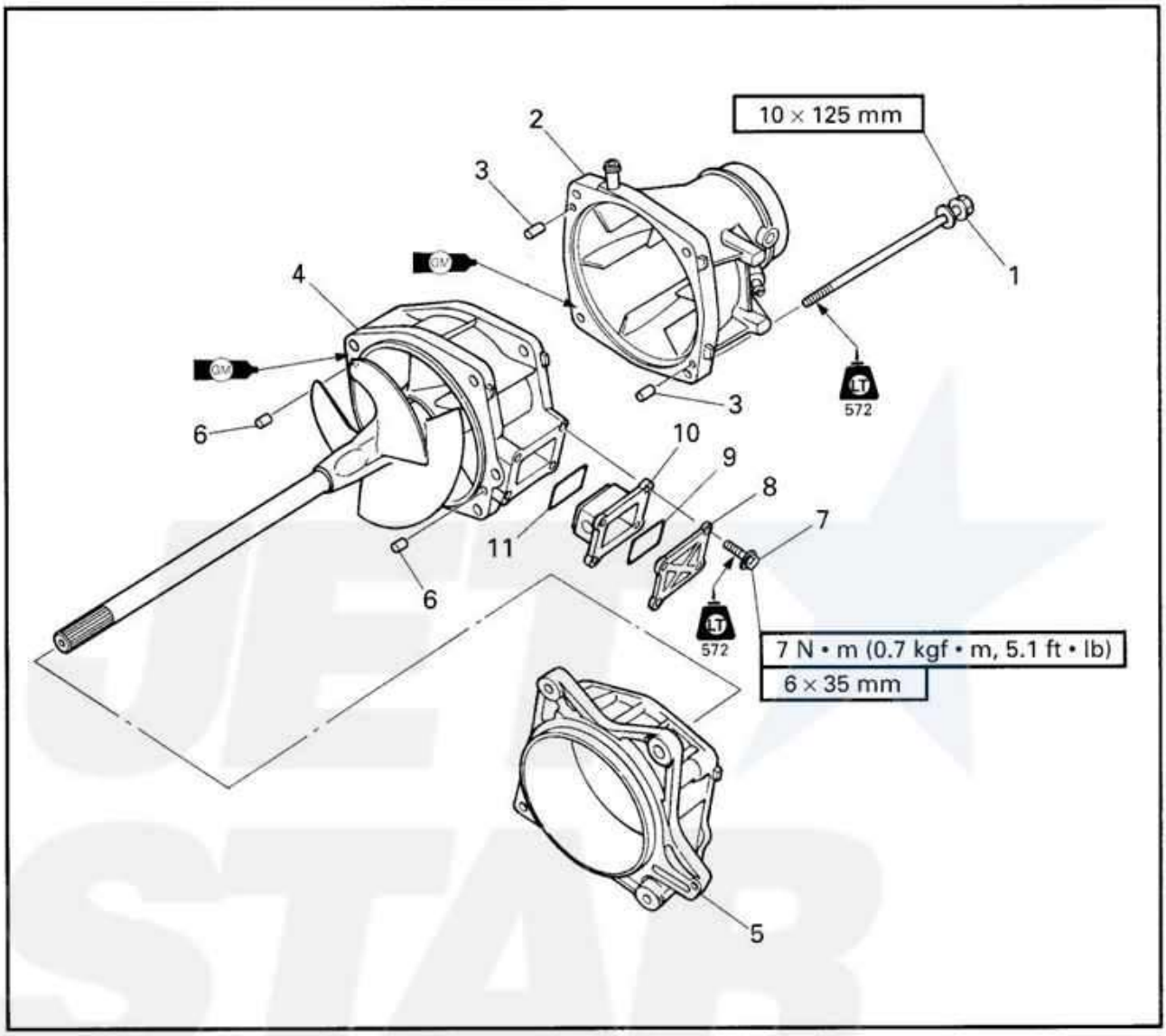
作業手順表

手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	ジェットノズル、ノズルリングの取外		左欄の「手順」のとおりに取外す。
	ジェットポンプユニット		「ジェットポンプユニット」の項参照。
1	ボルト	2	
2	カラー	2	
3	ジェットノズル	1	
4	ボルト	2	
5	カラー	2	
6	ノズルリング	1	
			取付けは逆の手順で行う。

WWW.JET-STAR.JP

インペラダクト、インペラハウジング、インテークダクト

展開図



作業手順表

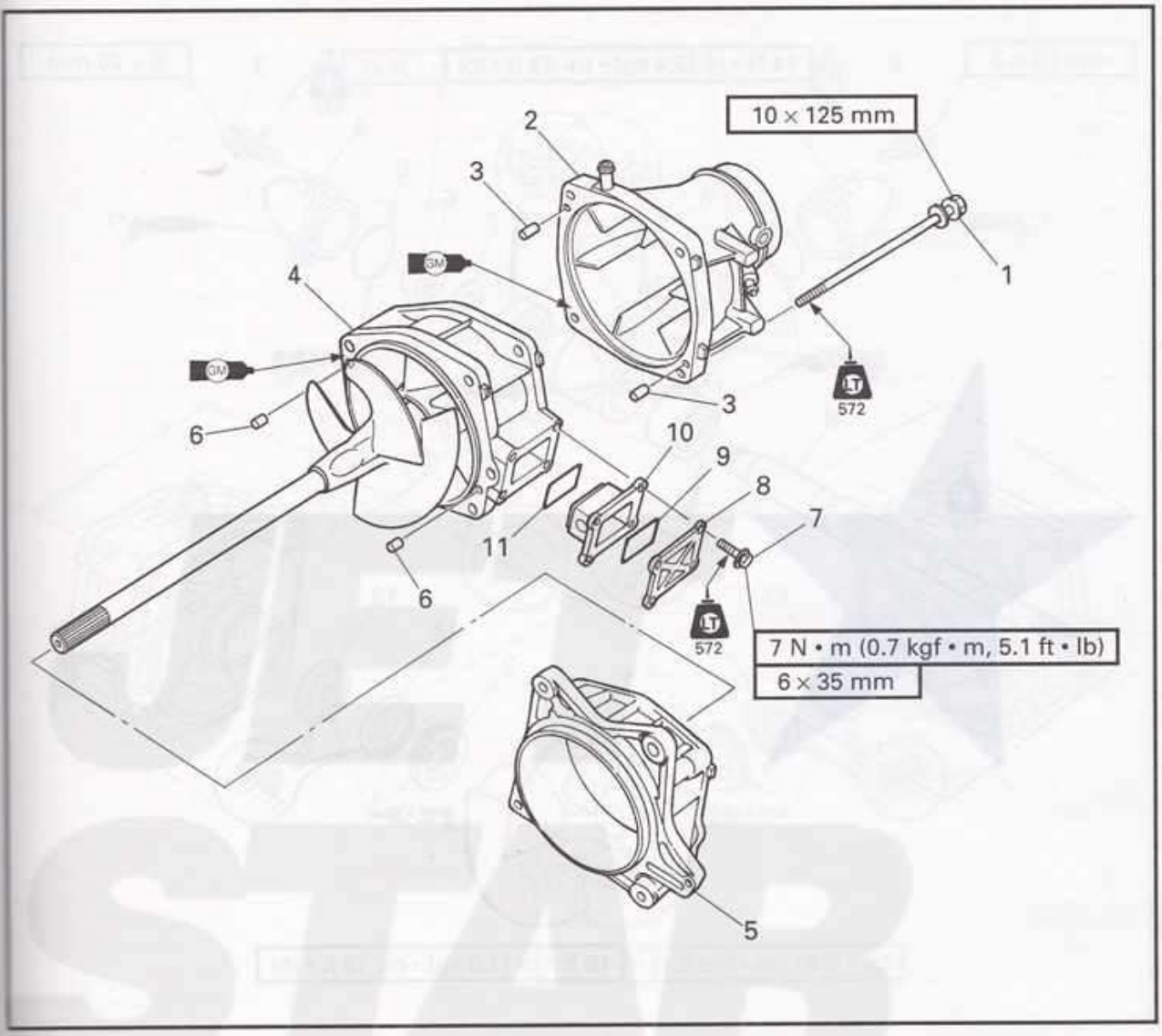
手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	インペラダクト、インペラハウジングの取外 ノズルリング		左欄の「手順」のとおりに取外す。 「ジェットノズル、ノズルリング」の項参照。
1	ボルト	4	
2	ノズル	1	**要　点**
3	ピン	2	ガスケットメーカを塗布する前に合面を清掃する。
4	インペラダクトアッセンブリ	1	
5	インペラハウジング	1	
6	ピン	2	

WWW.JET-STAR.JP

ジェットポンプユニット

インペラダクト、インペラハウジング、インテークダクト

展開図

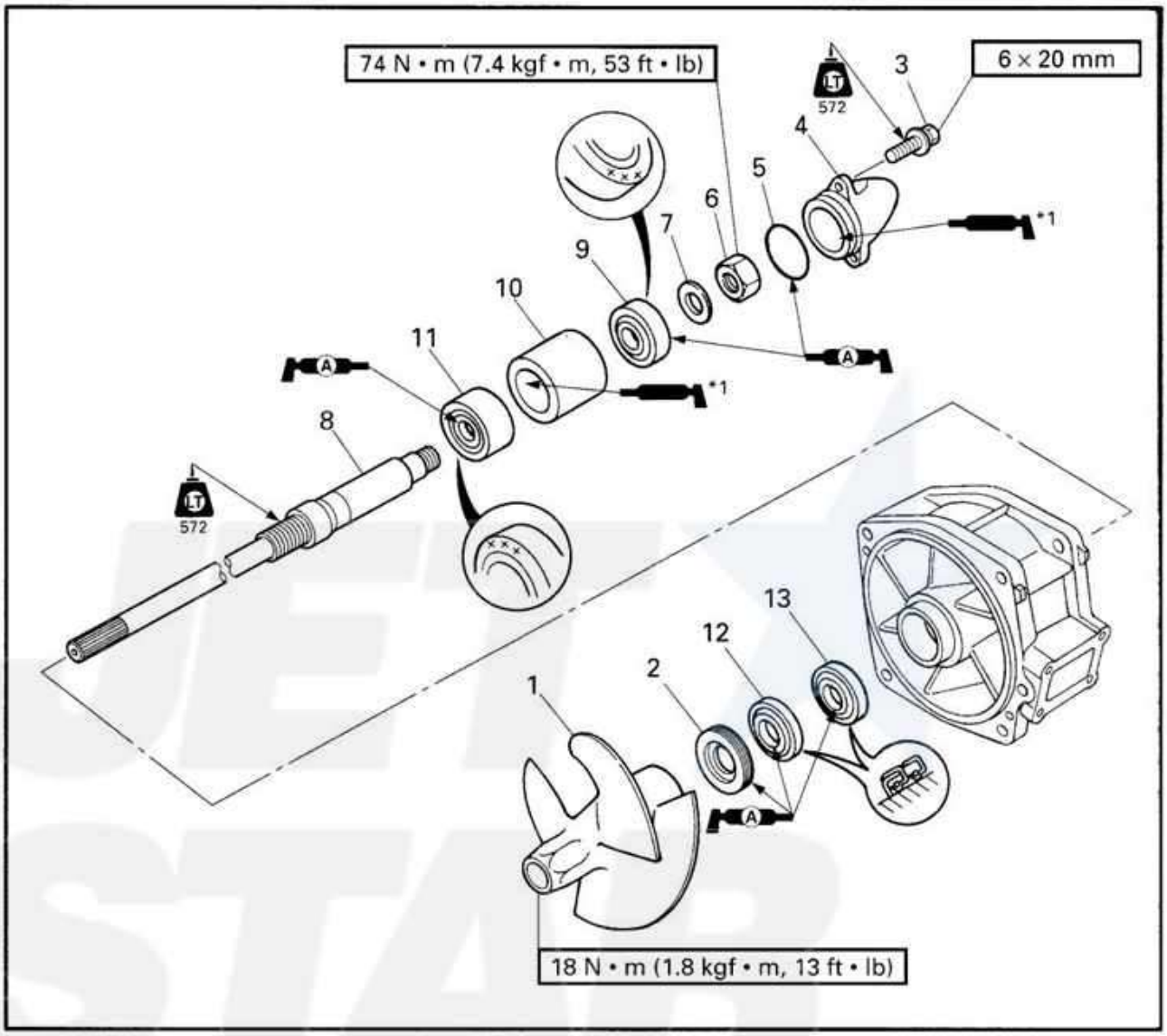


手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
7	ボルト	4	
8	冷却水取入口カバー	1	
9	パッキン	1	
10	冷却水ストレーナ	1	
11	パッキン	1	
			取付けは逆の手順で行う。

WWW.JET-STAR.JP

インペラダクト、ドライブシャフト

展開図



作業手順表

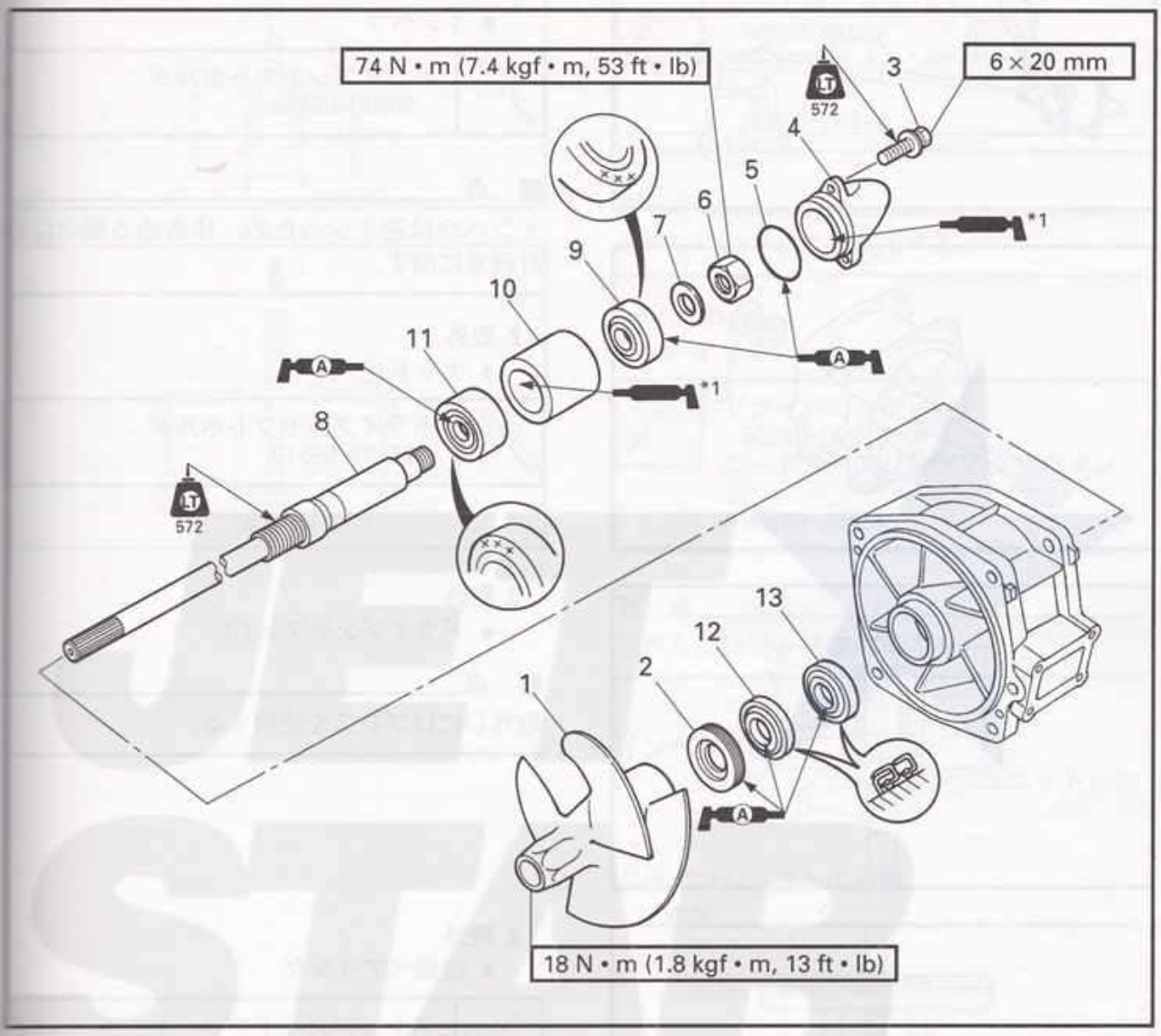
手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	インペラダクト、ドライブシャフトの分解		左欄の「手順」のとおりに分解する。
1	インペラ	1	逆ネジ
2	スペーサ	1	
3	ボルト	3	
4	キャップ	1	
5	O リング	1	
6	ナット	1	
7	ワッシャ	1	

*1: EPNOC グリス AP#0

WWW.JET-STAR.JP

インペラダクト、ドライブシャフト

展開図

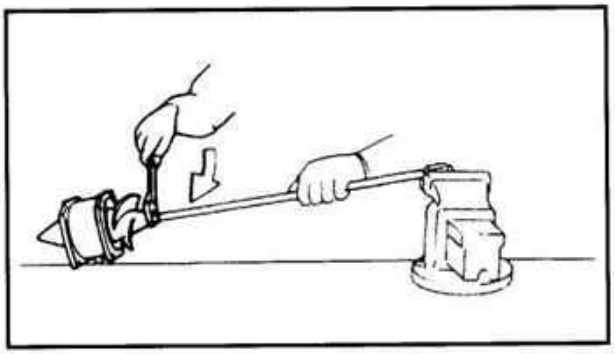


手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
8	ドライブシャフト	1	
9	後側ベアリング	1	再使用不可
10	スペーサ	1	
11	前側ベアリング	1	再使用不可
12	オイルシール	1	再使用不可
13	オイルシール	1	再使用不可
			組立は逆の手順で行う。

*1: EPNOC グリス AP#0

WWW.JET-STAR.JP

インペラダクト、ドライブシャフト



サービスポイント

ドライブシャフトの取外

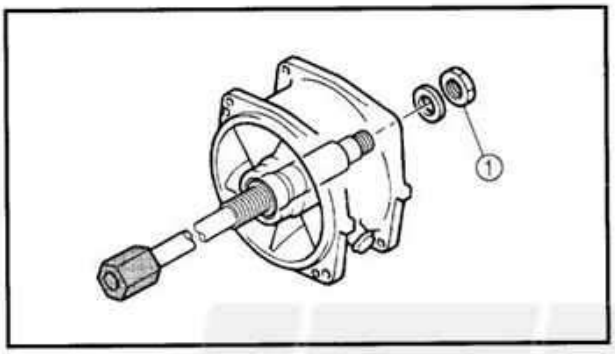
1. 取外

- インペラ

	ドライブシャフトホルダ： 90890-06519

要　点

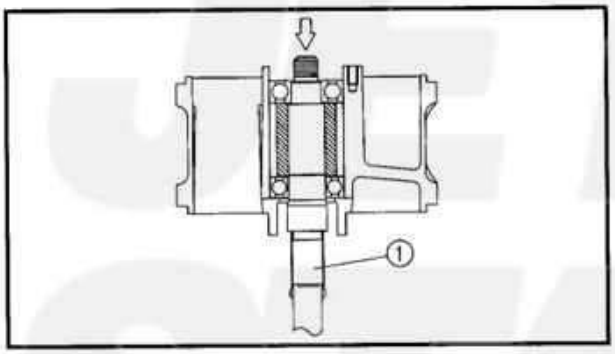
インペラは逆ネジのため、ゆるめる場合は時計回りに回す。



2. 取外

- ナット ①

	ドライブシャフトホルダ： 90890-06519

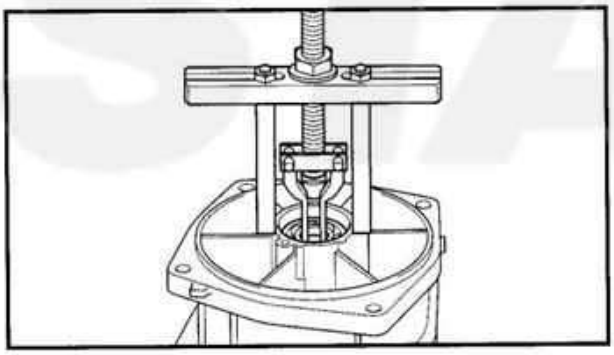


3. 取外

- ドライブシャフト ①

要　点

取外しにはプレスを使用する。



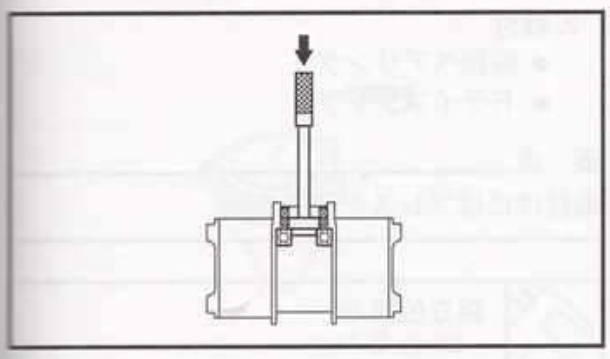
4. 取外

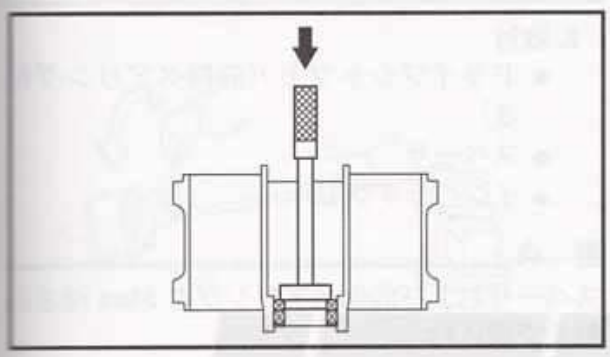
- 後側ベアリング

	ストッパガイドプレート： 90890-06501 ベアリングプラー： 90890-06535 ベアリングプラークロウ１： 90890-06536 ストッパガイドスタンド： 90890-06538

WWW.JET-STAR.JP

インペラダクト、ドライブシャフト





5. 取外
- 前側ベアリング

ドライバロッドL3：
90890-06652
ニードルベアリングアタッチメント：
90890-06614

要　点

取外しにはプレスを使用する。

6. 取外
- オイルシール

ドライバロッドL3：
90890-06652
ニードルベアリングアタッチメント：
90890-06653

要　点

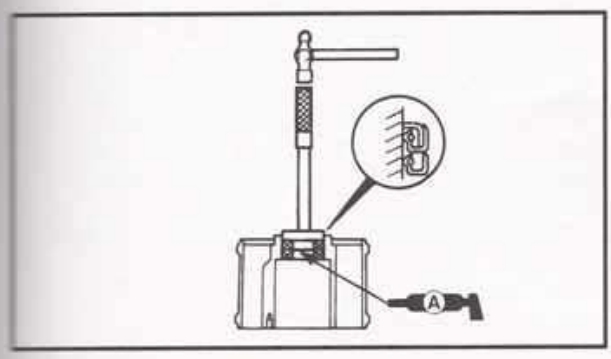
取外しにはプレスを使用する。

インペラの点検

第3章「ジェットポンプユニット」の　項参照。

ドライブシャフトの点検

1. 点検
- ドライブシャフト
  損傷／摩耗→交換



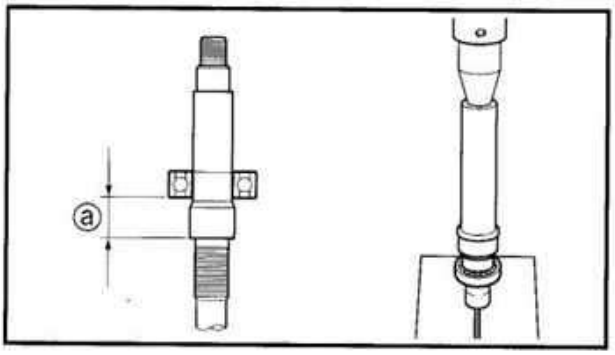
ドライブシャフトの取付

1. 取付
- オイルシール

ドライバロッド：
90890-06606
ボールベアリングアタッチメント：
90890-06634

WWW.JET-STAR.JP

インペラダクト、ドライブシャフト

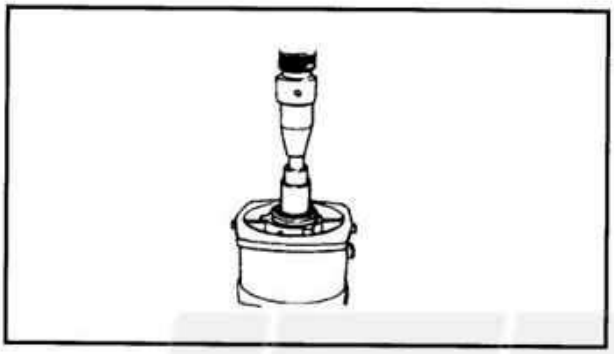


2. 取付
- 前側ベアリング
- ドライブシャフト

要　点

取付けにはプレスを使用する。

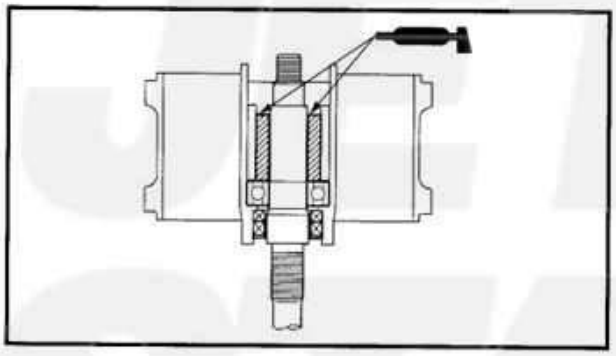
組立位置 ⓐ:
23 ± 0.1mm



3. 取付
- ドライブシャフト（前側ベアリング付き）
- スペーサ
- インペラダクト

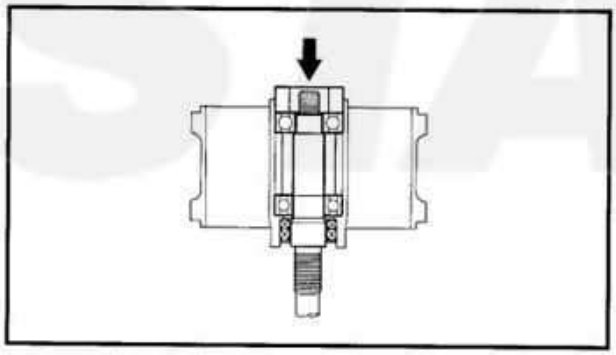
要　点

スペーサおよび前側ベアリングを 36mm 深さの軸受で押込む。



4. 充填
- EPNOC グリス AP#0
  （ドライブシャフトとスペーサの間）

グリス量：
ハウジング容量の約 1/3

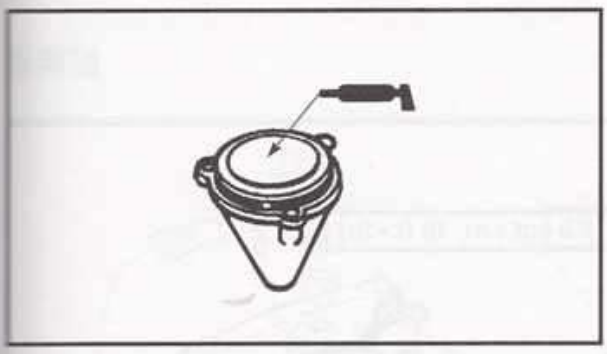


5. 取付
- 後側ベアリング

要　点
- ドライブシャフトとインペラダクトの位置がずれないように両方を保持し、ベアリングのインナレースとアウタレースを同時に押込む。
- 外形46mm、内径20mmのワッシャまたはパイプを使用する。

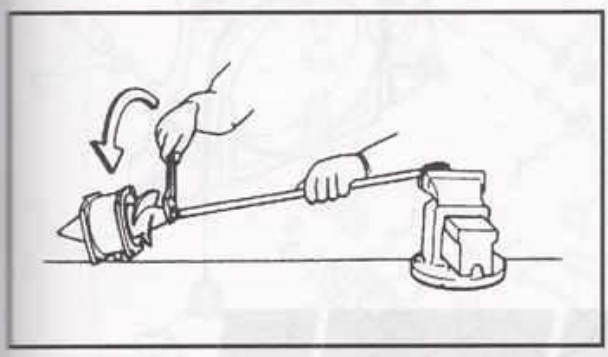
WWW.JET-STAR.JP

インペラダクト、ドライブシャフト



6. 充填
- EPNOC グリス AP#0（キャップ内）

グリス量：
キャップ容量の約 1/3



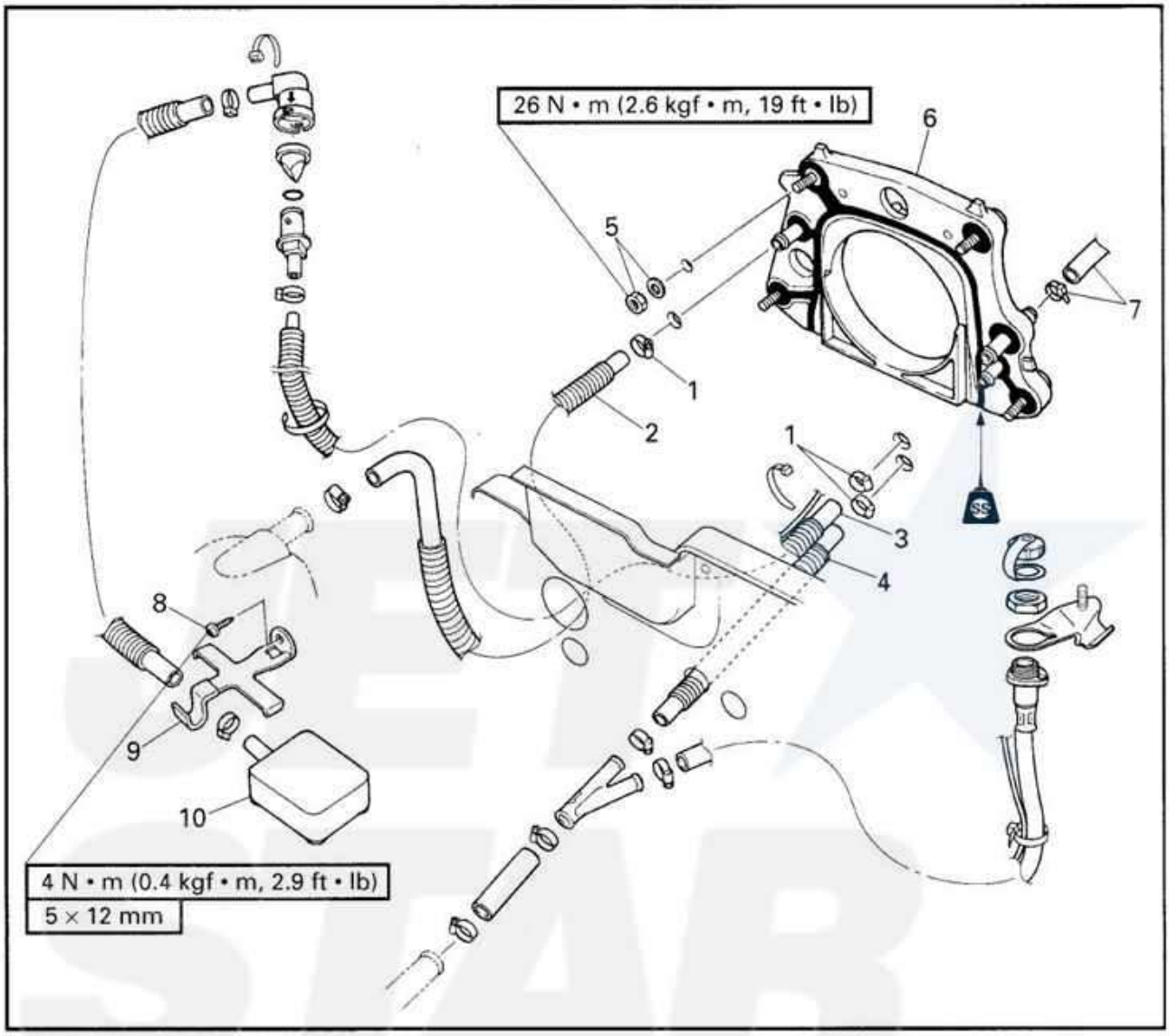
7. 取付
- ナット
- インペラ

ドライブシャフトホルダ：
90890-06519

WWW.JET-STAR.JP

トランサムプレート、ホース

展開図



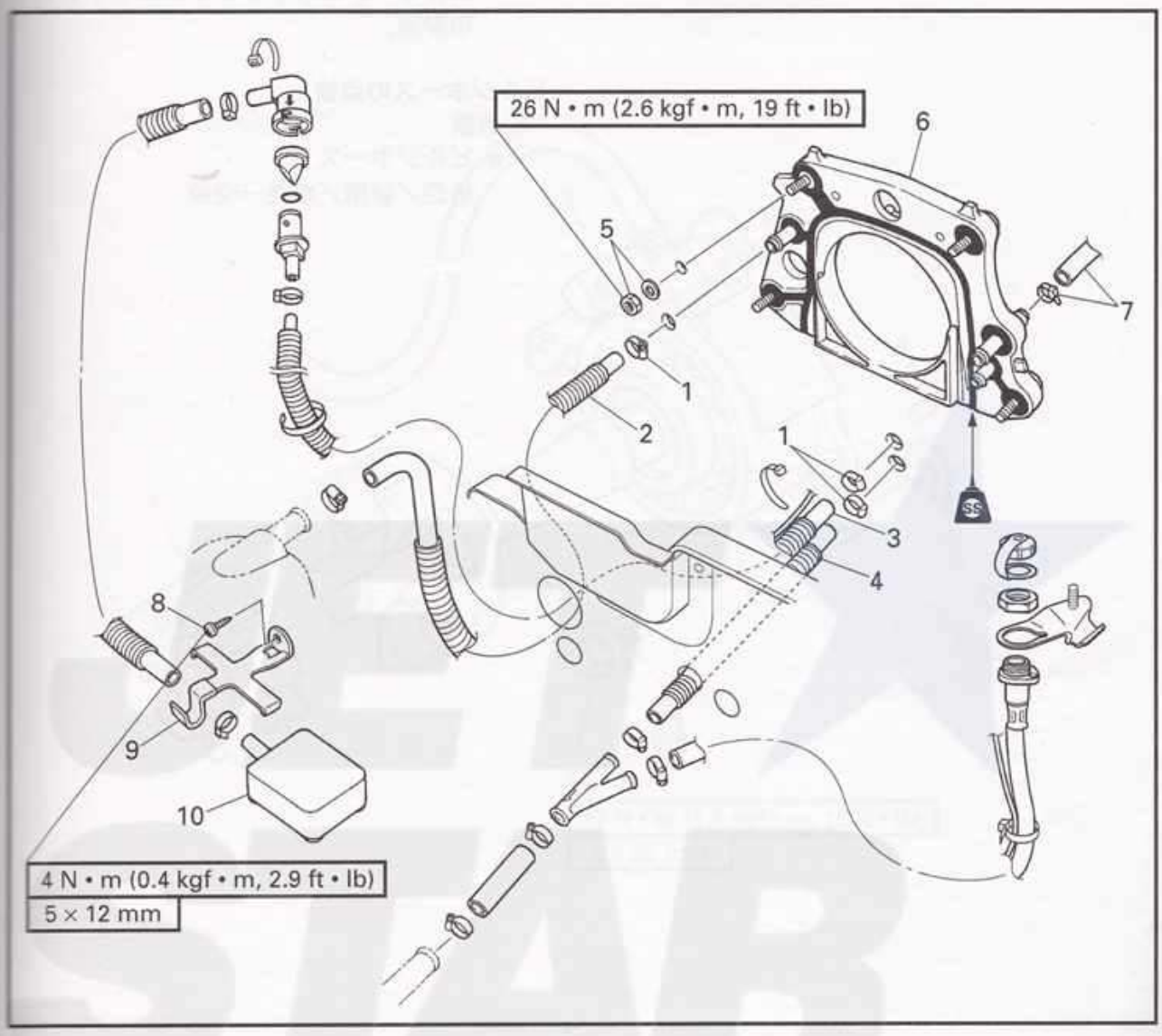
作業手順表

手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	トランサムプレート、ホースの取外		左欄の「手順」のとおりに取外す。
	エキゾーストシステム		第8章「エキゾーストシステム」の項参照。
	ジェットポンプユニット		「ジェットポンプユニット」の項参照。
1	ホースクランプ	3	
2	冷却水ホース	1	冷却水排水
3	ビルジホース1	1	**要　点** ビルジホース1はドライブシャフトチューブの下に通す。

WWW.JET-STAR.JP

トランサムプレート、ホース

展開図



手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
4	冷却水ホース	1	冷却水給水
5	ナット／ワッシャ	4/4	
6	トランサムプレート	1	
7	クランプ／ビルジホース２	1/1	
8	スクリュ	1	
9	ビルジストレーナホルダ	1	
10	ビルジストレーナ	1	
			取付けは逆の手順で行う。

WWW.JET-STAR.JP

トランサムプレート、ホース

サービスポイント

ビルジストレーナの点検

第3章「ジェットポンプユニット」の　項参照。

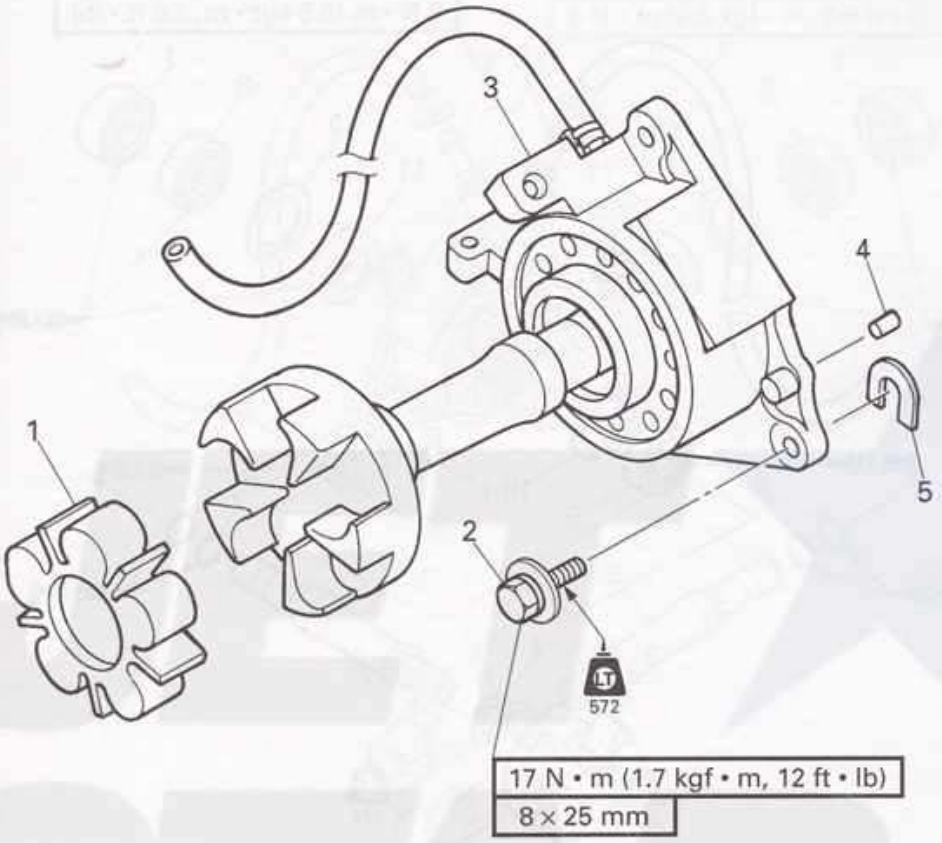
ビルジホースの点検

1. 点検
   - ビルジホース
     亀裂／破損／摩耗→交換

WWW.JET-STAR.JP

中間ハウジング

展開図



作業手順表

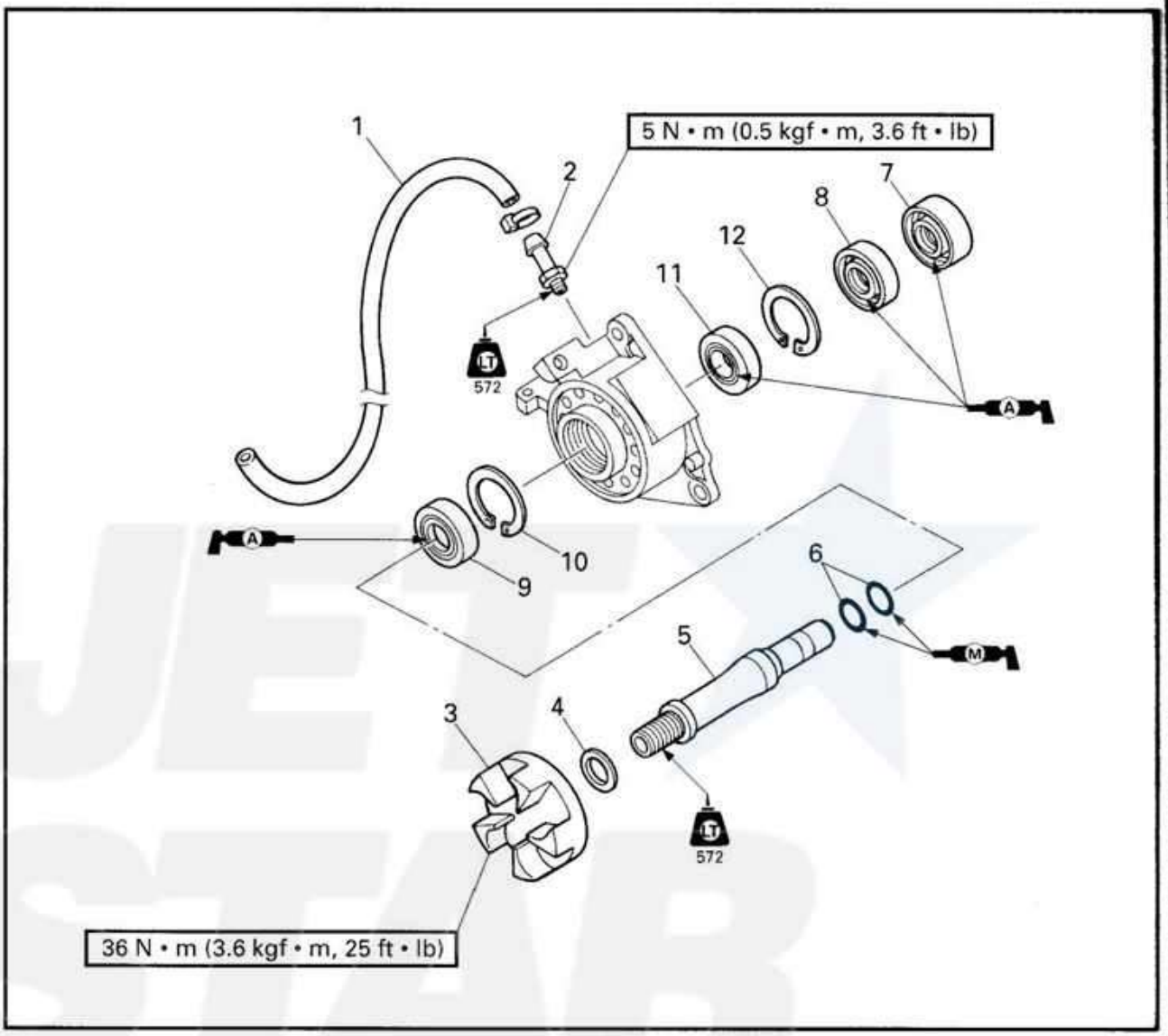
手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	中間ハウジングの取外		左欄の「手順」のとおりに取外す。
	エンジンユニット		第5章「エンジンユニット」の項参照。
1	ラバーカプリング	1	
2	ボルト	3	
3	中間ハウジングアッセンブリ	1	
4	ピン	2	
5	シム	*	要　点
			シムは元の位置に取付ける。
			取付けは逆の手順で行う。

*: 必要数

WWW.JET-STAR.JP

中間ハウジング

展開図



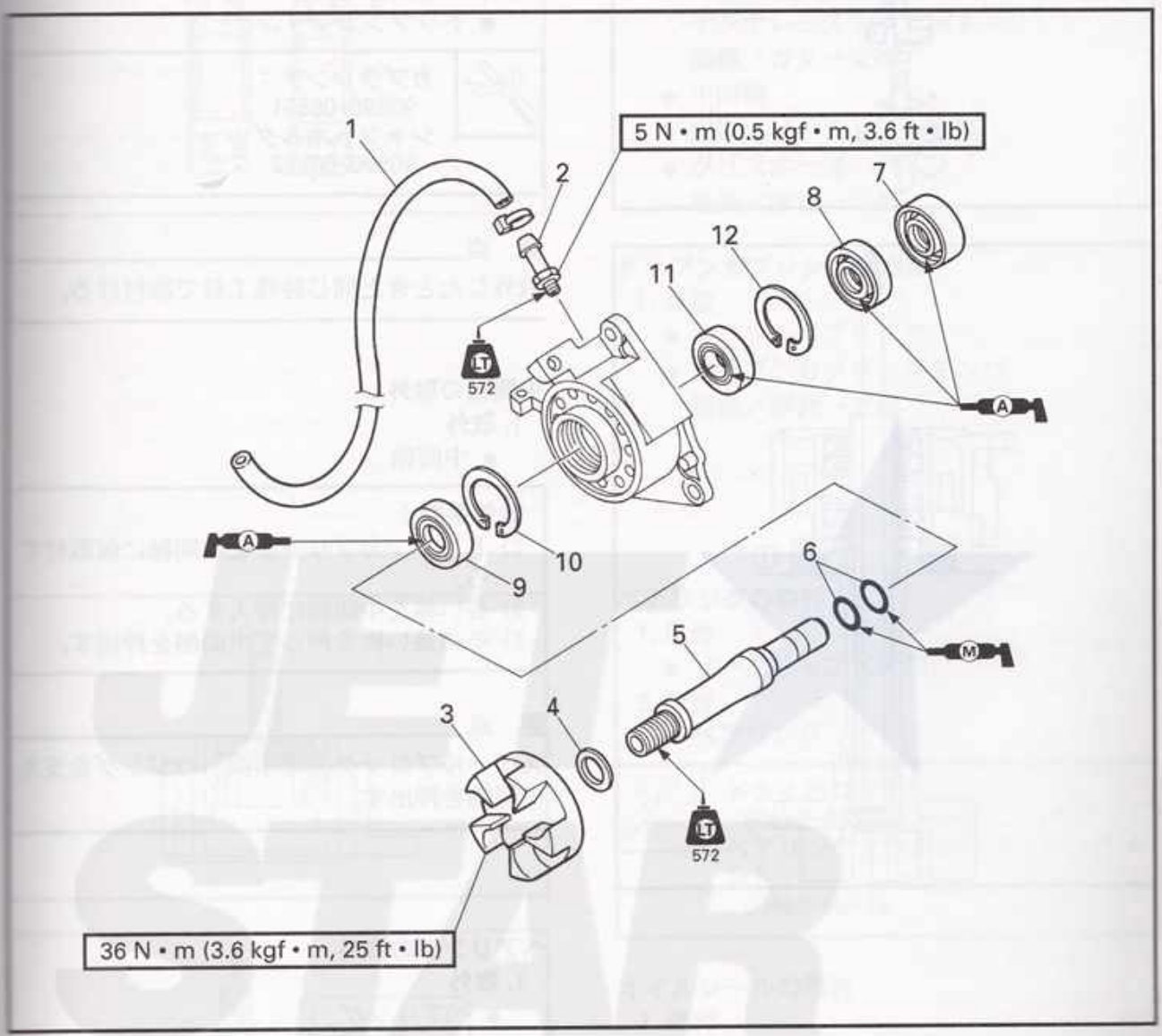
作業手順表

手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	中間ハウジングの分解		左欄の「手順」のとおりに分解する。
1	グリスホース	1	
2	ニップル	1	
3	ドリブンカプリング	1	
4	ワッシャ	1	
5	中間軸	1	
6	O リング	2	
7	オイルシール	1	**再使用不可**

WWW.JET-STAR.JP

中間ハウジング

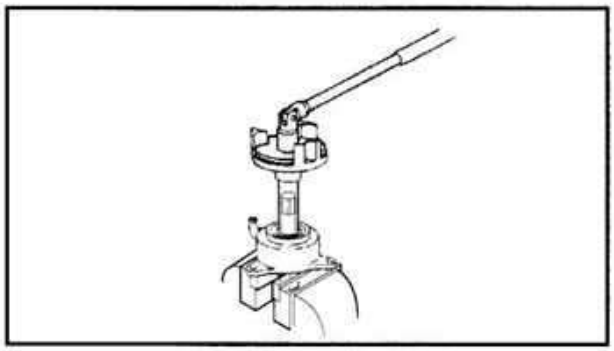
展開図



手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
8	オイルシール	1	再使用不可
9	オイルシール	1	再使用不可
10	サークリップ	1	
11	ベアリング	1	再使用不可
12	サークリップ	1	
			組立は逆の手順で行う。

WWW.JET-STAR.JP

中間ハウジング



サービスポイント

ドリブンカプリングの取外と取付

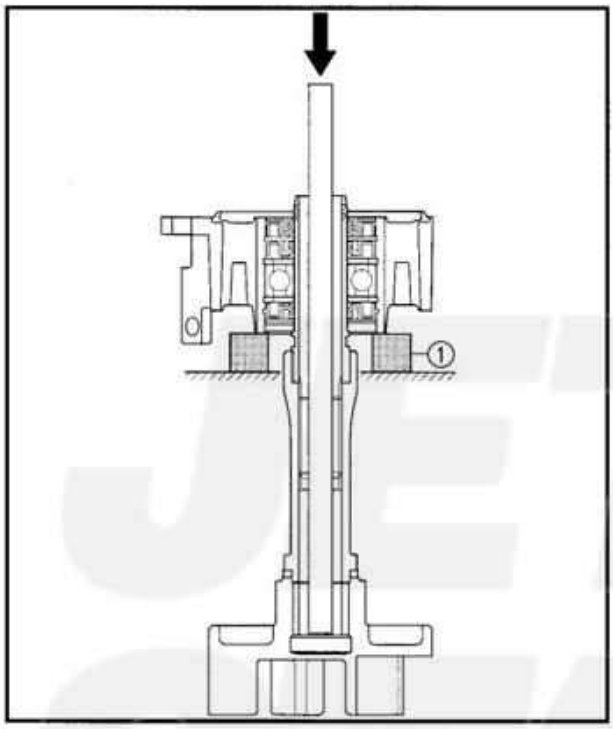
1. 取外と取付

- ドリブンカプリング

カプラレンチ：
90890-06551
シャフトホルダ：
90890-06552

要　点

取外したときと同じ特殊工具で取付ける。



中間軸の取外

1. 取外

- 中間軸

取外手順：

1) ドリブンカプリングを中間軸に仮取付する。
2) 長い棒を中間軸に挿入する。
3) その長い棒を押して中間軸を押出す。

要　点

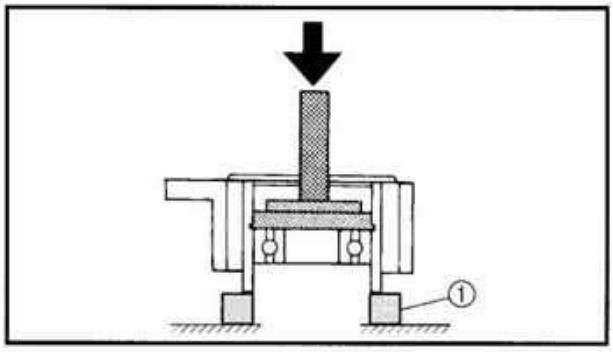
スチールブロック①で中間ハウジングを支え、中間軸を押出す。

ベアリングの取外

1. 取外

- ベアリング

ドライバロッド：
90890-06606
ベアリングアウタレースアタッチメント：
90890-06626

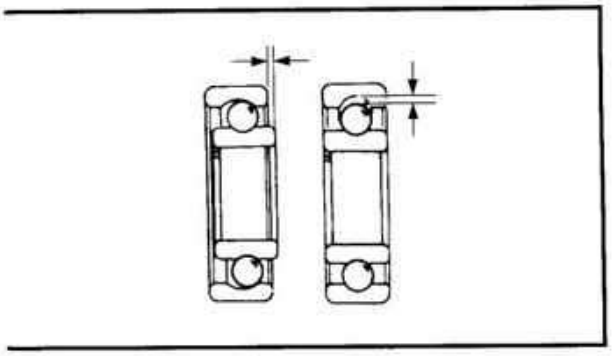


要　点

- 取外したときと同じ特殊工具で取付ける。
- スチールブロック ① で中間ハウジングを支え、ベアリングを押出す。

WWW.JET-STAR.JP

中間ハウジング

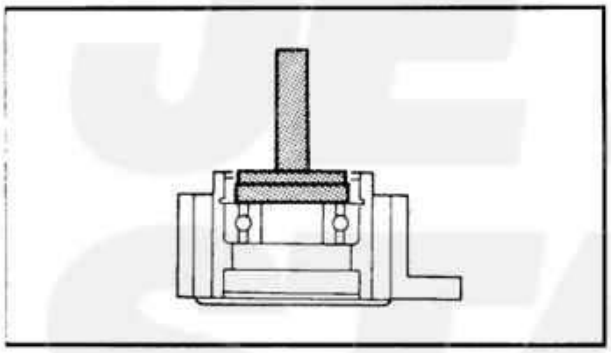


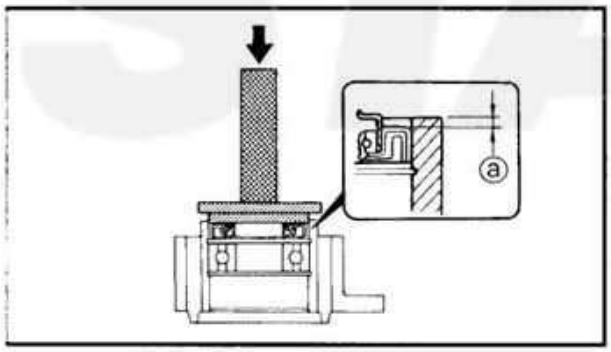
ベアリング、中間軸、グリスホースの点検

1. 点検
   - ベアリング
     インナレースを手で回す
     損傷／ガタ→交換
   - 中間軸
     損傷／ピッチング→交換
   - グリスホース
     亀裂／摩耗→交換

ドリブンカプリングの点検

1. 点検
   - ドリブンカプリング
   - ドリブンカプリングダンパ
     損傷／摩耗→交換





ベアリングの取付

1. 取付
   - サークリップ（後側）
2. 取付
   - ベアリング

ドライバロッド：
90890-06606
ベアリングアウタレースアタッチメント：
90890-06626

オイルシールの取付

1. 取付
   - オイルシール

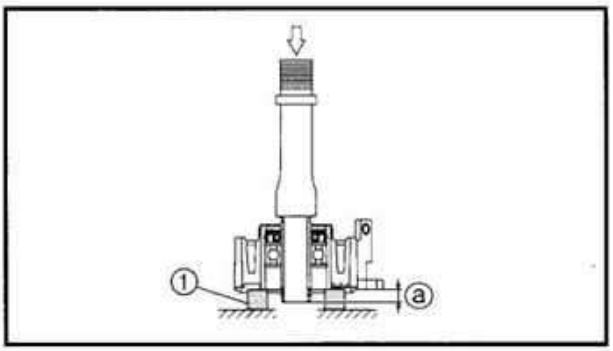
ドライバロッド：
90890-06606
ベアリングアウタレースアタッチメント：
90890-06626

要　点

オイルシールを組込む前に、クリップの溝に耐水グリスを充填する。

組立位置ⓐ：
6.8 ～ 7.2mm

WWW.JET-STAR.JP

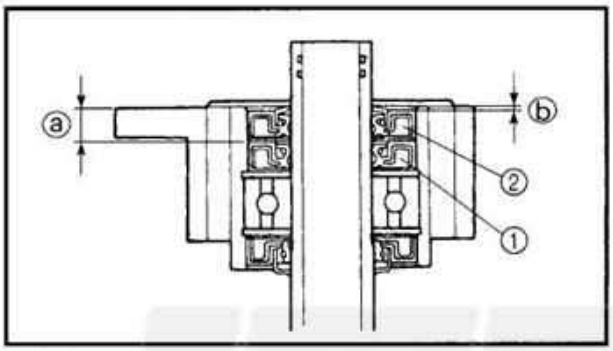


2. 取付
- 中間軸

組立位置 ⓐ:
9. 5 ～ 10. 5mm

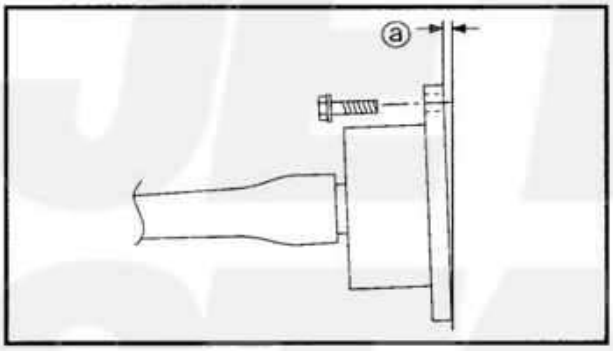
要　点

スチールブロック①で中間ハウジングを支え中間軸を押す。



3. 取付
- オイルシール ① (8mm)
- オイルシール ② (10mm)

組立位置 ⓐ:
10. 3 ～ 10. 7mm
組立位置 ⓑ:
1. 6 ～ 2. 0mm



中間ハウジングの取付

1. 取付
- 中間ハウジング
- シム

取付け手順：
1) 中間ハウジングを取付ける。
2) 各ボルト穴の位置ですき間 ⓐ を測定する。
3) 下の表から最適なシムを取付ける。

すき間 ⓐ	シムの厚さ
0 ～ 0. 2mm	不要
0. 3 ～ 0. 7mm	0. 5mm
0. 8 ～ 1. 2mm	1. 0mm
1. 3 ～ 2. 0mm	1. 5mm

要　点

中間ハウジングを交換しない場合は、シムを元の位置に取付ける。

WWW.JET-STAR.JP

JET STAR

第7章
電装

電装品配置図 7-1

電装ボックス 7-2
- 展開図 7-2
- 作業手順表 7-2

電装サービス上の注意 7-6
- 点検 7-6
  - デジタル回路テスタ 7-6
  - 微少抵抗値の測定 7-6
  - ピーク電圧の測定 7-7
  - ピークボルトアダプタ 7-7
  - テストハーネス 7-8

点火系統 7-9
- 配線図 7-9
- イグニッションスパークギャップ 7-10
- 点火系統ピーク電圧 7-11
- スパークプラグ 7-12
- スパークプラグキャップ 7-12
- イグニッションコイル 7-12
- エンジン停止スイッチ 7-13
- サーモスイッチ 7-13

始動系統 7-14
- 配線図 7-14
- バッテリ 7-15
- 配線の接続 7-15
- ヒューズ 7-15
- エンジン始動スイッチ 7-15
- スタータリレー 7-16

スタータモータ 7-17
- 展開図 7-17
- 作業手順表 7-17
- サービスポイント 7-20
  - アーマチュアの点検 7-20
  - ブラシホルダの点検 7-21
  - スタータモータフロントカバーの点検 7-21

WWW.JET-STAR.JP

充電系統 7-22
配線図 7-22
ヒューズ 7-23
バッテリ 7-23
レクチファイヤ／レギュレタピーク電圧 7-23
ライティングコイルピーク電圧 7-23

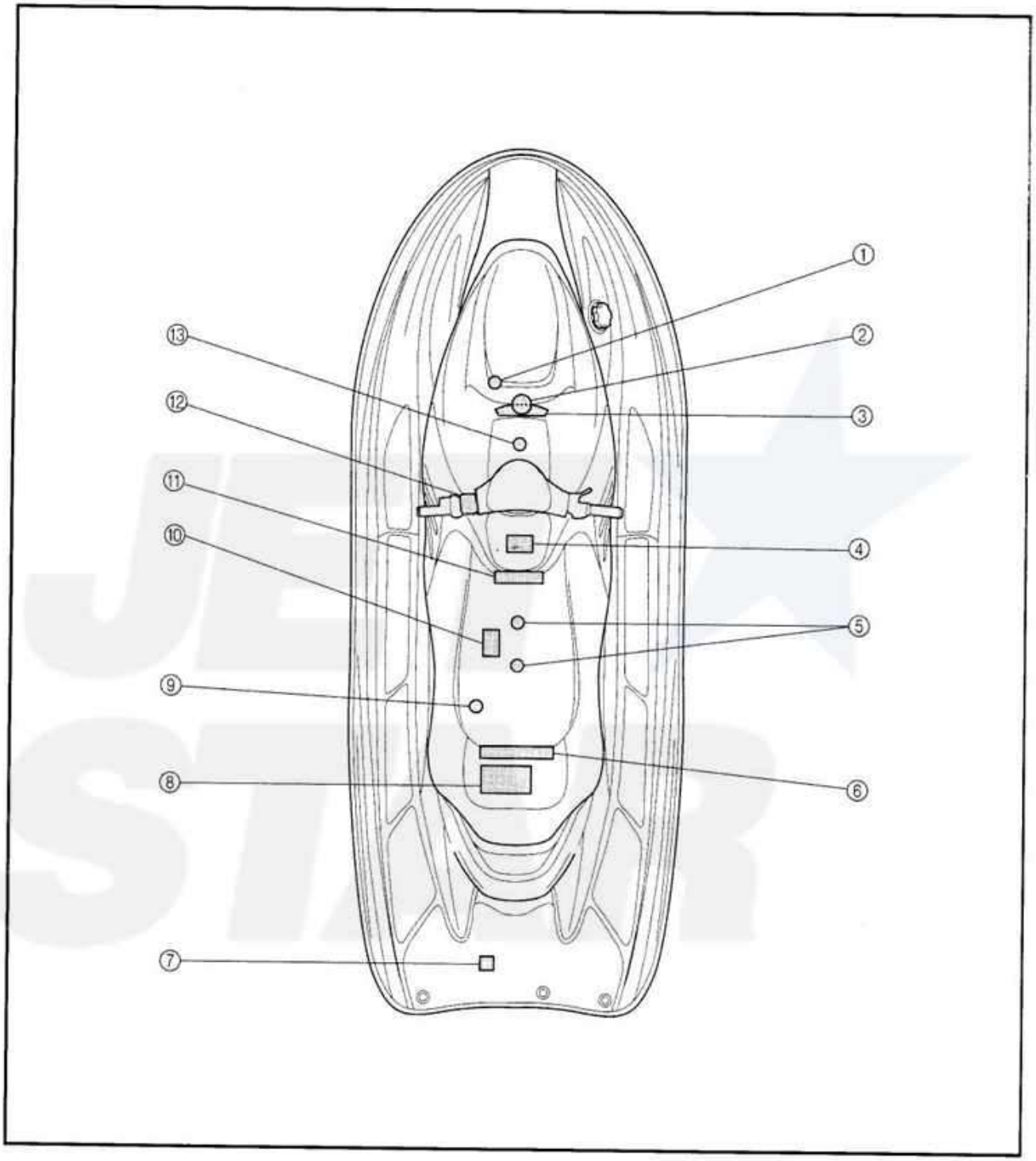
YPVS 7-24
配線図 7-24
ヒューズ 7-25
バッテリ 7-25
ピックアップコイル 7-25
CDI ユニット 7-25

YPVS サーボモータ 7-26
展開図 7-26
作業手順表 7-26
サービスポイント 7-27
YPVS ケーブルの取外と取付 7-27
YPVS ケーブルの点検 7-27
YPVS サーボモータの点検 7-27
YPVS ケーブルの調整 7-28

警告系統 7-29
配線図 7-29
ヒューズ 7-30
バッテリ 7-30
ライティングコイル 7-30
レクチャファイヤ／レギュレタ 7-30
CDI ユニット 7-30
サーモスイッチ 7-30
ブザー 7-30
オイルレベルセンサ 7-30
燃料レベルセンサ 7-31
マルチファンクションメータ 7-31
マルチファンクションメータ 7-31
マルチファンクションメータの取外 7-31
ディスプレイ機能 7-32
燃料レベル表示 7-33
オイルレベル表示 7-34
オーバヒート警告表示 7-35
スピードメータ 7-36
スピードセンサ 7-36

WWW.JET-STAR.JP

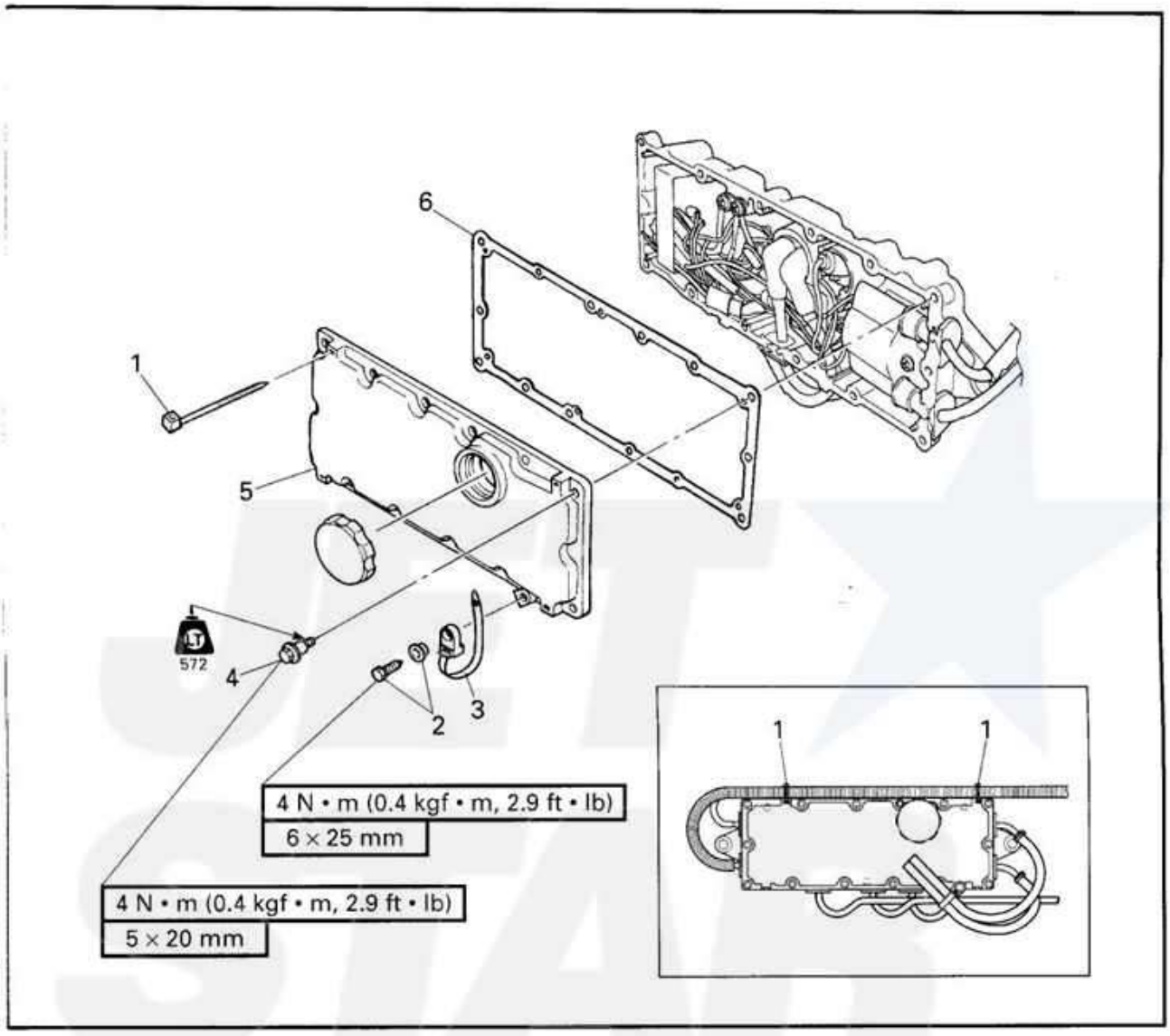
電装品配置図



① ブザー
② 燃料レベルセンサ
③ マルチファンクションメータ
④ YPVS サーボモータ
⑤ スパークプラグ
⑥ 電装ボックス
⑦ スピードセンサ
⑧ バッテリ
⑨ サーモスイッチ
⑩ スタータモータ
⑪ ステータコイル、ピックアップコイル
⑫ エンジン停止スイッチ、緊急エンジン停止スイッチ、エンジン始動スイッチ
⑬ オイルレベルセンサ

WWW.JET-STAR.JP

電装ボックス
展開図



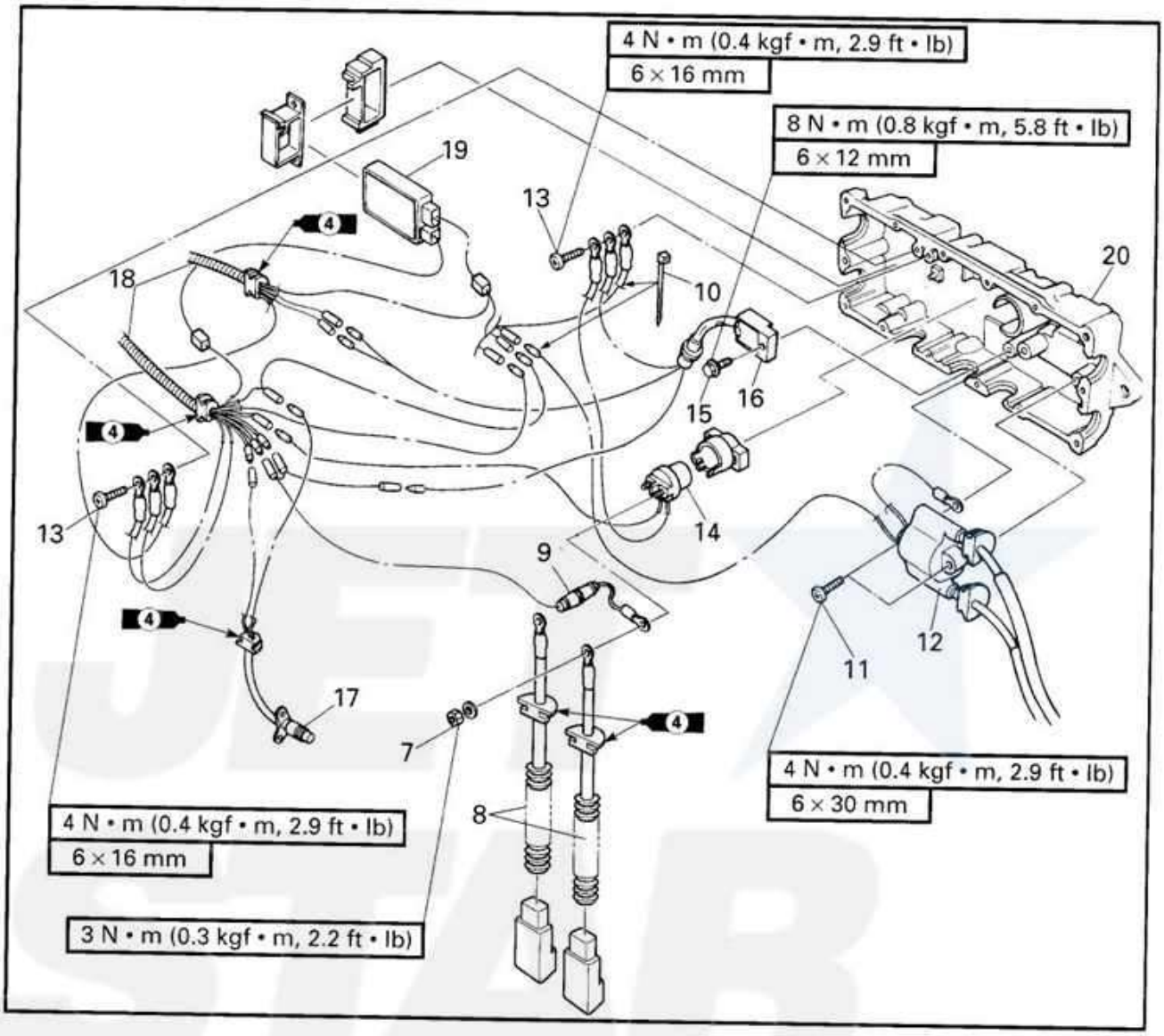
作業手順表

手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	電装ボックスの分解		左欄の「手順」のとおりに分解する。
	電装ボックス		第8章「バッテリボックス」の項参照。
1	プラスチックロックバンド	2	**再使用不可**
2	ボルト／カラー	1/1	**要　点**
3	プラスチッククランプ	1	エンジンユニットとバッテリボックス間の
4	ボルト	14	配線の取外しは、第5章「エンジンユニット」、「スタータモータ」、「フライホイルマグネト」の項参照。
5	電装ボックスカバー	1	
6	ガスケット	1	

WWW.JET-STAR.JP

電装ボックス

展開図

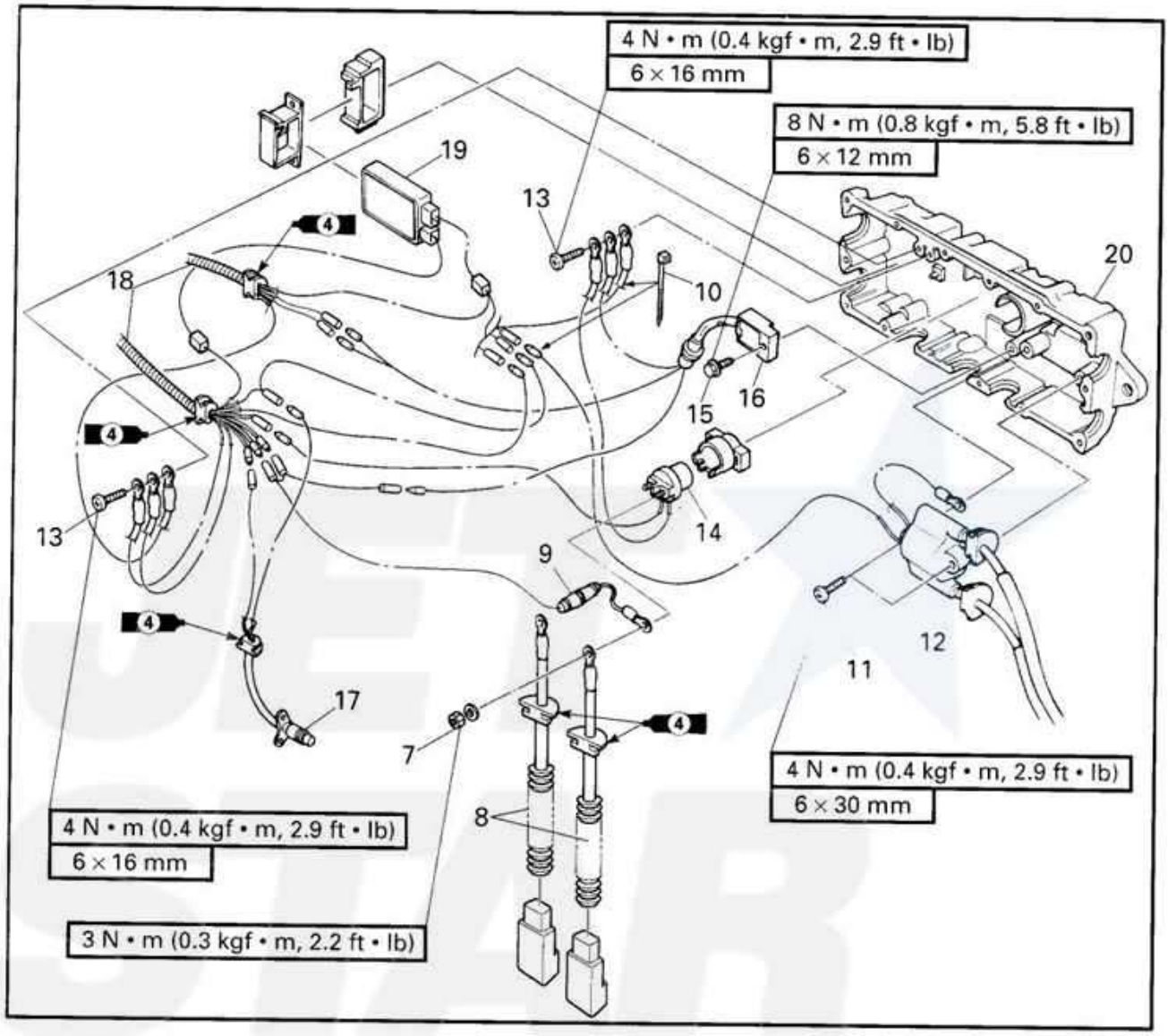


手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
7	ナット	2	
8	スタータモータリード線／バッテリ ⊕ ケーブル	1/1	
9	ヒューズ	1	
10	プラスチックロックバンド	1	再使用不可
11	スクリュ	2	
12	イグニッションコイル	1	
13	スクリュ	2	
14	スタータリレー	1	

WWW.JET-STAR.JP

電装ボックス

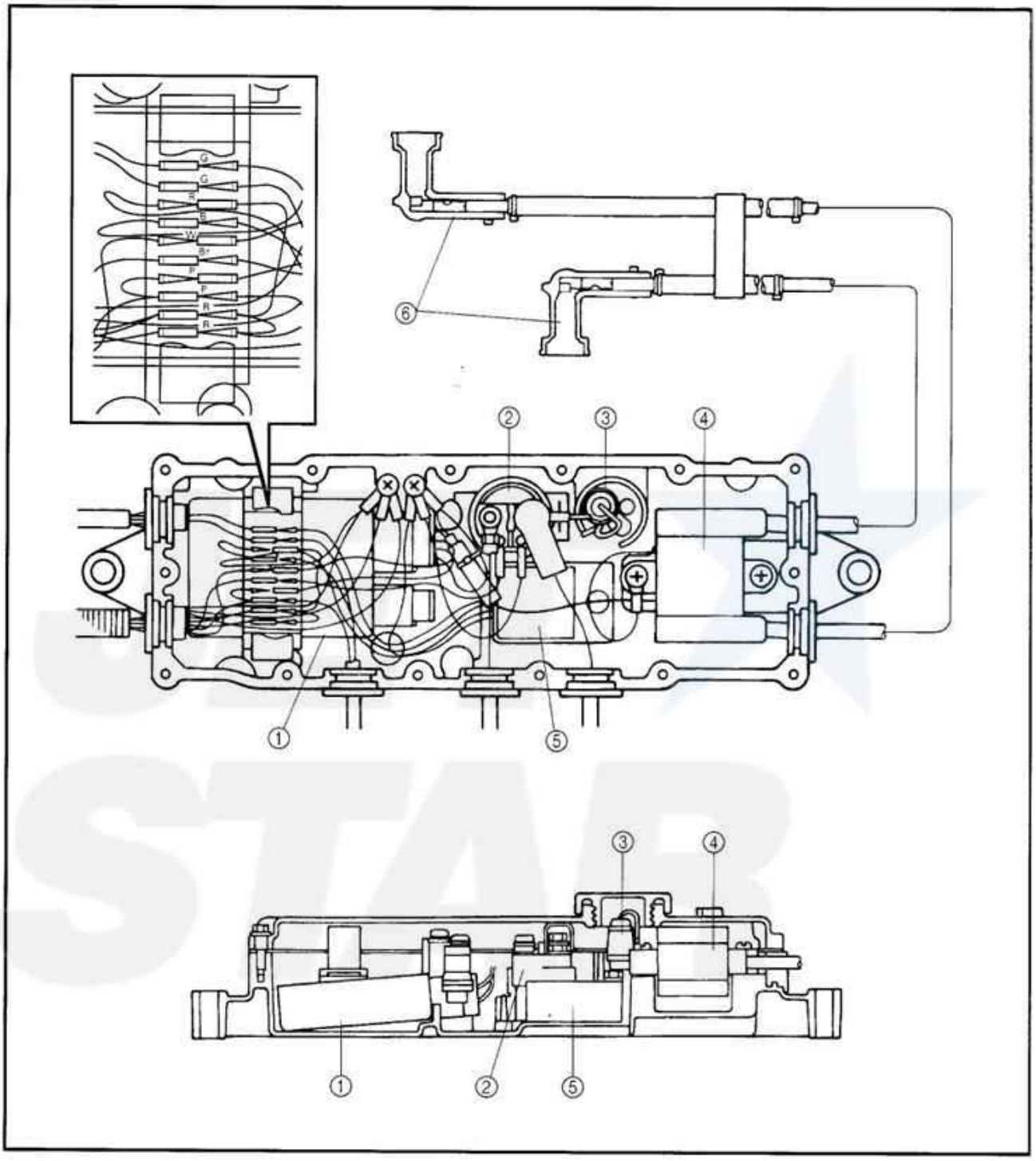
展開図



手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
15	ボルト	1	
16	レクチファイヤ／レギュレタ	1	
17	サーモスイッチ	1	
18	ワイヤハーネス	2	
19	CDI ユニット	1	
20	電装ボックスハウジング	1	
			組立は逆の手順で行う。

WWW.JET-STAR.JP

電装ボックス



① CDI ユニット
② スタータリレー
③ ヒューズ (10A)
④ イグニッションコイル
⑤ レクチファイヤ／レギュレタ
⑥ スパークプラグキャップ

B	: 黒
Br	: 茶
G	: 緑
P	: 桃
R	: 赤
W	: 白

WWW.JET-STAR.JP

電装サービス上の注意

点検

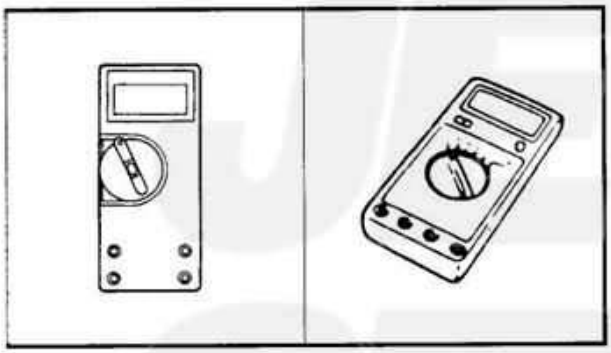
▲注 意

- 全ての計測機器の取扱いには充分注意すること。計測機器を落としたり、取扱いを誤ると正しい計測値が得られなくなる。
- 乾電池式の計測機器を使用する場合は、定期的に電圧をチェックし、電圧が低い場合は乾電池を交換すること。

デジタル回路テスタ

要 点

この章を通して、デジタル回路テスタの部品番号は省略するので、下記の部品番号を参照する。



デジタル回路テスタ：
90890-06752

要 点

この章において“○——○”表示は各端子間の導通を意味している。従って、各々のスイッチ位置の回路を閉じ点検する。

微少抵抗値の測定

要 点

- デジタル回路テスタを使用して 10Ω 以下の抵抗値を測定する場合、テスタの内部抵抗の影響で正確な値が得られない。
- 正確な値を得るためには、表示値から内部抵抗値を引く。
- テスタの内部抵抗値は、テスタ棒の⊕と⊖をつなぐと測定できる。

真の抵抗値＝
表示抵抗値－
テスタ内部抵抗値

WWW.JET-STAR.JP

ピーク電圧の測定

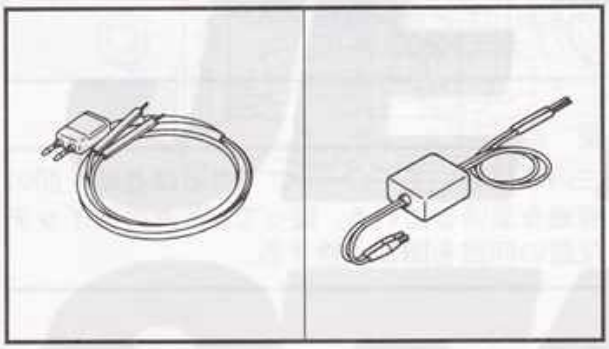
要　点

- 点火系統の状態を調べる時、ピーク電圧を知ることは極めて重要である。
- クランキング速度は多くの要素に左右される（例えばスパークプラグの不良やバッテリ容量の不足等）。これらの要素１つでも不具合があればピーク電圧は規定値より低下する。
- ピーク電圧の測定値が、規定値に満たない場合、エンジンは適正に作動しない。
- 低いピーク電圧は機械の摩耗を早める原因となる。

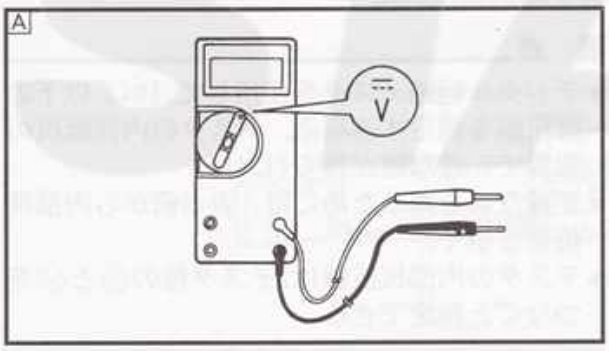
ピークボルトアダプタ

要　点

- この章を通して、ピークボルトアダプタの部品番号は省略するので、下記の部品番号を参照する。
- ピークボルトアダプタはデジタル回路テスタと一緒に使用しなければならない。



	ピークボルトアダプタ： 90890-03169

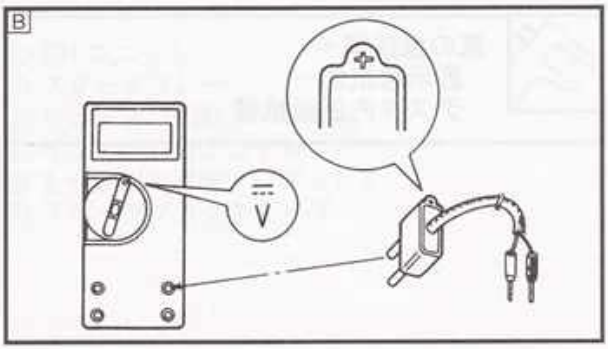


- ピーク電圧を測定する時は、ピークボルトアダプタをデジタル回路テスタに接続し、テスタのセレクタを DCV モードにしておく。

要　点

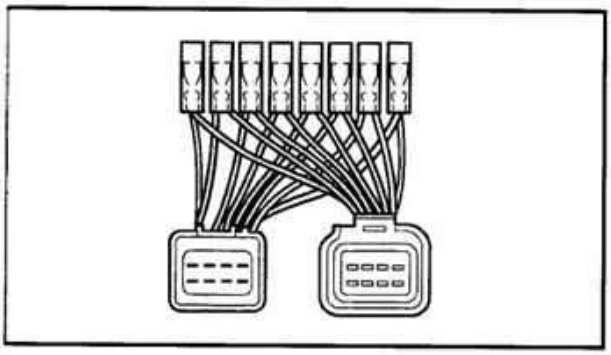
- ピークボルトアダプタの配線が、デジタル回路テスタに正しく取付けてあるか確認する。
- 図のようにアダプタの“⊕”マークのあるピンがテスタの ⊕ 端子に取付けてあるか確認する。
- テストハーネスは以下のテストに必要とされる。

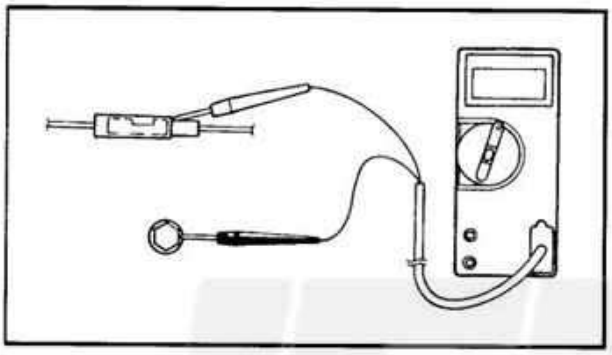
A 電圧測定
B ピーク電圧測定

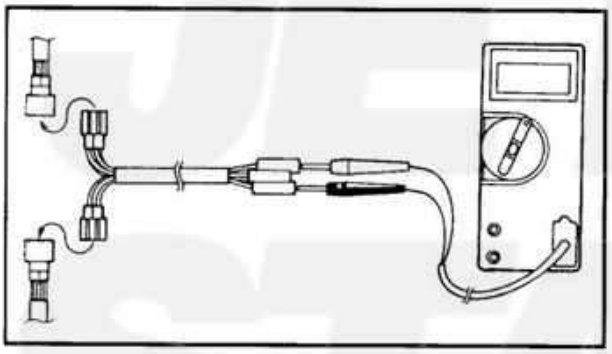


WWW.JET-STAR.JP

電装サービス上の注意







テストハーネス

部品番号	ピン数	用途
90890-06779	8	チャージコイルとピックアップコイル

点検手順：

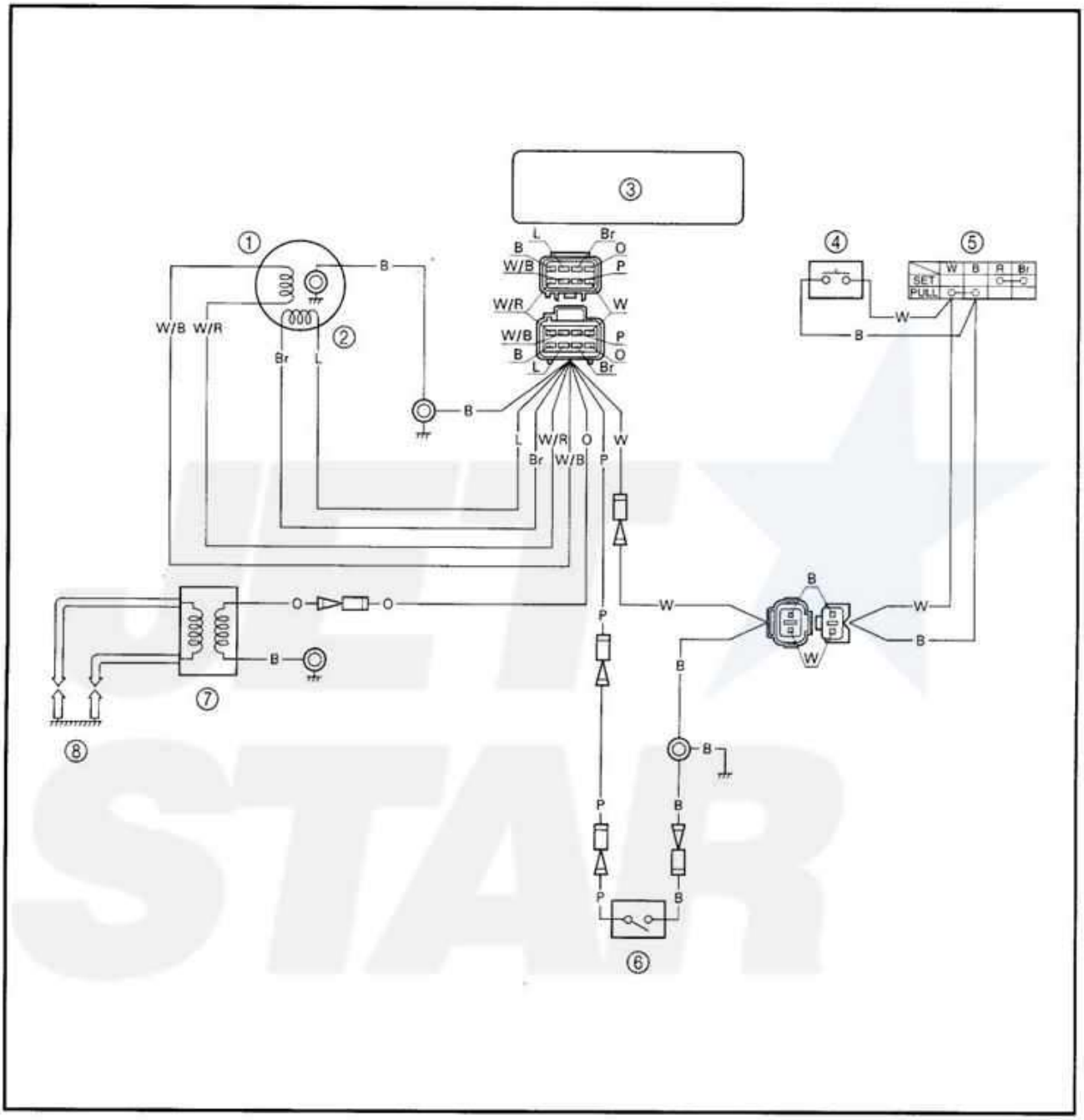
1) カプラの接続を切離す。
2) テストハーネスを各カプラ間に接続する。
3) 測定する端子にテスタの端子を接続する。
4) エンジンを始動してピーク電圧の測定を行う。

要　点

- ライティングコイルとレクチファイヤ／レギュレタのピーク電圧を測定する時は、レクチファイヤ／レギュレタの出力側配線（赤色配線）が切離されているか確認する。
- チャージコイルとピックアップコイルが無負荷で測定される場合は、出力側カプラのテストハーネスを切離す。

WWW.JET-STAR.JP

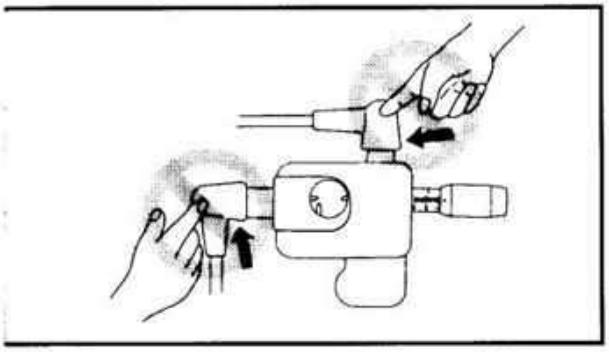
点火系統
配線図

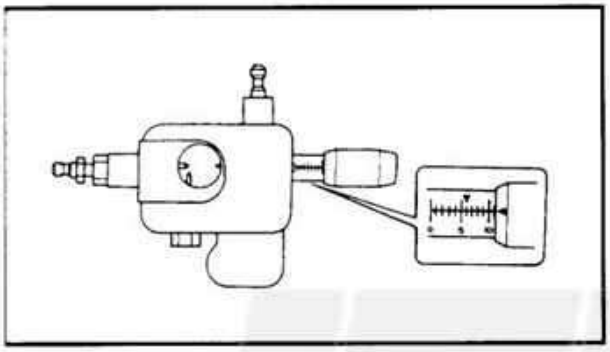


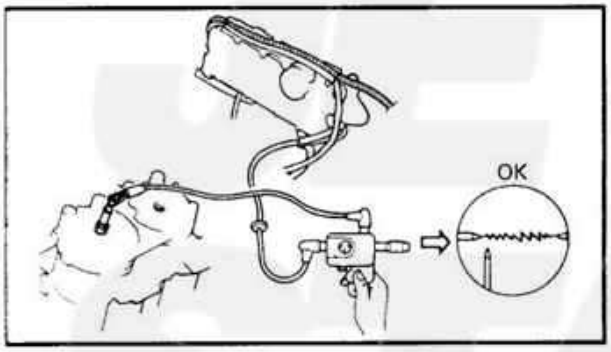
① ピックアップコイル
② チャージコイル
③ CDI ユニット
④ エンジン停止スイッチ
⑤ 緊急エンジン停止スイッチ
⑥ サーモスイッチ
⑦ イグニッションコイル
⑧ スパークプラグ

B : 黒
Br : 茶
L : 青
O : 橙
P : 桃
R : 赤
W : 白
W/B : 白／黒
W/R : 白／赤

WWW.JET-STAR.JP







イグニッションスパークギャップ

⚠ 警 告

- スパークギャップの点検中は、スパークギャップテスタの配線に触れないように注意すること。
- スパークギャップテスト中は、特に左図の矢印部分からリークしないように注意すること。（電極キャップを確実にかぶせること。）
- このテストではスパークを飛ばすので、引火性のガス・燃料・オイルを遠ざけること。

1. 点検：

- イグニッションスパークギャップ
  規定値に満たない→ CDI ユニット出力ピーク電圧を調べる
  イグニッションコイルの抵抗値を調べる

	スパークギャップ： 10mm

点検手順：

1) スパークギャップテスタをスパークプラグとスパークプラグキャップ間に接続する。
2) スパークギャップテスタの調整つまみを回して、規定のスパークプラグキャップに調節する。

	スパークギャップテスタ： 90890-06754

3) エンジンをクランキングし、そのときのスパークの状態を透明窓から調べる。

WWW.JET-STAR.JP

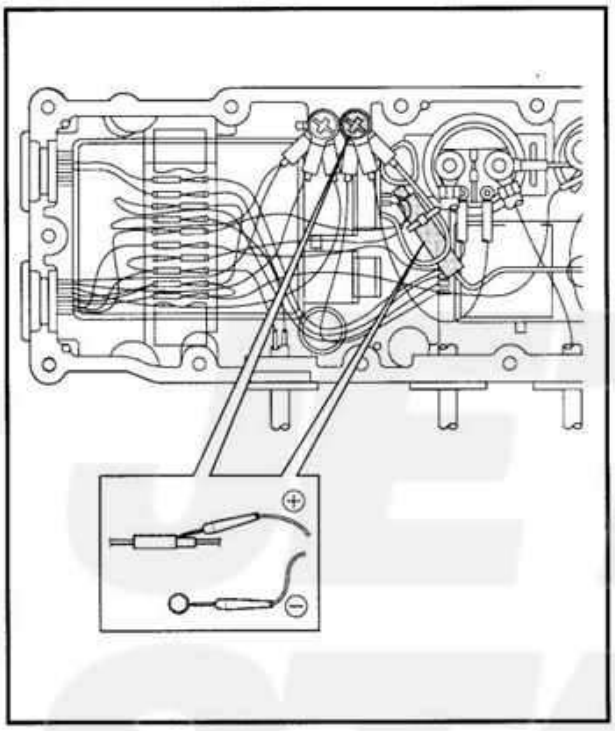
点火系統ピーク電圧

⚠警告

ピーク電圧の点検中は、デジタル回路テスタ配線の接続部分に触れないこと。

要　点

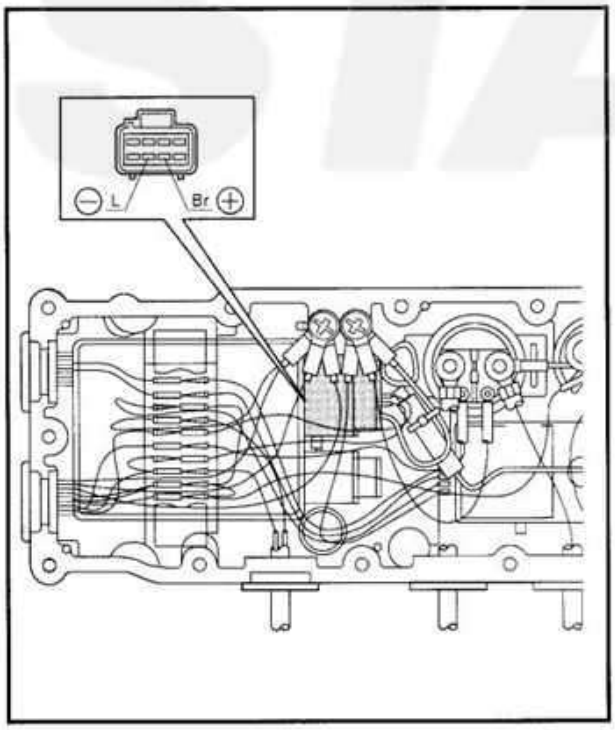
- スパークが飛ばない、またはスパークが弱い場合には、点火系統のテストを継続する。
- 良いスパークが得られた場合には点火系統には問題がなく、スパークプラグか他の部品に問題がある可能性が高い。



1. 測定

- CDI ユニット出力ピーク電圧
  規定値に満たない→チャージコイルの出力ピーク電圧を測定するか、CDI ユニットを交換する

CDI ユニット出力ピーク電圧：O（橙）－ B（黒）				
r/min	無負荷	負荷		
	クランキング		2,000	3,500
V	85	110	205	200



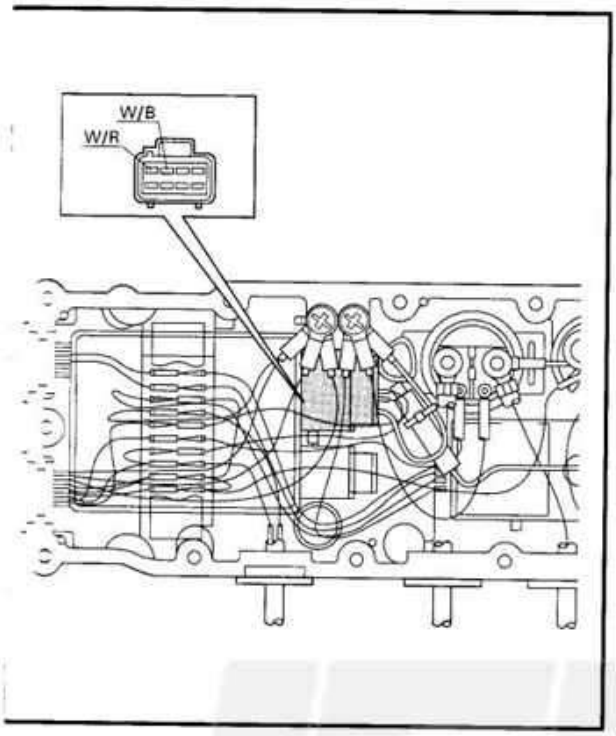
2. 測定

- チャージコイル出力ピーク電圧
  規定値に満たない→チャージコイルを交換

チャージコイル出力ピーク電圧：Ｂｒ（茶）－Ｌ（青）				
r/min	無負荷	負荷		
	クランキング		2,000	3,500
V	90	120	220	210

テストハーネス（８ピン）：90890-06779

WWW.JET-STAR.JP



3. 測定
- ピックアップコイル出力ピーク電圧
  規定値に満たない→ピックアップコイルを交換

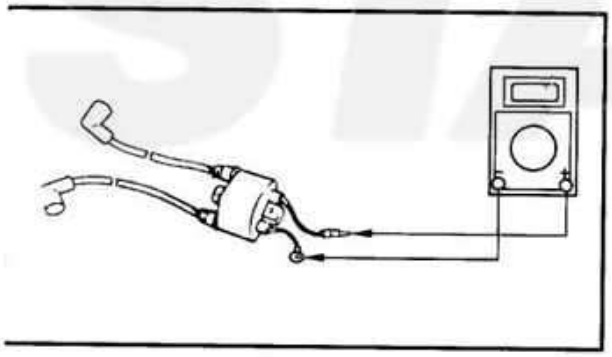
ピックアップコイル出力ピーク電圧：
W／R（白／赤）－
W／B（白／黒）

r/min	無負荷	負荷		
	クランキング		2,000	3,500
V	5	3	7	11

テストハーネス（8ピン）：
90890-06779

スパークプラグ
第3章「パワーユニット」の項参照。

スパークプラグキャップ
1. 点検
- スパークプラグキャップ
  ゆるみ→締付け
  亀裂／損傷→交換



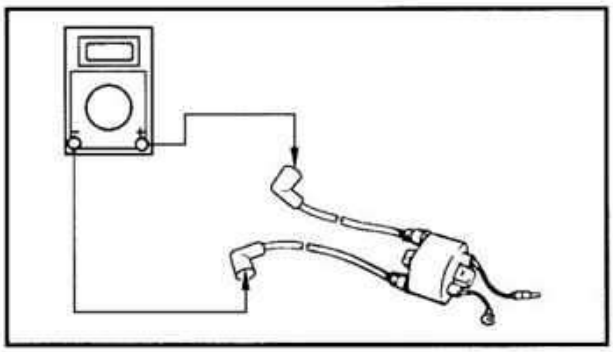
イグニッションコイル
1. 測定
- 一次コイルの抵抗値
  規定値以外→交換

一次コイルの抵抗値：
O（橙）－B（黒）
0.078～0.106Ω（20℃時）

要　点

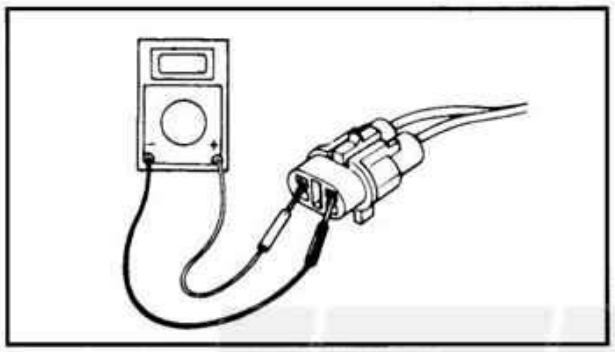
デジタル回路テスタを使用して10Ω以下の抵抗値を測定する場合、テスタの内部抵抗の影響で正確な値が得られない。
「微少抵抗値の測定」の項参照。

WWW.JET-STAR.JP



2. 測定
- 二次コイル抵抗値
  規定値以外→交換

二次コイル抵抗値：
各スパークプラグキャップ間
14.3 ～ 30.5kΩ（20 ℃時）

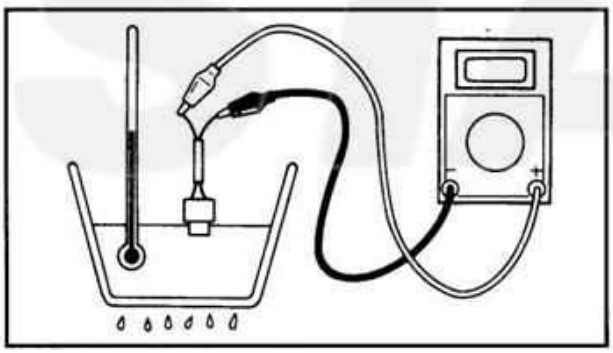


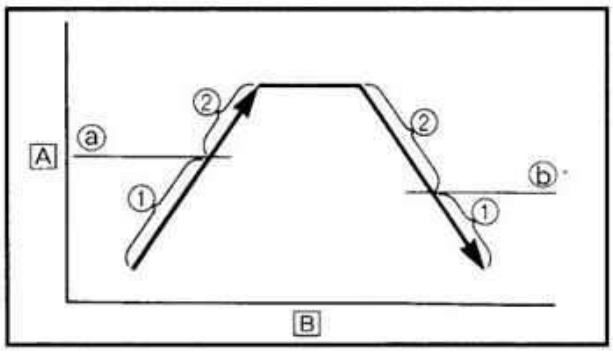
エンジン停止スイッチ

1. 点検
- エンジン停止スイッチ導通
  規定以外→交換

エンジン停止スイッチ導通
（黒色カプラ）

ロックプレート	エンジン停止ボタ	配線	
		白	黒
取付ける	はなす		
	押す	○	○
取外す	はなす	○	○
	押す	○	○





サーモスイッチ

1. 測定
- サーモスイッチ導通
  規定以外→交換

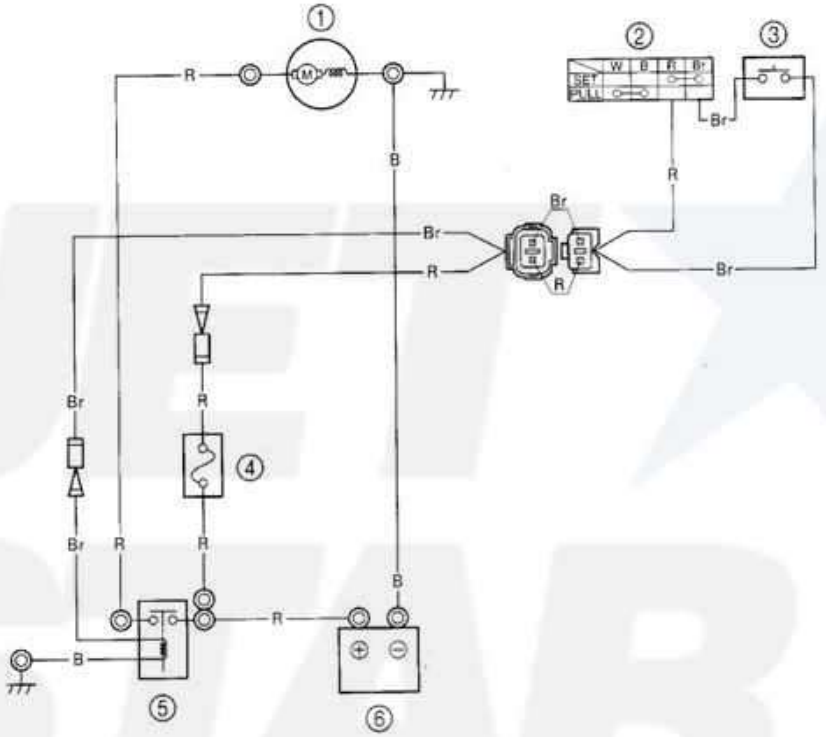
サーモスイッチ導通温度：
P（桃）－ B（黒）
ⓐ 80 ℃
ⓑ 70 ℃

① 導通なし
② 導通あり
A 温度
B 時間

測定手順：
1) 水を入れた容器の中にサーモスタットを吊り下げる。
2) 水の中に温度計を入れる。
3) 徐々に水を加熱する。
4) 規定温度に達したときに導通を測定する。

WWW.JET-STAR.JP

始動系統
配線図



① スタータモータ
② 緊急エンジン停止スイッチ
③ エンジン始動スイッチ
④ ヒューズ（10A）
⑤ スタータリレー
⑥ バッテリ

B ：黒
Br ：茶
R ：赤
W ：白

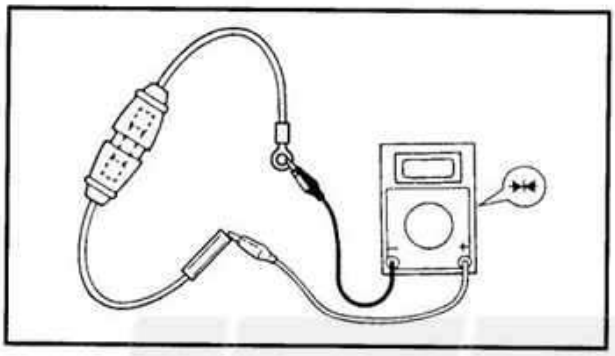
WWW.JET-STAR.JP

バッテリ

第3章「電気系統」の項参照。

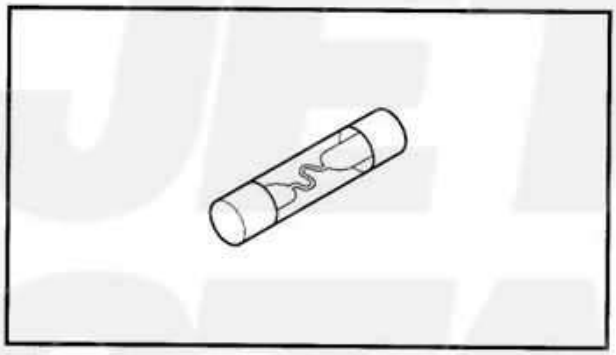
配線の接続

1. 点検
   - 配線の接続
     接続不良→正しく接続する



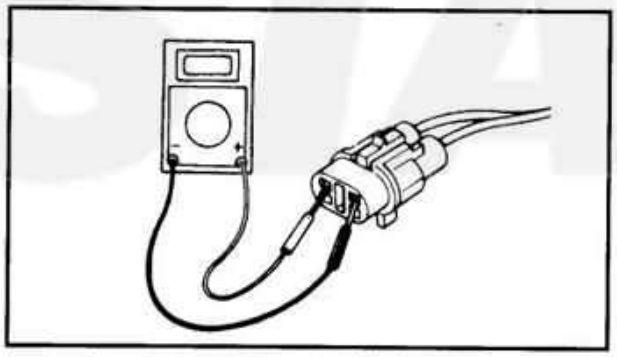
ヒューズ

1. 点検
   - ヒューズホルダの導通
     導通しない→ヒューズホルダリード線の点検
2. 点検
   - ヒューズホルダリード線の導通
     導通しない→ヒューズホルダを交換
     導通する→ヒューズの点検



3. 点検
   - ヒューズ切れ
     切れている→交換

ヒューズの定格：
10A



エンジン始動スイッチ

1. 点検
   - 導通
     規定以外→交換

エンジン始動スイッチ導通：
（自然色カプラ）

ロックプレート	エンジン始動スイッチ	配線	
		赤	茶
取付ける	はなす		
	押す	○	○
取外す	はなす		
	押す		

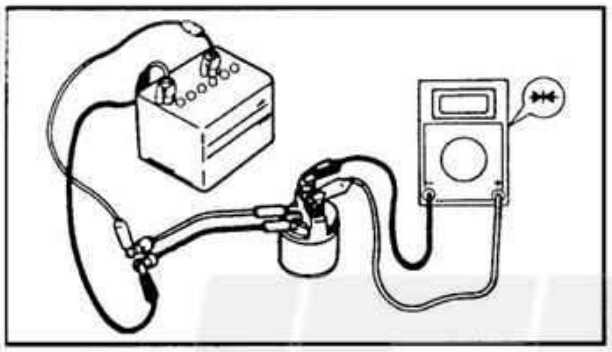
WWW.JET-STAR.JP

スタータリレー

1. 点検

- 茶色のリード線端子
- 黒色のリード線端子

ゆるみ→締付け



2. 点検

- スタータリレー

作動しない→交換

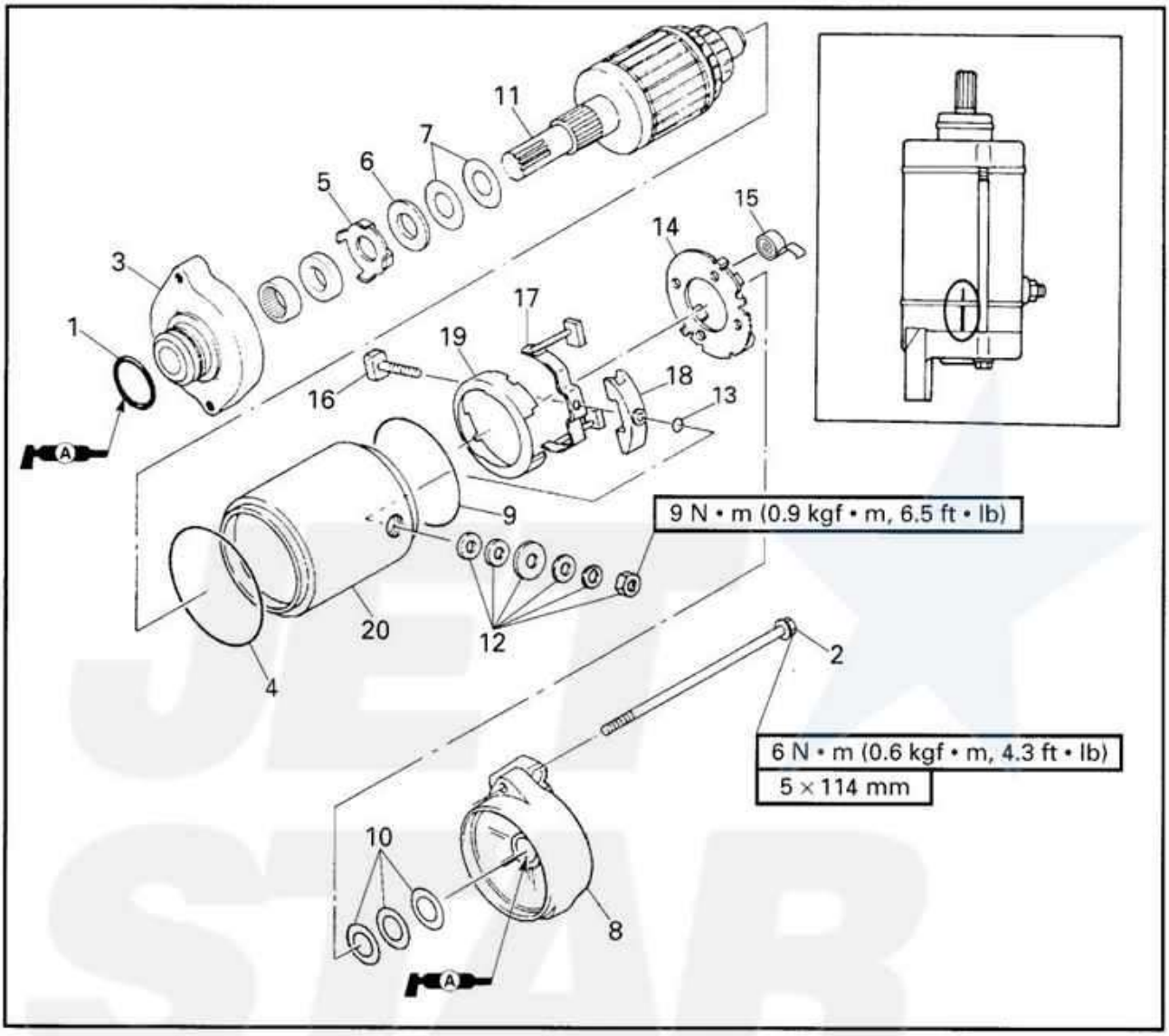
点検手順：

1) 各テスタリード線を図のようにスタータリレーの端子にそれぞれ接続する。
2) 茶色のリード線をバッテリ端子の⊕側に接続する。
3) 黒色のリード線をバッテリ端子の⊖側に接続する。
4) スタータリレーの端子間に導通があることを調べる。
5) 茶色または黒色のリード線を切離した後には、導通していないことを調べる。

WWW.JET-STAR.JP

スタータモータ

展開図



作業手順表

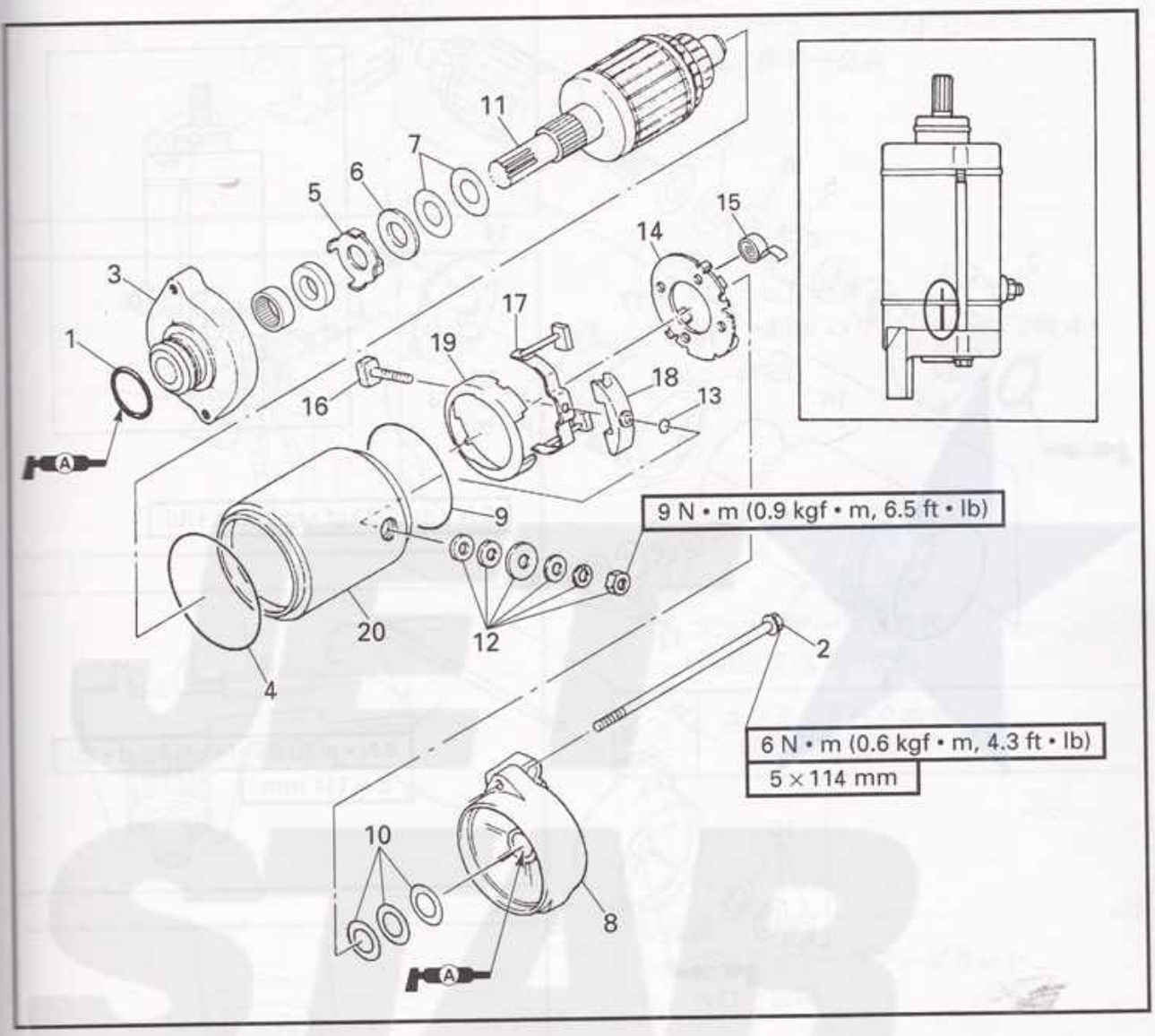
手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	スタータモータの分解		左欄の「手順」のとおりに分解する。
	スタータモータ		第5章「スタータモータ」の項参照。
1	O リング	1	**再使用不可**
2	ボルト	2	
3	スタータモータフロントカバー	1	
4	O リング	1	**再使用不可**
5	オイルシールリテイナ	1	
6	ワッシャ	1	
7	シム	*	t = 0.2mm, 0.5mm

*: 必要数

WWW.JET-STAR.JP

スタータモータ

展開図



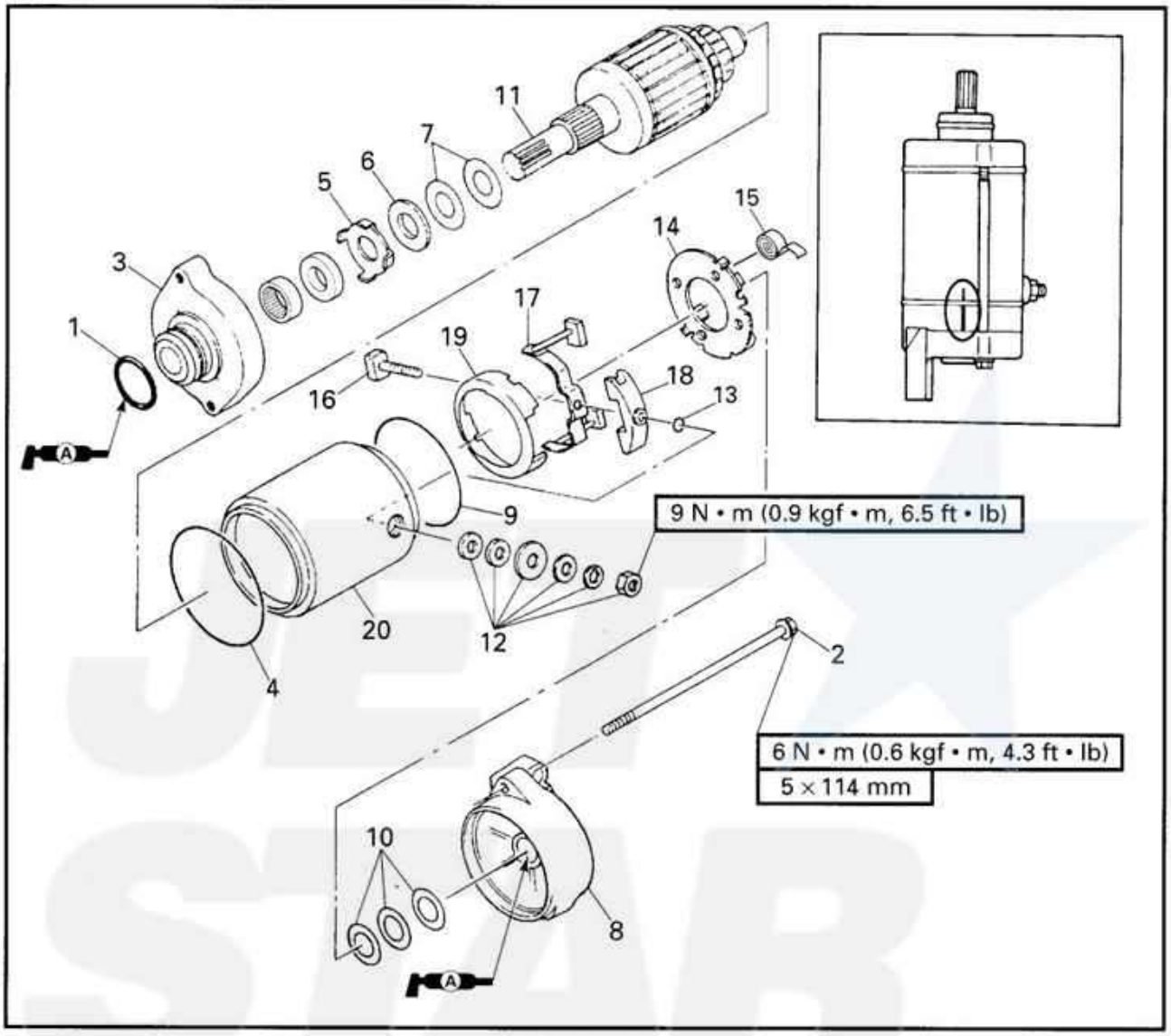
手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
8	スタータモータリヤカバー	1	
9	O リング	1	再使用不可
10	シム	*	t = 0.2mm, 0.8mm
11	アーマチュアアッセンブリ	1	
12	ナット／スプリングワッシャ／ワッシャ	1/1/4	
13	O リング	1	再使用不可
14	ブラシホルダ	1	
15	ブラシスプリング	4	
16	ボルト	1	
17	ブラシアッセンブリ	1	

*: 必要数

WWW.JET-STAR.JP

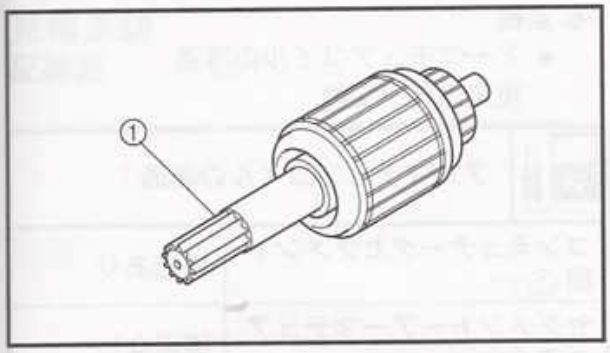
スタータモータ

展開図



手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
18	スペーサ	1	
19	ホルダ	1	
20	スタータモータヨーク	1	
			組立は逆の手順で行う。

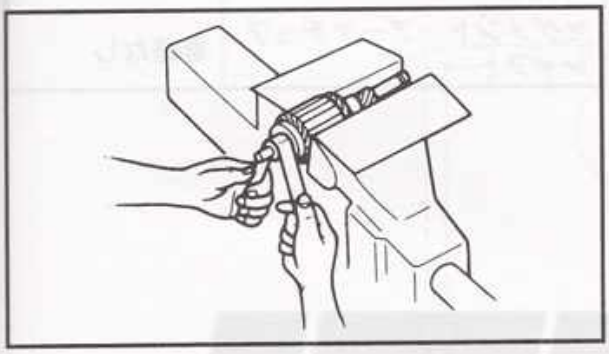
WWW.JET-STAR.JP



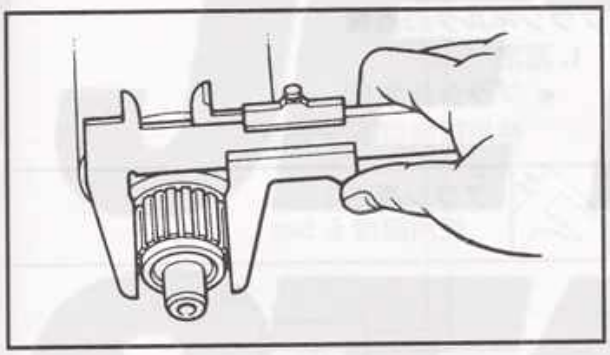
サービスポイント

アーマチュアの点検

1. 点検
   - アーマチュアシャフト ①
     損傷／摩耗→交換

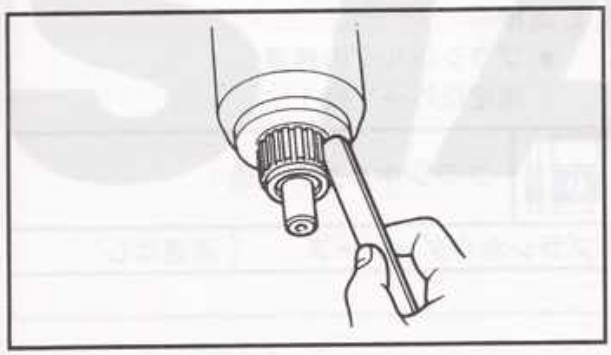


2. 点検
   - コンミュテータ
     汚れ→ #600 のサンドペーパで磨く



3. 測定
   - コンミュテータの外径
     使用限度以下→交換

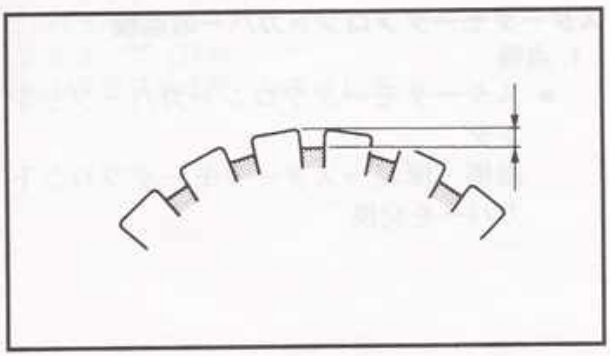
	コンミュテータ外径： 使用限度 27.0mm



4. 点検
   - コンミュテータアンダカット
     汚れ→清掃

要　点

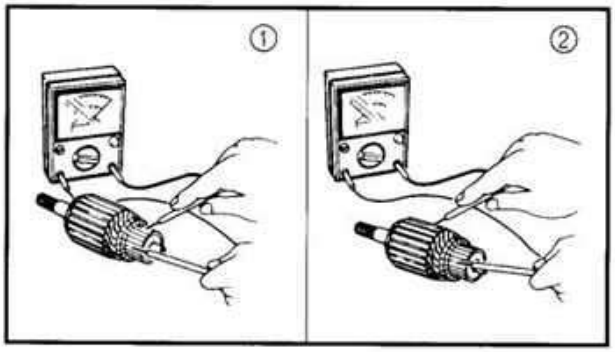
エアーを用いて、雲母と金属粉を除去する。



5. 測定
   - コンミュテータアンダカット
     使用限度以下→交換

	コンミュテータアンダカット： 使用限度 0.2mm

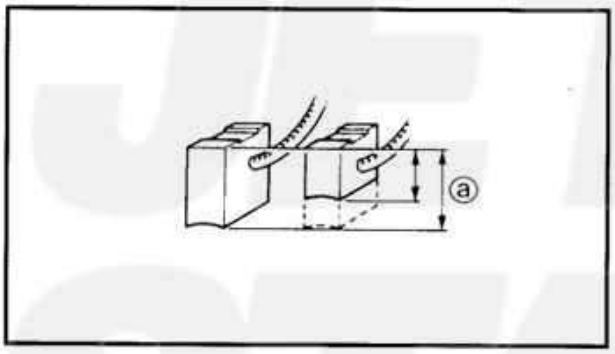
WWW.JET-STAR.JP



6. 点検

- アーマチュアコイルの導通
  規定以外→交換

アーマチュアコイルの導通：	
コンミュテータセグメント間 ①	導通あり
セグメントーアーマチュアコア ②	導通なし
セグメントーアーマチュアシャフト	導通なし

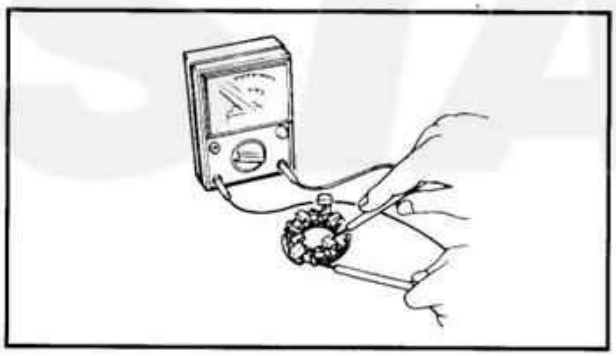


ブラシホルダの点検

1. 測定

- ブラシ長さ ⓐ
  使用限度以下→交換

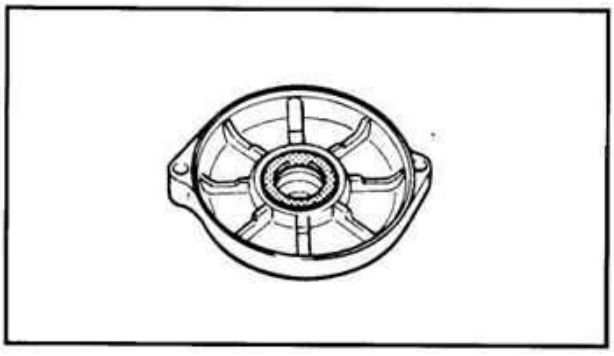
ブラシ長さ： 使用限度 6. 5mm



2. 点検

- ブラシホルダの導通
  規定以外→交換

ブラシホルダの導通：	
ブラシホルダーベース	導通なし



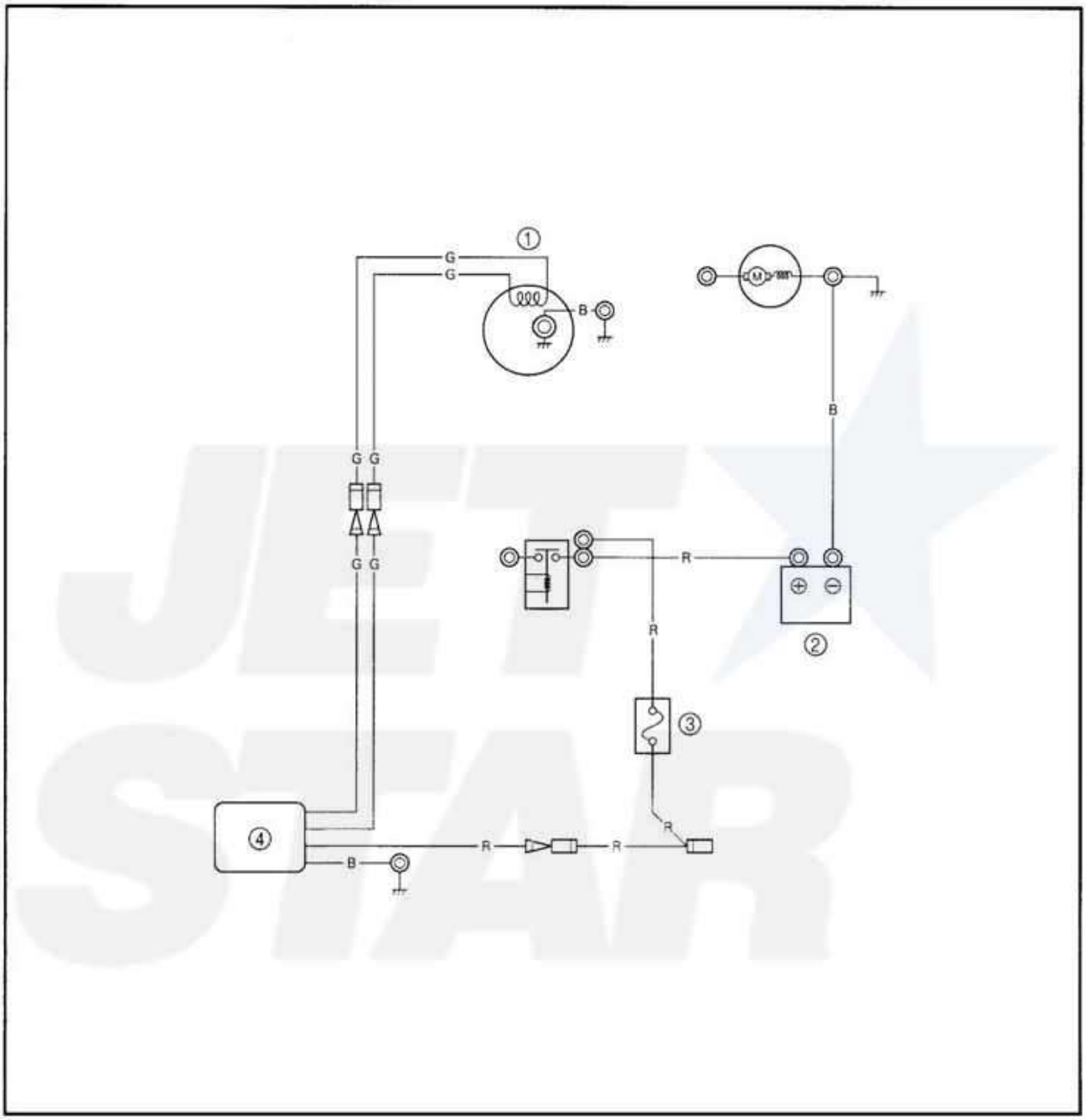
スタータモータフロントカバーの点検

1. 点検

- スタータモータフロントカバーブッシング
  損傷／摩耗→スタータモータフロントカバーを交換

WWW.JET-STAR.JP

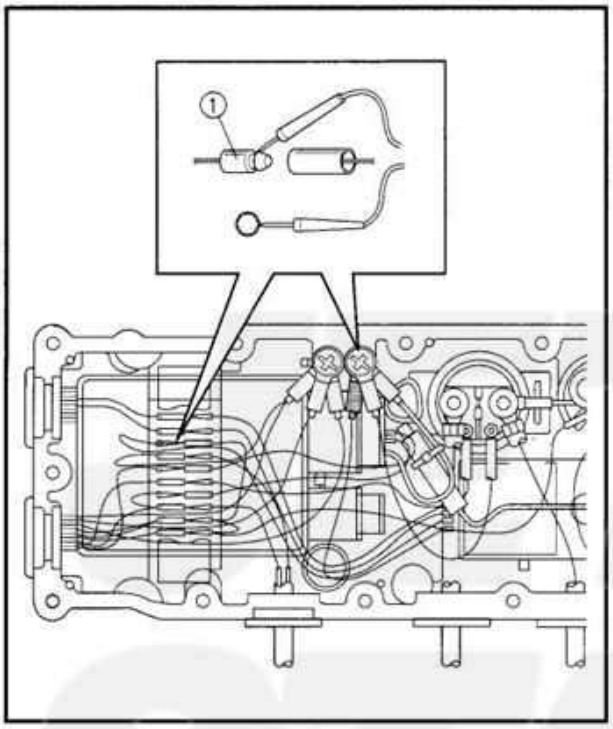
充電系統
配線図

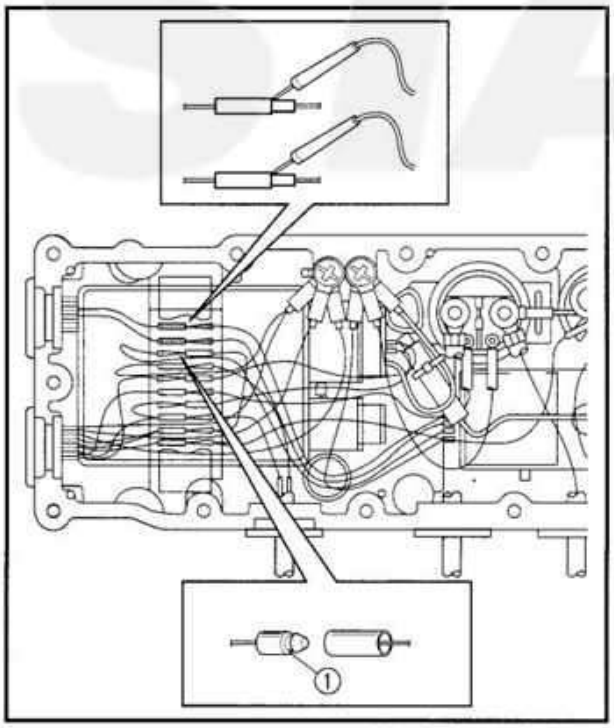


① ライティングコイル
② バッテリ
③ ヒューズ（10A）
④ レクチファイヤ／レギュレタ

B : 黒
G : 緑
R : 赤
G/W : 緑／白

WWW.JET-STAR.JP





ヒューズ

「始動系統」の項参照。

バッテリ

第３章「電気系統」の項参照。

レクチファイヤ／レギュレタピーク電圧

1. 測定

- レクチファイヤ／レギュレタ出力ピーク電圧
  規定値に満たない→ライティングコイル出力ピーク電圧の測定、またはレクチファイヤ／レギュレタを交換する

レクチファイヤ／レギュレタ出力ピーク電圧：
R（赤）－ B（黒）

r/min	無負荷		
	クランキング	2,000	3,500
V	7.5	12.5	12.5

要　点

レクチファイヤ／レギュレタの出力ピーク電圧を測定するときは、レクチファイヤ／レギュレタの出力側リード線（赤色リード線）① が切離されているか確認する。

ライティングコイルピーク電圧

1. 測定

- ライティングコイル出力ピーク電圧
  規定値に満たない→ライティングコイルを交換

ライティングコイル出力ピーク電圧：
G（緑）－ G（緑）

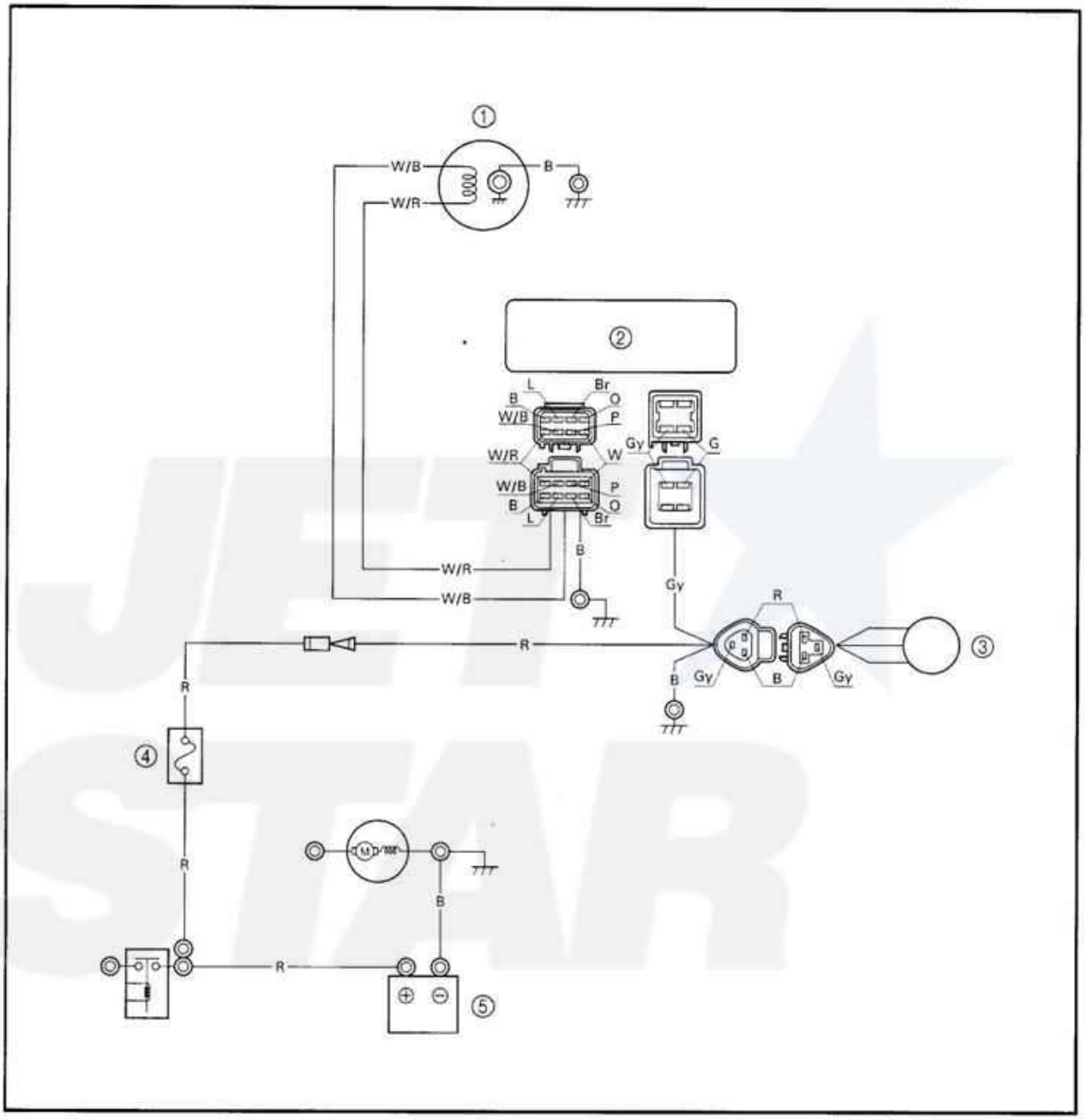
r/min	無負荷	負荷		
	クランキング		2,000	3,500
V	8.5	8.5	13	13

要　点

ライティングコイルの出力ピーク電圧を測定するときは、レクチファイヤ／レギュレタの出力側リード線（赤色リード線）① が切離されているか確認する。

WWW.JET-STAR.JP

YPVS
配線図



① ピックアップコイル
② CDI ユニット
③ YPVS サーボモータ
④ ヒューズ（10A）
⑤ バッテリ

B	：黒
Br	：茶
G	：緑
Gy	：灰
L	：青
O	：橙
P	：桃
R	：赤
W	：白
W/B	：白／黒
W/R	：白／赤

WWW.JET-STAR.JP

ヒューズ
「始動系統」の項参照。

バッテリ
第3章「電気系統」の項参照。

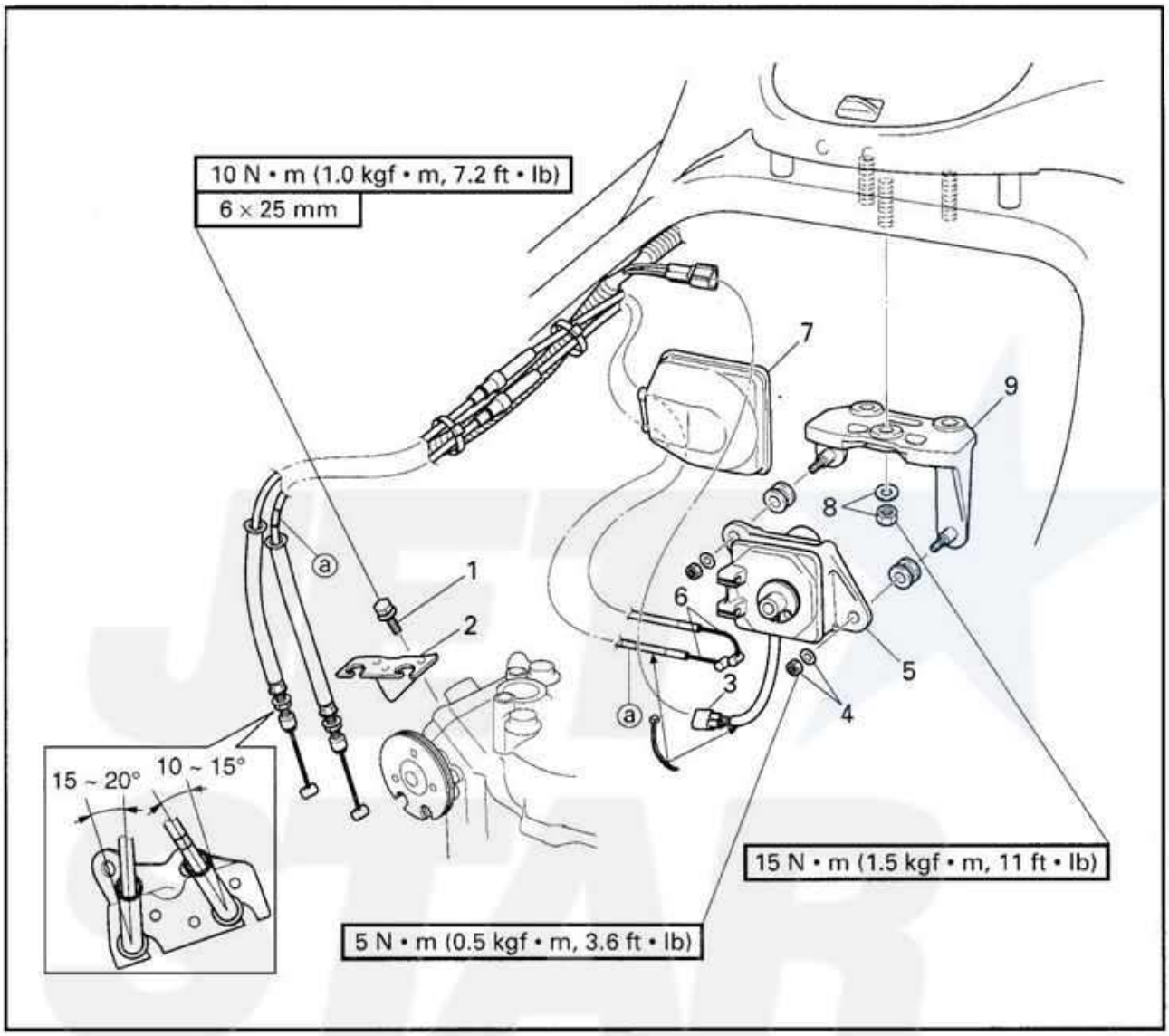
ピックアップコイル
「点火系統」の項参照。

CDI ユニット
「点火系統」の項参照。

JET STAR

WWW.JET-STAR.JP

YPVS サーボモータ
展開図

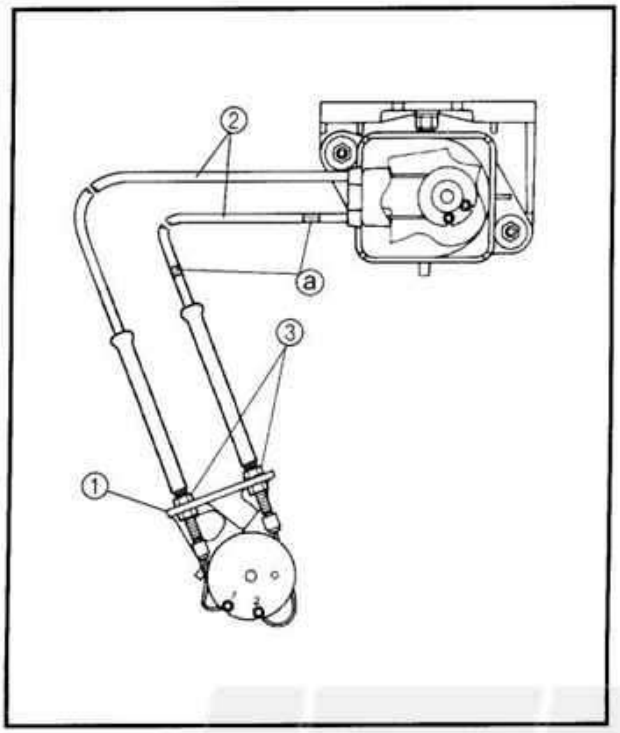


作業手順表

手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	YPVS サーボモータの取外		左欄の「手順」のとおりに取外す。
1	ボルト	2	
2	ケーブルホルダ	1	
3	YPVS サーボモータカプラ	1	
4	ナット／ワッシャ	2/2	
5	YPVS サーボモータ	1	
6	YPVS ケーブル	2	カバーをスライドさせて外す。 白ペイントマーク ⓐ のある方が No. 2 ケーブル。
7	カバー	1	
8	ナット／ワッシャ	3/3	
9	YPVS サーボモータブラケット	1	
			取付けは逆の手順で行う。

WWW.JET-STAR.JP

YPVS サーボモータ



サービスポイント

YPVS ケーブルの取外と取付

1. 取外

- YPVS ケーブル 1、2

取外手順：

1) YPVS ケーブルホルダ ① を取外す。
2) YPVS ケーブル ② を両方のドラムから取外す。

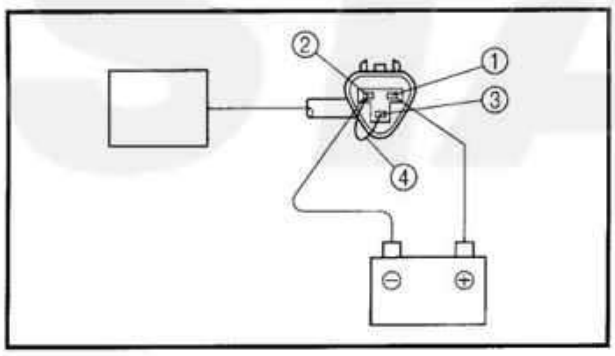
要　点

- YPVS ケーブル 2 には白色ペイントマーク ⓐ が付いている。
- YPVS ケーブル取付け時、YPVS ケーブルロックナット ③ が完全にねじ込まれていることを確認する。

YPVS ケーブルの点検

1. 点検

- YPVS ケーブル 1、2
  こすれ／よじれ／ガタ→交換



YPVS サーボモータの点検

1. 点検

- YPVS サーボモータ
  YPVS サーボモータが作動しない→交換

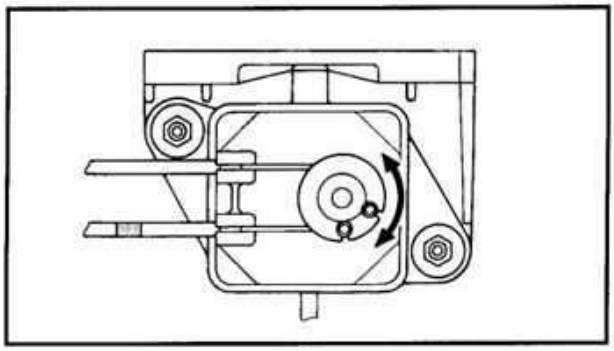
点検手順：

1) 12V のバッテリを、YPVS サーボモータカプラに図のように接続する。

バッテリ ⊕ 端子→ R （赤色端子） ①
バッテリ ⊖ 端子→ B （黒色端子） ②

2) ジャンパリード ④ を黒色端子 ② と灰色端子 ③ の間に図のように接続する。ジャンパリードを取付けるのは、1～2 秒間のみとする。

B （黒色端子） ②↔Gr （灰色端子） ③



WWW.JET-STAR.JP

3) サーボモータが正しく作動するか確認する。

要　点

ジャンパリードを取外してから3秒後にブーリが作動するか確認する。

⚠注 意

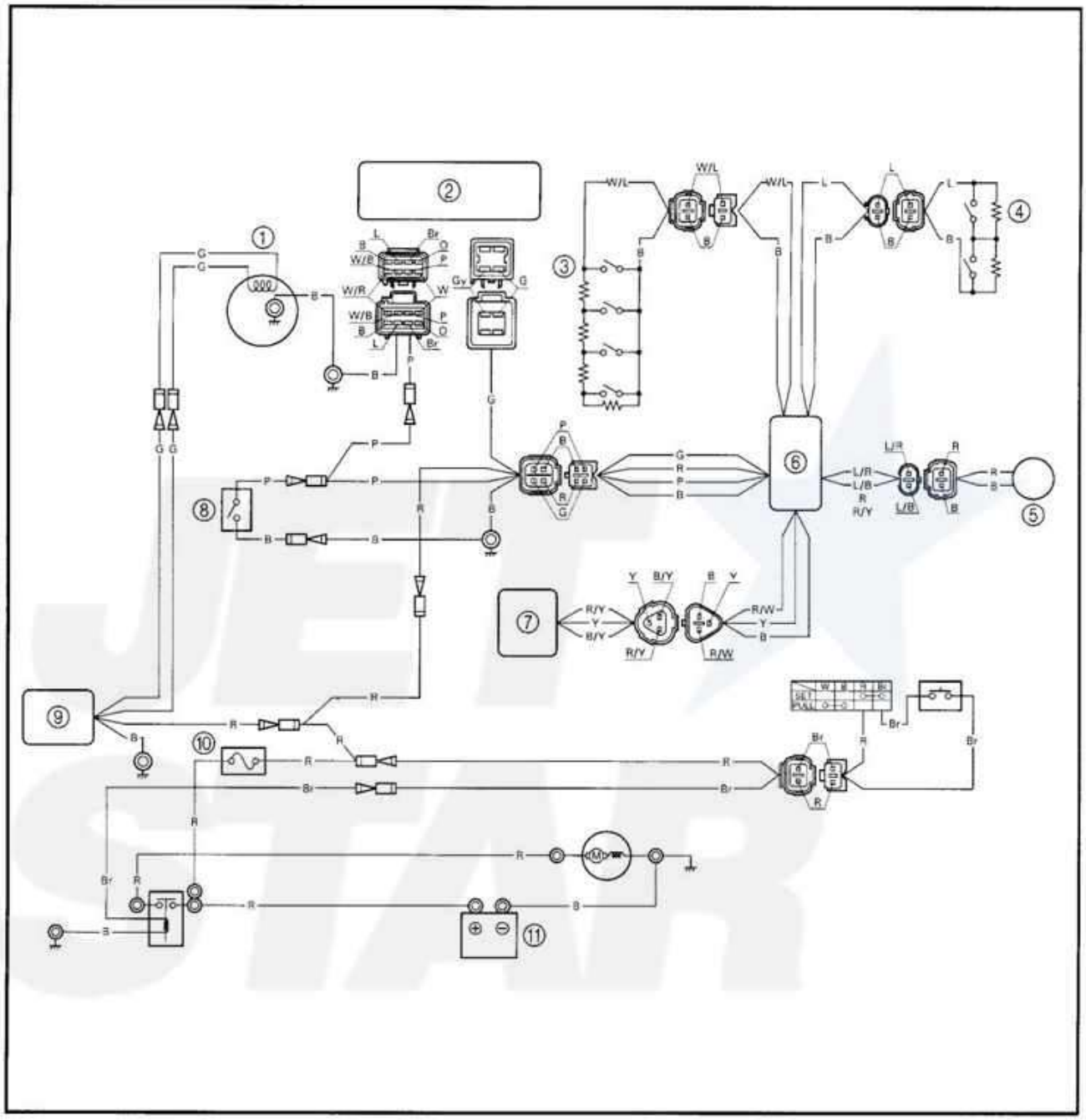
YPVSサーボモータユニットは分解しないこと。YPVS サーボモータユニットは密閉されているので、故障の場合はユニットごと交換する。

YPVS ケーブルの調整

第3章「コントロールシステム」の項参照。

WWW.JET-STAR.JP

警告系統
配線図



① ライティングコイル
② CDI ユニット
③ 燃料レベルセンサ
④ オイルレベルセンサ
⑤ ブザー
⑥ マルチファンクションメータ
⑦ スピードセンサ
⑧ サーモスイッチ
⑨ レクチファイヤ／レギュレタ
⑩ ヒューズ（10A）
⑪ バッテリ

B	：黒	
Br	：茶	
G	：緑	
Gy	：灰	
L	：青	
O	：橙	
P	：桃	
R	：赤	
W	：白	
Y	：黄	
B/Y	：黒／黄	
L/B	：青／黒	
L/R	：青／赤	
R/B	：赤／黒	
R/W	：赤／白	
R/Y	：赤／黄	
W/B	：白／黒	
W/L	：白／青	
W/R	：白／赤	

WWW.JET-STAR.JP

ヒューズ
「始動系統」の項参照。

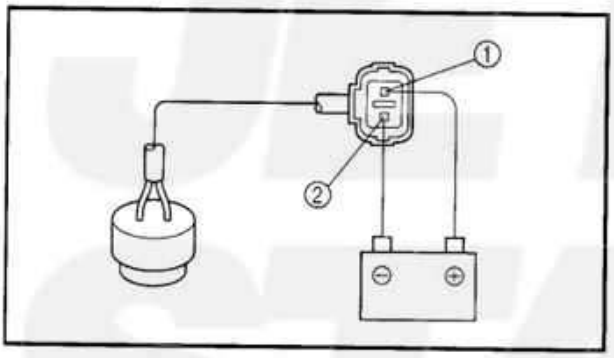
バッテリ
第3章「電気系統」の項参照。

ライティングコイル
「充電系統」の項参照。

レクチャファイヤ／レギュレタ
「充電系統」の項参照。

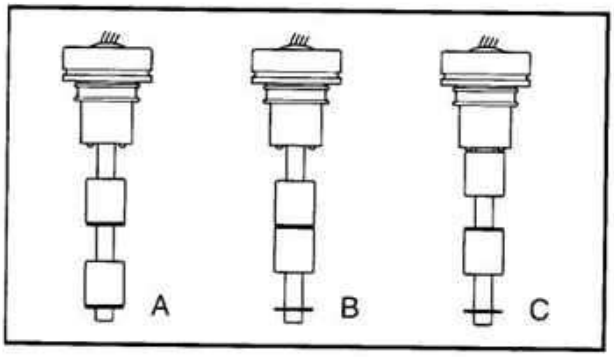
CDI ユニット
「点火系統」の項参照。

サーモスイッチ
「点火系統」の項参照。



ブザー
1. 点検
- ブザー
  ブザーが鳴らない→交換

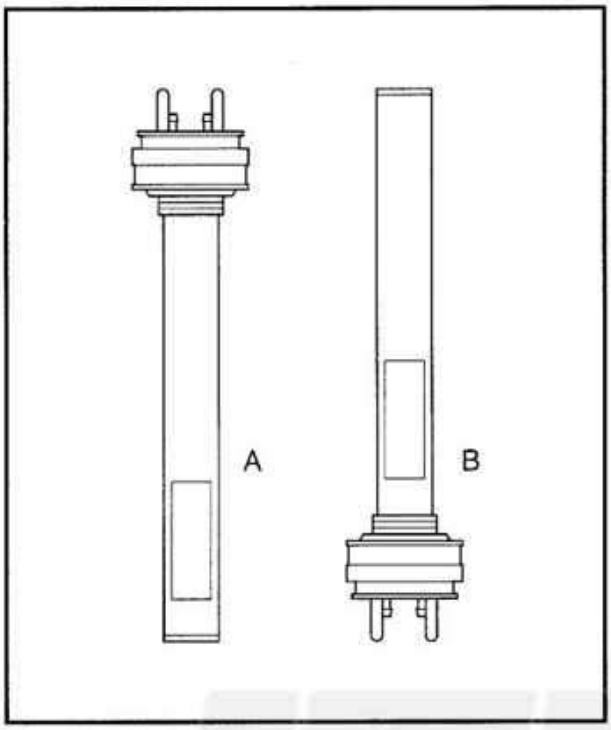
点検手順： 1) 12V のバッテリを、ブザーカプラに図のように接続する。
バッテリプラス端子→ R （赤色端子）① バッテリマイナス端子→ B （黒色端子）②



オイルレベルセンサ
1. 測定
- オイルレベルセンサの抵抗値
  規定値外→交換

L （青） － B （黒）	
フロート位置	抵抗値 （Ω）
A	292 ～ 308
B	97 ～ 103
C	0 ～ 3

WWW.JET-STAR.JP



燃料レベルセンサ

1. 測定
   - 燃料レベルセンサの抵抗値
     規定値以外→交換

W／L（白／青）－B（黒）		
	フロート位置	抵抗値（Ω）
	A	757～803
	B	0～8

マルチファンクションメータ

マルチファンクションメータ

1. 点検
   - マルチファンクションメータ
     メータハウジングの亀裂→マルチファンクションメータを交換
     メータが曇っている／メータハウジング内への水の浸入→マルチファンクションメータを交換

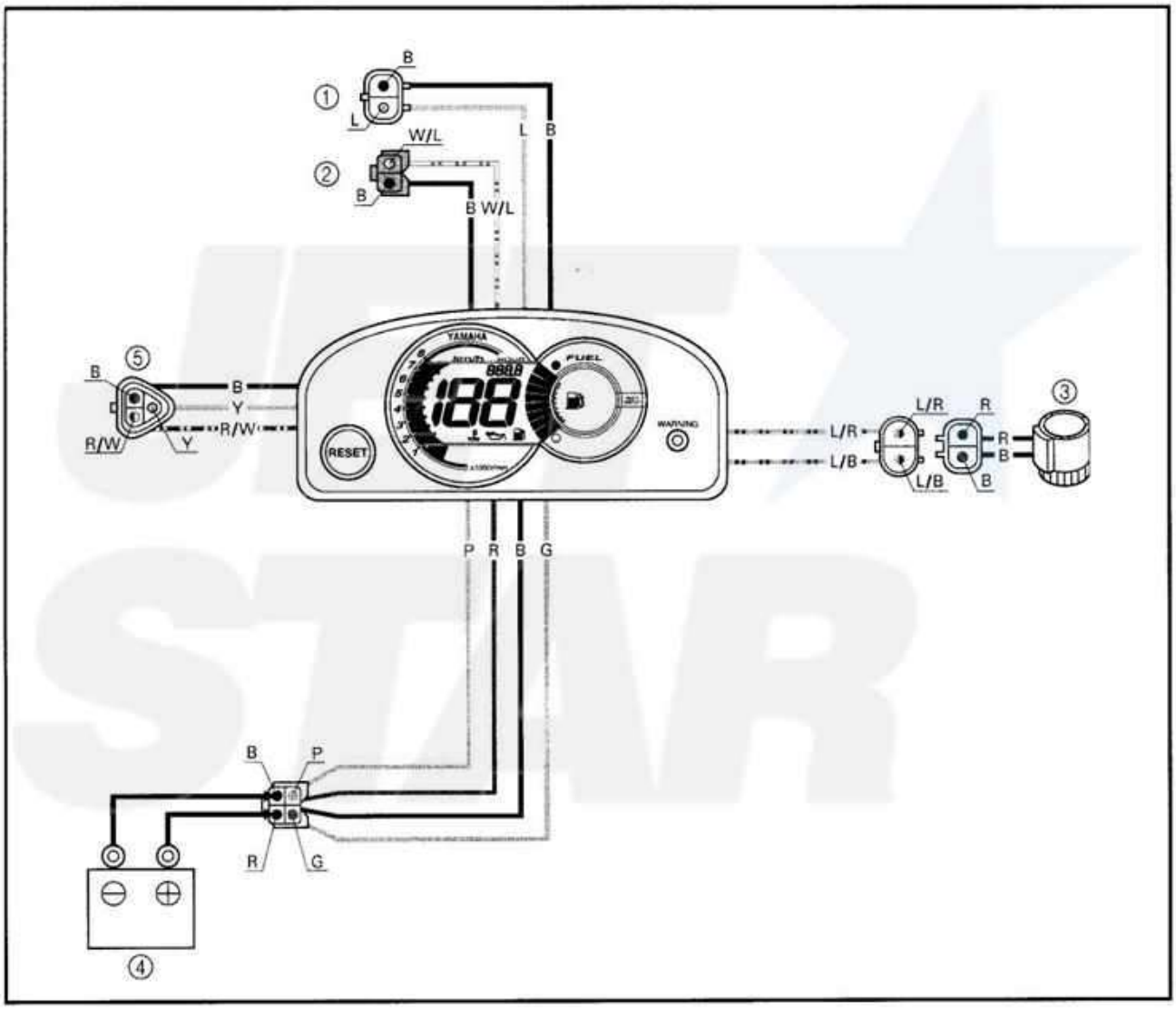
マルチファンクションメータの取外

第8章「ステアリングコンソールカバー」の項参照。

WWW.JET-STAR.JP

ディスプレイ機能

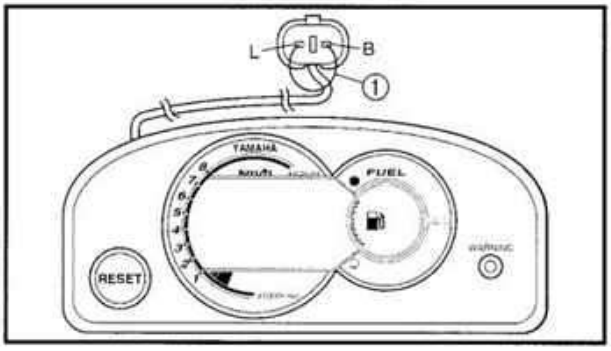
1. 点検
   - ディスプレイ機能
     表示しない→マルチファンクションメータを交換

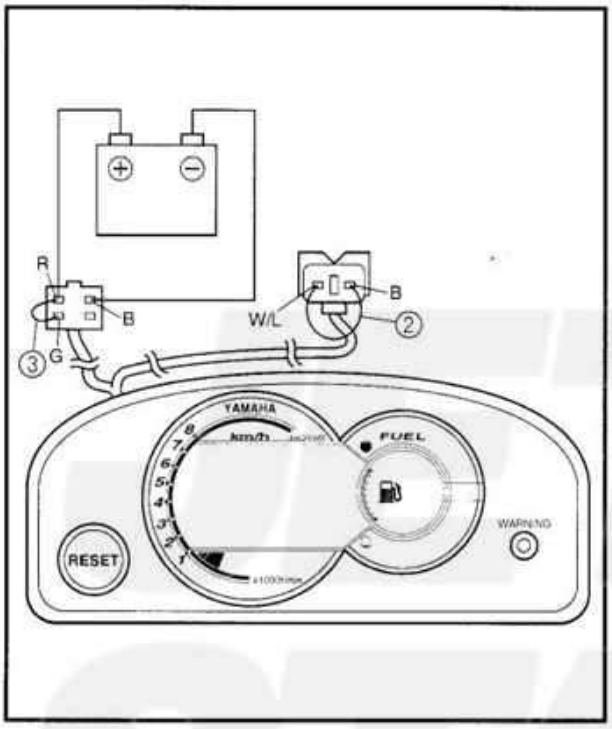


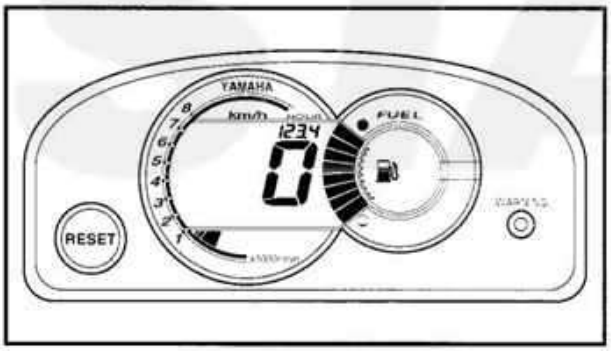
① オイルレベルセンサ
② 燃料レベルセンサ
③ ブザー
④ バッテリ
⑤ スピードセンサ

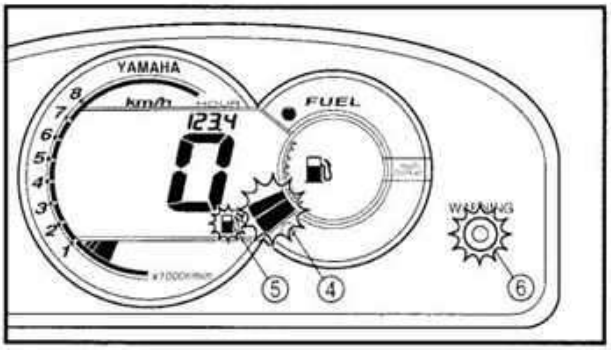
B	:	黒
G	:	緑
L	:	青
P	:	桃
R	:	赤
Y	:	黄
L/B	:	青／黒
L/R	:	青／赤
R/W	:	赤／白
W/L	:	白／青

WWW.JET-STAR.JP









燃料レベル表示

1. 点検
   - 燃料レベル表示
     作動しない→マルチファンクション メータを交換

要　点

マルチファンクションメータを単体で点検するときやオイルタンクが空になっているときは、オイル残量警告装置の作動を避けるため、ジャンパリード ① で青と黒のリード線（白色2ピンコネクタ）の端子を接続しておく。

点検手順：

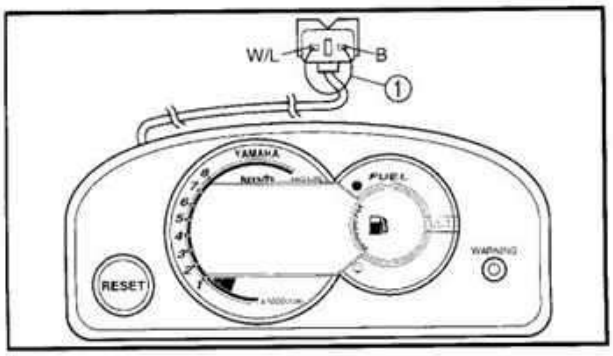
1) 12V バッテリを白色4ピンコネクタ（赤：⊕、黒：⊖）に接続する。
2) 緑色2ピンコネクタ（白／青と黒色リード線）を切離す。
3) ジャンパリード②で白／青と黒色リード線の端子を接続する。
4) ジャンパリード③で緑と赤色リード線の端子を接続する。

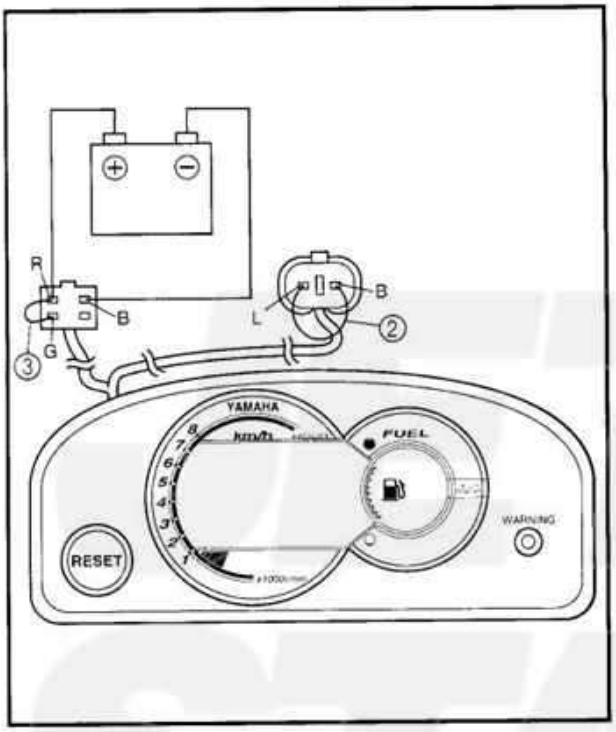
要　点

ジャンパリードが30秒以上接続されていると、ディスプレイは自動的に消える。

- 燃料レベルセグメントが全表示されているか点検する。
- ジャンパリード② を緑色2ピンコネクタから外す。
- ジャンパリード ③ を切離してから、再び緑と赤色リード線の端子を接続する。
- 燃料レベルセグメント ④、燃料の記号 ⑤ および“WARNING”ランプ ⑥ が点滅するとともに、ブザーが断続的に鳴ることを確認する。

WWW.JET-STAR.JP





オイルレベル表示

1. **点検**
   - オイルレベル表示
     作動しない→マルチファンクションメータを交換

要　点

マルチファンクションメータを単体で点検するときや燃料タンクが空になっているときは、燃料残量警告装置の作動を避けるため、ジャンパリード ① で白／青と黒リード線（緑色２ピンコネクタ）の端子を接続しておく。

点検手順：

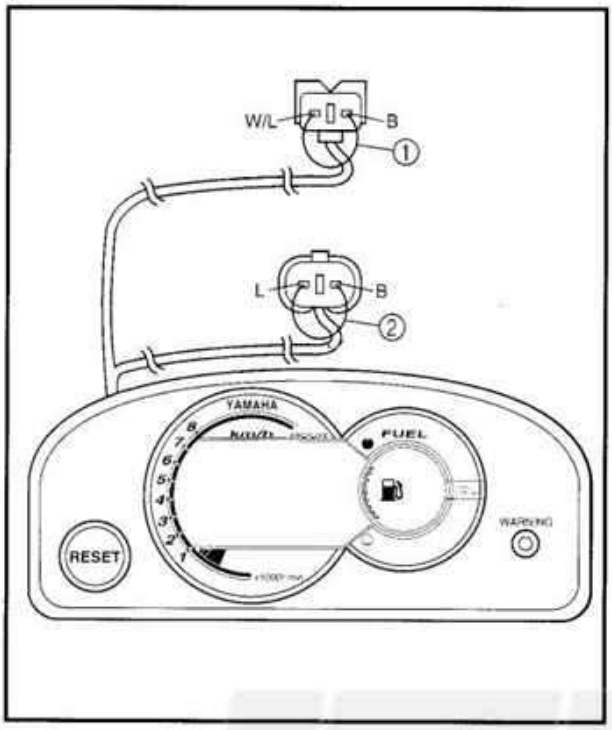
1) 12V バッテリを白色４ピンコネクタ（赤：⊕、黒：⊖）に接続する。
2) 白色２ピンコネクタ（青と黒色リード線）を切離す。
3) ジャンパリード②で青と黒色リード線の端子を接続する。
4) ジャンパリード③で緑と赤色リード線の端子を接続する。

要　点

ジャンパリードが30秒以上接続されていると、ディスプレイは自動的に消える。

5) ジャンパリード②を白色２ピンコネクタから外す。
6) ジャンパリード ③ を切離してから、緑と赤色リード線の端子を再び接続する。
7) オイルの記号 ④ と“WARNING”ランプ ⑤ が点滅するとともに、ブザーが断続的に鳴ることを確認する。

WWW.JET-STAR.JP



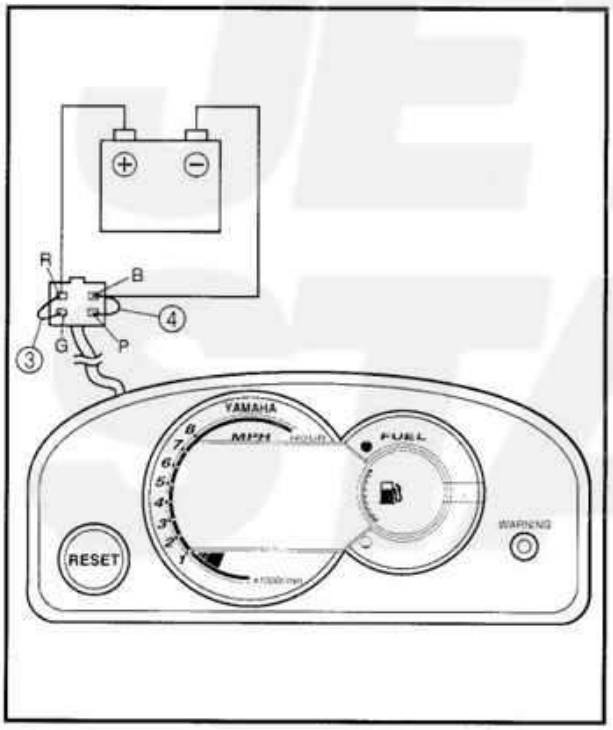
オーバヒート警告表示

1. 点検

- オーバヒート警告表示
  作動しない→マルチファンクション メータを交換

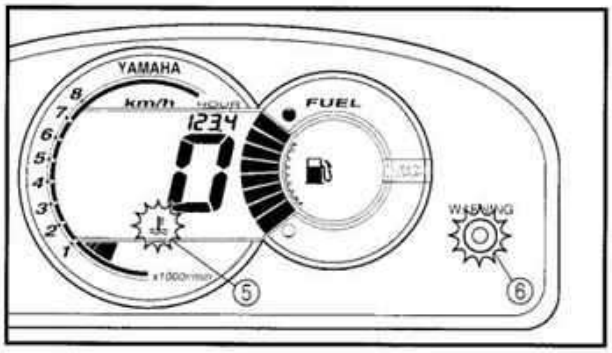
要　点

- マルチファンクションメータを単体で点検するときや燃料タンクが空になっているときは、燃料残量警告装置の作動を避けるため、ジャンパリード ① で白／青と黒リード線（緑色２ピンコネクタ）の端子を接続しておく。
- マルチファンクションメータを単体で点検するときやオイルタンクが空になっているときは、オイル残量警告装置の作動を避けるため、ジャンパリード ② で青と黒のリード線（白色２ピンコネクタ）の端子を接続しておく。

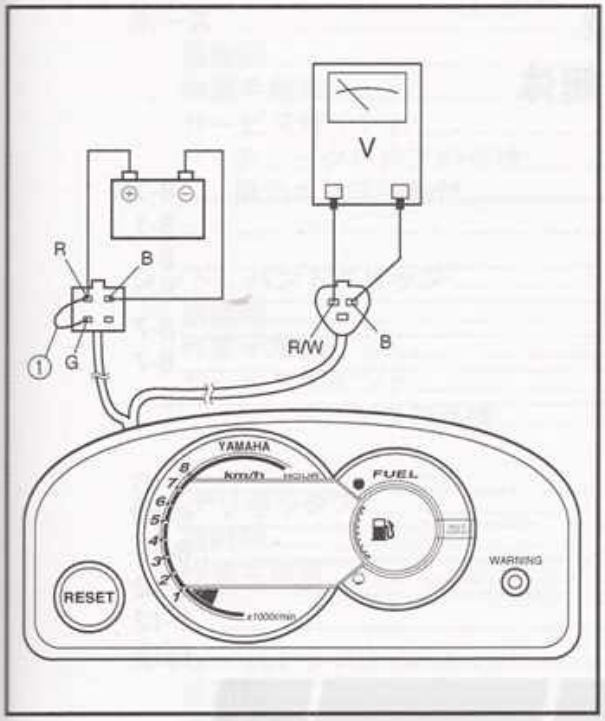


点検手順：

1) 12V バッテリを白色４ピンコネクタ（赤：⊕、黒：⊖）に接続する。
2) ジャンパリード③で緑と赤リード線の端子を接続する。
3) ジャンパリード ④ で桃と黒色リード線の端子を接続する。
4) 水温の記号 ⑤ と“WARNING”ランプ ⑥ が点滅するとともに、ブザーが断続的に鳴ることを確認する。



WWW.JET-STAR.JP



スピードメータ

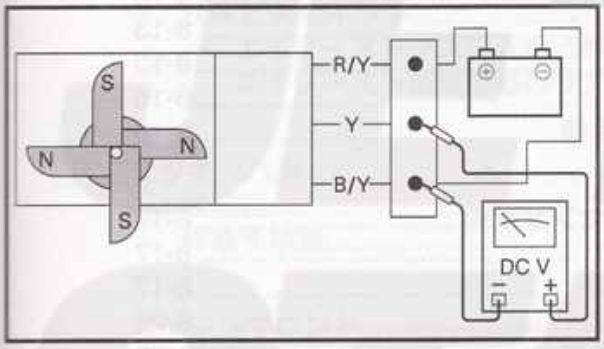
1. 点検

- スピードメータ出力電圧
  規定値の場合→スピードセンサの出力電圧およびパルス信号の点検
  規定値以外→交換

スピードメータ出力電圧：
10.5V

点検手順：

1) 12V バッテリを白色4ピンコネクタ（赤：⊕、黒：⊖）に接続する。
2) ジャンパリード①で緑と赤色リード線の端子を接続する。
3) スピードセンサコネクタ（白色3ピンコネクタ）の赤／白と黒色リード線間の電圧を測定する。

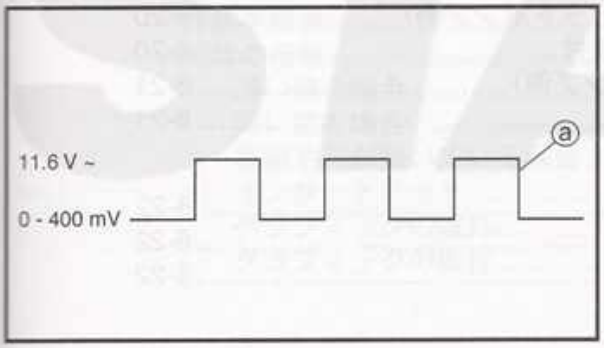


スピードセンサ

1. 点検

- スピードセンサ出力電圧およびパルス信号
  規定値以外→交換

スピードセンサ出力電圧（パドル位置により異なる）：
400mV 以下／11.6V 以上
出力パルス信号：
2パルス信号／1回転



点検手順：

1) 12V バッテリを白色3ピンコネクタ（赤／黄と黒／黄リード線間）に接続する。
2) パドルを手で回転させ、黄と黒／黄リード線間の電圧を測定する。

要　点

パドルが回転すると短形波の電圧信号ⓐが発生する。

- パドルが1回転するごとにパルス信号は2回出力される。

WWW.JET-STAR.JP

第 8 章
艤装品・艇体

ハンドルバー 8-1
展開図 8-1
作業手順表 8-1
サービスポイント 8-7
ハンドルバーの点検 8-7
ハンドルバースイッチの点検 8-7
ハンドルバーアッセンブリの取付 8-7

QSTS グリップ 8-10
展開図 8-10
作業手順表 8-10
サービスポイント 8-12
QSTS ケーブルの点検 8-12
QSTS グリップの点検 8-12

ステアリングコラム 8-13
展開図 8-13
作業手順表 8-13
サービスポイント 8-16
ステアリングコラムブッシングの点検 8-16

リモートコントロールケーブル、スピードセンサ配線 8-17
展開図 8-17
作業手順表 8-17
サービスポイント 8-20
リモートコントロールケーブルの点検 8-20
ステアリングケーブルの取付（ジェットポンプ側） 8-20
ステアリングケーブルストッパの取付 8-20
QSTS ケーブルの取付（ジェットポンプ側） 8-21
QSTS ケーブルストッパの取付 8-21

フロントハッチ 8-22
展開図 8-22
作業手順表 8-22

ステアリングコンソールカバー 8-24
展開図 8-24
作業手順表 8-24

ブザー、ハッチロック 8-28
展開図 8-28
作業手順表 8-28

ホース 8-31
展開図 8-31
作業手順表 8-31
サービスポイント 8-33
チェックバルブの点検 8-33
換気ホースの取付 8-33

シート、ハンドグリップ 8-34
展開図 8-34
作業手順表 8-34
サービスポイント 8-36
シートロックの点検 8-36

バッテリボックス 8-37
展開図 8-37
作業手順表 8-37

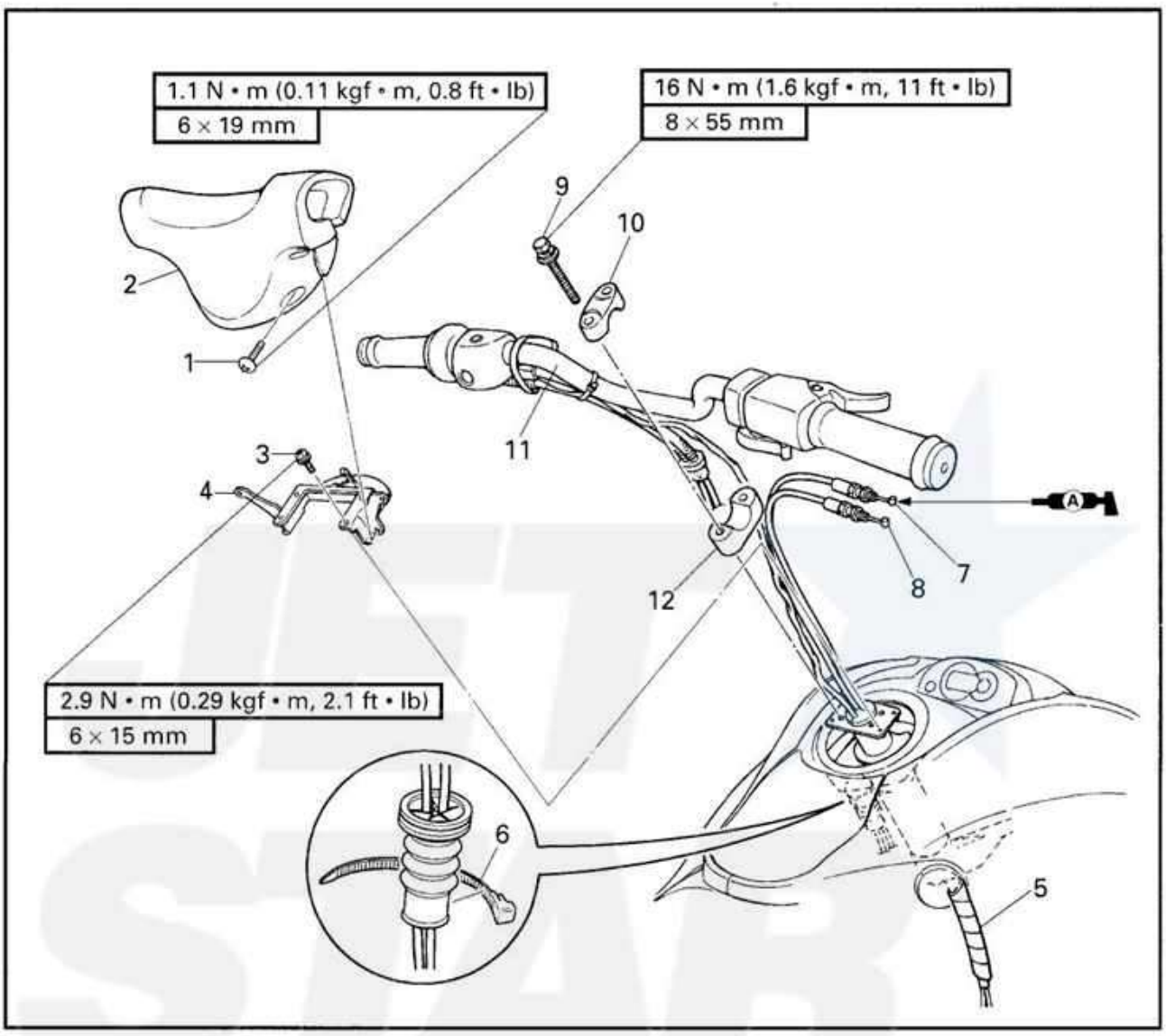
エキゾーストシステム 8-39
展開図 8-39
作業手順表 8-39
サービスポイント 8-41
エキゾーストシステムの点検 8-41
エキゾースト構成部品のサブアッセンブリ 8-41

デッキ、ハル 8-42
展開図 8-42
作業手順表 8-42

エンジンマウント 8-44
展開図 8-44
作業手順表 8-44
艇体の補修 8-45
浅い傷の場合 8-45
深い傷の場合 8-45
亀裂や穴が開いている場合 8-46
インサートナット 8-47
グラフィックの取外 8-49
グラフィックの取付 8-49

ハンドルバー

展開図



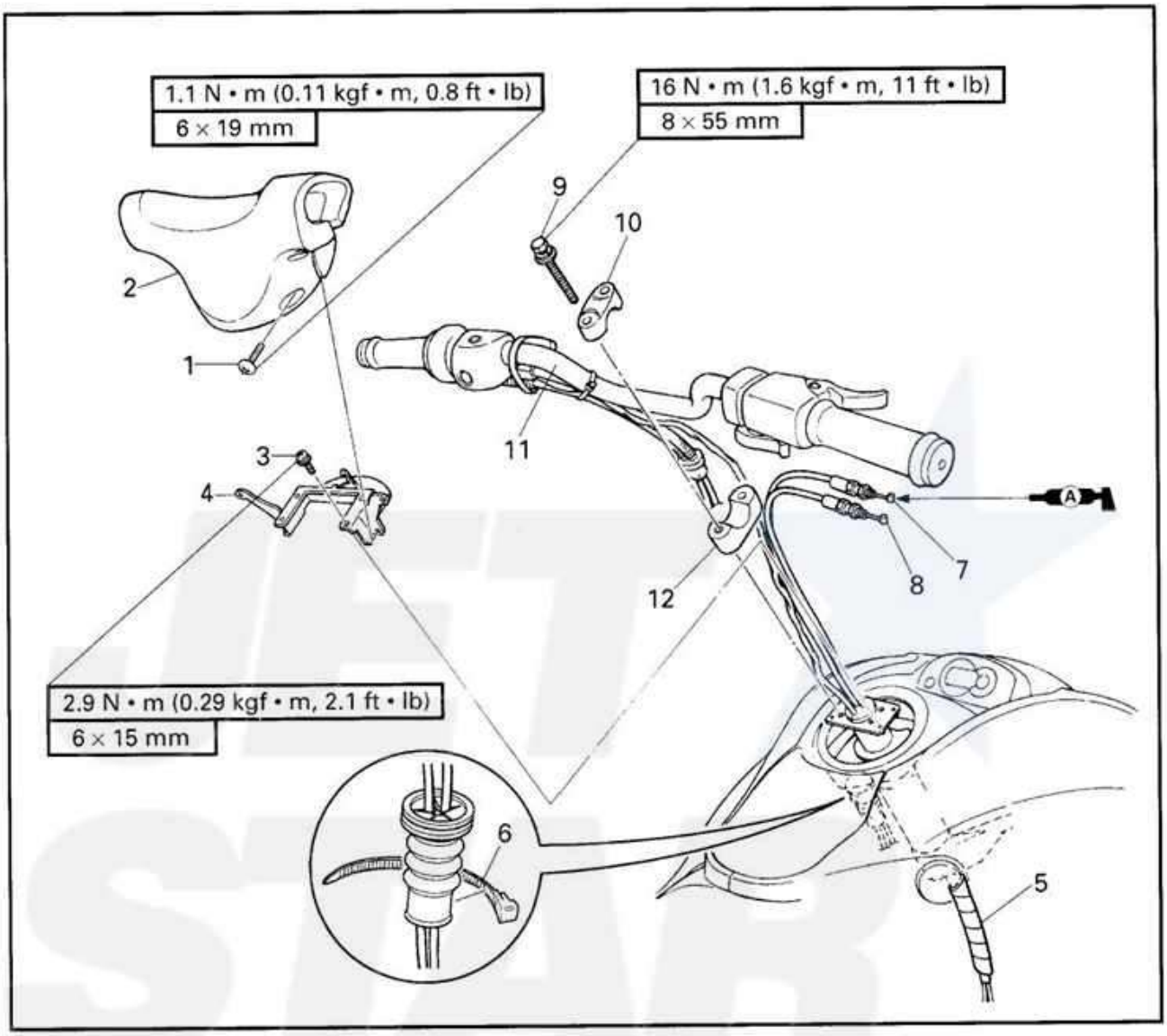
作業手順表

手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	ハンドルバーカバーの取外		左欄の「手順」のとおりに取外す。
1	スクリュ	4	
2	ハンドルバーカバー	1	
3	スクリュ	4	
4	ハンドルバーカバーステー	1	
5	スパイラルチューブ	1	
6	バンド	1	

WWW.JET-STAR.JP

ハンドルバー

展開図

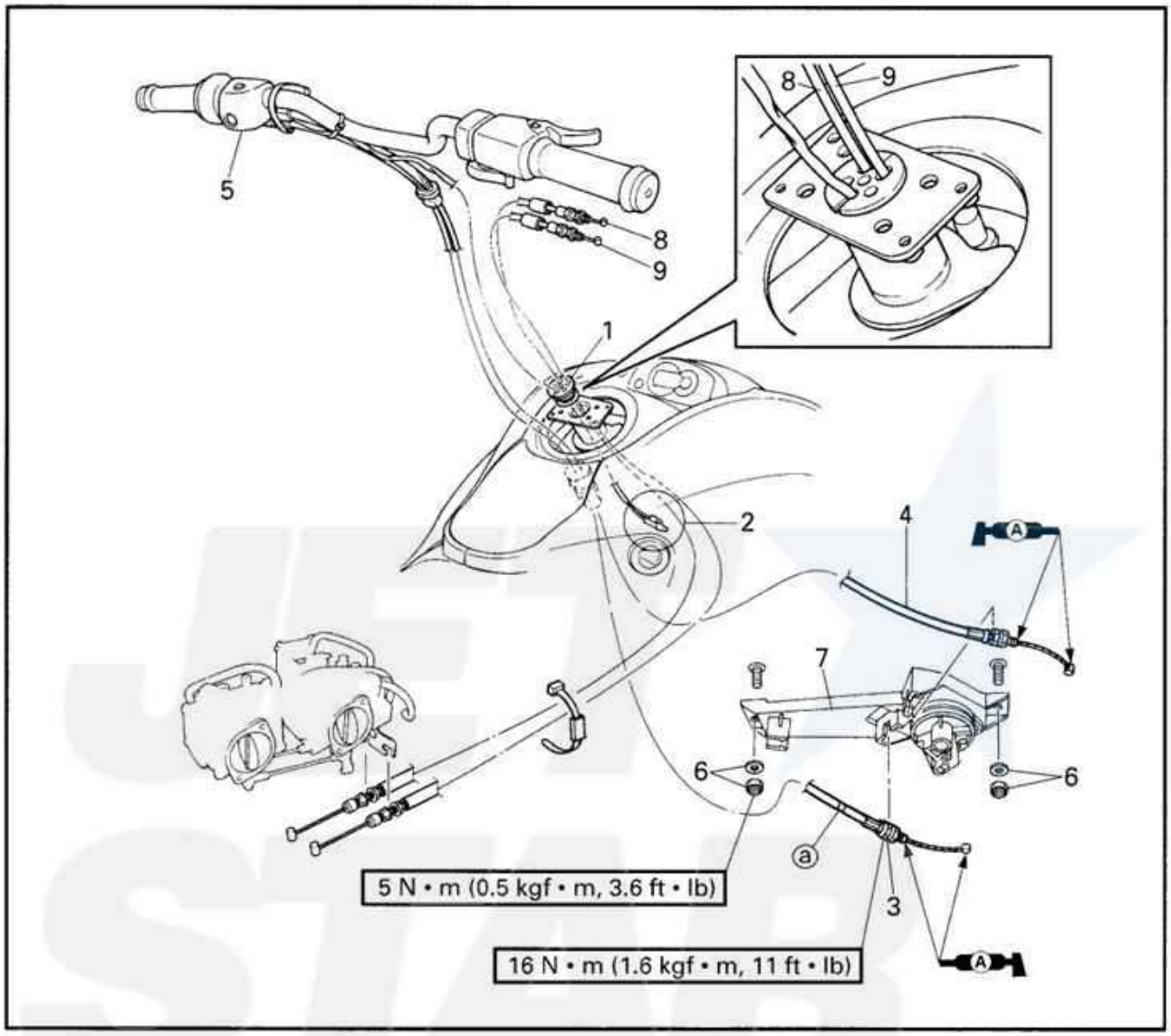


手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
7	スロットルケーブル	1	
8	チョークケーブル	1	
9	ボルト	4	
10	アッパハンドルバーホルダ	2	
11	ハンドルバーアッセンブリ	1	
12	ロワーハンドルバーホルダ	2	
			取付けは逆の手順で行う。

WWW.JET-STAR.JP

ハンドルバー

展開図



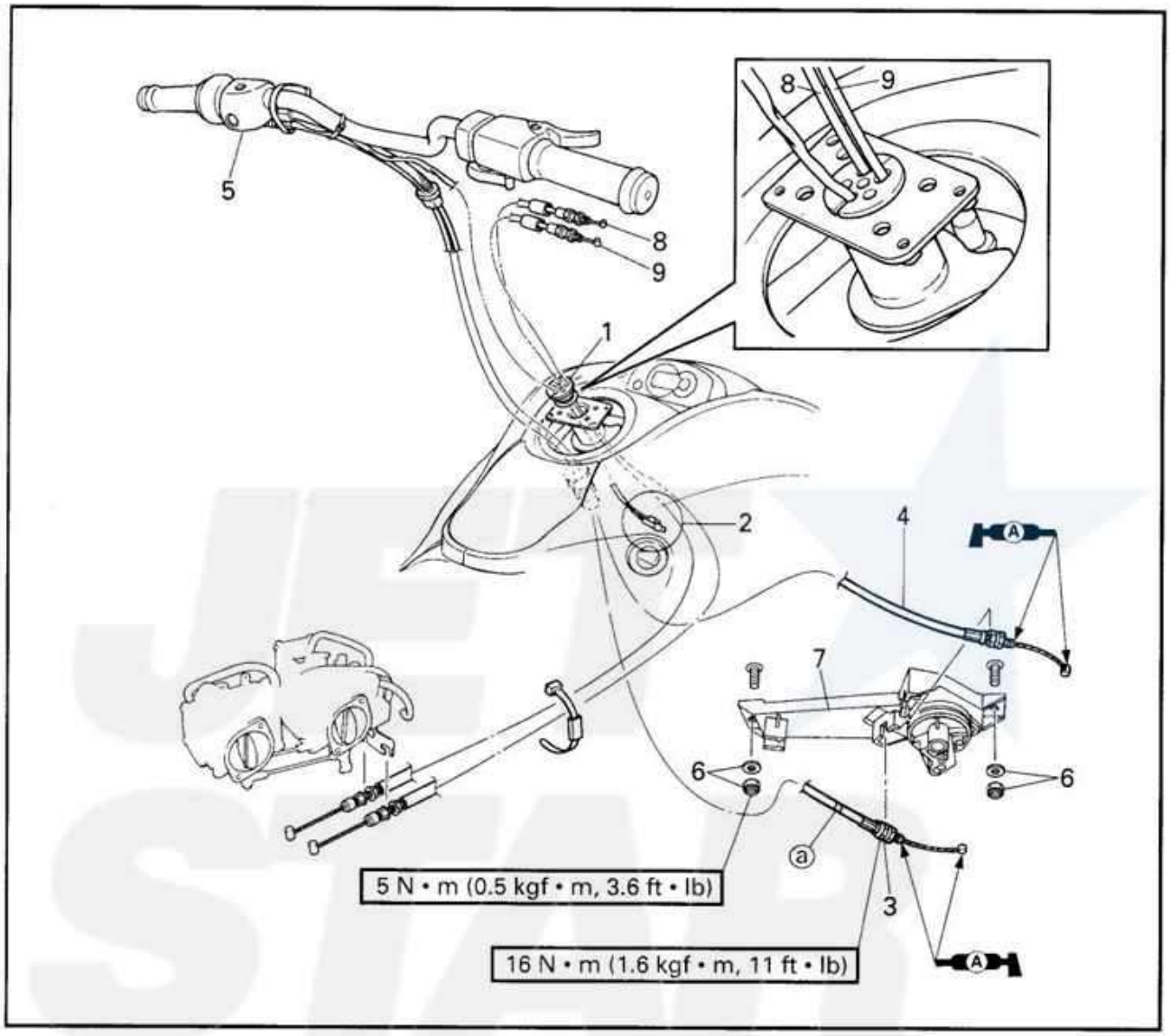
作業手順表

手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	ハンドルバーの取外 QSTS ケーブル（ジェットノズルへ）		左欄の「手順」のとおりに取外す。 「リモートコントロールケーブル、スピードセンサ配線」の項参照。
1	グロメット	1	**要　点** グロメットに石鹸水を塗ると容易に取付けられる。
2	ハンドルバースイッチカプラ	2	
3	QSTS ケーブル 2	1	白テープ ⓐ 付き

WWW.JET-STAR.JP

ハンドルバー

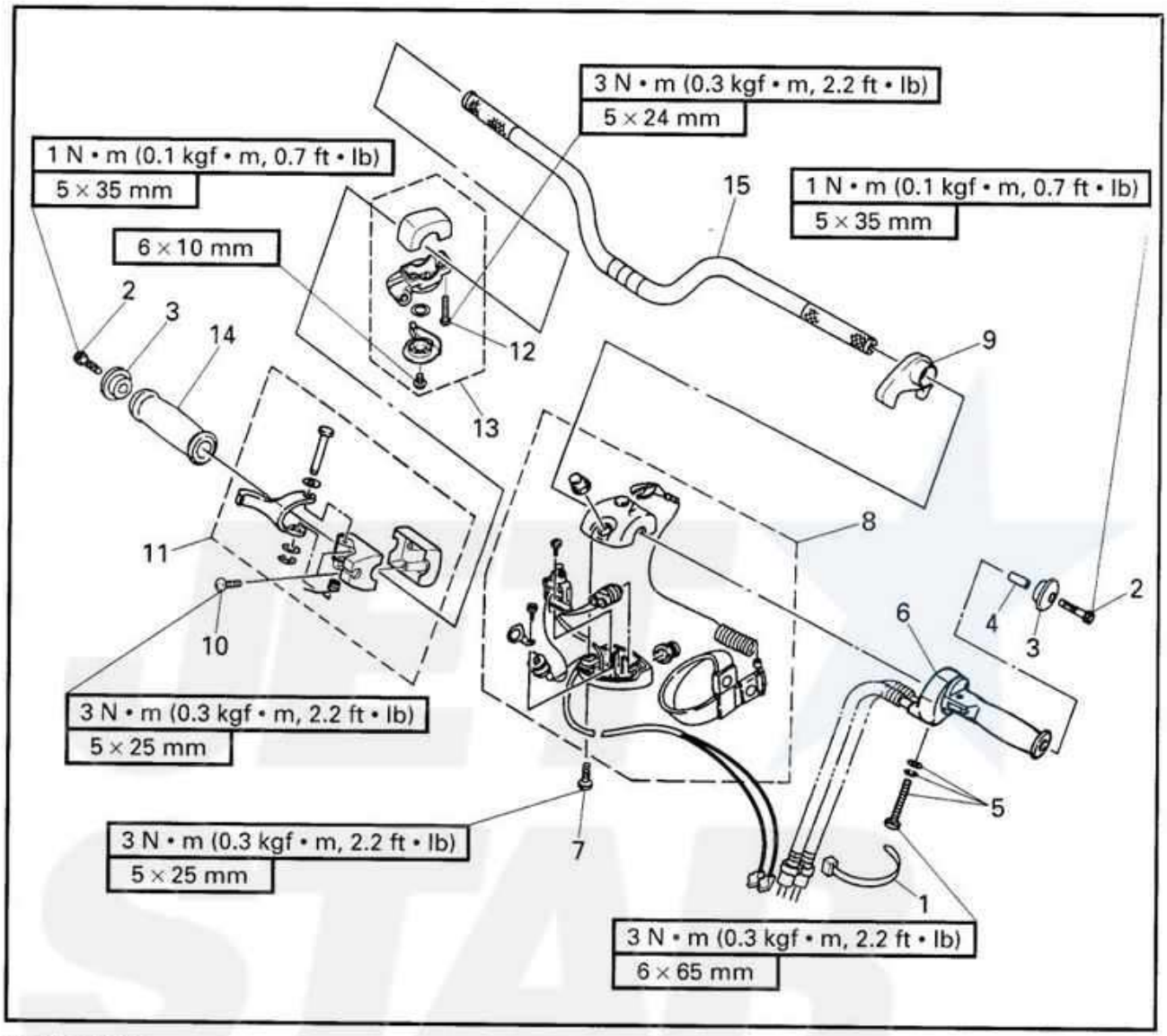
展開図



手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
4	QSTS ケーブル 1	1	**要　点** QSTS ケーブルをオイルフィラホースの後ろに通す。
5	ハンドルバーアッセンブリ	1	
6	ナット／ワッシャ	2/2	
7	QSTS コンバータ	1	
8	スロットルケーブル	1	
9	チョークケーブル	1	
			取付けは逆の手順で行う。

WWW.JET-STAR.JP

展開図



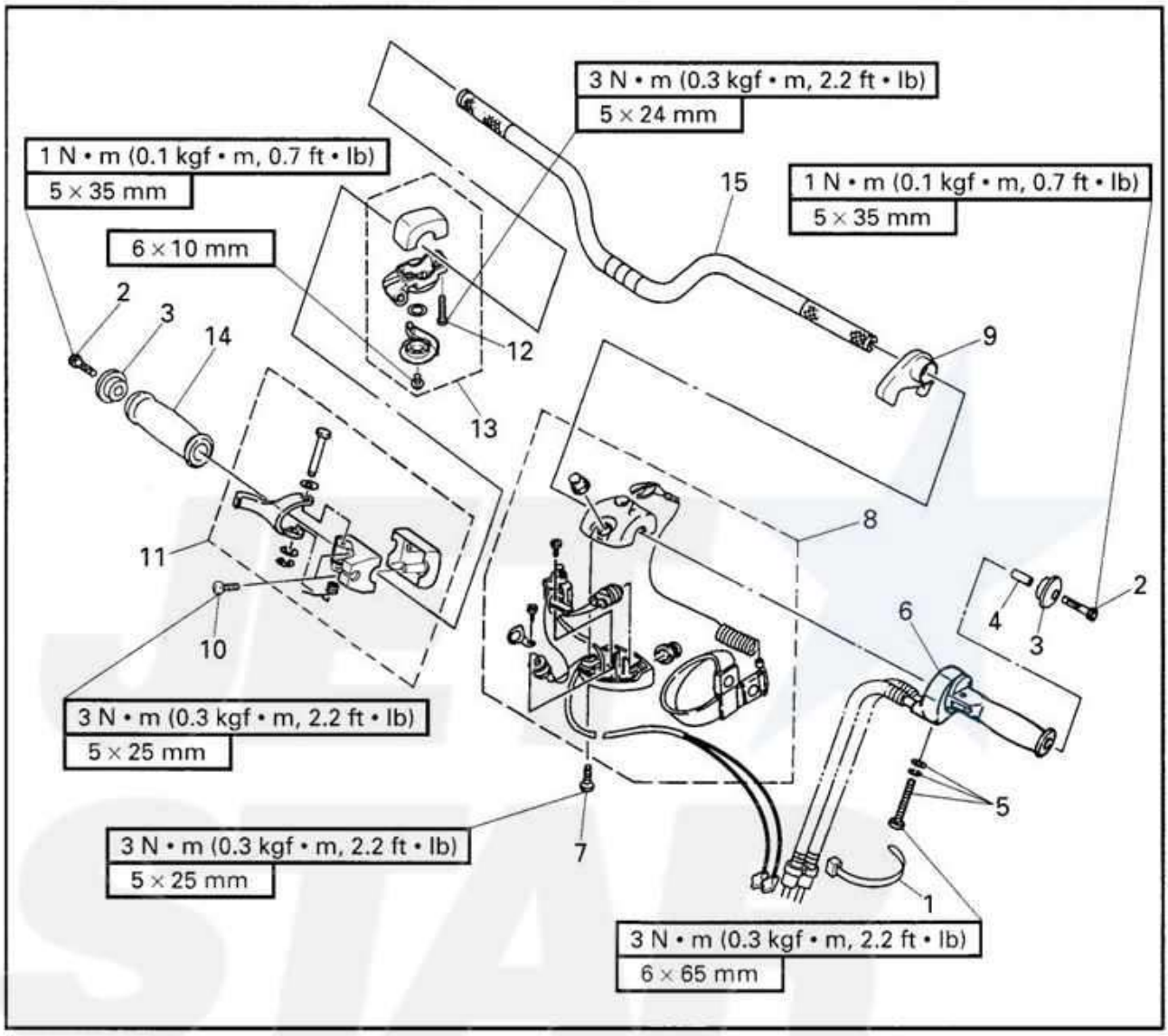
作業手順表

手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	ハンドルバーの分解		左欄の「手順」のとおりに分解する。
1	バンド	1	
2	ボルト	2	
3	グリップエンド	2	
4	スペーサ	1	
5	スクリュ／ワッシャ／スプリングワッシャ	1/1/1	
6	QSTS グリップアッセンブリ	1	
7	スクリュ	2	
8	ハンドルバースイッチアッセンブリ	1	
9	ケーブルホルダ	1	

WWW.JET-STAR.JP

ハンドルバー

展開図



手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
10	スクリュ	2	
11	スロットルレバーアッセンブリ	1	
12	スクリュ	2	
13	チョークレバーアッセンブリ	1	
14	ハンドルバーグリップ	1	**要　点** ハンドルバーとハンドルバーグリップの内面に接着剤を塗布する。
15	ハンドルバー	1	組立は逆の手順で行う。

WWW.JET-STAR.JP

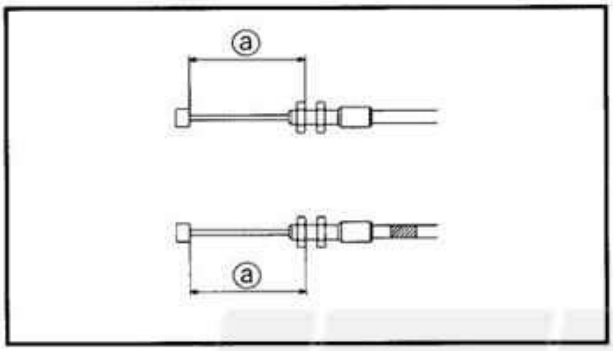
サービスポイント

ハンドルバーの点検

1. 点検
   - ハンドルバー
     曲り／亀裂／損傷→交換

ハンドルバースイッチの点検

第7章「点火系統」、「始動系統」の項参照。



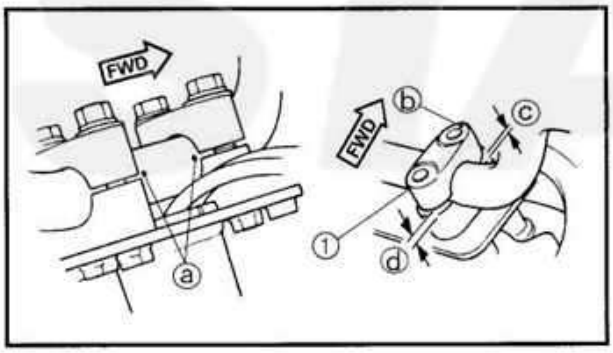
ハンドルバーアッセンブリの取付

1. 取付
   - QSTS ケーブル長さ ⓐ

	QSTS ケーブル長さ： 77 ± 0.5mm

要　点

- QSTS ケーブルを調整する前に、コントロールグリップをニュートラルの位置にセットする。
- QSTS ケーブルの長さ ⓐ を規定ケーブル長さに調整してからケーブルのたるみをなくす。



2. 取付
   - アッパハンドルバーホルダ ①

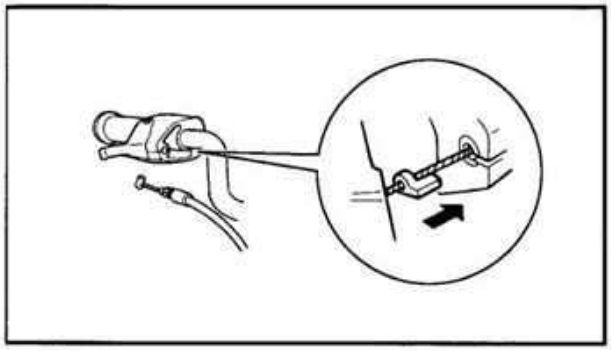
要　点

- ハンドルバー上のポンチマーク ⓐ をハンドルバーホルダの上面に一致させる。
- アッパハンドルバーホルダのポンチマーク ⓑ がマリンジェットの船首方向になるように取付ける。

▲注 意

ハンドルバーホルダのすき間は、ⓒ がすき間 ⓓ より狭くなるように締付けること。

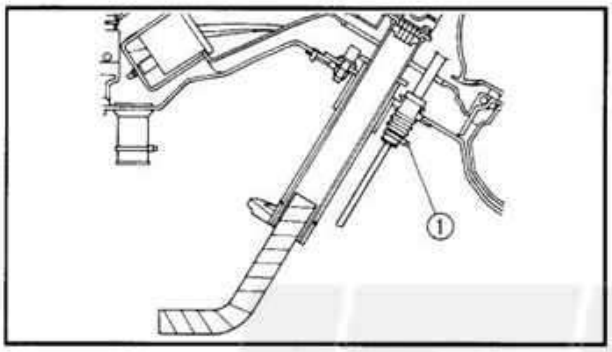
WWW.JET-STAR.JP



3. 取付
- スロットルケーブル

要　点

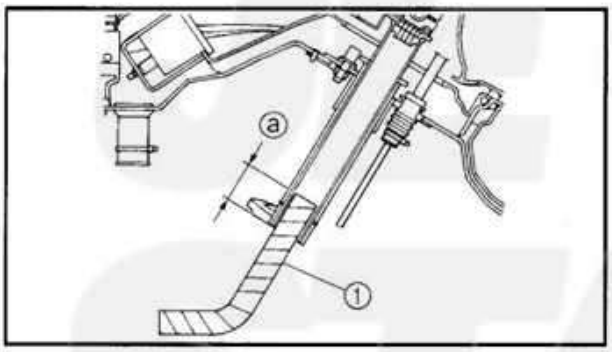
シールをブラケットの溝にはめ込む。



4. 取付
- バンド ①

要　点

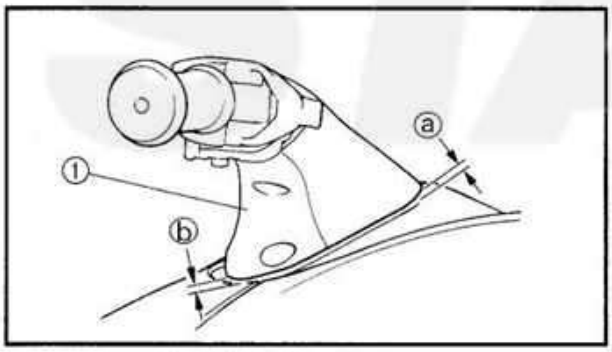
QSTS ケーブルをグロメットに挿入した後、グロメットの端をバンドで締めておく。



5. 取付
- スパイラルチューブ ①

要　点

スパイラルチューブでスロットルケーブル、チョークケーブルおよびハンドルスイッチリード線を束ね、ステアリングコラムの中に50mmⓐ以上挿入して取付ける。



6. 取付
- ハンドルバーカバー ②

要　点

ハンドルバーカバーがステアリングコンソールカバーに当たる場合には、すき間ⓐとⓑが同じ寸法になるように、ハンドルバーの取付け角度を調整する。

WWW.JET-STAR.JP

7. 調整
- チョークレバーの作動
  第3章「コントロールシステム」の項参照。

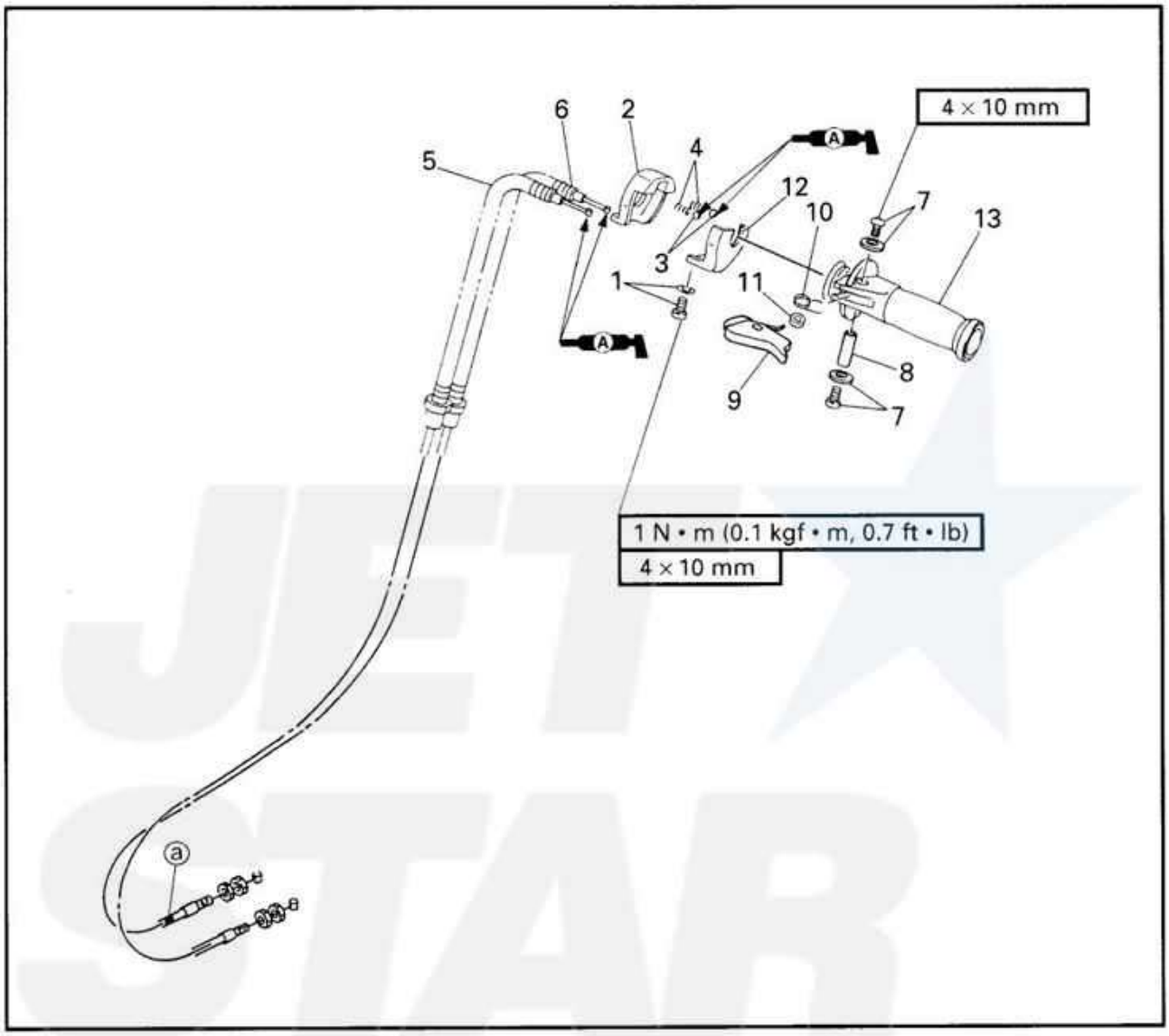
8. 調整
- スロットルレバーの遊び
  第3章「コントロールシステム」の項参照。

9. 調整
- QSTS ケーブル
  第3章「コントロールシステム」の項参照。

JET STAR

WWW.JET-STAR.JP

QSTS グリップ
展開図

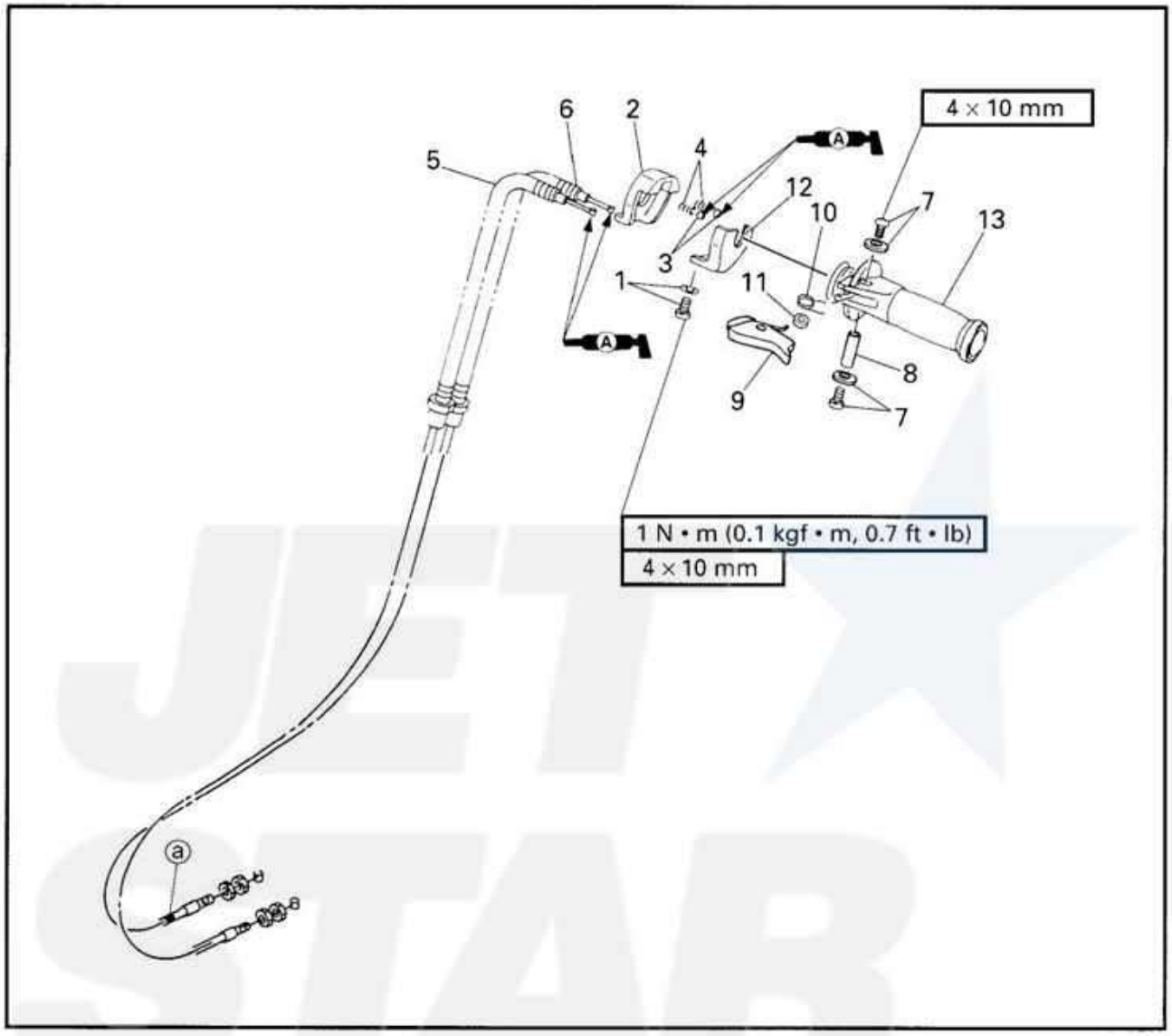


作業手順表

手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	QSTS グリップの分解		左欄の「手順」のとおりに分解する。
	QSTS グリップアッセンブリ		「ハンドルバー」の項参照。
1	スクリュ／ワッシャ	1/1	
2	カバー	1	
3	ボール	2	
4	スプリング	2	
5	QSTS ケーブル 1	1	
6	QSTS ケーブル 2	1	白テープ ⓐ 付き

WWW.JET-STAR.JP

展開図



手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
7	スクリュ／ワッシャ	2/2	
8	カラー	1	
9	QSTS シフトロックレバー	1	
10	スプリング	1	
11	スペーサ	1	
12	QSTS ケーブルハウジングカバー	1	
13	QSTS シフトグリップ	1	
			組立は逆の手順で行う。

WWW.JET-STAR.JP

QSTS グリップ

サービスポイント

QSTS ケーブルの点検

1. 点検
   - QSTS ケーブル
     こすれ／よじれ／ガタ→交換

QSTS グリップの点検

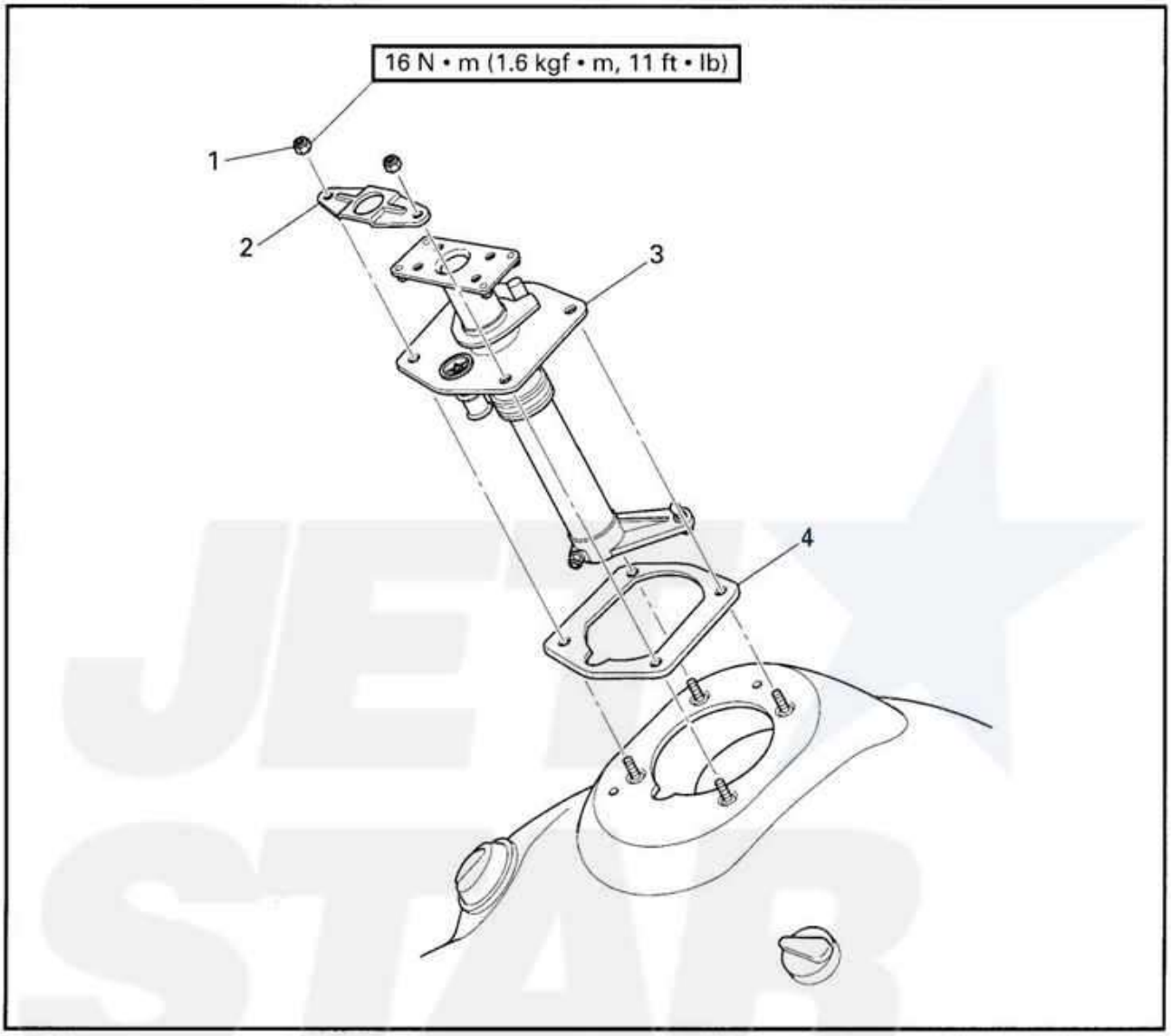
1. 点検
   - QSTS グリップ
     損傷／摩耗→交換

JET STAR

WWW.JET-STAR.JP

ステアリングコラム

展開図



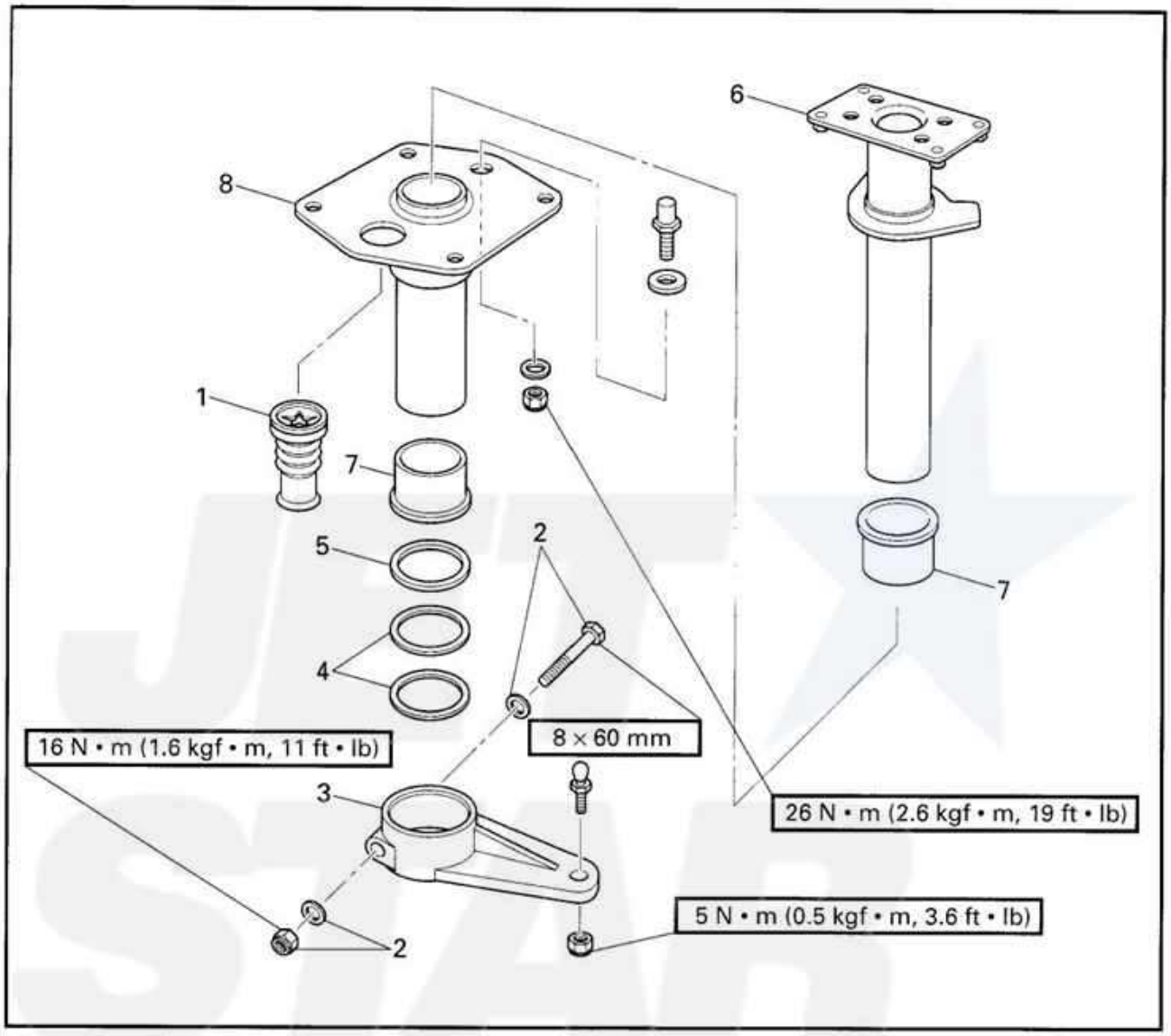
作業手順表

手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	ステアリングコラムの取外		左欄の「手順」のとおりに取外す。
	ステアリングコンソールカバーアッセンブリ		「ステアリングコンソールカバー」の項参照。
	ステアリングケーブルエンド		「リモートコントロールケーブル、スピードセンサ配線」の項参照。
1	ナット	4	
2	プレート	1	
3	ステアリングコラムアッセンブリ	1	
4	ラバーシール	1	
			取付けは逆の手順で行う。

WWW.JET-STAR.JP

ステアリングコラム

展開図



作業手順表

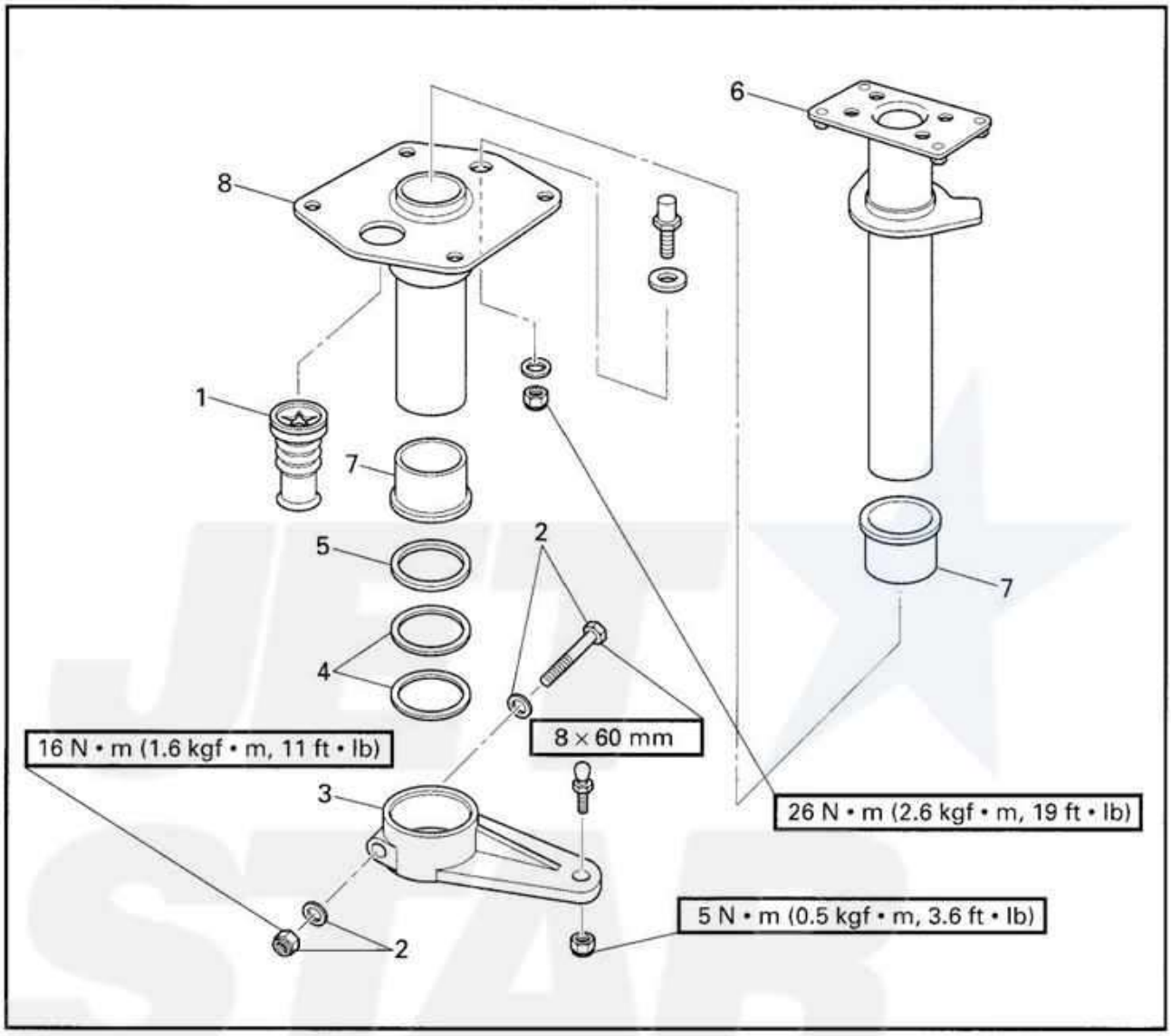
手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	ステアリングコラムの分解		左欄の「手順」のとおりに分解する。
1	グロメット	1	
2	ボルト／ワッシャ／ナット	1/2/1	
3	ステアリングアーム	1	
4	シム	*	

*: シムは最初に取付けられていた数と同じ数を取付ける。

WWW.JET-STAR.JP

ステアリングコラム

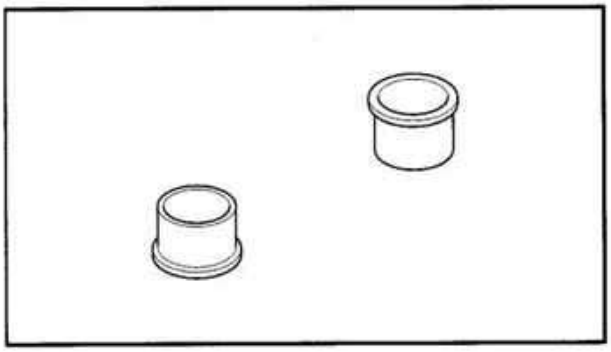
展開図



手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
5	ワッシャ	1	
6	ステアリングコラム	1	
7	ブッシング	2	
8	ステアリングコラムハウジング	1	
			組立は逆の手順で行う。

WWW.JET-STAR.JP

ステアリングコラム



サービスポイント

ステアリングコラムブッシングの点検

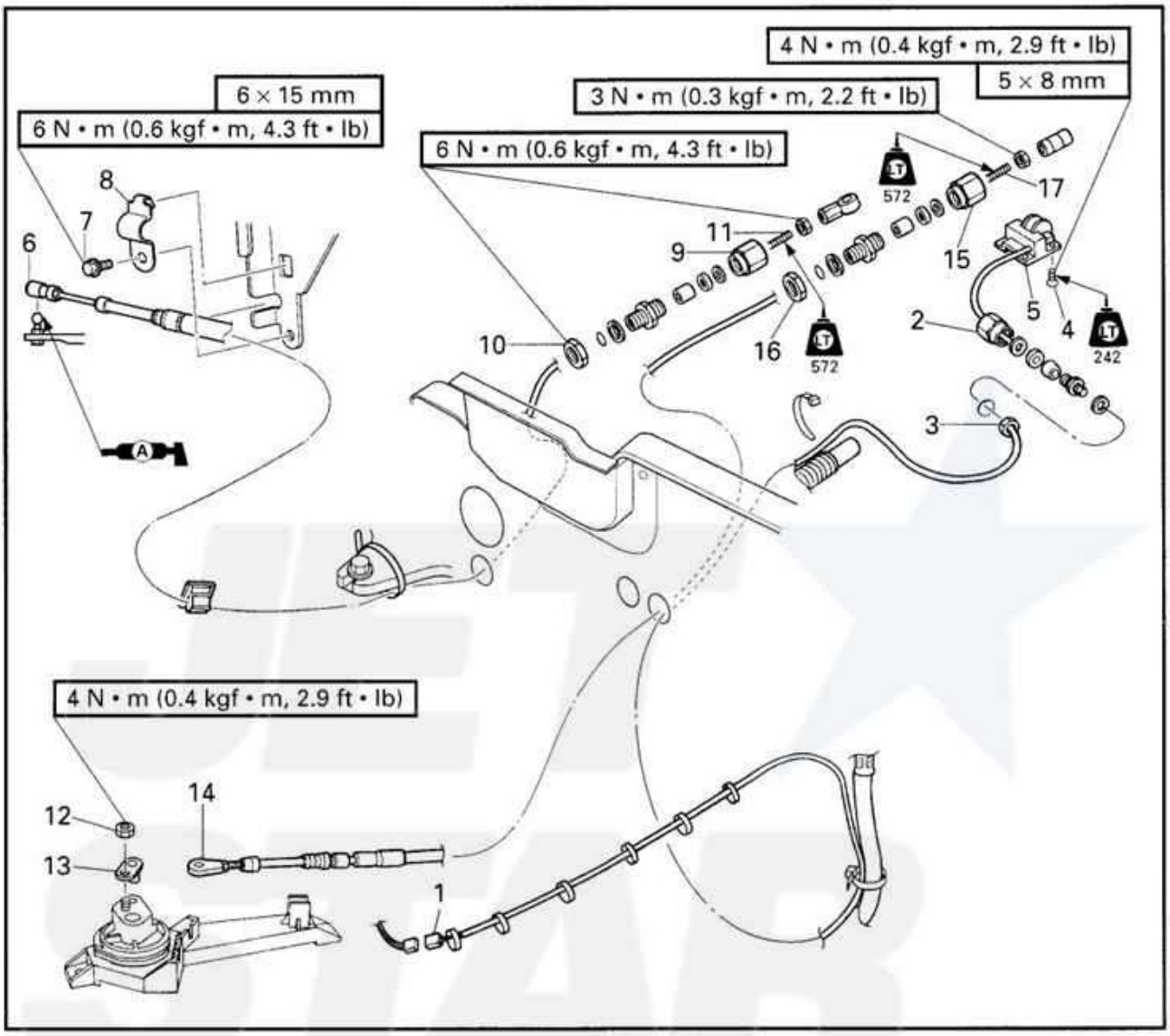
1. 点検
   - ブッシング
     損傷／摩耗→交換
2. 点検
   - ステアリングコラムの点検
     第3章「コントロールシステム」の項参照。

JET STAR

WWW.JET-STAR.JP

リモートコントロールケーブル、スピードセンサ配線

展開図



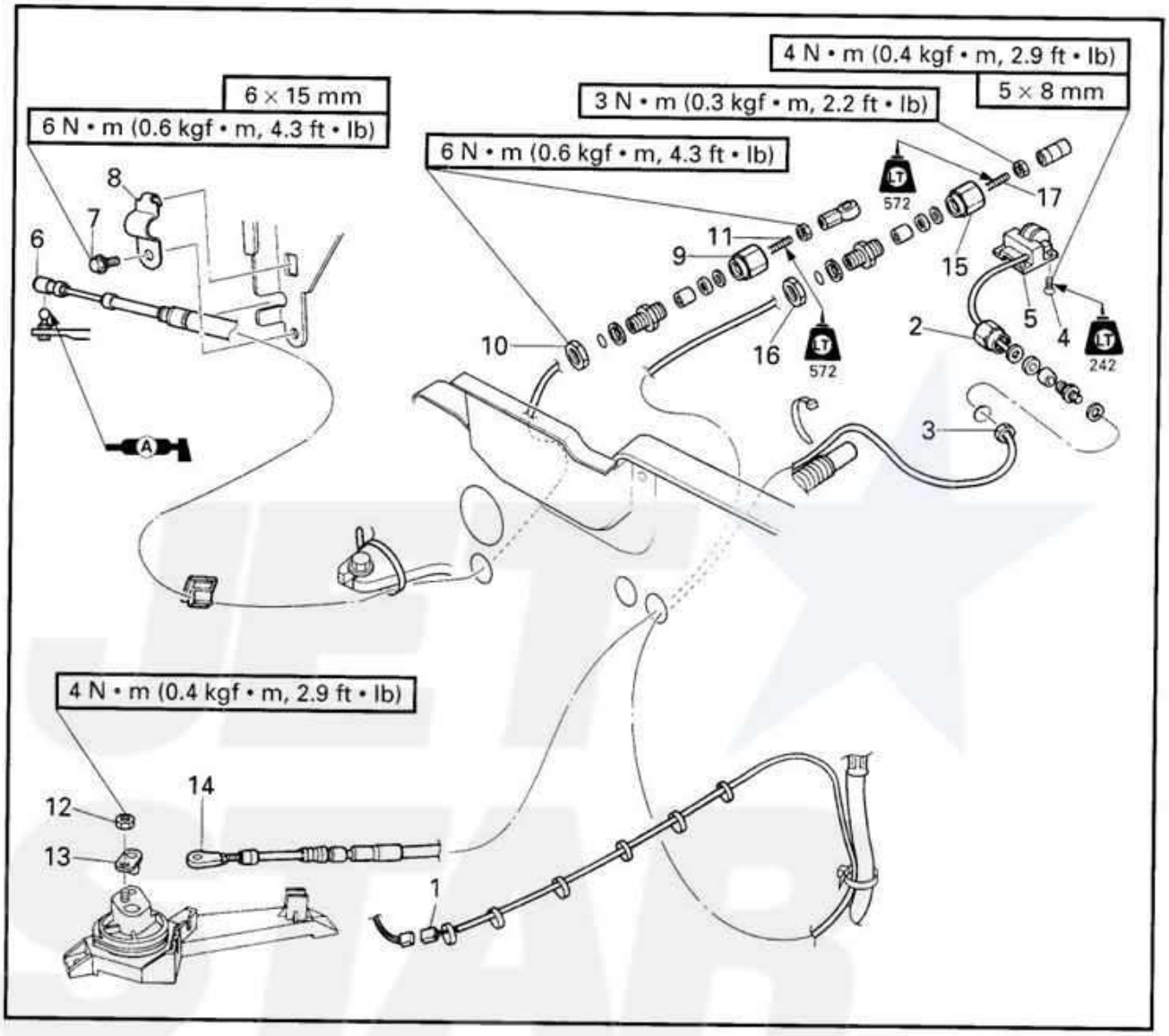
作業手順表

手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	リモートコントロールケーブル、スピードセンサ配線の取外		左欄の「手順」のとおりに取外す。
1	スピードセンサカプラ	1	
2	キャップ	1	
3	ナット	1	
4	スクリュ	4	
5	スピードセンサ	1	
6	ステアリングケーブルエンド	1	
7	ボルト	1	
8	ステアリングケーブルホルダ	1	

WWW.JET-STAR.JP

リモートコントロールケーブル、スピードセンサ配線

展開図

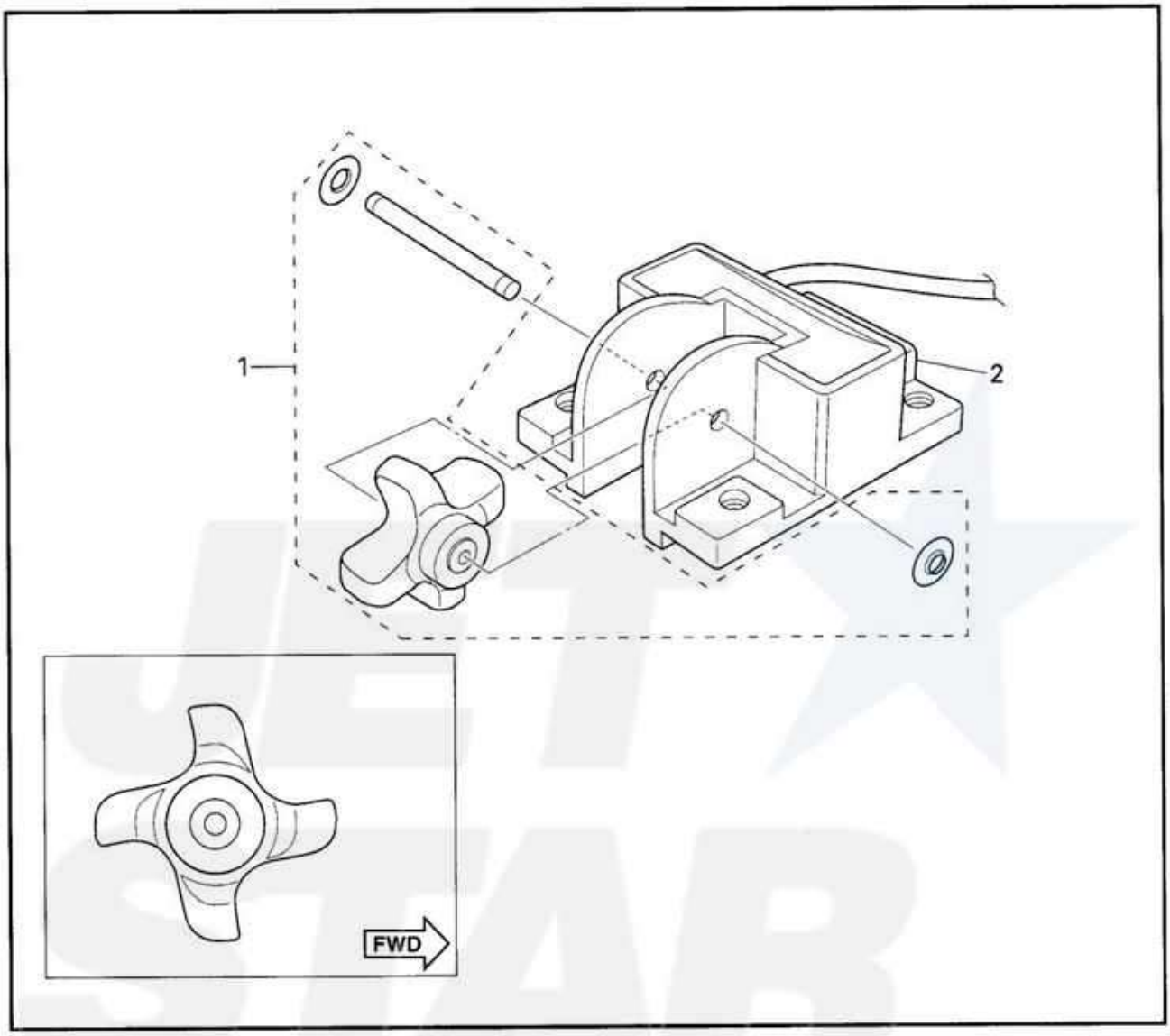


手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
9	キャップ	1	
10	ナット	1	
11	ステアリングケーブル	1	
12	ナット	1	
13	ピン	1	
14	QSTS ケーブルエンド	1	
15	キャップ	1	
16	ナット	1	
17	QSTS ケーブル	1	
			取付けは逆の手順で行う。

WWW.JET-STAR.JP

リモートコントロールケーブル、スピードセンサ配線

展開図



作業手順表

手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	スピードセンサの分解		左欄の「手順」のとおりに分解する。
1	パドルホイルセット	1	再使用不可
2	スピードセンサハウジング	1	
			組立は逆の手順で行う。

WWW.JET-STAR.JP

リモートコントロールケーブル、スピードセンサ配線

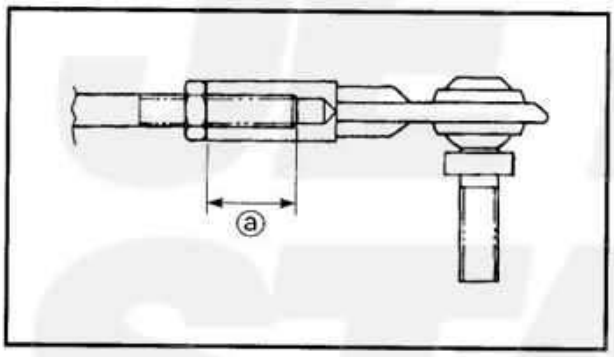
サービスポイント

⚠ 警 告

ケーブルのとりまわしの際は、ブラケット取付部より先端のスチールのケーブル部分を掴まないようにする。ケーブル先端に負荷が掛り、また取りまわし角度が鋭角になり、ケーブルを変形させたり遊びを増やす原因となる。ケーブルは常にブラケットまたは取付部分よりも奥側を持つ。
変形したり遊びが大きくなったケーブルは交換すること。ケーブルを修理して使用してはならない。

リモートコントロールケーブルの点検

1. 点検
   - ステアリングケーブル
   - QSTS ケーブル
     こすれ／よじれ／ガタ→交換



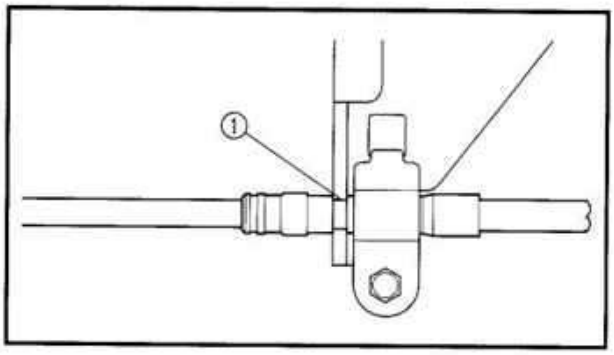
ステアリングケーブルの取付（ジェットポンプ側）

1. 取付
   - ステアリングケーブル ⓐ

ステアリングケーブルセット長さ（ジェットポンプ側）：
13.5 ～ 15.5mm

⚠ 警 告

ステアリングケーブルは8mm以上ねじ込んでおくこと。



ステアリングケーブルストッパの取付

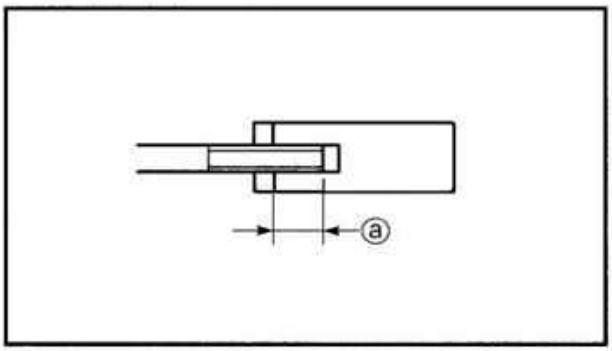
1. 取付
   - ステアリングケーブルストッパ

⚠ 警 告

ステアリングケーブルがステアリングケーブルブラケットの溝 ① に確実にはまっていること。

WWW.JET-STAR.JP

リモートコントロールケーブル、スピードセンサ配線



QSTS ケーブルの取付（ジェットポンプ側）

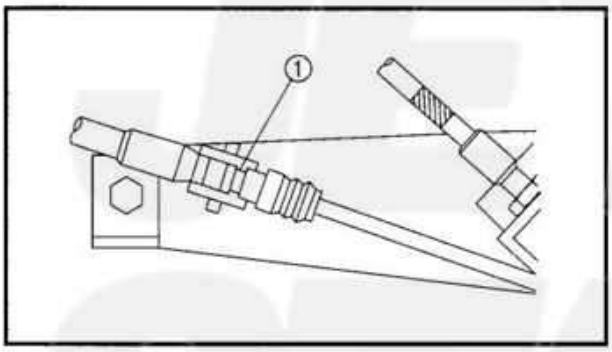
1. 取付

- QSTS ケーブルの取付（ジェットポンプ側）ⓐ

QSTS ケーブルセット長さ（ジェットポンプ側）：
12.0 ～ 14.0mm

⚠ 警 告

QSTS ケーブルは 8mm 以上ねじ込んでおくこと。



QSTS ケーブルストッパの取付

1. 取付

- QSTS ケーブルストッパ

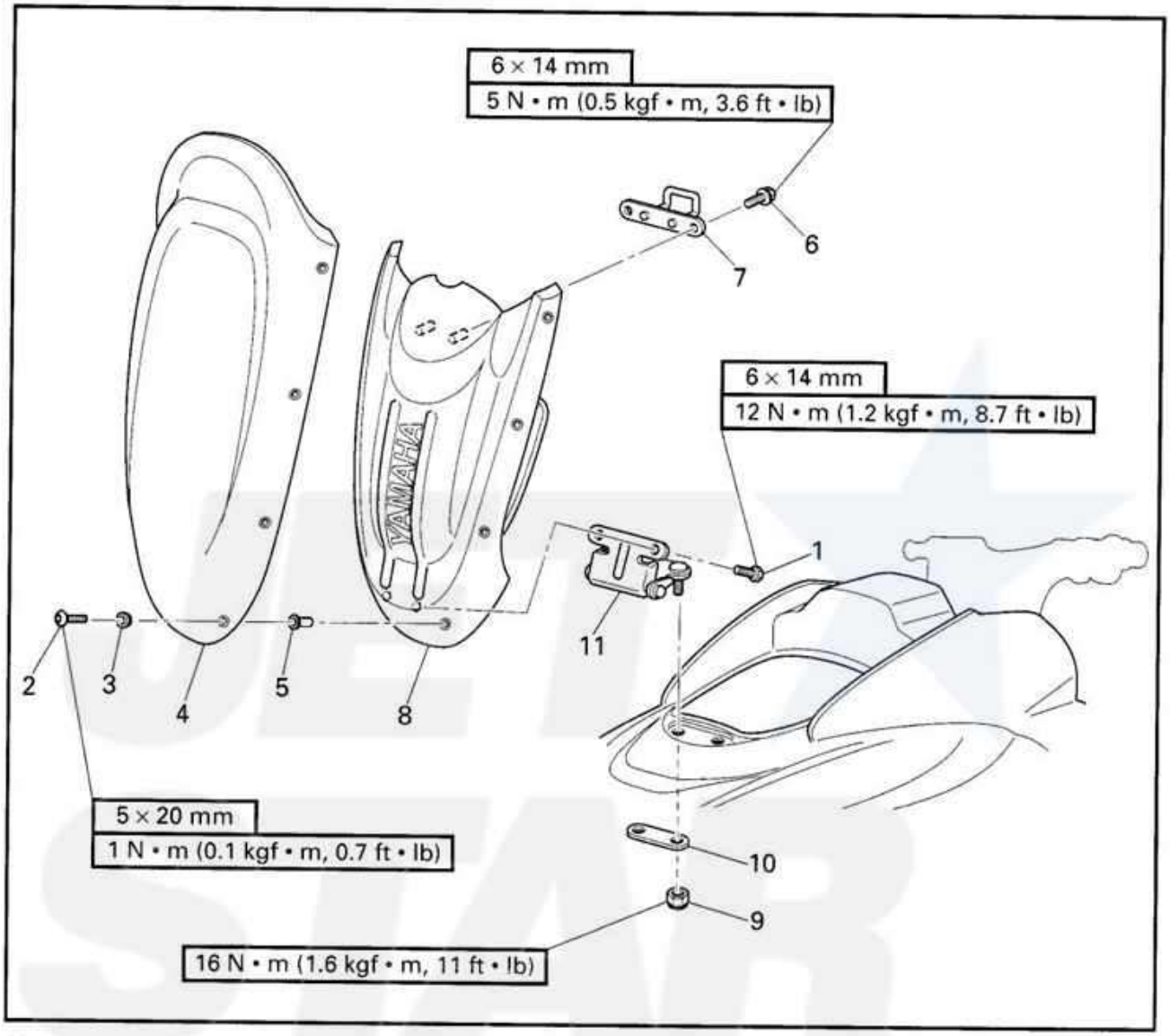
⚠ 警 告

QSTS ケーブルストッパの突起 ① がアウタケーブルの溝に確実にはまっていること。

WWW.JET-STAR.JP

フロントハッチ

展開図



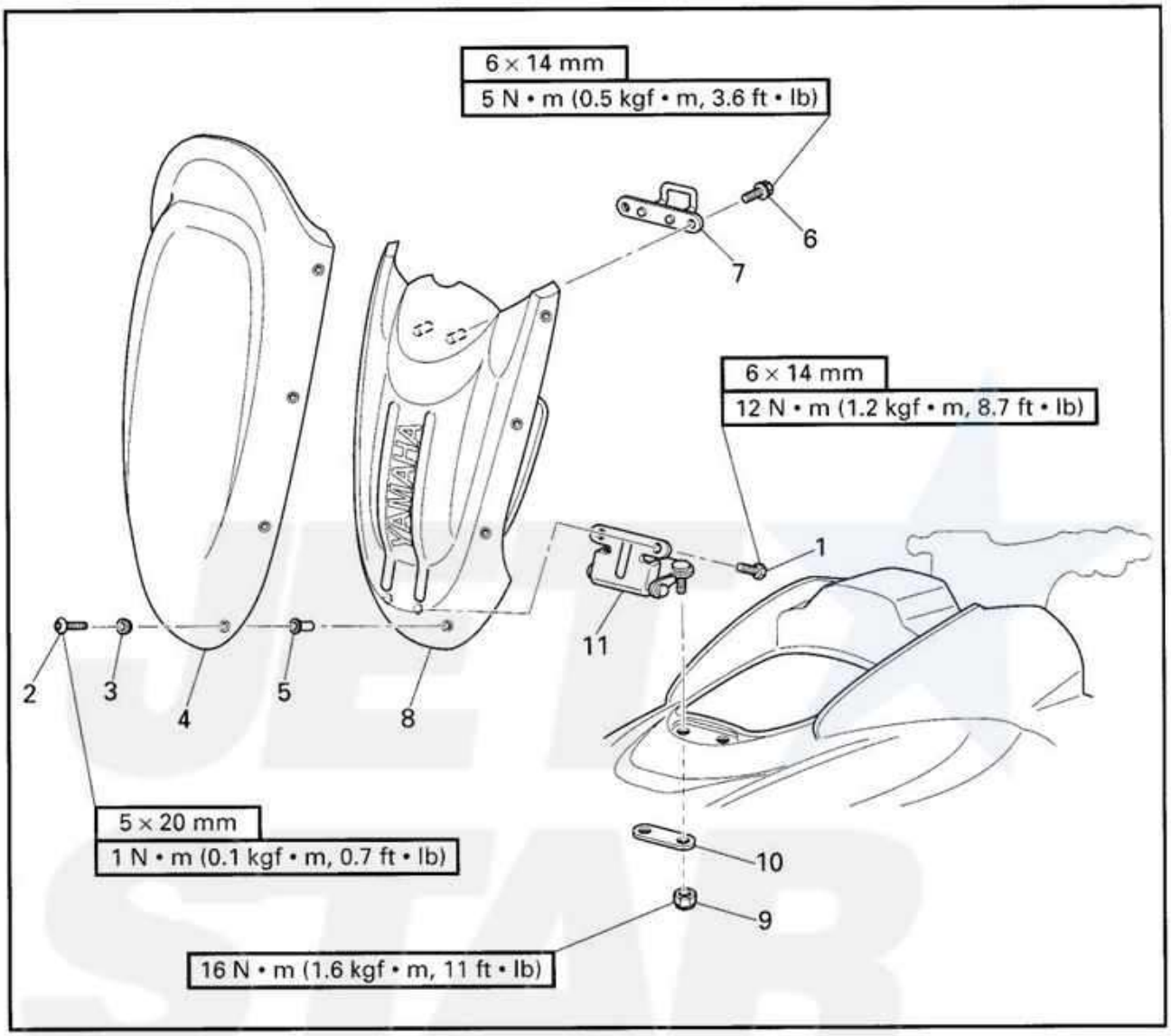
作業手順表

手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	フロントハッチの取外		左欄の「手順」のとおりに取外す。
1	ボルト	2	
2	スクリュ	8	
3	シールワッシャ	8	
4	バイザ	1	
5	ポップナット	8	
6	ボルト	2	

WWW.JET-STAR.JP

フロントハッチ

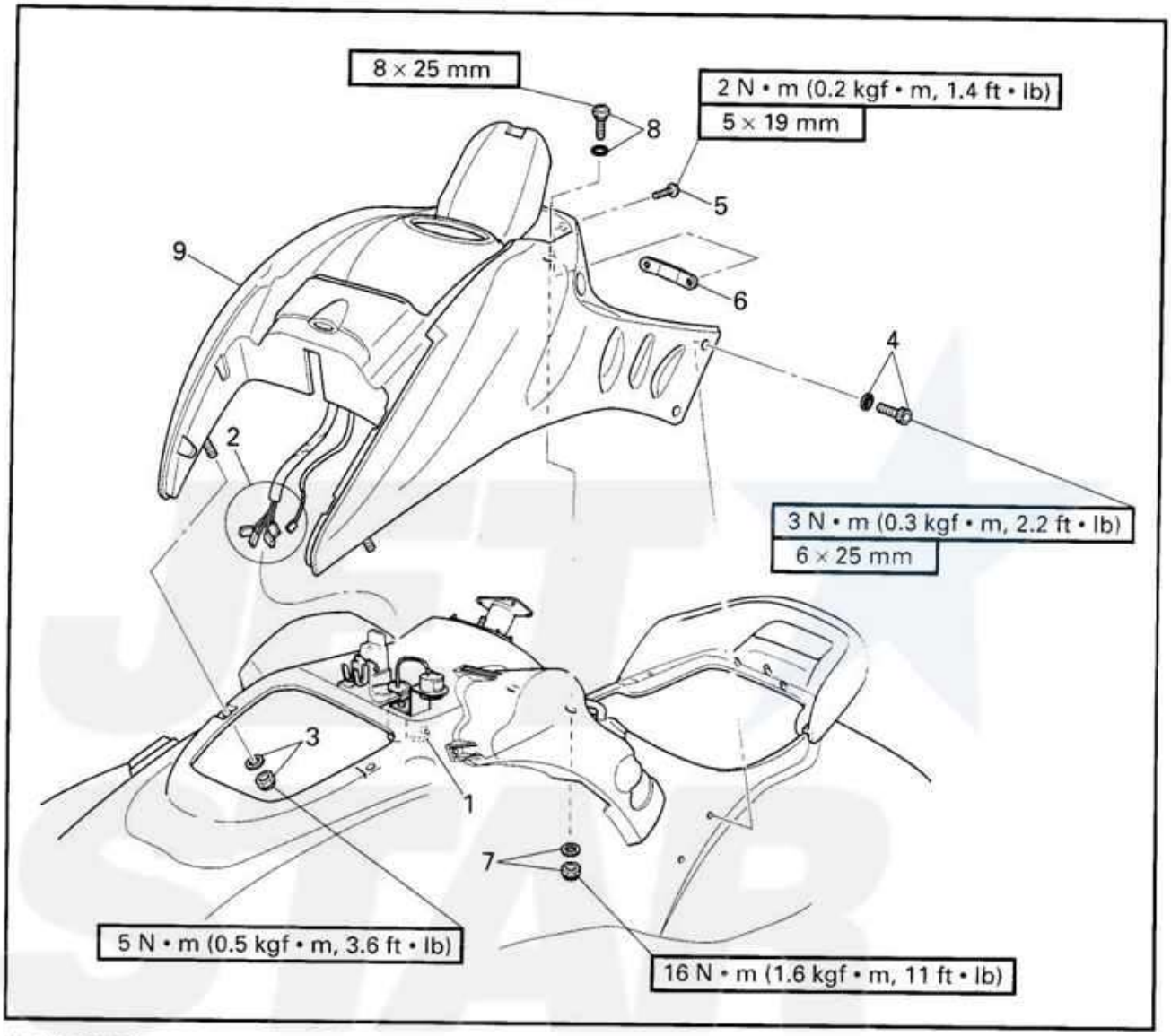
展開図



手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
7	ハッチロック	1	
8	フロントハッチ	1	
9	ナット	2	
10	プレート	1	
11	ヒンジアッセンブリ	1	
			取付けは逆の手順で行う。

WWW.JET-STAR.JP

ステアリングコンソールカバー
展開図



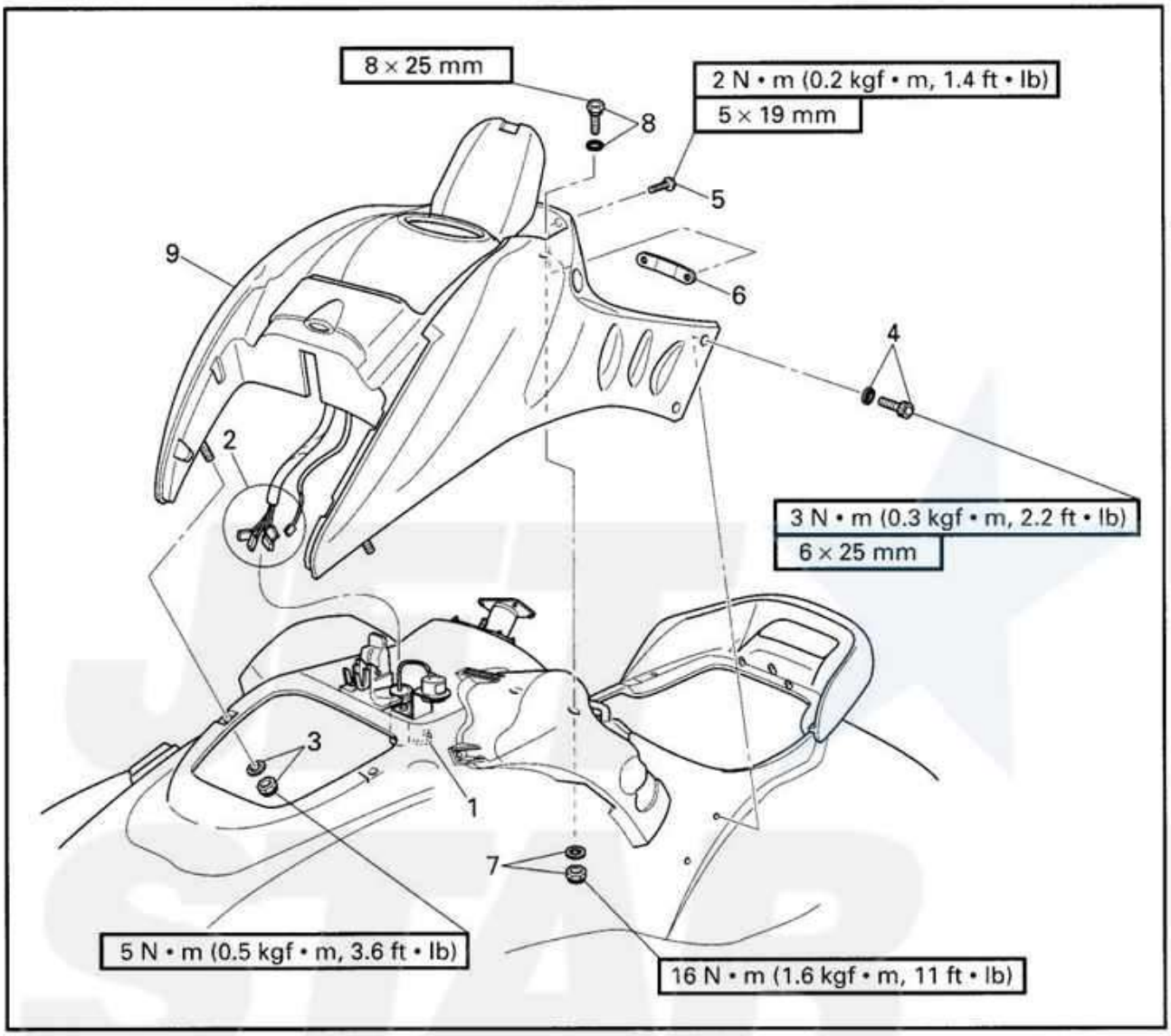
作業手順表

手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	ステアリングコンソールカバーの取外		左欄の「手順」のとおりに取外す。
	ハンドルバーアッセンブリ		「ハンドルバー」の項参照。
	ノブ（燃料コック）		第4章「燃料コック、燃料フィルタ」の項参照。
1	バンド	1	
2	アルチファンクションメータカプラ	5	
3	ナット／ワッシャ	2/2	
4	ボルト／ワッシャ	4/4	
5	スクリュ	2	

WWW.JET-STAR.JP

ステアリングコンソールカバー

展開図

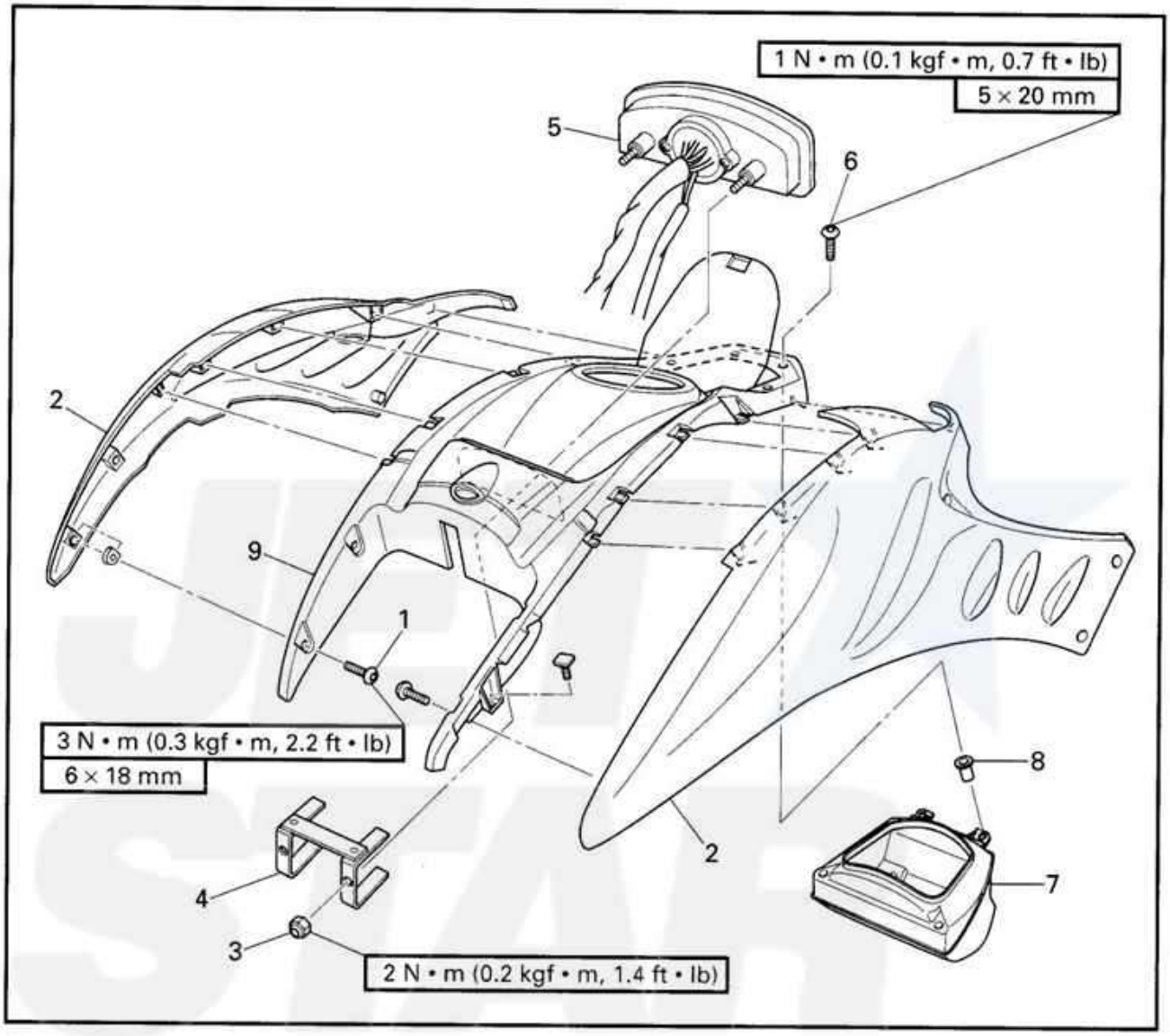


手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
6	プレート	1	
7	ナット／ワッシャ	2/2	
8	ボルト／角リング	2/2	
9	ステアリングコンソールカバーアッセンブリ	1	**要　点** オイルフィラーキャップを取外すと、ステアリングコンソールカバーアッセンブリの取外しが容易である。 取付けは逆の手順で行う。

WWW.JET-STAR.JP

ステアリングコンソールカバー

展開図

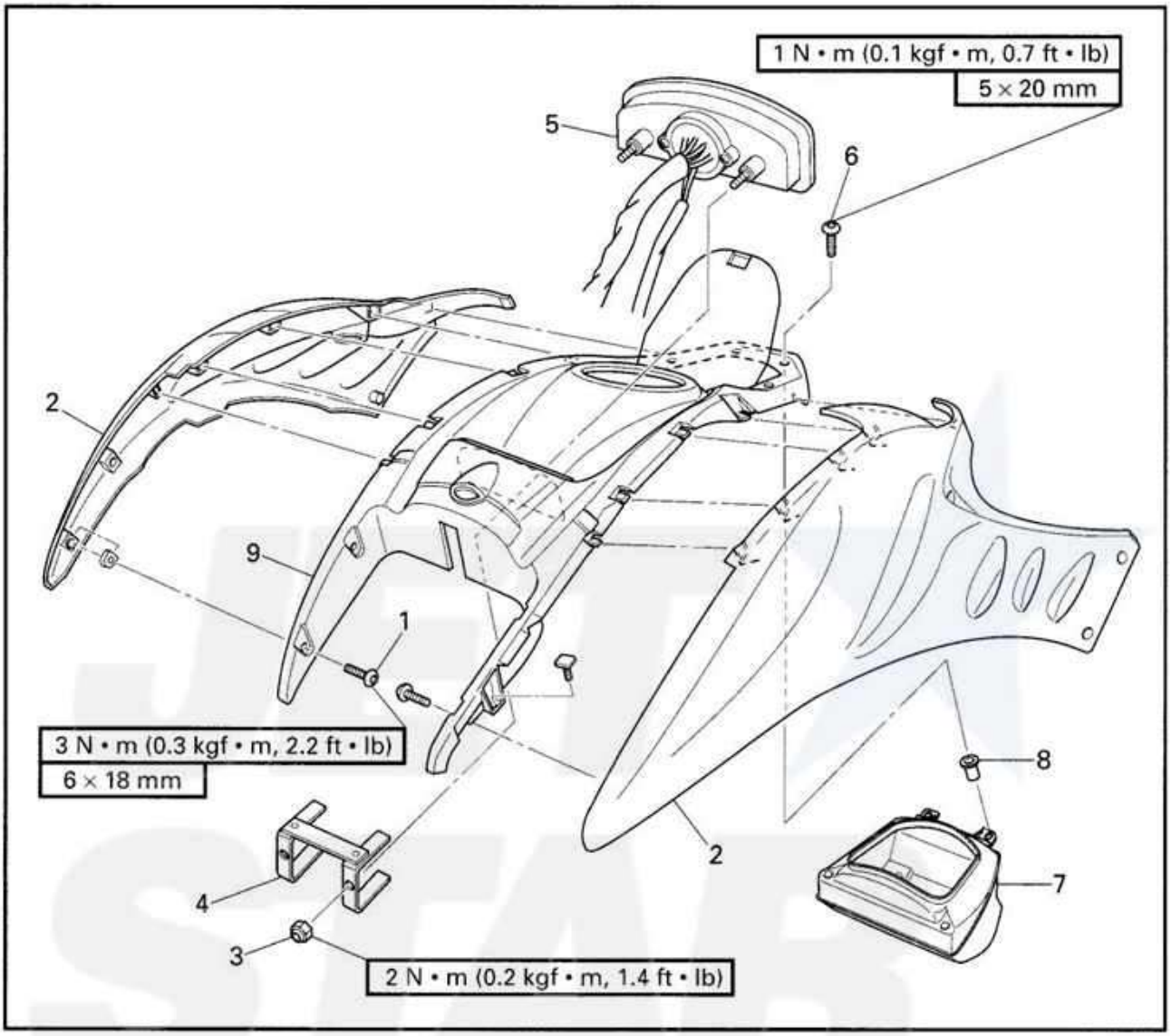


作業手順表

手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	ステアリングコンソールカバーの分解		左欄の「手順」のとおりに分解する。
1	スクリュ	4	
2	サイドカバー	2	
3	ナット	2	
4	ホルダ	1	
5	マルチファンクションメータ	1	

WWW.JET-STAR.JP

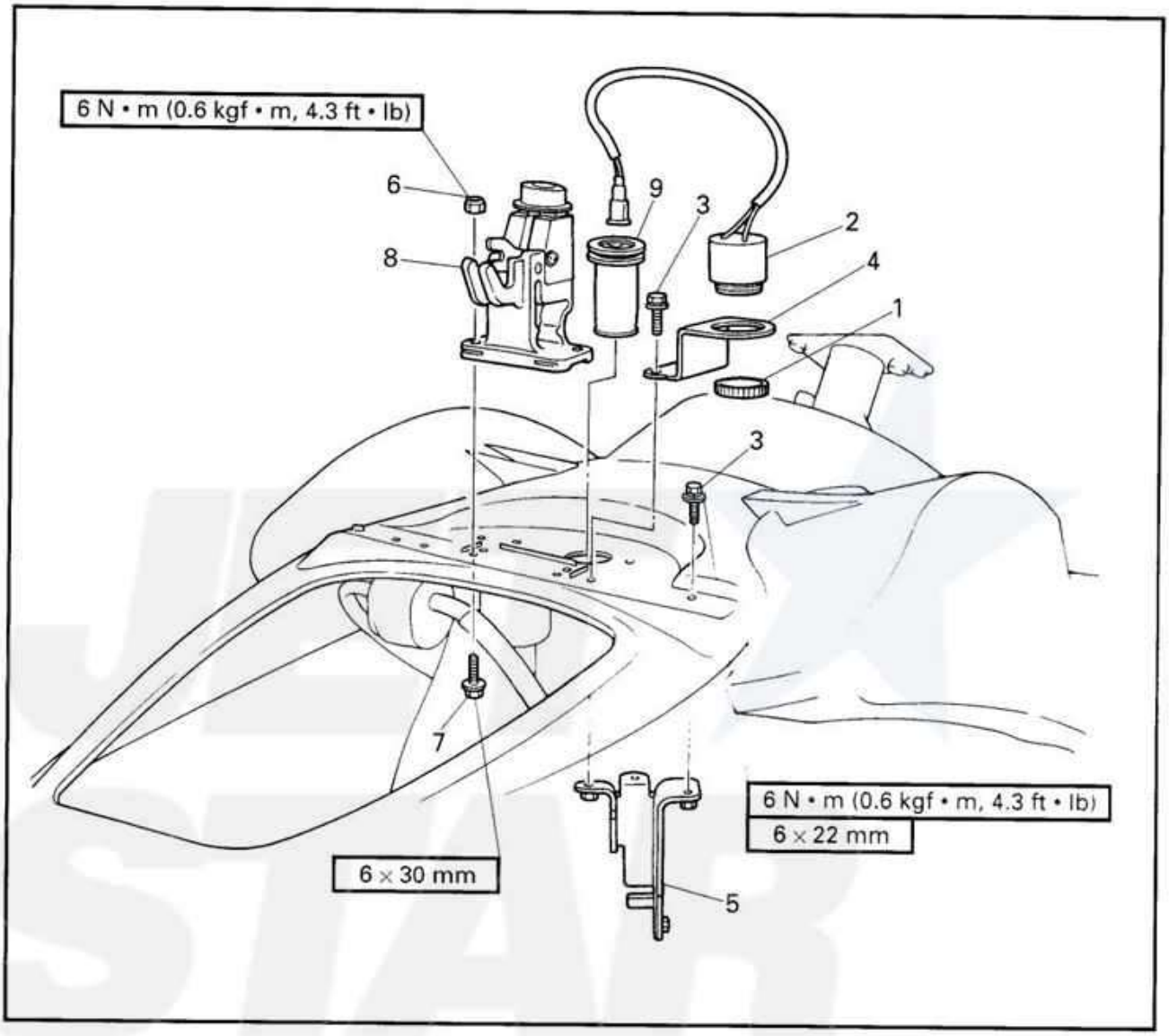
展開図



手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
6	スクリュ	4	
7	グラブコンパートメント	1	
8	ポップナット	4	
9	ステアリングコンソールカバー	1	
			組立は逆の手順で行う。

WWW.JET-STAR.JP

ブザー、ハッチロック
展開図



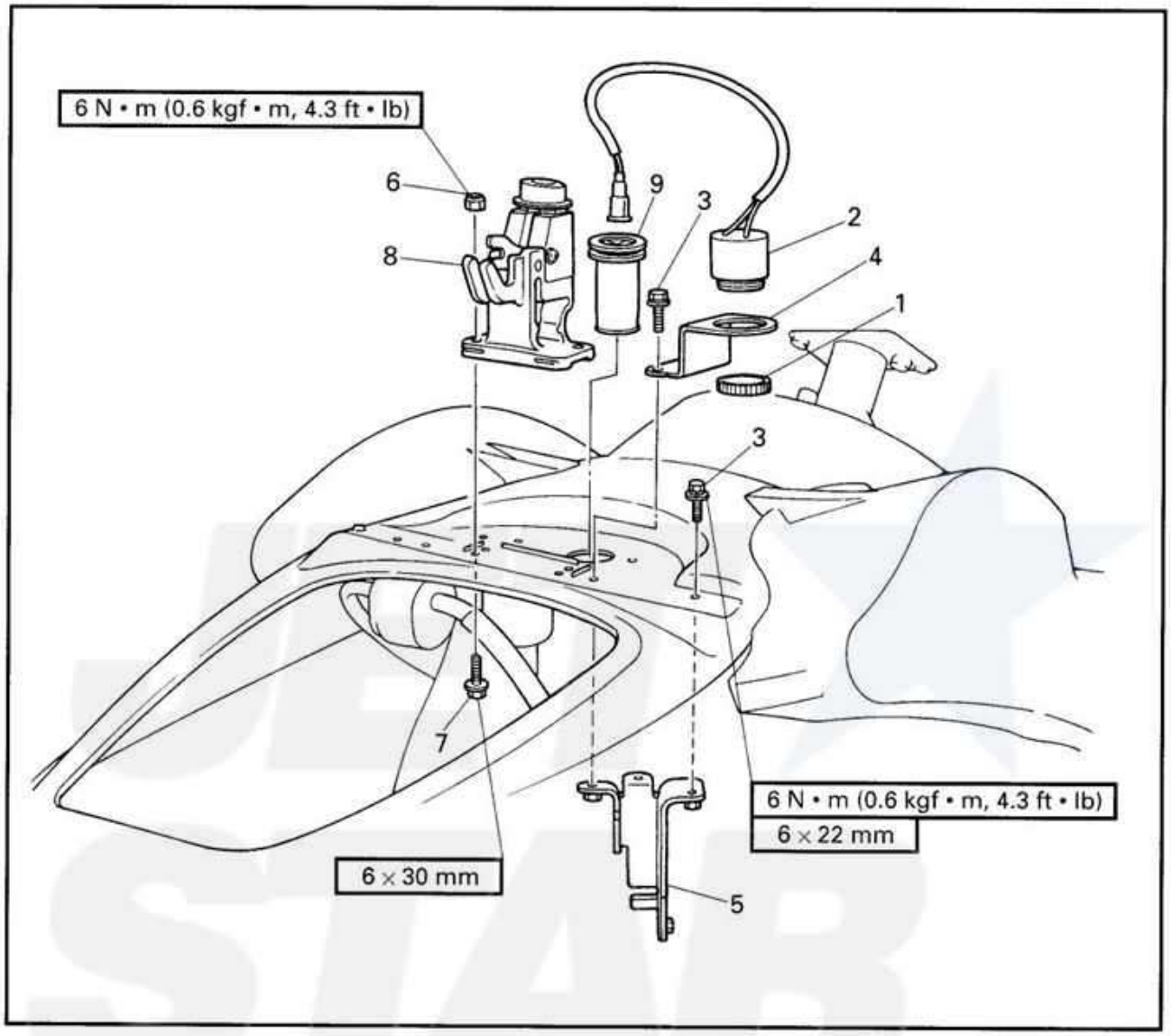
作業手順表

手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	ブザー、ハッチロックの取外		左欄の「手順」のとおりに取外す。
	ステアリングコンソールカバーアッセンブリ		「ステアリングコンソールカバー」の項参照。
	ステアリングケーブル		「リモートコントロールケーブル、スピードセンサ配線」の項参照。
1	リングナット	1	
2	ブザー	1	
3	ボルト	3	
4	ブラケット	1	
5	ブラケット	1	

WWW.JET-STAR.JP

ブザー、ハッチロック

展開図

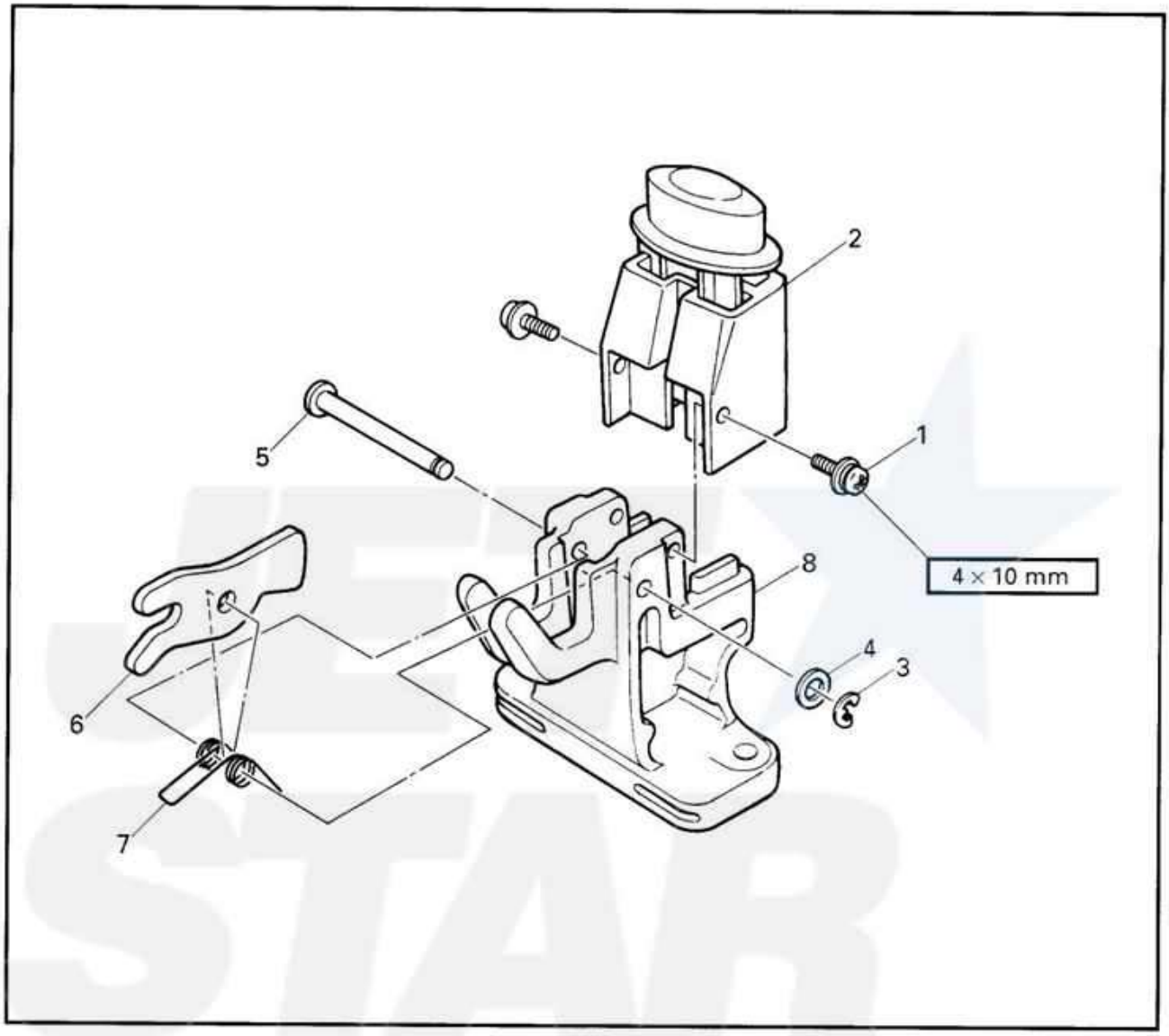


手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
6	ナット	2	
7	ボルト	2	
8	ハッチロックアッセンブリ	1	
9	グロメット	1	
			取付けは逆の手順で行う。

WWW.JET-STAR.JP

ブザー、ハッチロック

展開図



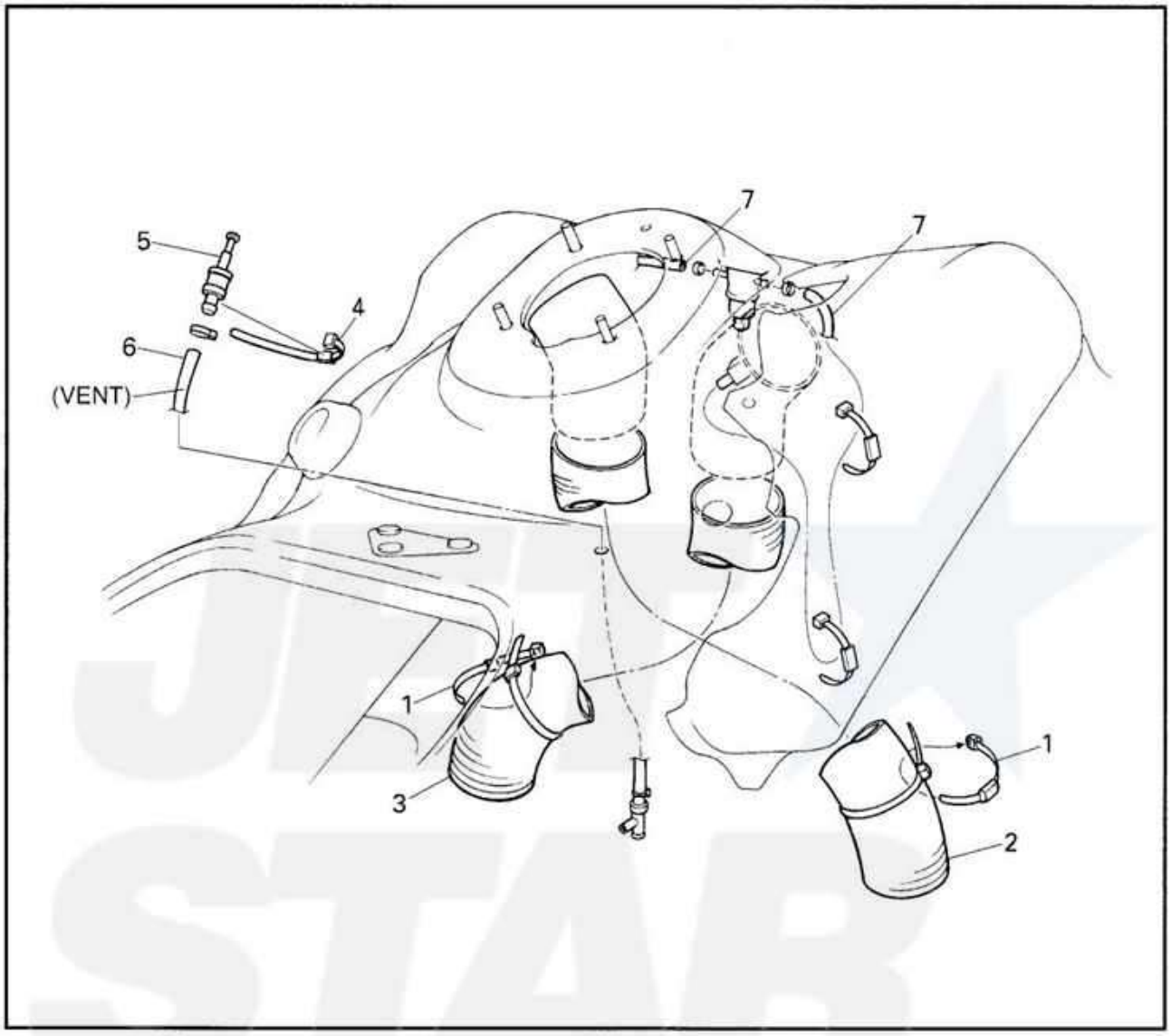
作業手順表

手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	ハッチロックの分解		左欄の「手順」のとおりに分解する。
1	スクリュ	2	
2	ハッチロックボタンアッセンブリ	1	
3	サークリップ	1	
4	ワッシャ	1	
5	ピン	1	
6	ハッチレバー	1	
7	スプリング	1	
8	ハッチロックボディ	1	
			組立は逆の手順で行う。

WWW.JET-STAR.JP

ホース

展開図



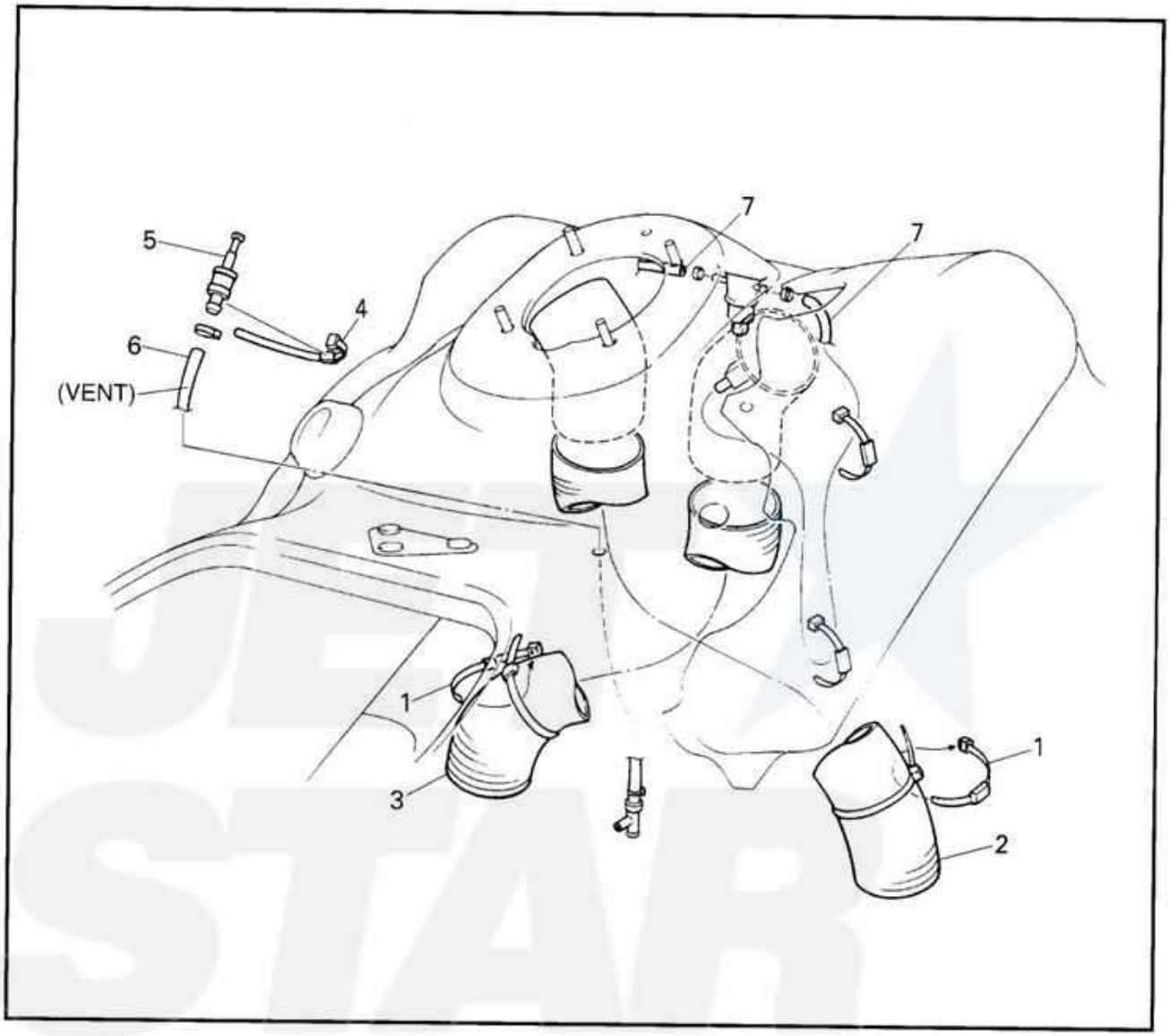
作業手順表

手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	ホースの取外 エンジンユニット ステアリングコンソールカバーアッセンブリ		左欄の「手順」のとおりに取外す。 第5章「エンジンユニット」の項参照。 「ステアリングコンソールカバー」の項参照。
1	バンド	2	
2	換気ホース（船尾側）	1	**要　点** ●換気ホース（船首側）が、燃料レベルセンサリード線の前にくるようにする。 ●換気ホース（船後側）が、オイルレベルセンサリード線とオイルタンクブリーザホースの間にくるようにする。
3	換気ホース（船首側）	1	

WWW.JET-STAR.JP

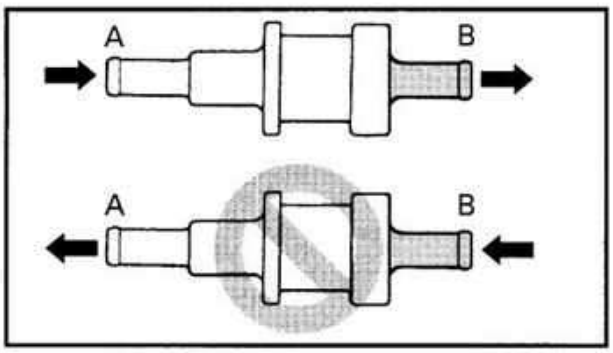
ホース

展開図



手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
4	バンド	1	
5	チェックバルブ	1	
6	オイルタンクブリーザホース	1	
7	燃料タンクブリーザホース	2	
			取付けは逆の手順で行う。

WWW.JET-STAR.JP



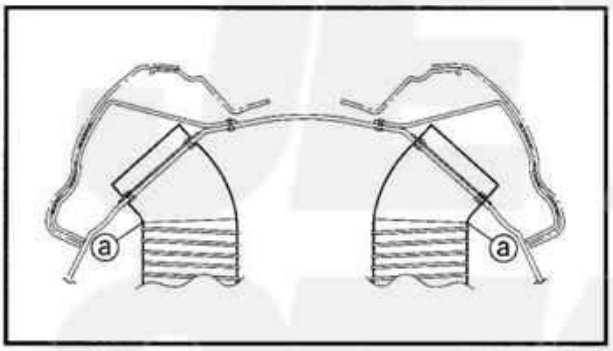
サービスポイント

チェックバルブの点検

1. 点検
   - チェックバルブ
     不良→交換

点検手順：

1) チェックバルブの端部“A”にホースを接続し、そこから吹いてみる。
   端部“B”から空気が出てこなければならない。
2) チェックバルブの端部“B”にホースを接続し、そこから吹いてみる。
   端部“A”から空気が出てきてはならない。



換気ホースの取付

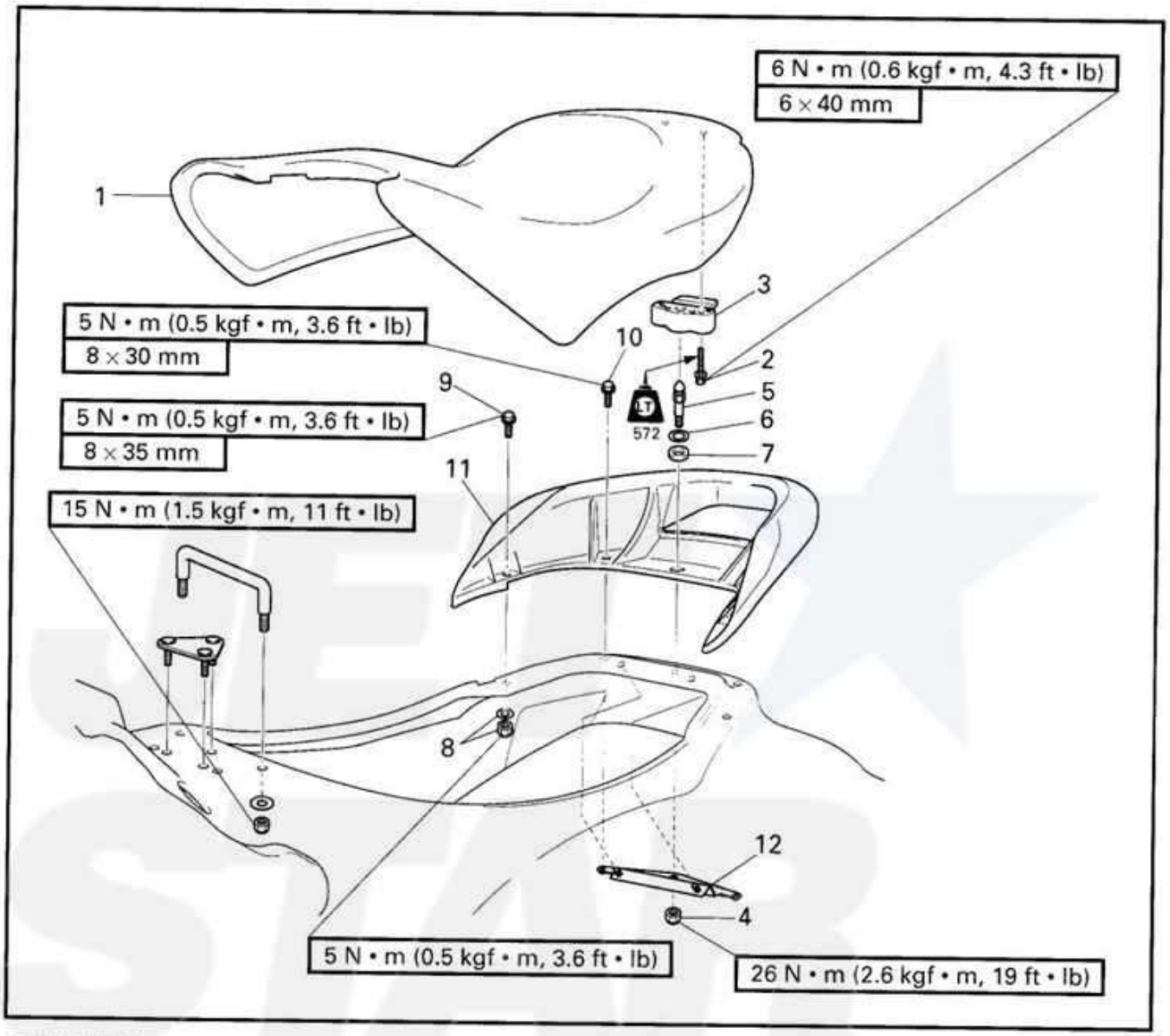
1. 取付
   - 換気ホース

要　点

換気ホースフィッティングの湾曲部 ⓐ まで換気ホースを押込む。

WWW.JET-STAR.JP

シート、ハンドグリップ
展開図



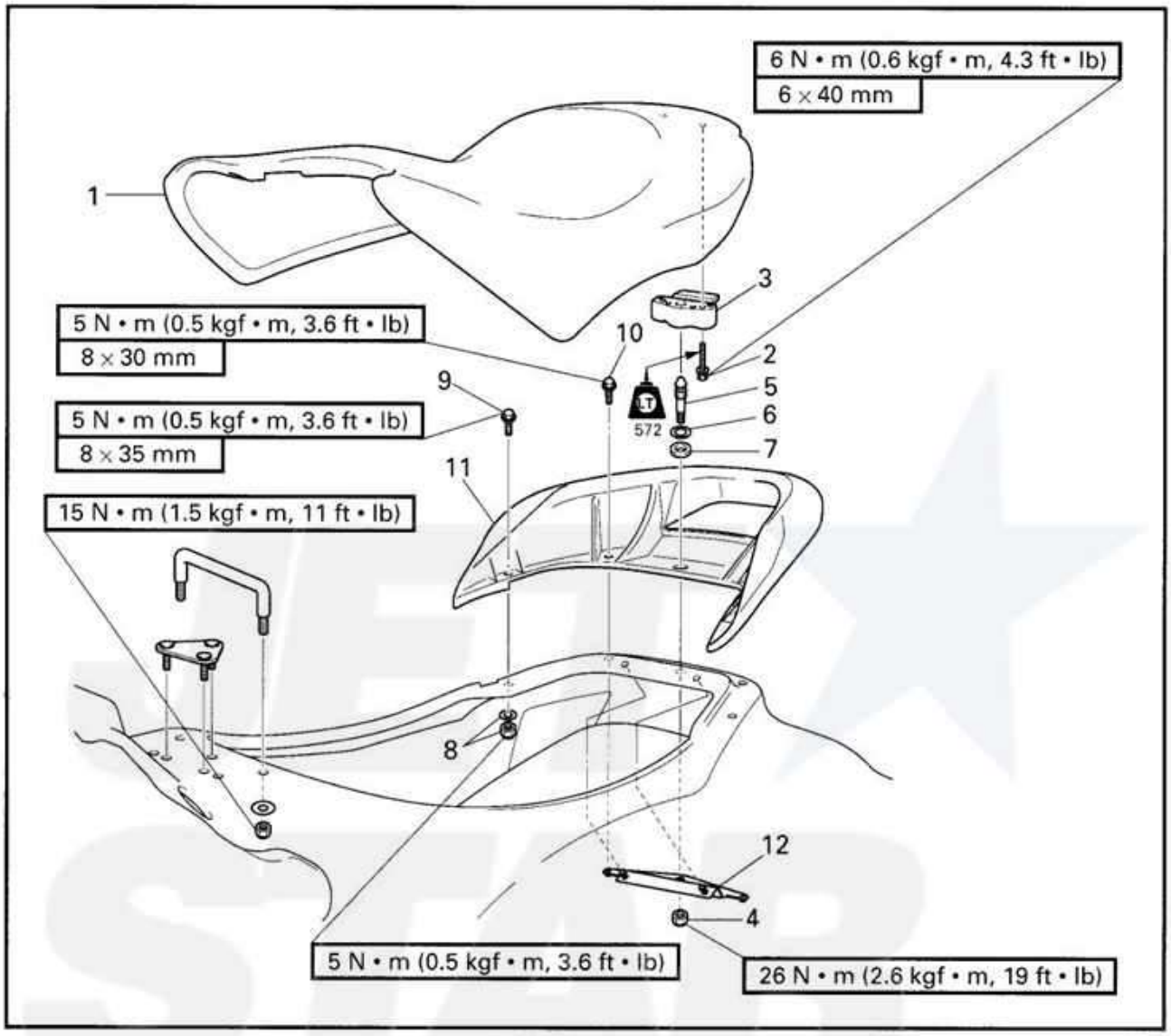
作業手順表

手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	シート、ハンドグリップの取外		左欄の「手順」のとおりに取外す。
1	シートアッセンブリ	1	
2	ボルト	2	
3	シートロックアッセンブリ	1	
4	ナット	1	
5	ノッチ	1	
6	ワッシャ	1	

WWW.JET-STAR.JP

シート、ハンドグリップ

展開図



手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
7	ラバーリング	1	
8	ナット／ワッシャ	2/2	
9	ボルト	2	
10	ボルト	2	
11	ハンドグリップ	1	
12	ブラケット	1	
			取付けは逆の手順で行う。

WWW.JET-STAR.JP

サービスポイント

シートロックの点検

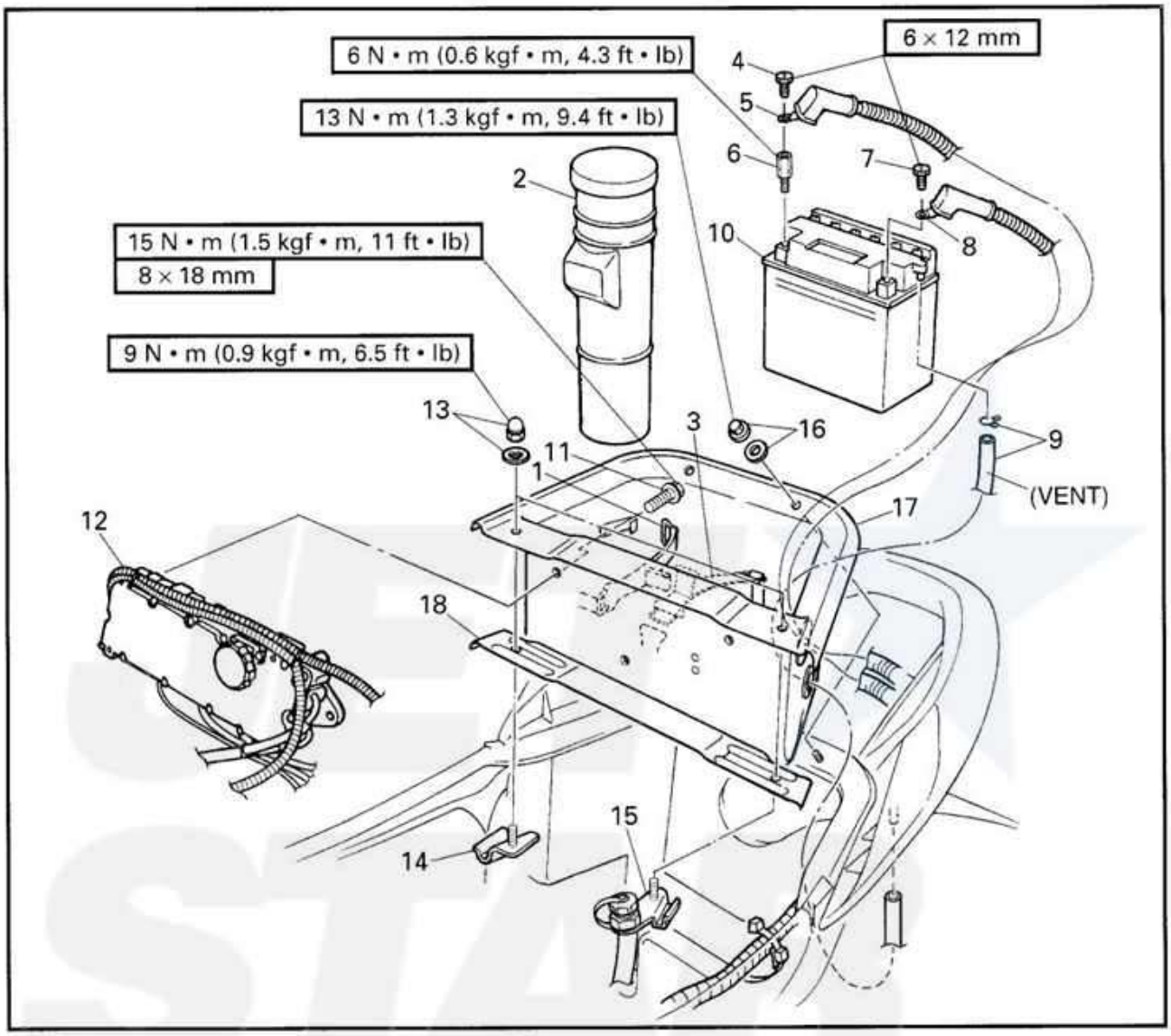
1. 点検
   - シートロック
     損傷／摩耗→交換

JET STAR

WWW.JET-STAR.JP

バッテリボックス

展開図



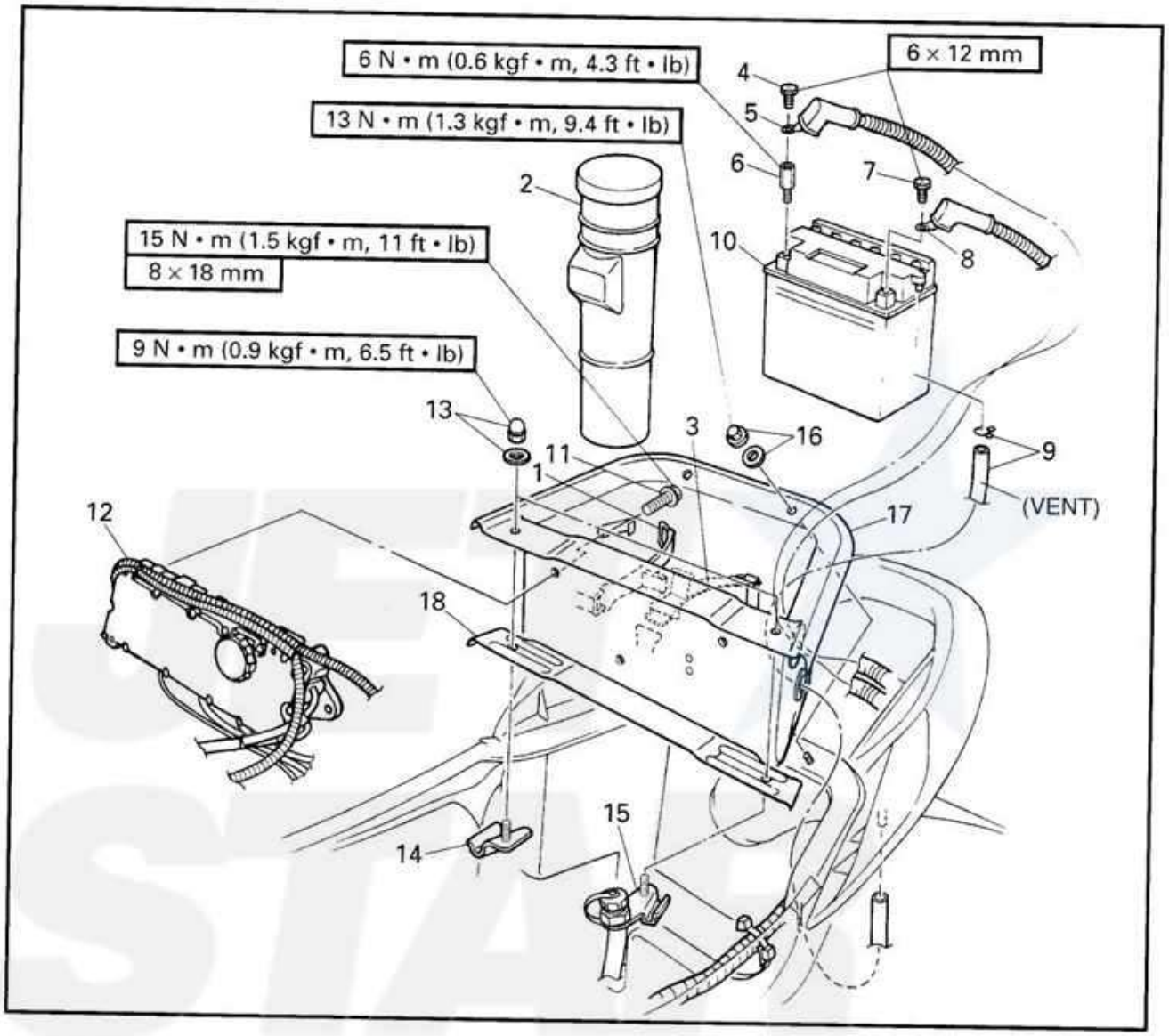
作業手順表

手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	バッテリボックスの取外		左欄の「手順」のとおりに取外す。
1	バンド	1	
2	収納筒	1	
3	バンド	1	
4	ボルト	1	
5	バッテリ ⊖ ケーブル	1	
6	ターミナルエクステンション	1	
7	ボルト	1	
8	バッテリ ⊕ ケーブル	1	
9	クリップ／ブリーザホース	1/1	
10	バッテリ	1	
11	ボルト	3	

WWW.JET-STAR.JP

バッテリボックス

展開図

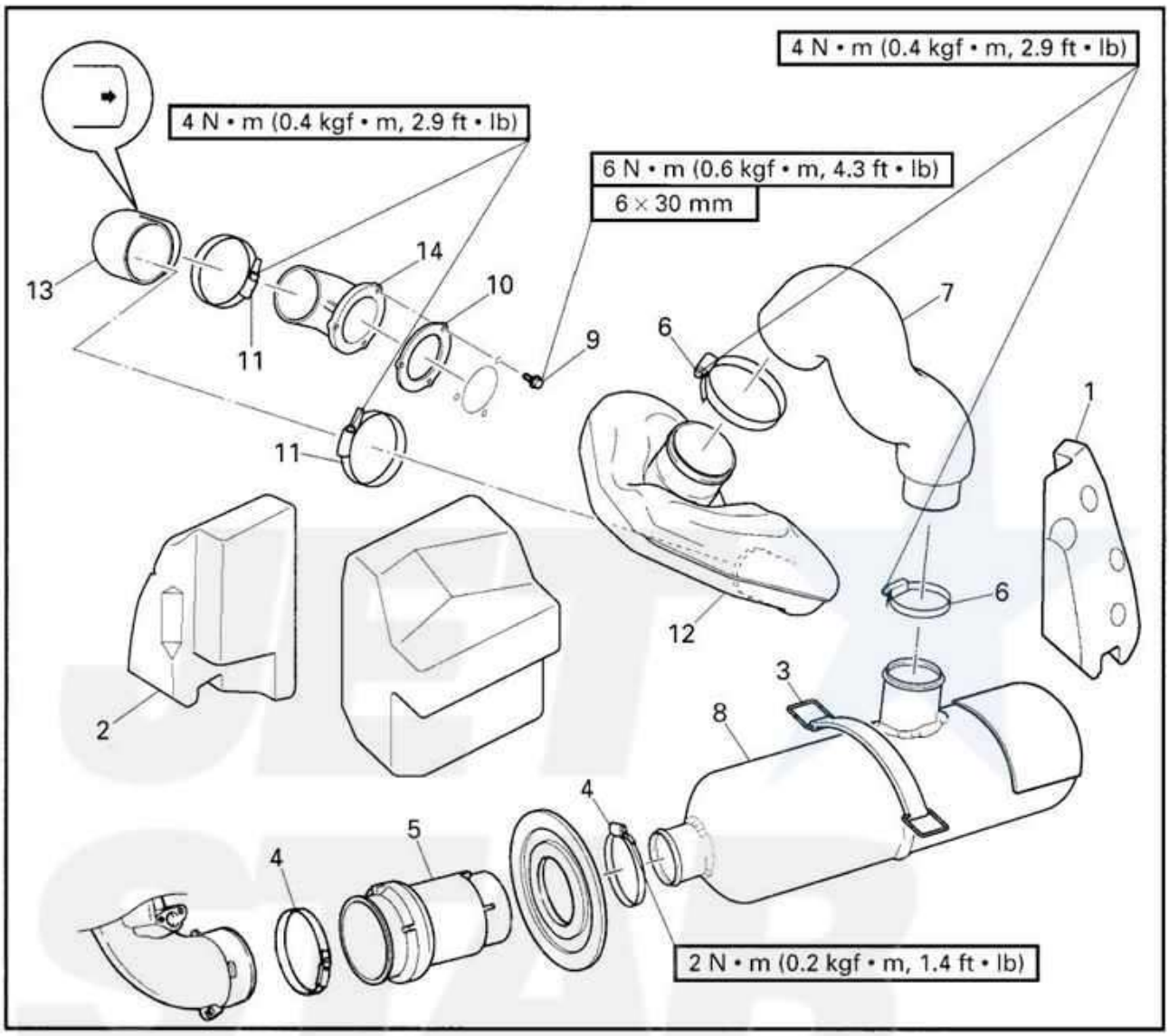


手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
12	電装ボックス	1	
13	キャップナット／ワッシャ	2/2	
14	ホルダ	1	
15	ホルダ	1	
16	キャップナット／ワッシャ	2/2	
17	バッテリボックス	1	**要　点** バッテリボックスを取付ける前に、バッテリケーブルとバッテリブリーザホースをバッテリボックスの穴に通しておく。
18	ステー	1	取付けは逆の手順で行う。

WWW.JET-STAR.JP

エキゾーストシステム

展開図



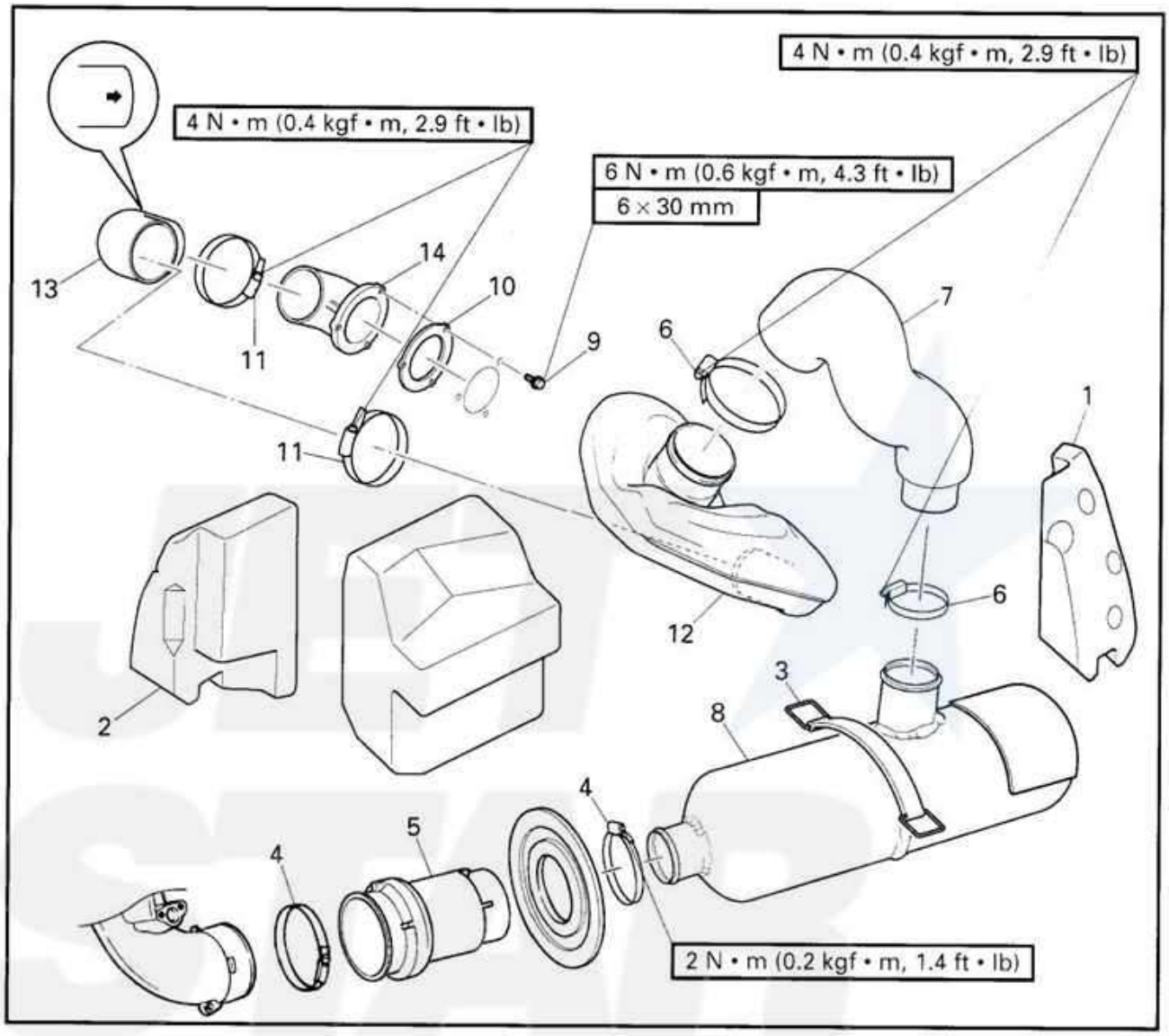
作業手順表

手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	エキゾーストシステムの取外		左欄の「手順」のとおりに取外す。
	バッテリボックス		「バッテリボックス」の項参照。
	ジェットポンプユニットアッセンブリ		第6章「ジェットポンプユニット」の項参照。
1	フロート	1	
2	フロート	1	
3	ウォータロックバンド	1	
4	ホースクランプ	2	
5	エキゾーストジョイント	1	
6	ホースクランプ	2	
7	ラバーホース	1	

WWW.JET-STAR.JP

エキゾーストシステム

展開図



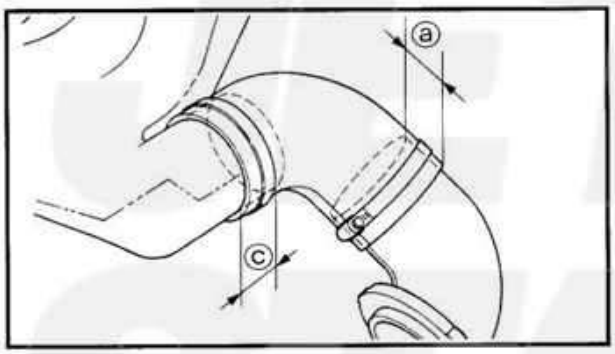
手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
8	ウォータロック	1	
9	ボルト	3	
10	パッキン	1	
11	ホースクランプ	2	**要　点**
12	ウォータタンク	1	11 ～ 14 はセットで取外す。
13	ラバーホース	1	
14	エキゾーストアウトレット	1	
			取付けは逆の手順で行う。

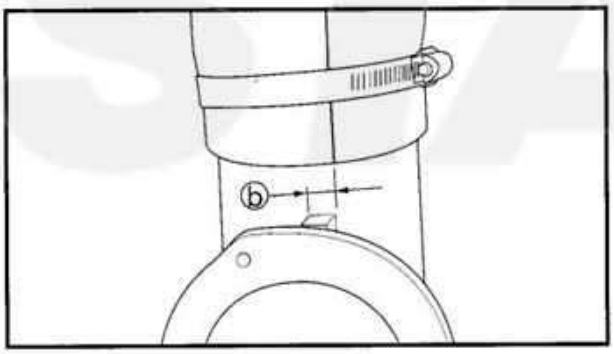
WWW.JET-STAR.JP

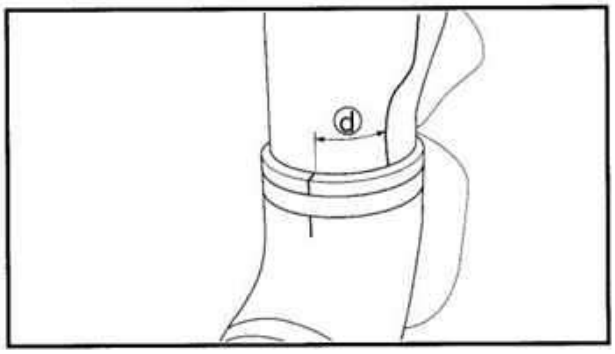
サービスポイント

エキゾーストシステムの点検

1. 点検
   - ウォータロックバンド
     亀裂／損傷→交換
2. 点検
   - ラバーホース
     焼け／亀裂／損傷→交換
3. 点検
   - ウォータロック
     亀裂／漏れ→交換
4. 点検
   - ウォータタンク
     亀裂／破損／漏れ→交換







エキゾースト構成部品のサブアッセンブリ

1. 取付
   - エキゾーストアウトレット
   - ラバーホース
   - ウォータタンク

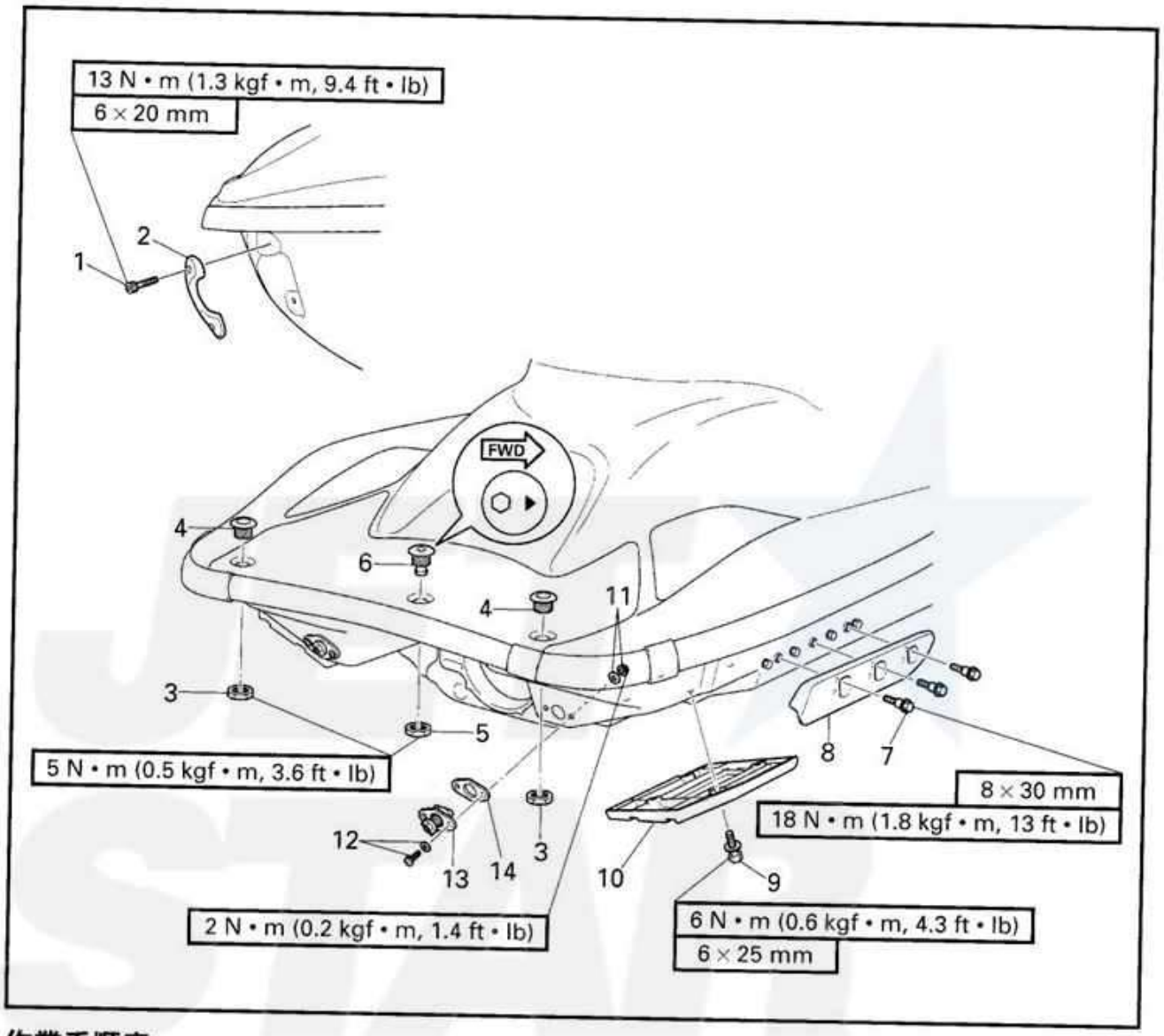
要　点

- エキゾーストアウトレットをラバーホースに 45mmⓐ 挿入する。
- エキゾーストアウトレットとラバーホースのそれぞれのパーティングライン間の距離ⓑ を 10mm にする。
- ウォータタンクをラバーホースに 45mmⓒ 挿入する。
- ウォータタンクとラバーホースのそれぞれのパーティングライン間の距離ⓓ を 45mm にする。

WWW.JET-STAR.JP

デッキ、ハル

展開図

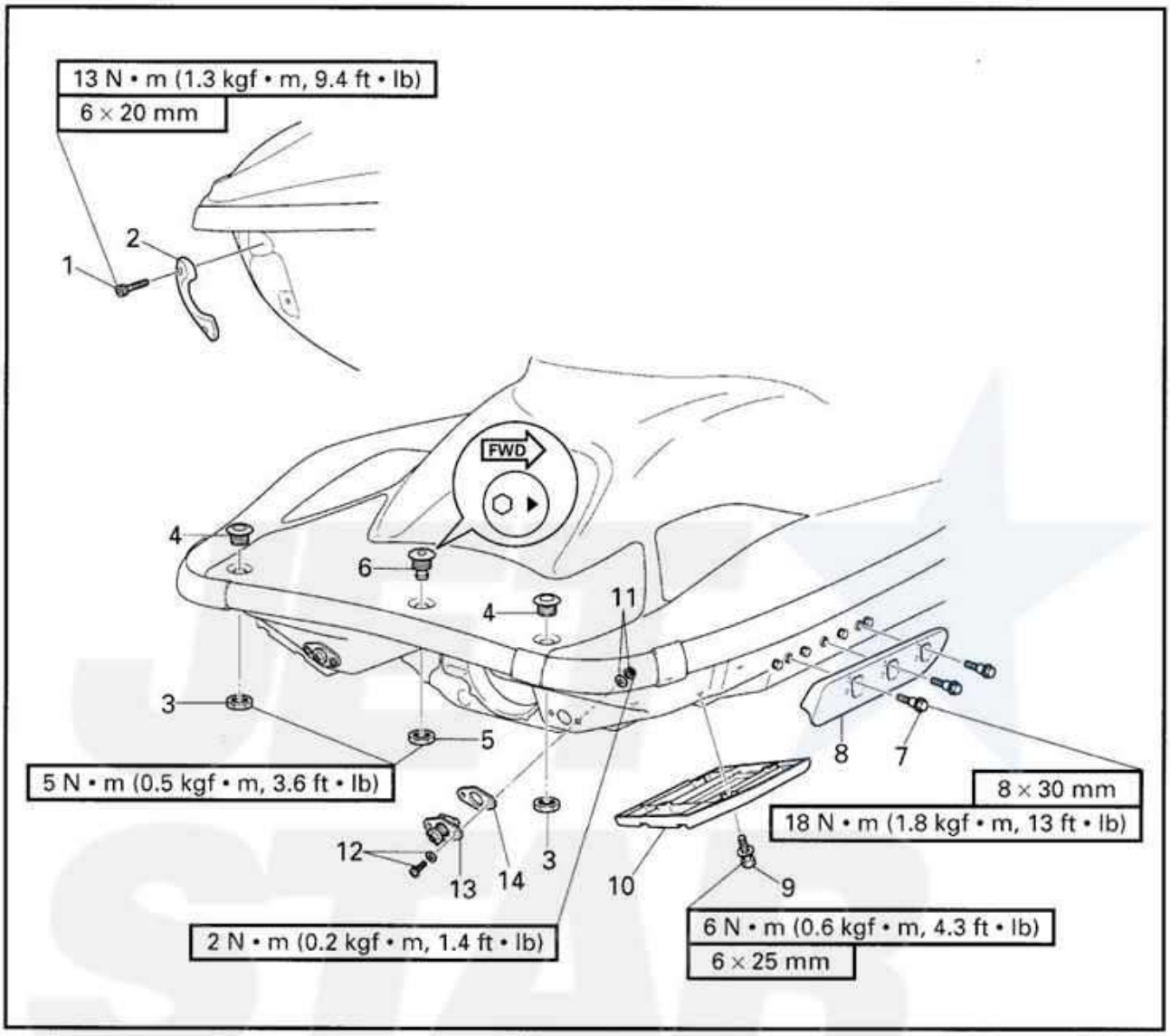


作業手順表

手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	デッキ、ハルの取外		左欄の「手順」のとおりに取外す。
1	ボルト	2	
2	バウアイ	1	
3	ナット	2	
4	ロープホールフィッティング	2	
5	ナット	1	
6	スパウト	1	
7	ボルト	6	

WWW.JET-STAR.JP

展開図

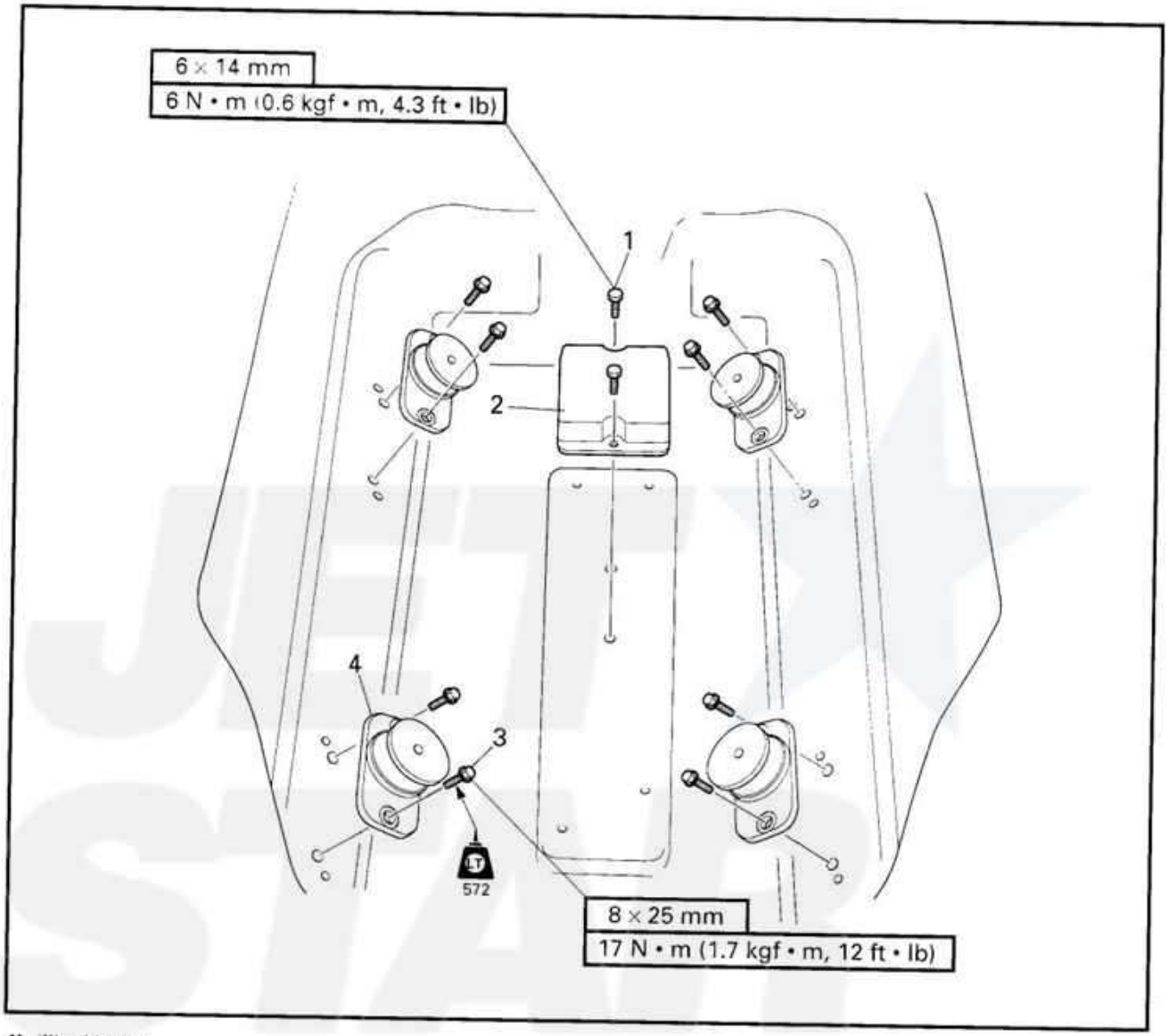


手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
8	スポンソン	2	**要　点** 右舷側と左舷側のスポンソンは左右同じ位置に取付ける。
9	ボルト	8	
10	フラップ	2	
11	ナット／ワッシャ	4/4	
12	スクリュ／ワッシャ	4/4	
13	ドレンプラグ	2	
14	パッキン	2	
			取付けは逆の手順で行う。

WWW.JET-STAR.JP

エンジンマウント

展開図



作業手順表

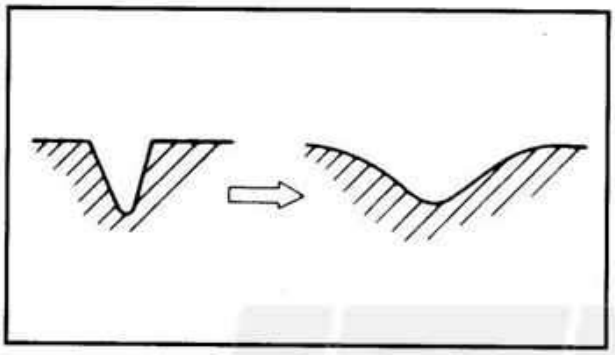
手順	作業および部品名称	数量	サービスポイント
	エンジンマウントの取外		左欄の「手順」のとおりに取外す。
	エンジンユニット		第5章「エンジンユニット」の項参照。
1	ボルト	2	
2	ダンパ	1	
3	ボルト	8	
4	エンジンマウント	4	
			取付けは逆の手順で行う。

WWW.JET-STAR.JP

艇体の補修

浅い傷の場合

1. #400 の耐水サンドペーパかサンドペーパで傷を磨き、次に #600 の耐水サンドペーパかサンドペーパで仕上げる。



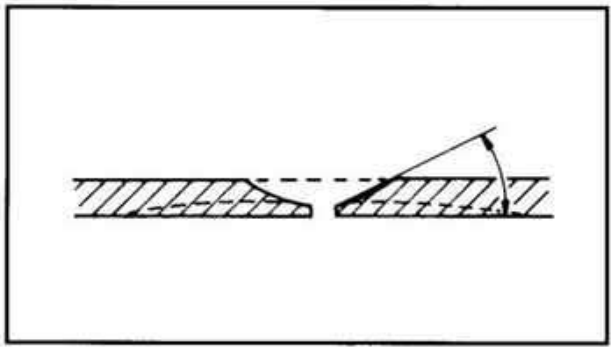
深い傷の場合

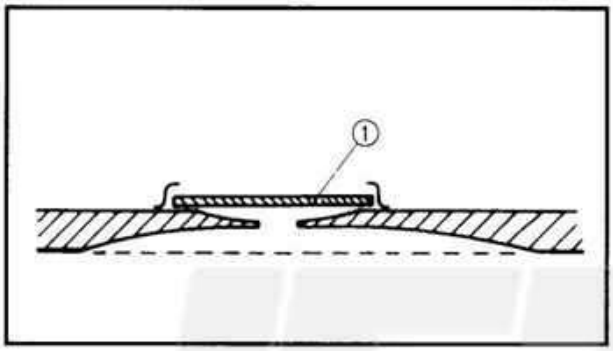
1. 傷の部分のバリや荒れを取除く。
2. #80 の耐水サンドペーパかサンドペーパで傷の周囲約 25mm を磨き、表面を滑らかにする。
3. 磨いた面をアセトンできれいにし、乾かす。
4. ゲルコートとゲルコート薄め液を混ぜ、硬化剤を混ぜてパテを作る。
5. ゴムヘラを使用してパテを塗り、その部分にロウ紙をかぶせる。
6. パテが硬化したら、当て板を使用して #80 ～順に #400 の耐水サンドペーパかサンドペーパで表面を平に磨く。
7. 乾いた布で表面を拭き、磨く。

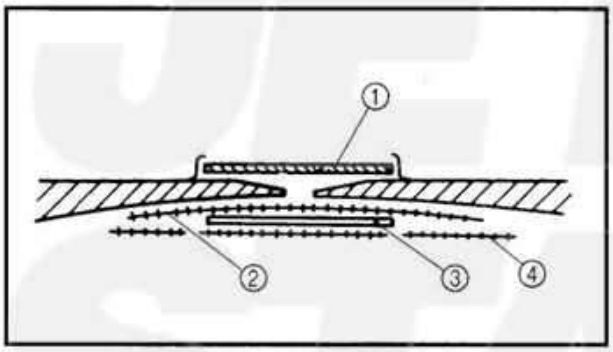
⚠ 警 告

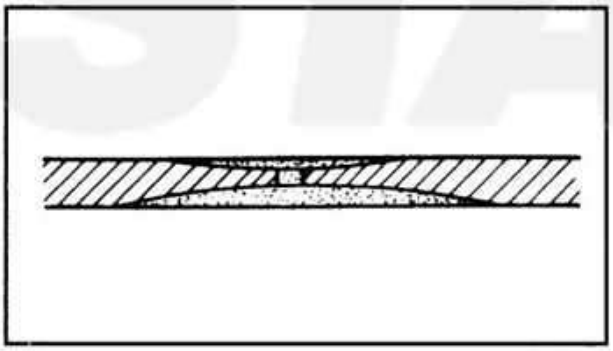
樹脂、硬化剤、溶剤は可燃性が高く、毒性がある。裸火やスパークがなく、よく換気された場所でのみ作業を行うこと。また、メーカの指示や警告を常に遵守すること。

WWW.JET-STAR.JP









亀裂や穴が開いている場合

要　点

詳しくは「FRP 補修塗装マニュアル」（管理 No. 053130）を参照する。

1. 損傷したファイバグラスを取除く。
2. 傷の部分を約 6.5mm 切開く。
3. 傷の部分の外側を、5° 以下の角度で削取る。
4. 裏側から、傷の周囲約 100mm を削取る。
5. アセトンで汚れを取除いてから、BP-1 または類似のプライマで両面をきれいに拭き、30 分間放置する。
6. 損傷部分にロウ紙をかぶせた当板 ① をのせ、テープで止める。
7. ポリエステル樹脂と硬化剤を混ぜ、傷の部分に塗布する。
8. グラスマット ②（削取った面より約 50mm 小さく）を貼る。
9. 樹脂を塗布する。
10. 重さ種別 20 オンス（約 567g）のファイバグラスクロス ③（グラスマットより 25mm 小さく）を貼る。
11. 樹脂を塗布する。
12. 最後のグラスマット ④（削取った面より約 25mm 小さく）を貼る。
13. 樹脂が硬化したら、当板を取外す。
14. 外面の仕上げ方法は、前ページの「深い傷の場合」の３～７を参照する。

WWW.JET-STAR.JP

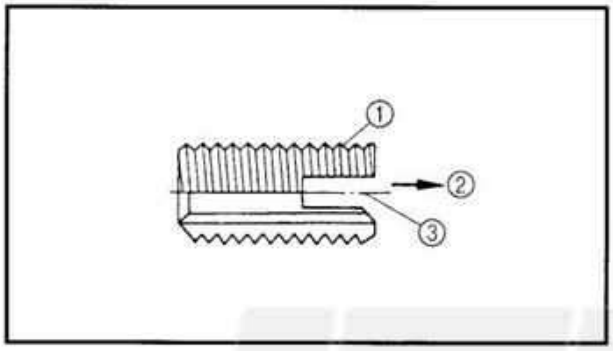
インサートナット

要　点

インサートナットレンチの使用：

- 船体に取付けられているポップナットが脱落したり、インサートナットやポップナットに締付けてあるボルトが折れた場合に使用する。

部品番号	部品名	備考
EZ2-62733-09	ナット	M6 ボルト用、SUS 製

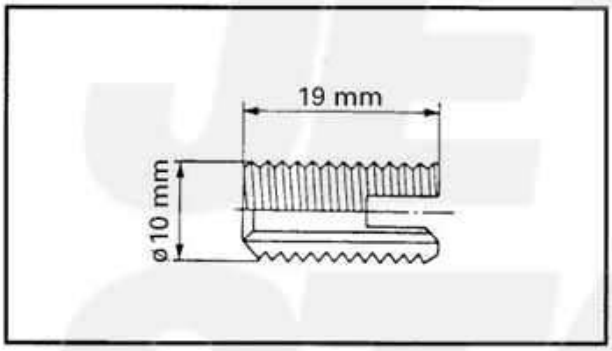


- ナット ①
- ネジ込み方法 ②
- ネジ切り用溝 ③

要　点

下穴径

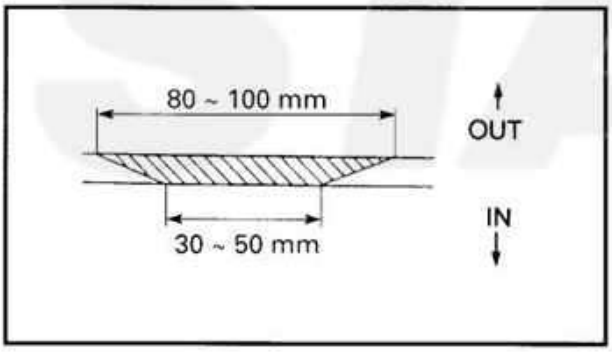
材質	下穴径
FRP または SMC の場合	9.1 ～ 9.2mm
真鍮インサートの場合	9.4mm



作業例 1：

要　点

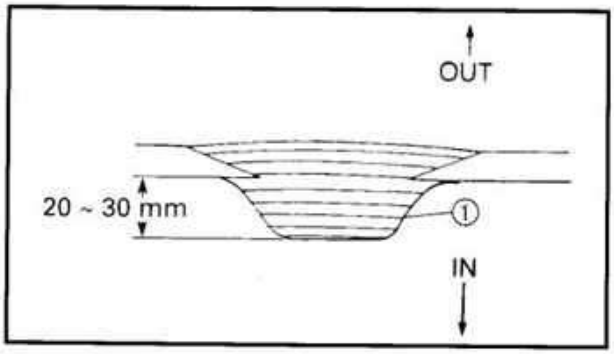
インサートナットを取付ける場合は「FRP 補修塗装マニュアル」を参照する。

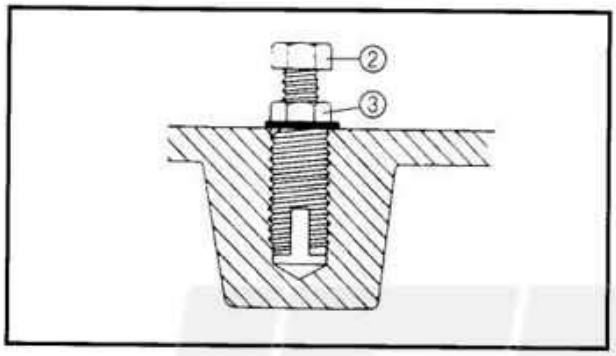


ライドプレートは、ポップナットを補修するためのインサートナットが使用できるように作られている。(FRP 部を補修することによって、インサートナットは全てのモデルに使用することができる。)

1. 取外
   - ポップナット
2. ハルの内側や表面の傷をアセトンで清掃する。
3. ハルの陰になっている部分を巻く。

WWW.JET-STAR.JP





4. 左図のようにハル内側にテーピング ① を施し、その上にグラスマットを被せて樹脂を塗布し積層する。

要　点

グラスマットの積層は、ハル内側より順に行う

5. 外面を磨き、表面を滑らかにする。
6. ライドプレートを取付ける。
7. ドリルで 9.2mm、深さ 20mm の穴を積層面のセンターにあける。
8. ボルト ② をインサートナットに通し、左図のようにナット ③ でロックする。
9. FPR の表面と一致して平らになるようにインサートナットをねじ込む。
10. ロックナットをゆるめて、ボルトを取外す。

⚠注 意

- 鉄製で強度が 8T 以上のボルトを使用すること。
- 弱いボルトやステンレス製のボルトは、インサートナットをねじ込む時に折れる恐れがある。

- ボルト ②
- ロックナット ③

作業例 2：
スーパージェットのライドプレートや、インテークスクリーン用に使用されている真鍮のインサートナットは、以下のようにして使用する。

要　点

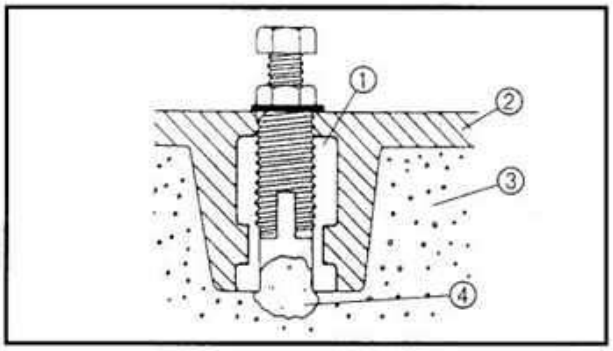
ボルトが破損した場合はドリルで抜取る。

1. ハルにドリルで穴をあける。

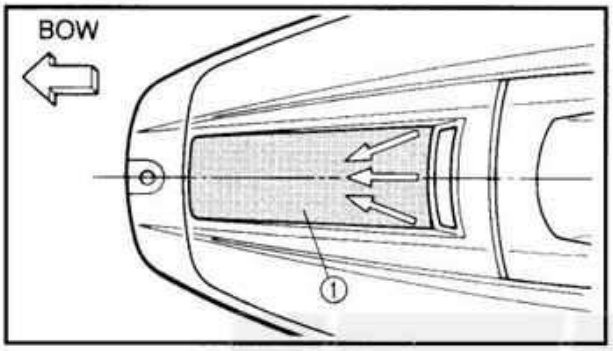
要　点

- 最初に小さな径のドリルを用い、徐々に大きな径にしていく。
- そして最終的に 9.4mm のドリルを使用する。

WWW.JET-STAR.JP

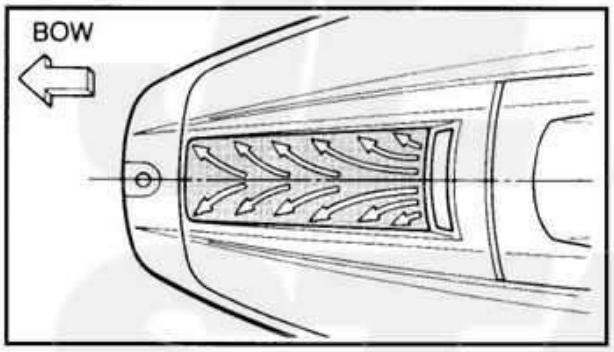


2. 内部のウレタンフォームから水が入るのを防ぐため、図のように穴の内側にシリコンシーラントを塗布する。
3. 「作業例 1」で説明した通りにインサートナットを取付ける。
   - 真鍮インサートナット ①
   - ハル ②
   - 発泡体 ③
   - シリコンシーラント ④



グラフィックの取外

1. グラフィック ① の上にヘアドライヤを 40mm 程離して当てる。
2. グラフィックの 1 ヶ所の角を加熱する。
3. グラフィックの温めた部分から反対側の角に向かってゆっくりとはがしていけば、グラフィック全体をはがせる。
4. グラフィックをはがした後、すぐにイソプロピルアルコールで残った接着剤を拭き取る。



グラフィックの取付

1. 約 900cm^3 のスプレーボトル（ピン）に、スプーン一杯の中性洗剤と水を一杯に入れて混ぜる。
2. 新品のグラフィックの裏面をはがす。
3. グラフィックの両面に洗剤をスプレーするとともに、ハルのグラフィックを貼付ける場所にもスプレーしておく。

要　点

スプレーしておくことによって、張付作業時、傷などが付くのを防ぐ。

4. ハルの張付場所に一致させてからヘラで位置決めをする。

要　点

ヘラでグラフィックから気泡を充分取除く。グラフィックの上から下へ、中央部から外側にヘラをすべらせておこなう。

5. マリンジェットのワックス掛けや、使用する前に、グラフィックを充分に乾燥させる。

WWW.JET-STAR.JP

第 9 章
故障解析

故障解析.....9-1
故障解析表.....9-1

JET STAR

WWW.JET-STAR.JP

故障解析

要　点

故障解析を行う前に、以下のことを確認しておく。
1. バッテリは充分充電され、電解液の比重も規定通りである。
2. 配線類の接続は全て正しく接続されている。
3. 配線の接続は全て確実であり、錆等の発生がない。(接触不良がない)
4. ロックプレートが、緊急エンジン停止スイッチに取付けられている。
5. 燃料はキャブレタまで充分きている。

故障解析表

故障／症状											点検項目	
エンジン始動不良	アイドリング回転が不安定	エンジンが停止する	エンジンを切ってもエンジンが停止しない	エンジン出力不足	オーバヒート	ステアリングのガタ	ビルジの増大	異常警告表示	バッテリ充電不足	YPVS サーボモータが動かない	関係部位	参照する章
											燃料系統	
○	○	○		○							燃料タンク	4
○	○	○		○							燃料タンクブリーザホース	4
○	○	○		○							燃料ホース	4
○	○	○		○							燃料フィルタ	4
○	○	○		○							燃料ポンプ	4
○	○	○		○							キャブレタ	4
	○	○		○							低速パイロットスクリュ	4
		○		○							高速パイロットスクリュ	4
	○	○		○							キャブレタの同調	4
		○		○							トローリングスピード	3
											パワーユニット	
○				○							スパークプラグ	3
○	○			○							圧縮	5
○	○			○							リードバルブ	5
○	○			○							シリンダヘッドガスケット	5
○				○							ピストンリング	5
○				○							シリンダブロック	5
○				○							シール	5
○				○							クランクケース	5
○				○							ピストン	5
	○			○							ベアリング	5

WWW.JET-STAR.JP

故障解析

故障　症状												点検項目	
エンジン始動不良	アイドリング回転が不安定	エンジンが停止する	エンジンを切ってもエンジンが停止しない	エンジン出力不足	オーバヒート	ステアリングのガタ	ビルジの増大	異常警告表示	バッテリ充電不足	YPVS サーボモータが動かない	関係部位	参照する章
				○							ベアリングハウジング	5
	○			○							ドライブカプリング	5
				○							ラバーカプリング	5
					○		○				パイロットウォータホース	5
					○		○				ウォータホース	5
					○		○				冷却水通路	5
											ジェットポンプユニット	
				○	○		○				ダクト	6
				○							インペラ	6
				○	○						ジェットインテーク	6
	○			○							ベアリング	6
				○	○						インテークダクト	6
					○						給水ホース	6
							○				ビルジホース	6
							○				ビルジストレーナ	6
							○				ビルジホースジョイント	6
							○				バルブボディ	6
											電気系統	
○	○	○	○	○				○		○	CDI ユニット	7
									○		ライティングコイル	7
○		○									チャージコイル	7
○		○		○							ピックアップコイル（パルサコイル）	7
○		○		○							イグニッションコイル	7
				○					○		レクチファイヤ／レギュレタ	7
○		○						○			電装品センサ類	7
○											スタータリレー、スタータモータ	7
				○						○	YPVS ユニット	7
○									○		バッテリ	3
○									○		ヒューズ	7
○				○					○	○	ワイヤハーネス、電装品カプラ類	7

WWW.JET-STAR.JP

故障解析 ?

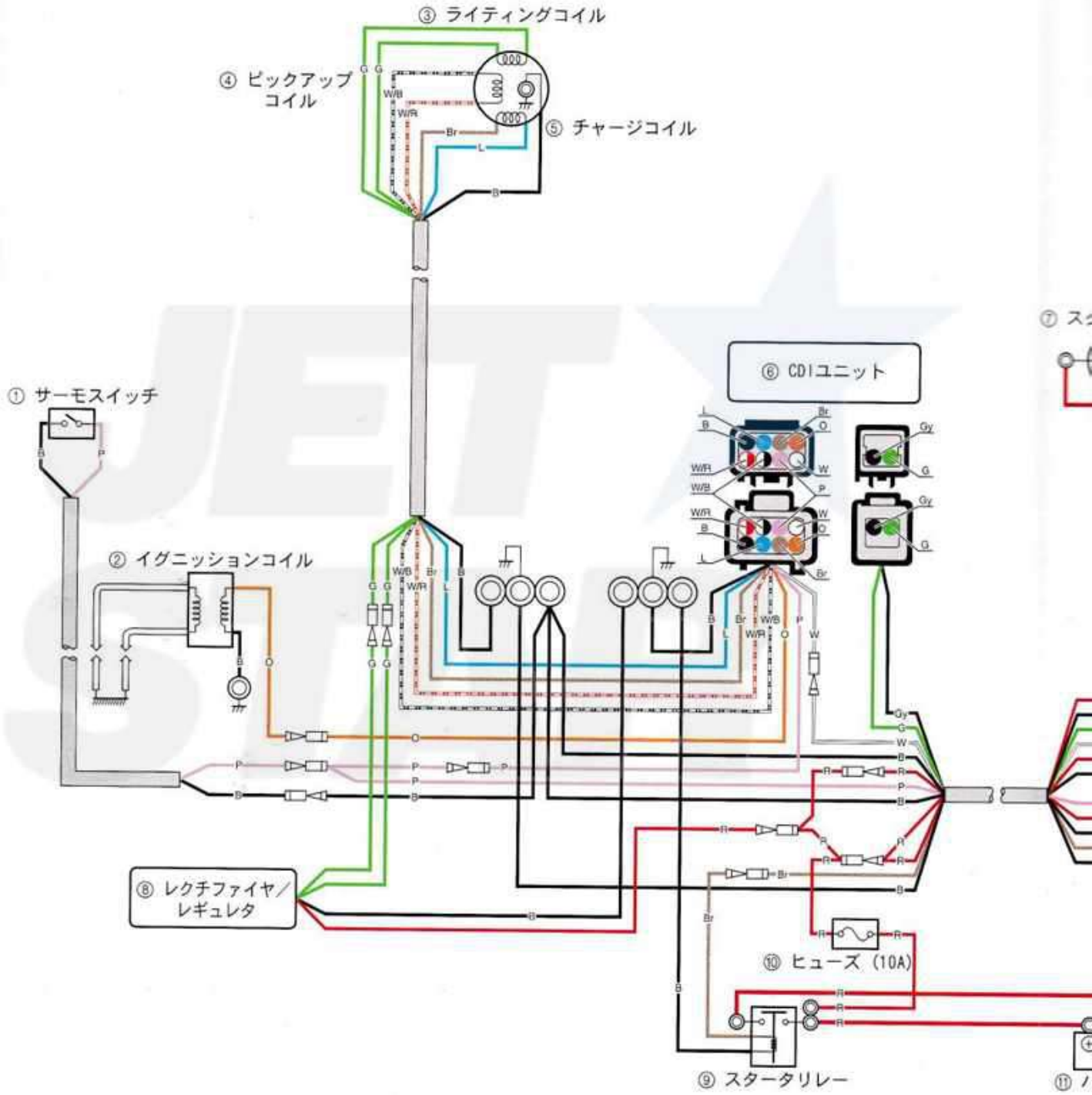
故障／症状											点検項目	
エンジン始動不良	アイドリング回転が不安定	エンジンが停止する	エンジンを切ってもエンジンが停止しない	エンジン出力不足	オーバヒート	ステアリングのガタ	ビルジの増大	異常警告表示	バッテリ充電不足	YPVSサーボモータが動かない	関係部位	参照する章
											艤装品・艇体	
						○					ステアリングコラム	8
				○			○				ウォータロック	8
		○		○			○				エキゾーストホース	8
				○			○				マフラ	8
							○				ドレンプラグ	8

WWW.JET-STAR.JP

JET STAR

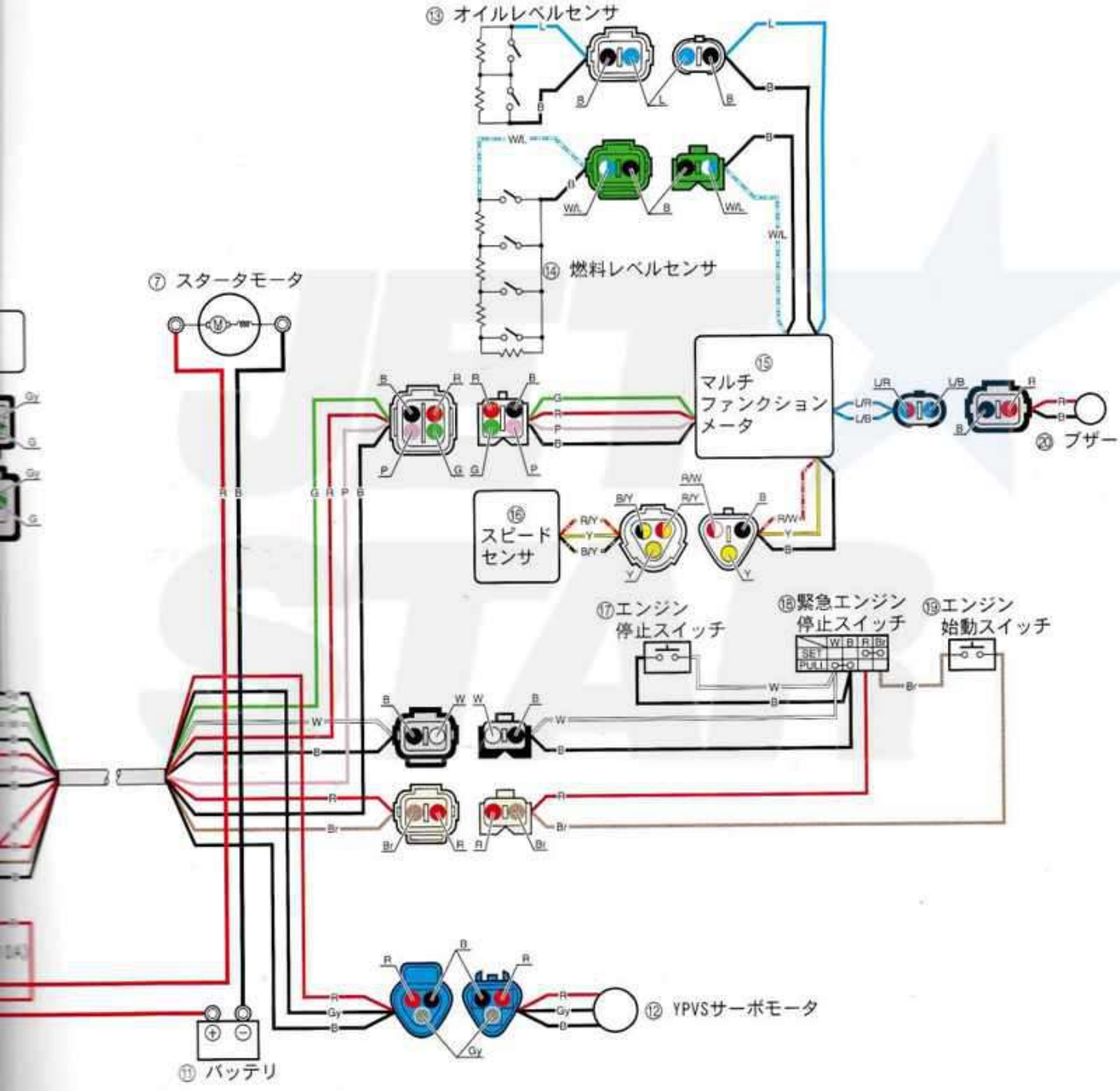
JET STAR

配線図 MJ-GP800R



配線色

B	黒	Y	黄
Br	茶	B/Y	黒／黄
G	緑	L/B	青／黒
Gy	灰色	L/R	青／赤
L	青	R/W	赤／白
O	橙	R/Y	赤／黄
P	桃	W/B	白／黒
R	赤	W/L	白／青
W	白	W/R	白／赤



JET STAR

MJ-GP800R サービスマニュアル

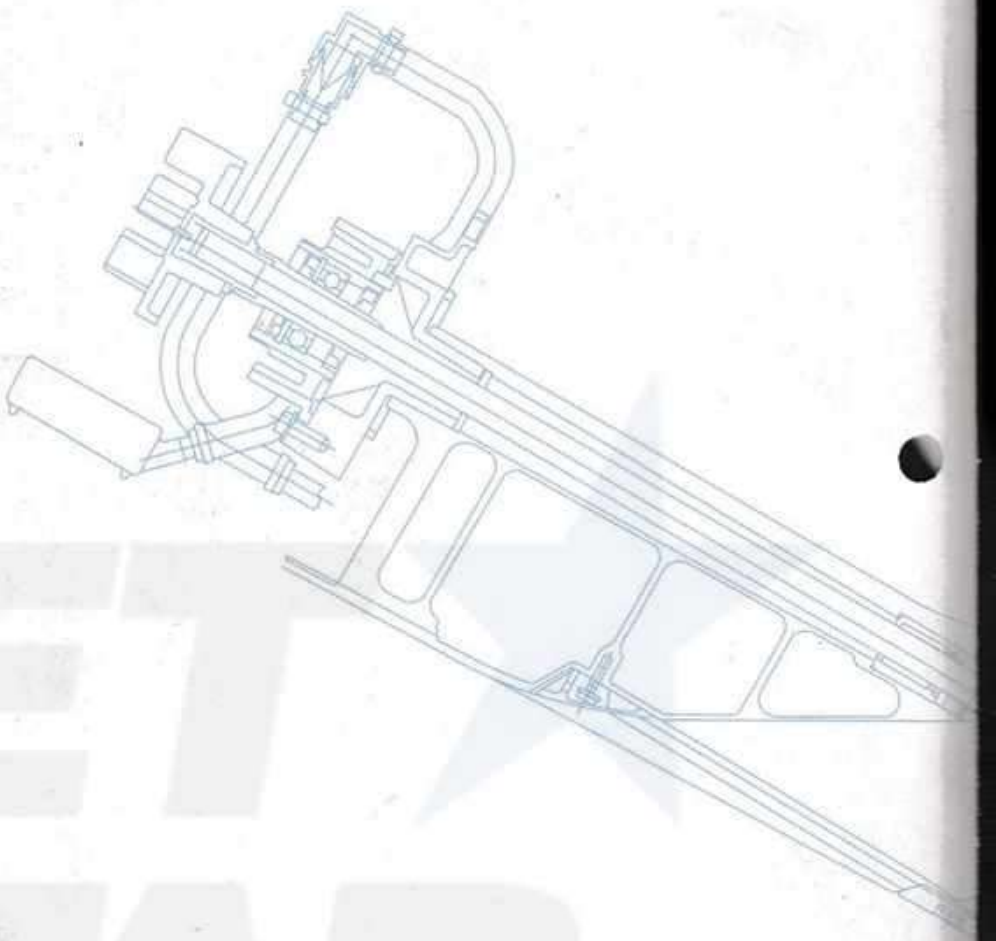
2000 年 12 月発行

不 許 複 製

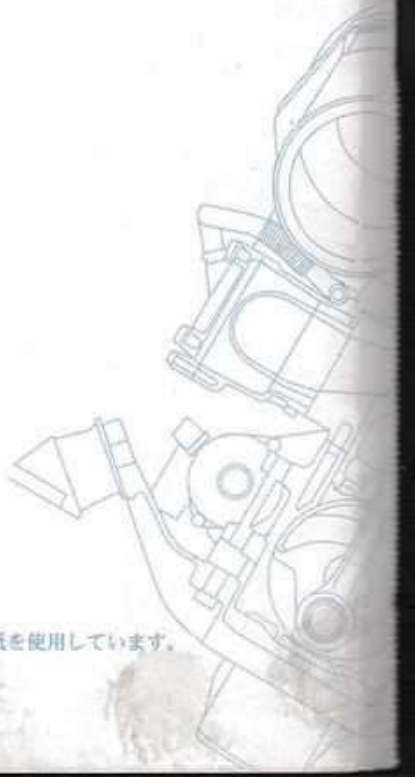
編集発行　ヤマハ発動機株式会社
サービス情報室

FOW-28197-0A-01

WWW.JET-STAR.JP



JET STAR



YAMAHA

ヤマハ発動機株式会社

Printed in Japan
Dec. 2000 — 0.5 × 1 CR
F0W-28197-0A-01
(GP800A)

(和)

再生紙を使用しています。

WWW.JET-STAR.JP